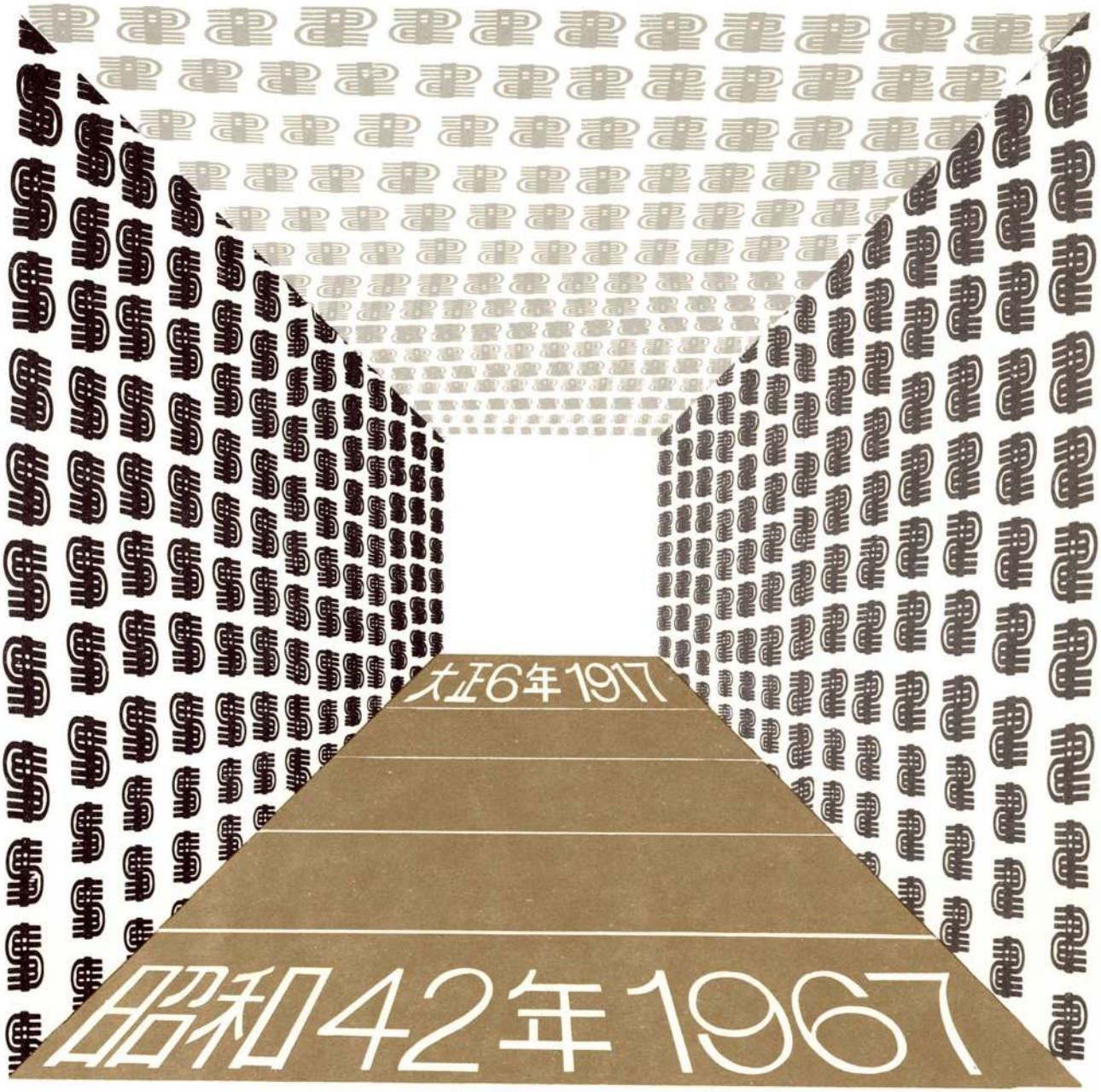
昭和24年3月19日　第3種郵便物認可　昭和42年3月20日印刷　昭和42年3月25日発行　第48輯第3号（毎月1回25日発行）

建築と社会

'67 3

50年の歩み

日本建築協会 創立50周年記念号



日本建築協会

ARCHITECTURE AND SOCIETY



同じ建て坪なら　倍ぐらいには使えます

事務所・工場・倉庫など、中型構造物の建築をご計画中なら、ぜひ、住友のプレハブ骨組《スミフレームV》をご利用ください。中柱が不要で、間口、屋内スペースが広くとれ、同じ建て坪なら、まず、倍ぐらいに活用でき、合理的です。強靱で耐久性に富み、建築も簡単。 360種以上の標準設計を用意しています。

住友のプレハブ骨組

スミフレームV

住友金属

住友金属工業株式会社

大阪 — 大阪市東区北浜5の15(新住友ビル) 電(203)2201
東京 — 東京都千代田区丸の内1の8(新住友ビル) 電(211)2211
営業所 — 福岡・広島・岡山・高松・名古屋・富山・静岡・新潟・仙台・札幌

床材の総合メーカー

TOYO LINOLEUM

洗練された美しさがマチコタイルの生命　スキッとした美しさ…マチコタイルだけが表現できるフロアカラー。独特のカラーが、インテリアデザインを、みごとに、新鮮に演出します。

品質の良さは、すでに、欧米でも実証ずみ　マチコタイルは美しいだけでなく、耐摩耗性、耐薬品性歩行感などにすぐれ、品質の面でも、折り紙つき。インテリアデザイン時代をリードするドイツやイタリアなどでもドシドシ使われています。

■床材のハイ ファッション

マチコV

ビニールアスベストタイル®

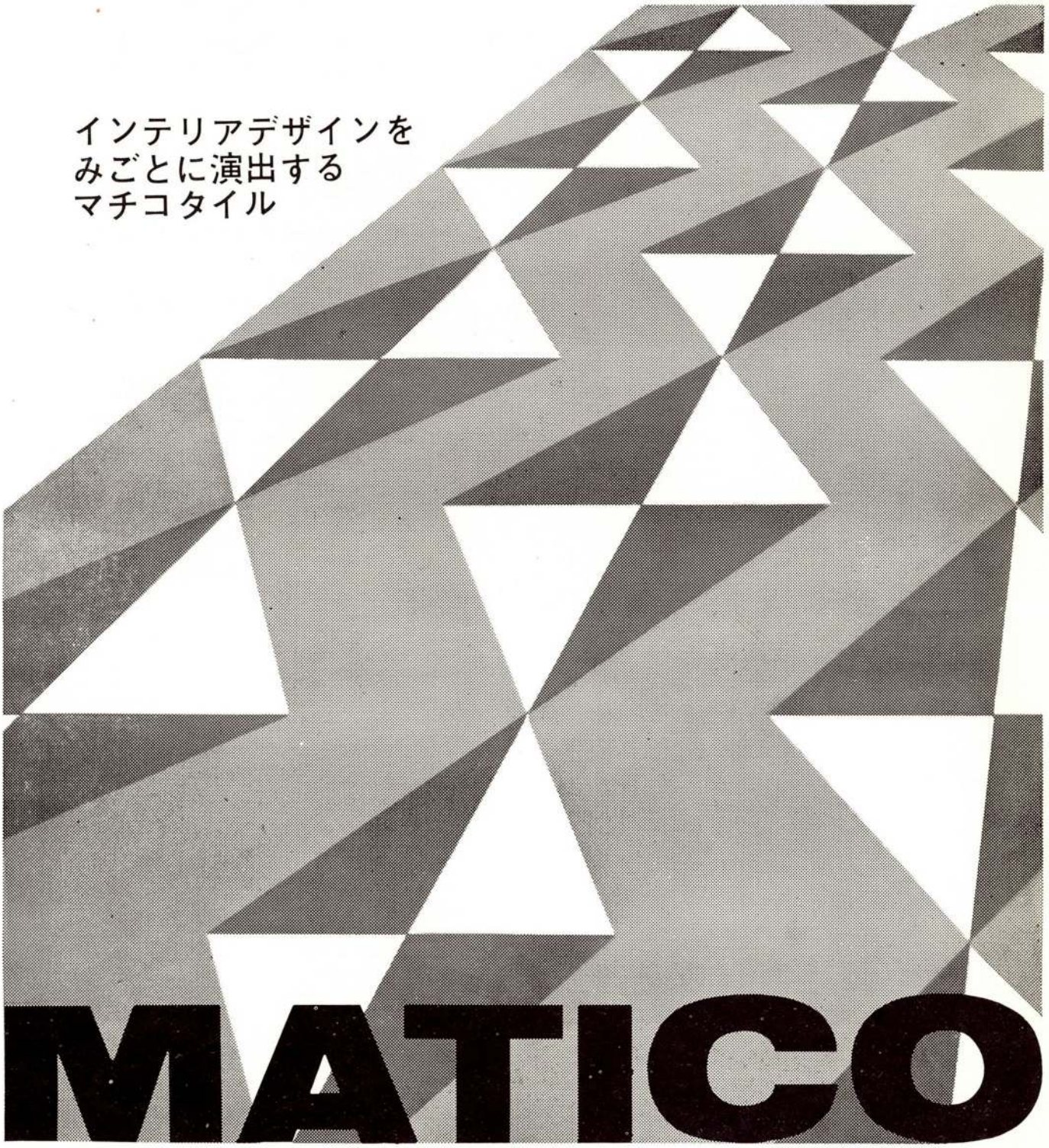
リノリューム・リノタイル・ビニラートタイル・ナイアンタイル総発売元

東洋リノリユーム株式会社

本　社　大阪市南区順慶町通り4の25　三和ビル

札幌 / 仙台 / 東京 / 長野 / 名古屋 / 広島 / 高松 / 福岡

インテリアデザインを
みごとに演出する
マチコタイル



新しい生命を
アスファルトにあたえた!



荷重
やわらかいクッション

水・湿気
水・湿気を通さない

紫外線
直射にも平気

酷寒
もろくならない

薬品
酸・アルカリ・塩分に強い

公害
公害から守る

錆
金属を腐蝕から護る

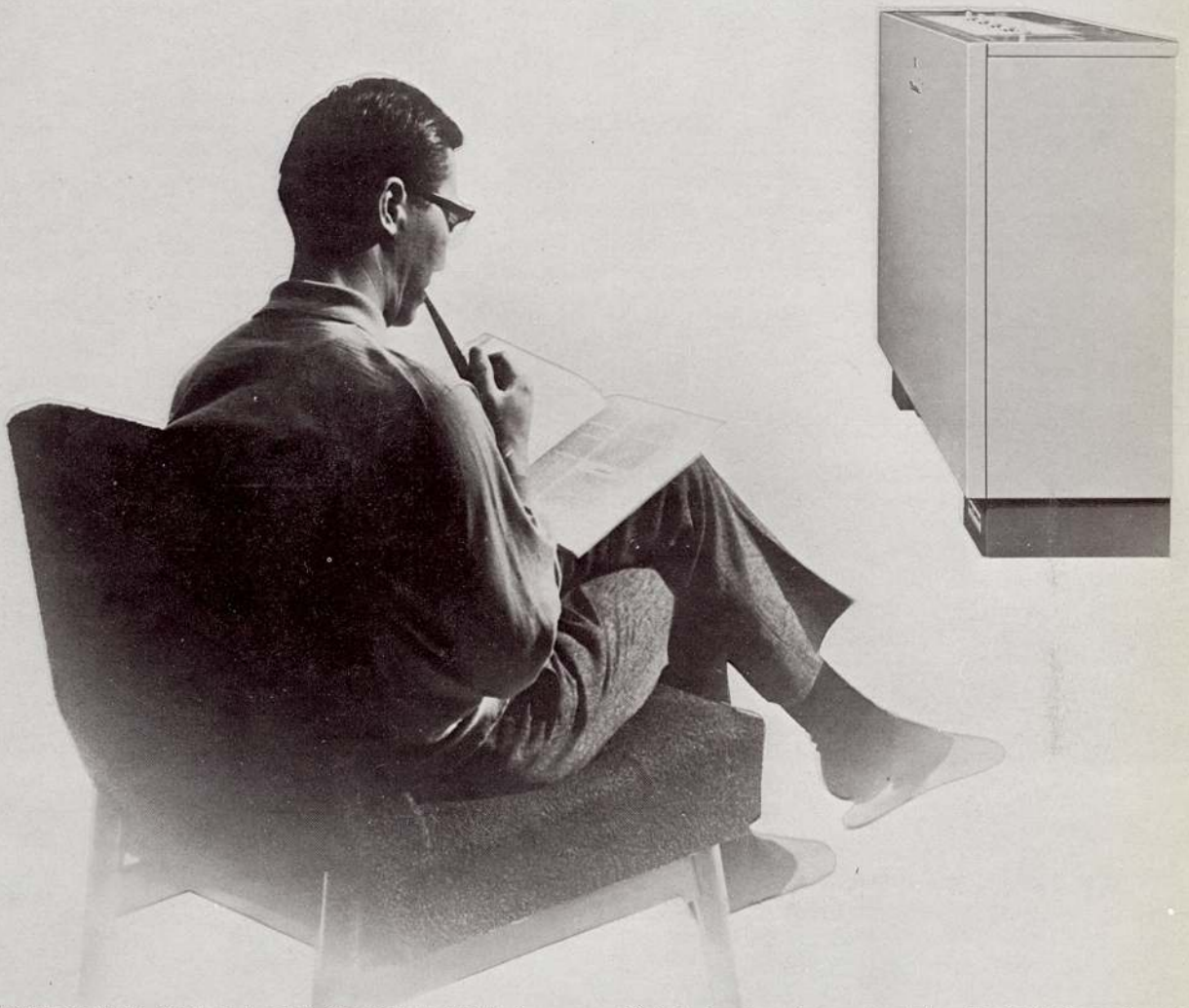
高熱
引火しない流れない

電気
完全絶縁

一見、なんの変哲もない黒い流動体です。ところがひとたびなにかの表面に塗布しますと、およそ信じられない程の強さを発揮する—それがフリントコートです。大切なものはシエルのフリントコートで守りましょう。

株式会社シエル石油大阪発売所 フリントコート部 大阪市東淀川区西中島町2の76 TEL 302—5937
シエル石油株式会社 アスファルト部

騒音を嫌う空調環境



機械文明の世からすこしでも騒音をとり除く努力がつづけられています。すくなくとも、思索する部屋、休養する部屋は、あらゆる騒音を断った静けさのままにそっとしておきたいものです。
こんな部屋を空調できる機械は――――――？

ダイキンファンコイルは、許容騒音のもっともきびしいホテルや病院での騒音テストで余裕ある合格値を示しました。

静かなお部屋の空調には、欠かせない装置です。――――
病院・ホテル・旅館・オフィス・マンション・高級住宅 etc.
（詳しくは誌名ご記入の上、資料をご請求ください。）

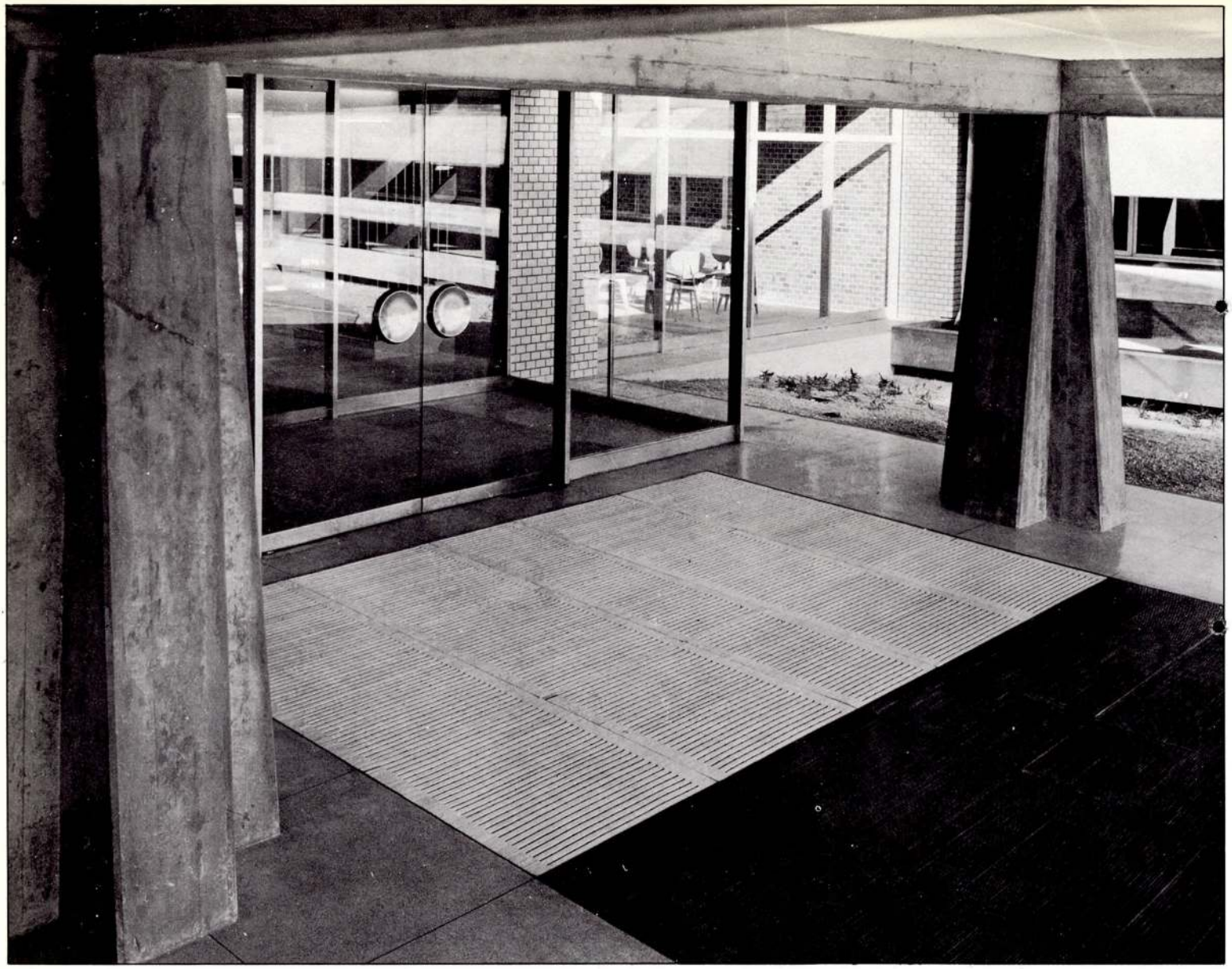
クールスペシャリスト

ダイキン ファンコイル

豊富な機種――V形（床置）、H形（天井吊）、HM形（埋込）、T形（薄形）、L形（ペリメーター用低形）

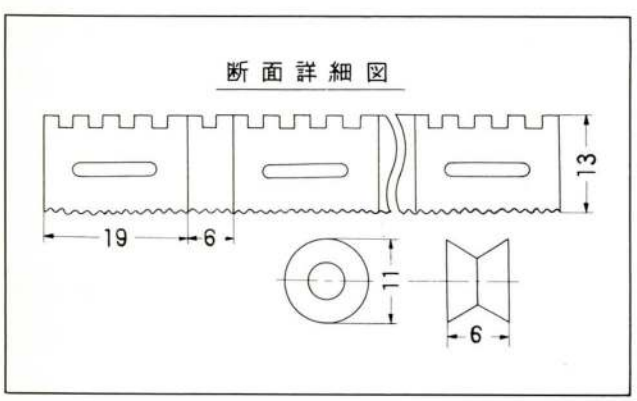
ダイキン工業株式会社
本社 大阪市北区梅田8 新阪急ビル
支店 東京・名古屋・福岡 営業所 広島・札幌

《電話連絡先》大阪(06)312－1201(大代)東京(03)272－3211(大代)名古屋(052)961－6351(大代)福岡(092)74－8631(代)広島(0822)47－4471(代)札幌(0122)26－5556(代)



各種玄関マット設計製作　ミヅシマ

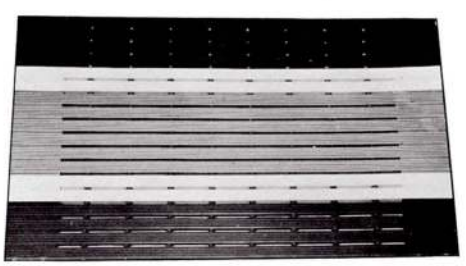
ストレートラインアット
（ビニール）



ハイセンスを
しこう！

グッドデザインを
選ぼう

●PAT.NO.748401



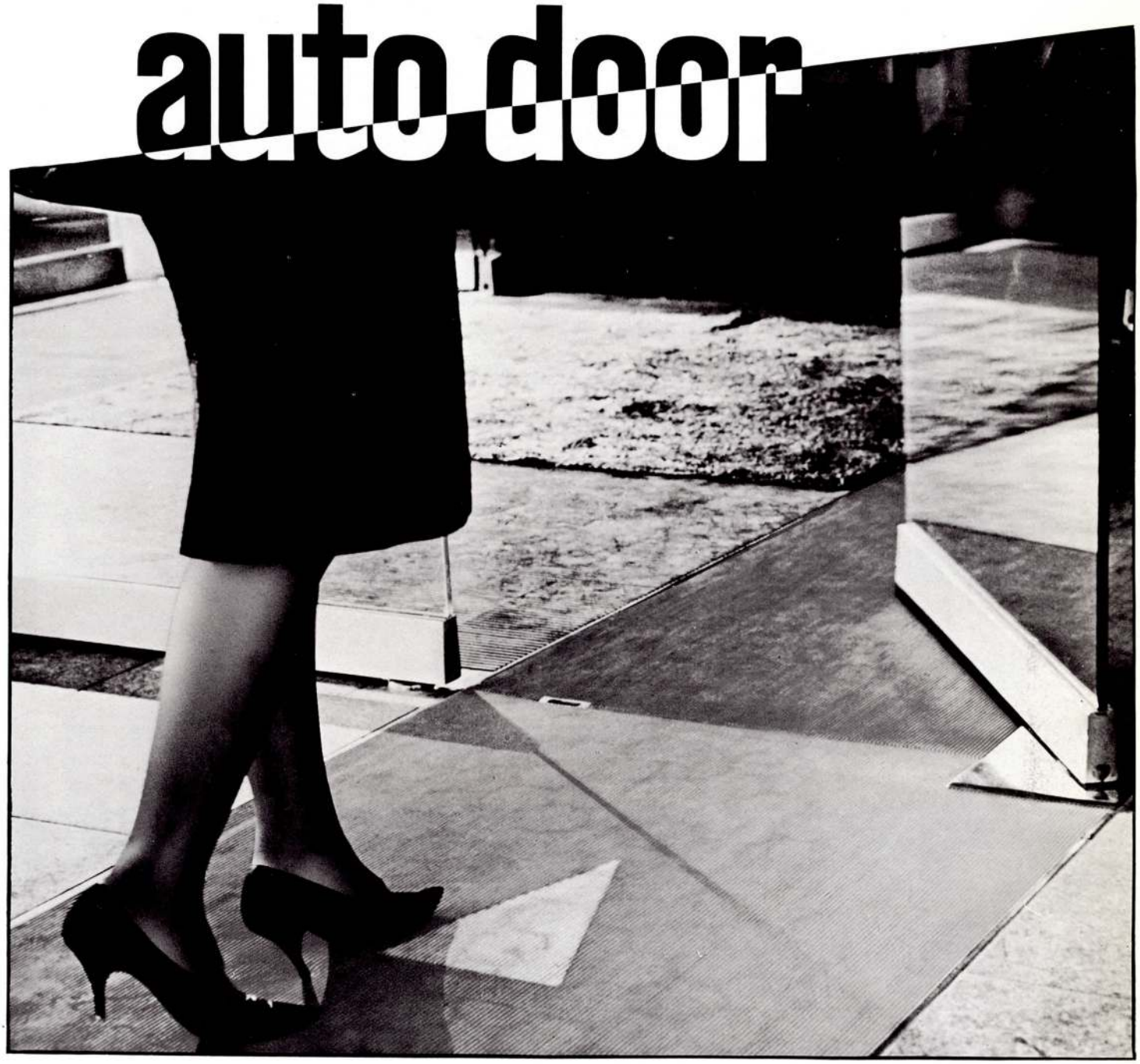
ミヅシマ

おそうじ百貨
ミヅシマ工業株式会社

営業本部／大阪市西区北堀江上通一丁目20　TEL（531）3514・8246・9347
本社工場／京都市南区久世築山町 380の2　TEL（92）6361～3

〈営業所〉
東　京／TEL（666）4714（668）4873
名古屋／TEL（731）5138・5396
京　都／TEL（22）5363・0214
大　阪／TEL（531）3514・8246
福　岡／TEL（29）2706

auto door



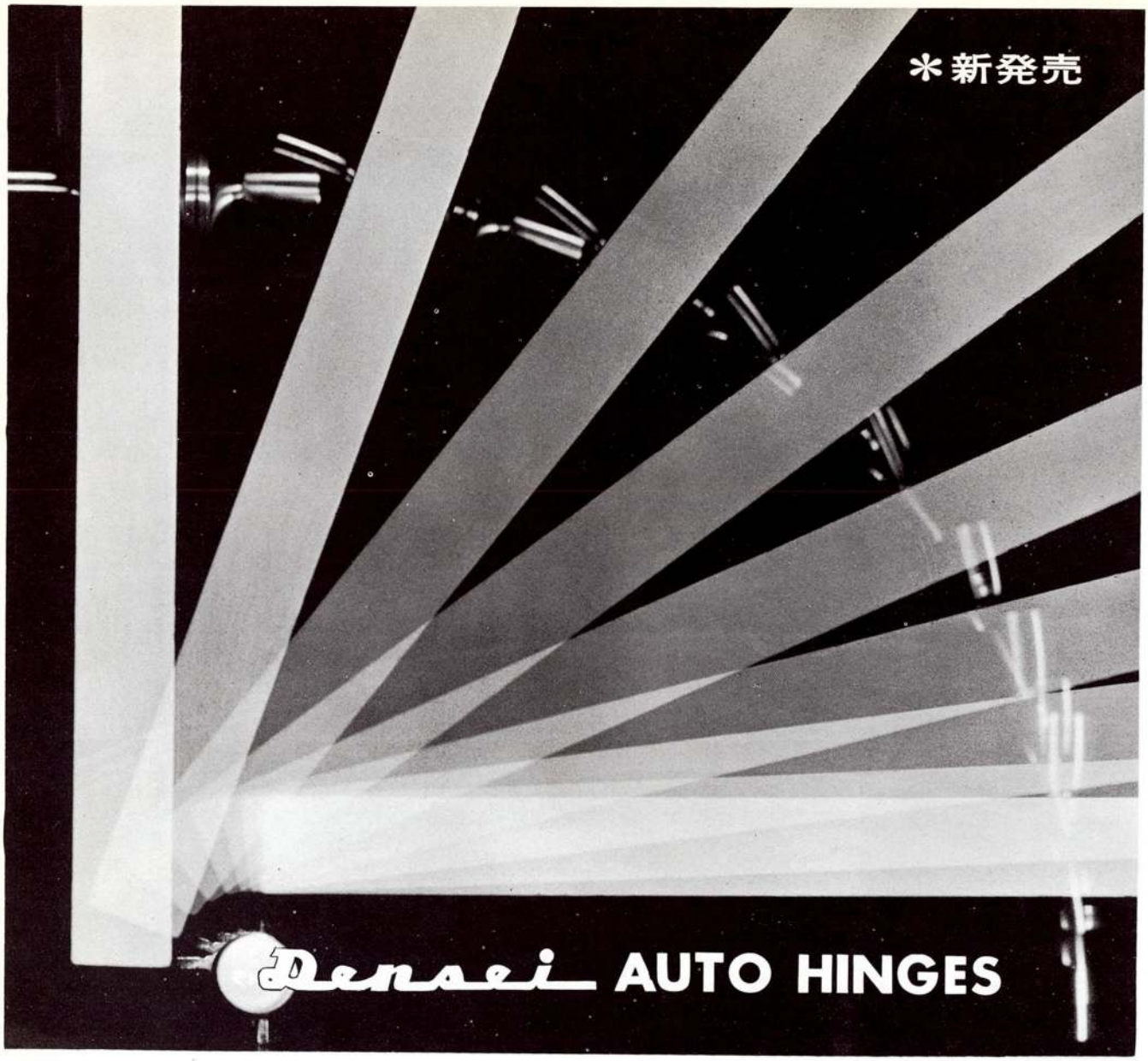
其の他の営業品目

ドアチェック
フロアヒンジ
ピボットヒンジ
シリンダーロック

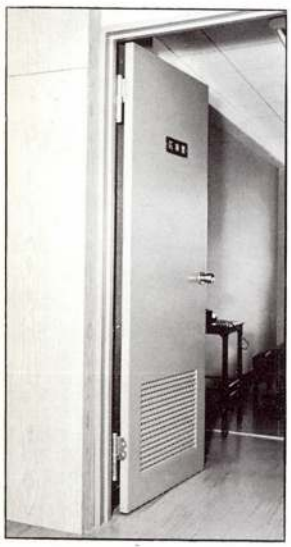
発売元 株式会社 ニッカナ

大阪営業所／大阪市西区新町通り４－３９　TEL 531－4776（代）
本　社／東京都中央区日本橋本町2－7(信和ビル) TEL 241－1301(代)
駐在所／福 岡(65)9131(代)・名古屋 (321)6431(代)・札 幌 (24) 7246(代)

製造元 ダイハツディーゼル株式會社



デンセイ オートヒンジ《丁番型》



■特　長

1. 丁番がドアークローザーを兼ねていますので、外観は目立たず、そのシンプルなデザインは扉に良くマッチします。
2. 画期的なダブルスプリング切換機構(クラッチ)により、充分な閉扉力を具えております。
3. 内蔵されたストップ装置により、扉は85°～90°の間でストップします。
4. 閉扉速度のコントロールは円滑で、速度調整はどなたにも簡単にできます。
5. ドアーチェックを使用することが困難な特殊な扉にも使用できます。
6. 機構的に摩擦面が少く無理がありませんので、耐久力に優れ、20万回以上に及ぶ耐久テストでもこれが実証されています。

発売元　日恵機材株式会社
東京都千代田区丸ノ内2—2（丸ビル459区）
電話　東京(201)3333(211)0005
大阪出張所　大阪市東区高麗橋5～16(今井ビル)
電話　大阪(231)4608
製造元　日本電氣精器株式會社



〈営業品目〉

カーテン　ウォール
アルミサッシ・ドア
ステンレスサッシ・ドア
スチールサッシ・ドア
住宅用アルミサッシ〝エリート〟
アルミレディーメード　サッシ・ドア

サッシの綜合メーカー

dsk ダイケンサッシ株式会社

本社・工場　堺市松屋町1－6　TEL 堺(38)大代表 1141
鳳　工　場　堺市平岡町48　TEL 堺(7)代表 5541
営　業　所　大阪・東京・名古屋・金沢・福岡・長野



ノジギク園

設計　兵庫県建築課
施工　東海興業株式会社
使用場所　外装全面

●特許建築用内装・外装化粧材
砂粒状陶磁器の吹付

セラスキン

●粉状陶磁器の吹付

セラコート

●粗粒状陶磁器の吹付

セラカット

セラスキンとは陶磁器の皮（CERAMIC SKIN）と云う意味で砂粒状の有色陶磁器と結合剤とを混合、液状としたもので、これをスプレー（コンプレッサー使用）ガンにて建造物の内・外、壁面、天井etc に吹付け、防水性と装飾を目的とする建材です。

特　徴

●色　彩　高熱焼成（1250℃－1350℃）にて発色した陶磁器を主材料にして顔料、色素を使用しない為雨風、太陽光線による色彩の変化は起りません。
●防水性　通気性、防水皮膜を形成します。
●耐薬品性　弱酸、弱アルカリに対しては変化を起しません。
●耐寒性　－20℃に4時間冷凍しても亀裂その他の異常は認めません。
●下　地　コンクリート打放し、モルタル、ベニヤ板、和壁、ブロック、スレート、テックス類etc.
鉄類の場合は錆止塗料を塗って下さい。

山本窯業化工株式会社
大阪市東淀川区西淡路町3－176　TEL（322）4851～4
東京出張所・東京都港区西新橋2－21－6　TEL（431）7106～7
瀬戸工場・愛知県瀬戸市大字山口字南山138　TEL（82）8847

NEW★STAR

NEW★STAR



ドアチェック 60シリーズ



ドアチェック 70シリーズ



ドアチェック 80シリーズ



フロアヒンジ

その他
ラバトリヒンジ
ピボットヒンジ
ドアハンドル

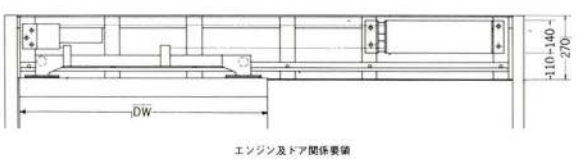


✳ 品質・性能ともに定評ある

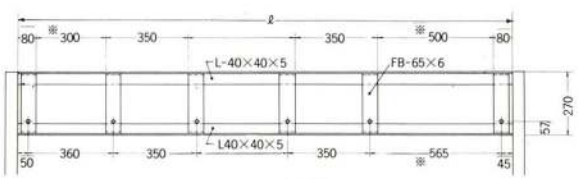
●スイング式・スライド式

ニュースタードアオペレータ

片引き戸内観図



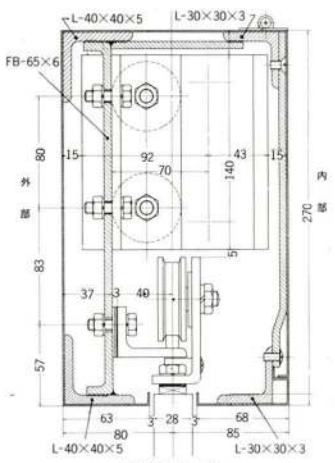
エンジン及ドア関係要領



レール取付板例図

※印寸法は守って下さい。
※印寸法NSL-4の場合は$^{535}_{600}$に変更されます。

上枠断面懸吊要領



※斜線部は客先工事分

■ニュースタースライド式ドアオペレーターの特徴

●油圧の長所と電気式の利点とを組合せた新製品です。●油圧装置がついているために閉る速度が「ゆるく」「なめらか」です。●バルブの調整で閉る速度が自由に変えられます。●閉る手前で一旦止って、その后ゆるく閉ります。●停電の場合、すぐに手で軽く開閉が出来ます。●価格が安く、別途工事がほとんどない。●取付工事、保守が非常に簡単です。

生産高日本一

日本ドアーチエック製造株式會社

本社工場 大阪市生野区巽矢柄町222 電話(758) 1251(代)
東京支店 東京都千代田区神田小川町2－12(信愛ビル) 電話(293) 4831～5
札幌出張所 札幌市月寒中央通り月寒314－1 電話(86) 8255～6
名古屋出張所 名古屋市東区高岳町1－11 電話(961) 5771～3
広島出張所 広島県安佐郡佐東町緑井205 電話(広島八木局)106
福岡出張所 福岡市天神4丁目4番24 電話(74)2372・3312



お部屋のポイントは
床材から……

明るい配色…落ちついたムード
色種類……34色

マルエスの

ビニエスタイル

合成ゴム系(ネオプレンゴム)
異形建物に最適
最終仕上材はハイパロン
色彩……21色

気候較差の著しい
所に最適
防水工事をプレハ
ブ化　新材料
(合成ゴム系コンパ
ウンドにて加工)

マルエス
日新

NS 塗膜防水工法

メルタン ルーフィング

●カタログ
お入用の方は御一報下さい

マルエス ルーフィング製造元

日新工業株式会社

大阪支店／大阪市西区新町北通1－18　TEL(531) 5281～3
本　　社／東京都足立区千住東町93　TEL(882) 2424～34
出 張 所／名古屋(741)6257～8・広島(21)1019・6061
福　岡(74) 3461～3・札幌(51) 6885・5653

完全責任施工 | 年限保証

BK 日本アスのアスファルト防水

■シグマートによるウエルドシステム防水工法
■特殊絶縁防水工法（特許出願中）
■メルタン防水工法

■全国に配置された組合員の強力な連繋と技術で完全な施工工事をお引受けいたします。

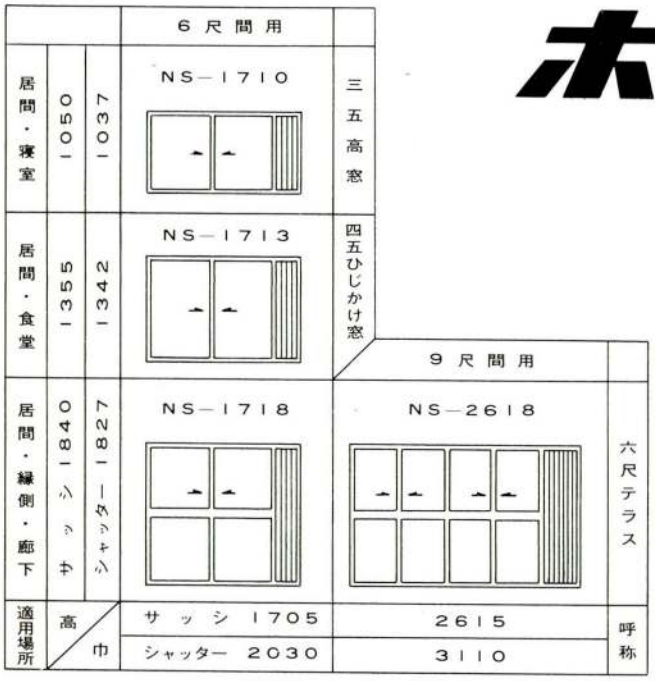
地区別	会社名	代表者	住所	電話
北海道地区	日本スレート株式会社	仲川 憲吉	札幌市北三条東４－１	（22）3458・4426（23）8016
	日新建工株式会社札幌出張所	大木 久俊	〃 南大通り西13丁目	（22）５０１５
東北地区	日新建工株式会社仙台出張所	滝沢 慶則	仙台市二日町１－２	（25）５４３１代
関東地区	伊藤建材株式会社	伊藤 豊吉	東京都台東区西浅草２－15－９	(841) 5646・5729
	北条瀝青工業株式会社	北条 弘太	〃 中央区湊町３－７	(551) 2676・4382
	有限会社金岡興業	金岡辰次郎	〃 新宿区柏木５－1172	(363) ４３４１代
	瀝青建材株式会社	山中喜代治	〃 千代田区神田佐久間町河岸51号	(866) 6993・2892
	日新建工株式会社	荻野 英夫	〃 荒川区南千住６－42	(803) 2411～５
	日本綜合防水株式会社	山崎 慎二	〃 千代田区神田猿楽町１－９	(292) ２６６１代
	マサル瀝青工業株式会社	西田 勝治	〃 台東区北上野２－21－10	(842) ６３１１代
	藤井工業株式会社	藤井 喜昌	〃 文京区林町94	(941) 0271・2582
	富士工材株式会社	小島 英夫	〃 江東区深川住吉町１－14	(634) 0950・0900
	鶏田工業株式会社	鶏田 武	〃 千代田区富士見町１－12	(263) ４８６１代
	木下工業株式会社	木下 一	〃 墨田区江東橋４－32	(634) ０８２１代
	野口工材株式会社	野口 伝八	〃 渋谷区下通り３－15	(441) 3751 (444)0405
	大和工業株式会社	楡井 喜重	〃 荒川区南千住６－151－２	(802) ４７５１代
	協立工業株式会社	関谷 克巳	〃 大田区南蒲田１－14－２	(731) 0358 (738)3401
	株式会社奈良屋商店	市橋 祐造	水戸市泉町1009	（３）0171～６
	石田建材工業株式会社	石田 想吉	高崎市八島町117	（２）3301～２
	同和建業株式会社	徳永 昭二	新潟市流作場宮浦１－1711	（45）２２５１代
北陸地区	島屋建設株式会社	島 勝人	金沢市此花町５－７	（21）0085 （31）6420
	有限会社折橋政次郎商店	折橋彌一郎	富山県高岡市二番丁	（２）０９９９
	有限社会小島工業所	小島 一公	〃 〃 志貴野２５	（３）０３９１
	大和工業株式会社富山営業所	島田 真一	富山市堀川小泉町７７６	（31）４３８５
東海地区	株式会社三井工業所	三井 辰雄	静岡市大和町１－20	（85）9151～３
	協和建材工業株式会社	渡辺 亘	清水市渋川５２０	（２）２２２１代
	中央建材工業株式会社	木下 作二	名古屋市中区南久屋町３－12	(251) ３５４１
	日本建材興業株式会社	伊藤 隆造	〃 西区南押切５－３	(571) 代5541～４
	宮崎建材店	宮崎 勇	〃 中区伊勢山町１００	(321) 1311・1331
近畿地区	日新工材株式会社	井場 績	大阪市西区新町北通１－17	(541) 3785～６
	マルエス工業株式会社	山崎 達夫	〃 福島区上福島南１－152	(458) 4841～３
	株式会社新光商店	松本 重治	〃 南区塩町通２－13	(261) 7195～７
	清水興業株式会社	清水 実	〃 北区鶴野町３４	(371) 0251～３
	マサル瀝青工業株式会社大阪営業所	勝見 勲	尼崎市水堂加茂６４	(481) ７３５５
	中村瀝青工業株式会社	中村秋太郎	神戸市生田区北長狭通６丁目神繊共栄ビル	(34) 5884・5658
	棚田建材有限会社	棚田 秀吉	〃 葺合区上筒井通８－221	(22) 9182代
	フタバ興業株式会社	友長 保男	大阪市福島区上福島北４－49	(458) 0267・0277 (451) 6089
	石橋建材株式会社	石橋 節雄	福井市松ケ枝町６２	(23) ０７７５
中国地区	豊永建材株式会社	木村 豊	広島市若草町１０６５	（61）6371～４
	大和工業株式会社広島出張所		〃 庚午南町１－２	（71）４６８７
	株式会社三洋技建	谷岡 肇	広島県大竹市小方町小方２４５５	（２）３５４３
	東中国防水工業有限会社	馬場 久	岡山市磨屋町７－18	（23）１１８１代
四国地区	株式会社山本商会	山本 進	松山市三番町７－８－１山本ビル	（３）6261～３
	大三工業株式会社	飯間 浅吉	高松市本町２－17	（51）６８１１～５
	高知瀝青株式会社	横井 良一	高知市塩屋崎町２－20	（２）３２４４
	徳島大三工業株式会社	柴田 秋男	徳島市矢三町東野181－１	（４）４１６１
九州地区	日新興業株式会社	河野 孝義	延岡市本小路７４	４３０５・４３０６
	株式会社工材社	竹村 藤一	北九州市門司区大里東通10丁目	（38）1468～９
	株式会社大二商会	戸高 藤雄	宮崎市和知川原３６５	（２）５００１
	株式会社北原建材商会	北原 正	鹿児島市草牟田町３９８０	（３）9395～６
	安藤工事株式会社	川勝 正之	福岡市大浜１－新町９５	（28）5207～９
	日建工材株式会社	進藤 博一	〃 大手門２－８－６	（75）７７５２

■建設省東計第240号認可

日本アスファルト防水工業協同組合

東京都足立区千住東町９３　日新工業株式会社内　電話（888）２１０１（代）
関東支部　東京都足立区千住東町93　日新工業株式会社内　電話（888）２１０１（代）
関西支部　大阪市西区新町北通1－18日新工業株式会社大阪支店内　電話（531）5281－３
九州支部　福岡市大手門１の６　日新工業株式会社九州出張所内　電話（74）３４６１





ホームシャッター

レディメード サッシ付

従来住宅の窓には台風時や盗難の予防のために雨戸を別に取付けておりますが、このホームシャッターは工場でサッシとシャッターを一体にして製作されていますので雨戸を別に設ける必要がなく、現場取付も一度ですみます。またシャッターは折りたたんだ時そのまま化粧となりますので、戸袋をつける必要がありません。

■特　　長

1．お子さまでも手軽るに開閉できます。
2．外観は優美です。
3．戸袋はいりません。折りたたんだスラットがそのまま化粧となります。
4．火災・台風・盗難すべて安心です。
5．施工は簡単です。
6．安価です。

株式会社 日本シャッター製作所

本社・工場　大阪市東淀川区田川通6丁目38番地
TEL（301）代表3656～9
営業所　東京・名古屋・金沢・神戸・岡山
広島・高松・福岡・北九州

◀監事・評議員の当選お知らせ

昭和42年2月27日開催の通常総会におきまして、下記の方々がそれぞれ当選せられましたのでお知らせいたします。

記

監　　事　1名

五十嵐　芳　雄君

本部所属評議員　56名

（技術部門）

金　井　弘　次君
熊　谷　照　蔵君
米　田　元　一君
上　田　隆　夫君
恩　田　一　則君
平　塚　哲　朗君
赤　崎　尚　信君
上　田　宏　二君
辻　野　純　徳君
嶋　田　勝　次君
嶋　本　恒　雄君
崎　山　宗　威君
辻　尾　信　久君
藤　波　敬　次君
村　上　秀　夫君
伊　東　哲　郎君
久保田　進　也君
星　　広　文君
山　川　英　雄君
生　田　喜一郎君
大　倉　秀　明君
中　川　秀　夫君

（総合部門）

大　野　勝三郎君
岡　田　一　朗君
片　桐　正　人君
鎌　田　幸二郎君
佐　藤　栄　一君
志　賀　修　一君
谷　口　尚　武君
富　中　三　郎君
西　尾　兵　衛君
川　崎　敬　三君
田　中　幸三郎君
堀　場　松　雄君
森　田　　勇君

（電気部門）

浅　海　正　雄君
今　村　　騰君
柏　岡　十三介君
栗　原　信　英君
西　村　庄　市君
山　川　義　夫君

（管工部門）

須　賀　　孝君
隅　田　正　美君
日　景　一　郎君
樋　口　二三男君
本　田　知　之君
横　田　泰　助君

（建材部門）

石　塚　泰　祐君
海　堀　常　夫君
川　岸　繁　夫君
樋　口　勝　栄君
福　田　憲　治君
松　本　大　平君
水　谷　小一郎君
村　上　二　郎君
渡　辺　幸太郎君

◀名誉正会員の推挙

上記通常総会において下記の方々を、定款第11条による名誉正会員に推挙申し上げることに決定いたしましたのでご報告申し上げます。

秋　田　喜代治君　秋田建築事務所代表取締役
井　上　福　蔵君　井上組社長
池　田　宮　彦君　池田宮彦設計事務所長
石　川　寛　三君　石川建築事務所長
久保田　種　吉君
早　良　俊　夫君
作　間　日出生君　大阪建築事務所顧問
鈴　木　末　尾君　鴻池組顧問
滝　沢　真　弓君　田中・小西建築事務所顧問
竹　腰　健　造君　双星社竹腰建築事務所会長
中　沢　誠一郎君　中沢建築事務所長
伴　　秀　雄君　西原衛生工業所大阪店会長
伴　野　貞　三君　ともいき会
坂　　静　雄君　日本建築総合試験所長
藤　木　正　一君　藤木工務店社長
宮　飼　克　二君　宮飼建築事務所長
村　野　藤　吾君　村野森建築事務所長
鷲　尾　九　郎君　竹中工務店嘱託
渡　部　圭　吾君　渡部建築設計事務所

以上19名

◀昭和42年度支部選出評議員当選通知

（兵庫）

大　木　基　弘君　（KK大木工務店社長）
越　智　隆　晴君　（建築総合研究所長）
森　岡　武　夫君　（神戸市営繕第二課長）

（京都）

相　原　弁　一君　（京都市建築工業学校教諭）
市　川　繁　雄君　（日本管工業KK社長）

（和歌山）

田　村　隆　資君　（田村建築設計事務所長）任期2年
宇那木　　勁君　（高陽スレート工業KK和歌山工場長）任期2年
田　淵　誠　也君　（田淵建築設計事務所長）任期1年
北　野　誠　造君　（工和建設KK）　任期1年

（東海）

川　口　喜代枝君　（篠田・川口建築事務所長）
浜　田　瑞　穂君　（浜田建築事務所長）

（中国）

青　盛　繁　男君　（青盛建材KK社長）
藤　岡　正　一君　（藤岡設計事務所長）

（九州）

浅　野　新　一君　（熊本大学教授）
大　沢　一　郎君　（大林組福岡支店詰工務監督）

◀西阪神ビル見学会

日　時　4月8日（土）集合・午後1時30分～解散3時

集合所　標記ビル正面玄関附近・目標会旗

申　込　定員60名
はがきで「氏名」「勤務先」を記入の上3月31日までに願います。但し定員60名は抽せんで決定いたします。

西阪神ビル

設　計　日建設計工務㈱
施　工　阪神土木工業㈱
位　置　北区梅田8
構造規模　鉄骨・鉄筋コンクリート造，地下4階，地上15階，塔屋3階
面　積　建築面積　2,236.78㎡
延床面積　42,067.12㎡
竣　工　昭和41年4月（予定）

会員グループを結成して下さい

同一職場で，同一ビル内で，または隣，近所で，5名以上会員のおられるところは，グループを結成して下さい。会費の10％を手数料として払戻すほか，種々の特典があります。

◀創立50周年記念事業資金受領報告・その2（2月末日迄分）

50周年記念事業資金を下記のとおり受領いたしました。厚くお礼申し上げます。

記

竹内建築事務所殿	20,000円
山下寿郎設計事務所殿	10,000円
福永建築設計事務所殿	10,000円
洋建築事務所殿	10,000円
中川匠建築設計事務所殿	10,000円
内藤建築事務所殿	5,000円
黒川建築事務所殿	2,500円
平和建設株式会社殿	30,000円
日本建設株式会社殿	10,000円
向井建設株式会社殿	10,000円
株式会社明和工務店大阪支店殿	5,000円
株式会社森野工務店殿	5,000円
株式会社竹村工務店大阪出張所殿	5,000円
暁建設工業株式会社大阪出張所殿	5,000円
柄谷工務店殿	5,000円
八木工務店殿	5,000円
大阪コンベス建材社殿	5,000円
井上浄夫商店殿	5,000円
鐘淵実業株式会社殿	3,000円
明研化学工業株式会社殿	2,500円
原田商店殿	2,000円
井上窯業株式会社殿	2,000円
日亜金属興業株式会社殿	2,000円
木下謹三商店殿	1,500円
カナエ商会殿	1,000円
二葉屋装備工業株式会社殿	1,000円
東海電気工事株式会社殿	1,000円
松尾建設株式会社殿	500円
株式会社内外写真殿	500円
近畿電気工事株式会社殿	100,000円
中央電気工業株式会社殿	20,000円
八千代電設工業株式会社殿	20,000円
工藤電気株式会社殿	20,000円
株式会社ヤマト電気商会殿	20,000円
日本電設工業株式会社大阪支店殿	20,000円
三菱電機株式会社大阪営業所殿	10,000円
森井電業株式会社大阪支店殿	10,000円
富士輸送機工業株式会社殿	5,000円
朝陽電気株式会社殿	5,000円
株式会社山川工業所殿	5,000円
株式会社朝日工業社殿	50,000円
大阪電気暖房株式会社殿	50,000円
三機工業株式会社大阪支店殿	50,000円
高砂熱学工業株式会社大阪支店殿	50,000円
須賀工業株式会社殿	50,000円
斉久工業株式会社大阪支店殿	30,000円
株式会社三晃商会殿	30,000円

第一工業株式会社大阪支店殿	30,000円
東洋キャリヤ工業株式会社大阪支店殿	30,000円
株式会社西原衛生工業所大阪店殿	30,000円
株式会社建材社大阪支店殿	30,000円
株式会社栄興商会殿	20,000円
株式会社大阪城口研究所殿	20,000円
株式会社斉藤省三商店大阪店殿	20,000円
株式会社清水工業所殿	20,000円
関西煖房工業株式会社殿	20,000円
三建設備工業株式会社大阪支店殿	20,000円
第一企業株式会社大阪支店殿	20,000円
保坂工業株式会社殿	20,000円
川崎設備工業株式会社大阪営業所殿	10,000円
五建工業株式会社大阪支店殿	10,000円
新菱冷熱工業株式会社大阪支社殿	10,000円
東洋熱工業株式会社大阪支店殿	10,000円
平山工業株式会社殿	10,000円
山田工業株式会社殿	10,000円
理研鋼機株式会社大阪支店殿	10,000円
菱和調温工業株式会社大阪支店殿	10,000円
浅野工事株式会社大阪支店殿	5,000円
足立工業株式会社大阪支店殿	5,000円
浦安工業株式会社大阪支店殿	5,000円
閑林工業株式会社大阪出張所殿	5,000円
株式会社経塚工務所大阪出張所殿	5,000円
桐田工業株式会社殿	5,000円
株式会社斉藤工業所殿	5,000円
敷島煖房工業株式会社殿	5,000円
精研冷機株式会社殿	5,000円
大建水道土木株式会社殿	5,000円
東洋空気調和株式会社大阪支店殿	5,000円
ナニワ設備株式会社殿	5,000円
株式会社西川商会殿	5,000円
西川設備工業株式会社殿	5,000円
日管工業株式会社大阪支店殿	5,000円
日建工業株式会社大阪支店殿	5,000円
日新設備株式会社大阪支店殿	5,000円
日邦工業株式会社殿	5,000円
日本管工業株式会社大阪営業所殿	5,000円
阪菱冷機株式会社殿	5,000円
日立工事株式会社大阪営業所殿	5,000円
扶桑管工業株式会社大阪支店殿	5,000円
株式会社本庄商会大阪支店殿	5,000円
明晃設備工業株式会社殿	5,000円
日比谷総合設備株式会社大阪支店殿	5,000円
株式会社東亜鉄工所殿	5,000円
共栄工業株式会社殿	5,000円
岩崎甚太郎殿	5,000円
福中定三郎殿	5,000円

四方靖郎	殿	5,000円
小林敏夫	殿	3,000円
山本義樹	殿	3,000円
田丸義則	殿	3,000円
池田武彦	殿	3,000円
米田芳松	殿	2,500円
中野順次郎	殿	2,500円
大倉三郎	殿	2,500円
高橋久治	殿	2,500円
内藤多仲	殿	2,500円
星広文	殿	2,500円
守谷茂	殿	2,000円
相川三郎	殿	2,000円
杉本豊次	殿	2,000円
福田朝生	殿	2,000円
松本儀八	殿	2,000円
大下順良	殿	2,000円
駒谷保雄	殿	2,000円
香取礼三	殿	2,000円
佐藤音松	殿	2,000円
森川喜代之助	殿	1,500円
加藤太郎	殿	1,500円
伊藤康夫	殿	1,000円
山本久男	殿	1,000円
宮本保治	殿	1,000円
小池茂	殿	1,000円
前原明治	殿	1,000円
佐伯一夫	殿	1,000円
井上実	殿	1,000円
小中村繁次郎	殿	1,000円
広橋臣一	殿	1,000円
桝谷健治郎	殿	1,000円
斉藤節也	殿	1,000円
井戸田国松	殿	1,000円
藤田邦昭	殿	1,000円
小川静一良	殿	1,000円
松本与作	殿	1,000円
坂内幾三郎	殿	1,000円
坂内幾男	殿	1,000円
中山保	殿	1,000円
近藤鉄治	殿	1,000円
山本智雄	殿	1,000円
金子誠一	殿	1,000円
和田精一	殿	1,000円
坂静雄	殿	1,000円
染木正夫	殿	1,000円
小田健治郎	殿	1,000円
井上敏男	殿	1,000円
高橋誠義	殿	1,000円
森本多三郎	殿	1,000円
福山竜雄	殿	1,000円
土居一雄	殿	1,000円
藤塚賢一	殿	1,000円
深尾実郎	殿	1,000円
安部章	殿	1,000円
横山寛	殿	1,000円
中村直治郎	殿	1,000円
熊沢六朗	殿	1,000円
田口信夫	殿	1,000円
中谷恒雄	殿	1,000円
並木長吉	殿	1,000円
島一夫	殿	500円
中島泰	殿	500円
鈴木広好	殿	500円
小河吉之助	殿	500円
加藤大雄	殿	500円
安井猛	殿	500円
井上民治	殿	500円
川村統之	殿	500円
藤原正章	殿	500円
佐藤公男	殿	500円
新野京次郎	殿	500円
内藤資忠	殿	500円
大西明賓	殿	500円
西宮章泰	殿	500円
武之内太一郎	殿	500円
渡辺正夫	殿	500円
新居恒人	殿	500円
大野喜作	殿	500円
川崎力太	殿	500円
坂東竜弥	殿	500円
日比与太郎	殿	500円
奥田総一郎	殿	500円
藤田達男	殿	500円
窪田祐	殿	500円
成田幸男	殿	500円
石津文八	殿	500円
三宅任	殿	500円
田中義文	殿	500円
岡野昌弘	殿	500円
橋本五平	殿	500円
松軒吉松	殿	500円
岡本弘	殿	500円
三上冨三	殿	500円
菅陸二	殿	500円

合計 1,333,500円

累計 3,899,500円

日本建築協会会告

創立50周年記念事業

◀第2回特別見学会

『高松の建築と淡陶タイル見学と鳴門観潮の会』

開催日　第1日・4月27日（木）
　　第2日・　28日（金）
　　第3日・　29日（祭）

集合所　大阪市街地改造事業現場内駐車の京阪観光バス・目標会旗（桜橋北東角）

会　費　6,500円　（2日宿泊料・食事代・貸切バス代その他を含む）

申込方法　はがきに「氏名」「年令」「現住所」「勤務先」を記載の上，4月5日までにお申込みください。定員 30名

行　程　＜全行程貸切バス1台使用＞

第 1 日（4月27日・木）
▶大阪発8.30→神戸（長田）フェリー乗場10.00～10.30発→淡路，浦港11.40→洲本→福良12.30～13.00発→鳴門観潮（観潮船内で昼食）→福良着→14.30→淡陶タイル淡路工場見学 15.00～16.30→戦没学生の碑見学 16.50～17.30→宿舎，やぶ万着18.00

第 2 日（4月28日・金）
▶宿舎発8.30→阿那賀フェリー乗場9.00～9.30発→鳴門着10.00→高松駅前，コトデンホテル着11.30同所1階ホールで昼食後出発 12.30→香川県立体育館見学 12.30～13.20→香川県文化会館見学13.30～14.20→香川県庁舎見学14.30～15.20→百十四ビル見学15.30～16.30→宿舎竜治・（アヂ）観光ホテル着17.00

第 3 日（4月29日・祭）
▶宿舎発9.00→小比賀（オビガ）邸見学10.00～10.40→栗林公園自由見学11.00～12.00→高松駅前コトデンホテル昼食12.10～12.50→高松港フェリー乗場発13.00→宇野14.00→岡山14.40→姫路16.10→神戸17.20→大阪駅前18.30・解散

□百十四銀行本店ビル

設　計　日建設計工務株式会社
施　工　株式会社　竹中工務店
工　期　39.12～41.11
＜本　館＞地下2階／地上16階（塔屋を含めると19階）
軒　高　54m（最高部は64m）
延床面積　17,485㎡（5,289坪）
構　造　鉄骨鉄筋コンクリート造
外装仕上　ブロンズ板貼（緑青仕上げ）コンクリート化粧打放し（特殊型枠）
＜別　館＞地下1階／地上5階
軒　高　16.50m
延床面積　2,754㎡（833坪）
構　造　鉄筋コンクリート造
外装仕上　本館と同じ
＜厚生会館＞地下1階／地上4階
軒　高　12.15m
延床面積　1,310㎡（396坪）
構　造　鉄筋コンクリート造
外装仕上　コンクリート化粧打放し（特殊型枠）
＜駐車場＞地下2階／地上は緑地帯兼用
延床面積　1,294㎡（391坪）
構　造　鉄筋コンクリート造
収容台数　63台（別館を含めると80台）

□香川県庁舎

設　計　丹下健三計画研究室
監　理　香川県土木部建築課，丹下健三計画研究室，坪井善勝研究室
施　工　株式会社　大林組
工　期　30.12～33.5
所在地　高松市八番町
構造規模　S，R，C造・地上8階・延12,035.1㎡

□香川県立体育館

設計・監理　丹下健三計画研究室，都市建築設計研究所，集団制作建築事務所，岡本建築設計事務所，香川県土木部建築課
施　工　清水建設株式会社四国支店
工　期　37.10～39.8
所在地　高松市福岡町2丁18
延床面積　4,707,513㎡
競技場面積　1,458,620㎡
収容人員　スタンド 1,300席　アリーナ 3,500席

□香川県文化会館

設計・監理　大江宏建築事務所
施　工　株式会社　大林組
工　期　39.11～41.3
所在地　高松市六番町1－20
敷地面積　1,153.98㎡
延床面積　4,599.66㎡
R，C造・地下1階・地上7階

□淡陶タイル株式会社　沿革と現況

珉平焼■今から150余年前，文政年間に兵庫県三原郡南淡町伊賀野，賀集珉平翁がはじめたもので，当時は藩主蜂須賀家のお手窯として主に花器，茶器などを作り，着色に用いた光沢釉はいわゆる淡路焼，珉平焼といわれ広く名声を博しました。

建築用タイル製造のパイオニア■その後明治18年淡陶社（資本金1万円）明治26年淡陶株式会社（資本金2万1千円）が設立され明治35年将来の近代建築の需要を見越してタイルの製造に着手しました。わが国建築用タイル製造の陽矢として今日のダントウが生まれました。

世界のダントウとして　現在月産4,500万枚，世界的規模をもって国際競争に対応し，また，日進月歩の新しい建築界に対応すべく，いよいよタイルの総合メーカーとして世界のダントウとしてNo.1の製品を生みだすよう全従業員一同日夜研讃と努力を重ねています。

淡路工場阿万■明治34年，今後の建築様式の変遷を見越して建築用壁タイルの製造を始めた淡陶株式会社発祥の工場・昭和32～3年タイル専門工場として様相を一変し，生産性が高く製品・品質も安定した模範工場です。38年JIS工場認可，通産省技術院長賞を授賞・月産10万㎡。

淡路工場福良■内装用壁タイル専門工場としてわが国最初で50年の歴史があります。月産20万㎡製品は阿万工場とともに主として西日本に出向され輸出品の量が多い。

宇都宮工場■壁タイルの国内需要の増加にともない大消費地中心・大量生産によるコストダウンを目ざして設けられた工場で，業界随一を誇る各種の新鋭設備をもっています。創業1年でJIS工場認可，39年工業標準化実施優良工場として通産局長賞受賞，月産30万㎡，広く海外にも出荷されています。

□小比賀家住宅（重文）

小比賀家は中世の末に四国へ渡り栄えた土豪である。現在の建物は慶長の初め（16世紀末）に建ったもので，広大な敷地に堂々たる長屋門を構え，中世の豪農の邸宅をしのばせている。主屋は特に天明の頃に大改造を受けているが幸い元禄の古図があり，しかも全体として，よく部材が残っているので，かなり原形に復することができる。そうすると，元来はきわめて広い土間と，仏間を有する五間取りの居室を主体にしていて，その奥に立派な座敷を有する豪壮な邸宅であったことがわかる。全般に木割が太く柱もすべて6寸あまりもあり，また壁の部分も多くはなはだ閉鎖性が強い。いかにも古めかしい家であった。桃山時代の邸宅として，全国的に数少ない貴重な遺構として，当家の価値ははなはだ高いものである。（林野）

◀懇親ボウリング大会

日　時　4月21日（金）集合・午後1時30分スタート2時00分・解散5時00分

会　場　野田ボウリングセンター
（大阪市福島区鷺洲南1丁目32番地　電話㊊9501番）
（最寄駅・阪神電車野田駅，国電環状線福島駅）

競技方法　1レーンとし，3ゲームの総得点で順位を決める。

参加資格　日本建築協会会員に限る。定員120名

賞　個人賞「ハイシリーズ賞」「HG賞」「ターキー賞」「ホームラン賞」その他特別賞多数は当日発表します。
・同得点の場合の順位は年長者順とする。

参加費　400円（3ゲームプレー諸費その他）

申込方法　3月31日までに，はがきで「氏名」「生年月日」「現住所」「勤務先」および経験の「有」「無」採点記録の「可」「不可」も記載ください。

参加証　4月13日迄に送附します

実行小員会
小委員長　窪田　祐（大林組）
幹　事　星野二郎（住宅公団）
委　員　上野　豊（電々公社）　佐藤　泰（大阪市）　木村輝久（大阪大学）　能勢次郎（能勢事務所）　滝川公策（坂倉事務所）　南　次郎（浅沼組）　和田克朗（大阪府）

◀ソフトボール大会・予告

日　時　5月11日（木）集合・午前10時→解散6時30分

集合所　大阪市中央公会堂裏・京阪観光バス

会　場　関西電力総合運動場

参加資格　日本建築協会役員・委員

第3回以降・特別見学会・企画表

阪神の新建築見学会　（5月上旬・1日）
広島・倉敷方面の新建築見学会　（6月上旬・2泊3日）
桂・修学院離宮と茶室見学会（6月中旬・1日）
秋の信州路を訪ねる会（10月下旬・2泊3日）
・上記の企画詳細は建築と社会誌で発表いたします。

日本建築協会会告

創立50周年記念事業

◀関西建築50年回顧展

会期　昭和42年 3 月30日～ 4 月 4 日…6 日間

会場　阪神百貨店 2 階丸善画廊

（建築と社会の珍しい古い写真や新しい写真，また物故会員の遺作など展示しております。）

後援　大阪府・大阪市

展示内容

1.　建築から見た今と昔

イ	大阪府庁舎	ヌ	昔の千日前
ロ	大阪市庁舎	ル	歌舞伎座
ハ	大阪駅	ヲ	通天閣
ニ	天王寺駅	ワ	心斎橋
ホ	中之島	カ	心斎橋筋
ヘ	御堂筋	ヨ	道頓堀筋
ト	戦災	タ	共同住宅
チ	復興	レ	個人住宅
リ	五重塔		

2.　新らしい建築

関電ビル，新住友ビル，神戸ポートタワー，奈良県庁舎，富国生命ビル，松下電気体育館ロイヤルホテル，甲南大学体育館，京都国際会館，大阪ガスビル，宝塚カトリック教会，堺市民会館，尼崎市役所

3.　物故会員の建築作品と遺作

片岡　安氏	毎日新聞社	遺作
武田　五一氏	京都府記念図書館	〃
池田　実氏	毛皮センター	遺作
波江　悌夫氏	大阪城天主閣	〃
設楽　貞雄氏	通天閣（旧）	〃
尾崎　久助氏	日本銀行本店	〃
長谷部鋭吉氏	住友ビル	〃
安井　武雄氏	大阪ガスビル	〃

4.　古い建築

泉布観，造幣局，眺望閣（5 階）

凌雲閣（9 階），日銀大阪支店，朝日新聞社

5.　年　表

大正初期より今日に至るまでの一般の動き，都市と建築の流れなどを一覧表にして展示。

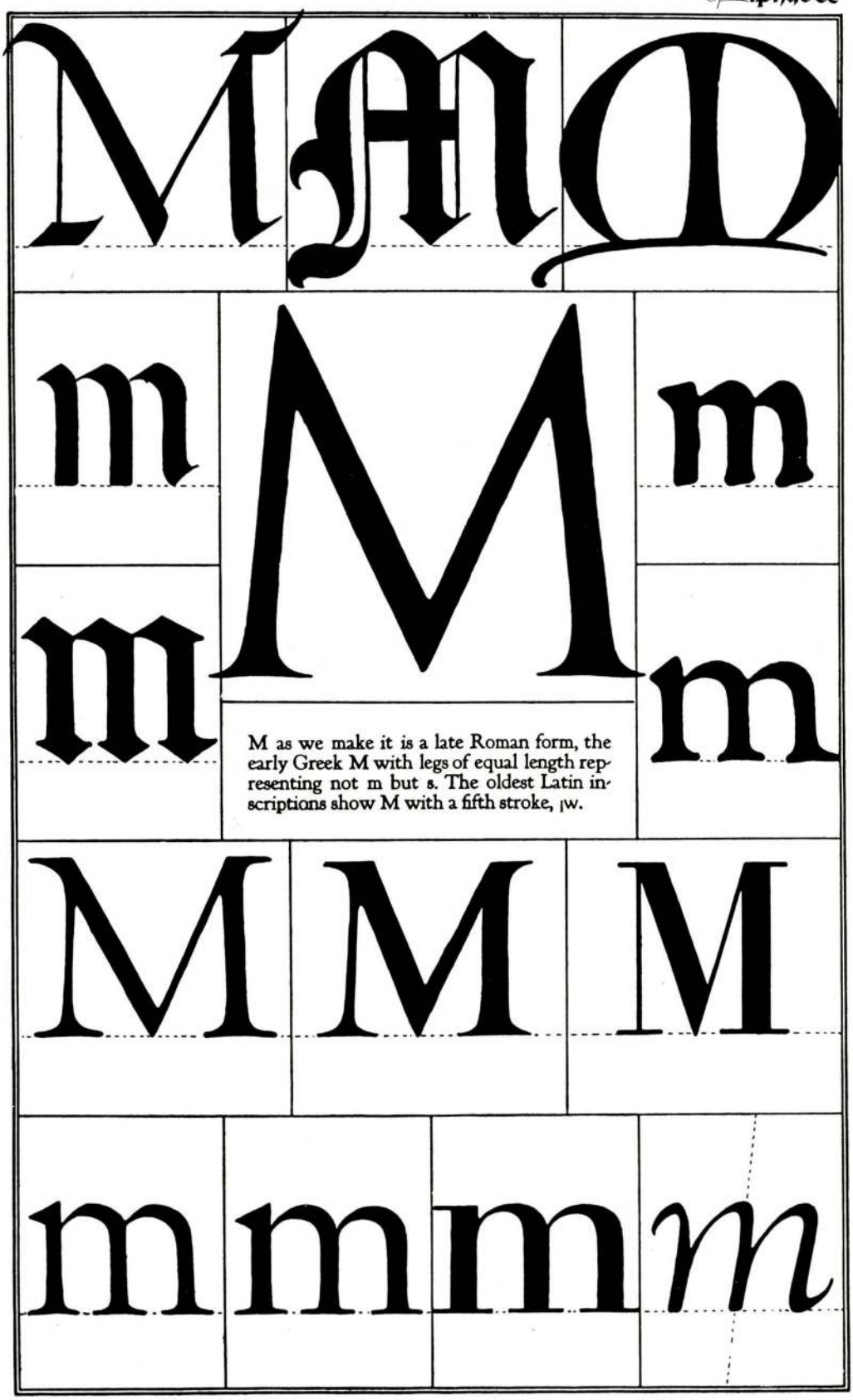
◀50周年記念物建造懸賞設計競技

本会では50周年を記念して，標記懸賞設計競技を行なう予定です。対象施設は大阪市の公共施設で，すでに大阪市の協賛をえております。募集案その他詳細はきまり次第お知らせいたします。

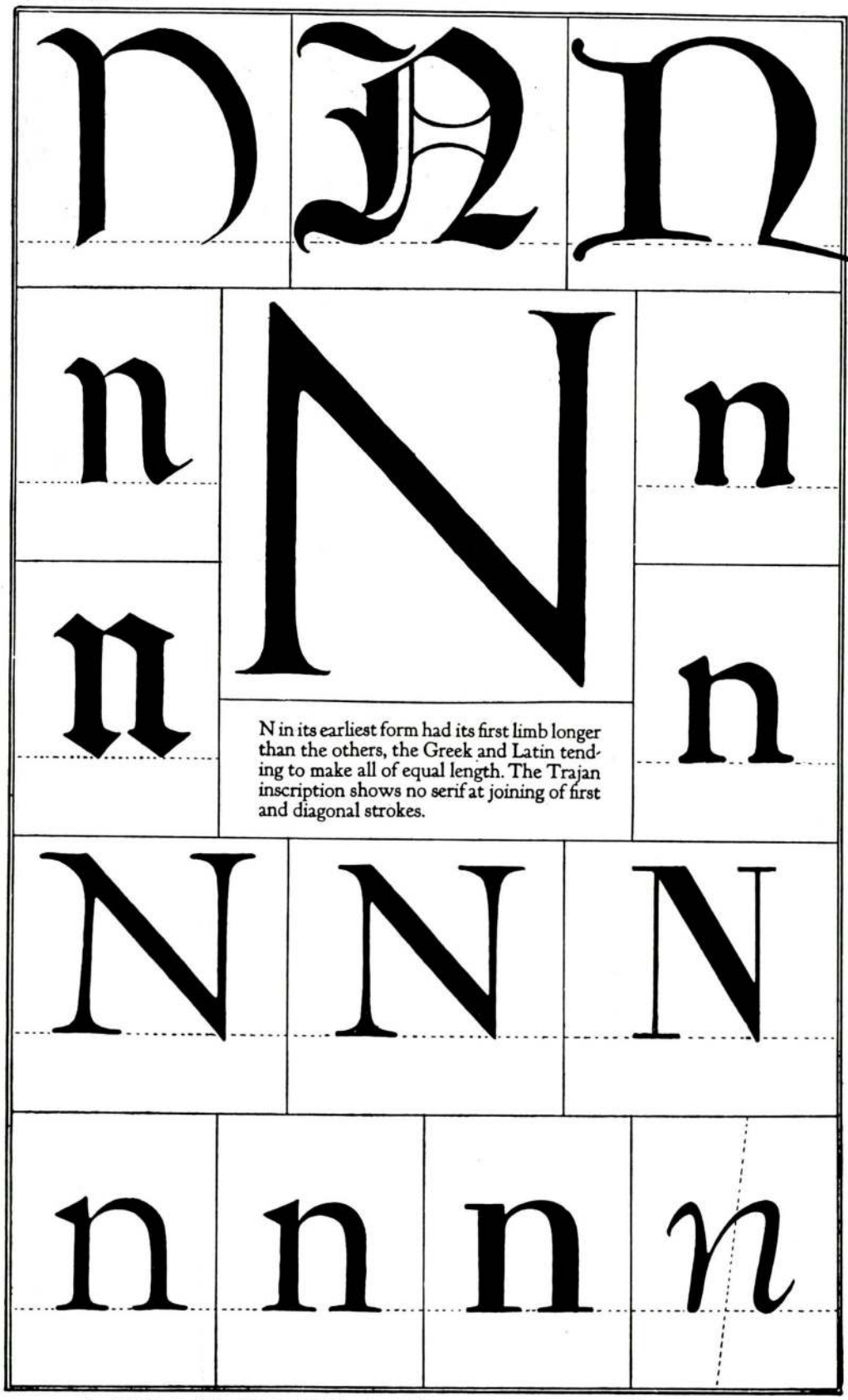
レタリング

M

きりとり線



M．現在使っているMはローマ後期の型である。初期のギリシァのMは脚が同じ長さで、mではなくsを表わしていた。最古のラテン碑銘のMはもう一つたて棒があり、IWとなっている。



N in its earliest form had its first limb longer than the others, the Greek and Latin tending to make all of equal length. The Trajan inscription shows no serif at joining of first and diagonal strokes.

レタリング

N

きりとり線

N．Nの最も古い型は、最初のたて棒が他のものより長かったが、ギリシャ語やラテン語において次第に同じ長さとなった。トラヤヌス皇帝の碑文には最初のたて棒と斜線の接点にはセリフが見られない。

*Trajan 在位98－117



屋根にビニロイド防水を施工した京阪ビル（松阪屋）

どんな地域でも　どんな構造の建物をつくっても完全な防水ができたら——それを実用化して　すでにすぐれた数々の実績を示しているのが〈**ビニロイド２号**〉です
防水下地にキレツができても破れず　寒冷地の冬にも丈夫で　どんな場所に使っても腐りません　それは弊社が合成繊維による不織布を独特な方法で加工した　技術の成果です
京阪ビル（松阪屋）の屋根にも**ビニロイド２号**による防水工事をご採用いただきました

営業品目　●ビニロイド防水工事　●アスファルト防水工事　●三星ソフトンタイル貼工事　●保温・保冷工事　●三星プラスオール　●三星コーキン販売・工事　●シポレックス工事

三星産業株式会社
東京都千代田区岩本町３－11－13
ＴＥＬ〈866〉0271～６・6121～９
出張所／札幌〈72〉6031　仙台〈21〉5366－７　名古屋〈941〉3751
〈971〉4574　大阪〈443〉9721－３　福岡〈76〉2076〈75〉0298



帝国劇場の天井

週刊朝日に菊田一夫氏が世界一の劇場とまで賞讃している帝国劇場の天井は、日進式特殊軽量鉄骨下地にボードとベニヤを張り上げたもので、弊社がご下命をうけて施工いたしました。
さきに開館された国立京都国際会館の天井も弊社がご下命をうけて施工したもので、その光栄を悦んでおります。

株式会社
奥村重兵衛商店

大阪市北区木幡町60番地　TEL 大阪 (364)4131(代)
福岡市住吉松月町293番地　TEL 福岡 (29) 0459
東京都太田区南馬込2の14の10　TEL 東京 (772)7859
名古屋市中村区志摩町4の7　TEL 名古屋(551)3013

天井・間仕切・アルミニゥムのことなら 何でも ご相談下さい。

読者の頁

投稿をおまちしております。掲載の分には粗品進呈いたします。

□ 参考文献として読みたい □

貴日本建築協会におきましては協会創立50周年お喜び申しあげます。11月入会前まえより知っておりました〝建築と社会〟を始めて愛読しました。学会より発行の建築雑誌より厚さが少しうすいが，日本インタナショーナル建築会の思想が流れていて大変にたのもしいと存じあげます。

最近，西山研究室編「生活・住宅・地域計画」（勁草書店発行）などを読み，参考文献として「建築と社会」雑誌が多数示されていますので，入会を機会に，それらの号を一度愛読したいと思います。事務局のみなさんにはご多用中誠にご迷惑かつ大変に失礼なお願いでありますが，示されておりました「建築と社会」をお送り願いますわけにはいかないでしょうか。

（犬山市南徳明町209　南部　薫）

お指示のあった13号分（おそらく絹谷祐規君の論文のでている号でしょうが）のうち4号は品切れですが，あとの9号をお届けしました。――編集部より――

□ 万博に地下住宅街を建設しよう □

（保健室のある草木も生育する室を持つ）

万博で建築家は希望と夢の実現に張切っているときく。何を目的に張切っているのか。どうもデザインに形だけに凝る気なのではないか。

それでは，果して世界の人々を驚かし，将来の人類の進歩に貢献するに価値ある万博になるかどうか。世界で問題となっているのは住居問題と思う。それの対策は出つくしてしまったのではないか。もう余程革新的センスの切かえをしないと解決策はあるはずはなかろう。

宅地，敷地のうち，未開発の処女地で，しかも手近かにあり，無限の広さをもつものは，地下の空間のほかにはあるまい。建築基準法を唯一の原則として考えているなら，人類の進歩も阻止されてしまうであろう。

現代の科学では，太陽光線さえ太陽灯で立派に代用でき，人類の生活には十分であるし，草木さえ生育できると聞いている。としたなら，何も採光を考慮する必要もなかろう。地下住宅は自然の猛威，風雨災害，交通禍，公害禍，飛行機の墜落禍から完全に逃れられるし，完全に保護できる唯一の建築物ではないか。また暖房も冷房もほとんど経費を要せずに実現し，享楽できるのではないか。

衛生的なることは，地上の住宅のおよぶところでもあるまい。だから老人ホーム，幼児ホーム，病院などの公共施設は即時，地下に移そうではないか。

住宅の見えぬ住宅街の実現を万博で期待しようではないか。何，建築デザイナーの手腕はどうなるかな。それはゆっくり後で考えよう。

もちろん，個人の自由は認めよう。趣味も認めよう。

金持は地上住宅を，公共・公営住宅は一切地下えのキャッチフレーズで行こうではないか。

かくすれば宅地造成の要も，通勤地獄も，また土地問題，緑化問題も，全くのナンセンス化してしまうではないか。

地下住宅に必要なのは保健室だけ。1日に2時間太陽灯にあたると，保健上支障はないと聞く，強ひて地上に出る必要は，保健上からはあるまい。

今かりに，天王寺公園をそのままにして，その地下を5～6階の住宅街，老人ホーム，幼児ホーム，その他の公共施設にするならば，新世界はどんな型に都市変型するだろうか。興味と希望が，無限にかけめぐるではないか。

建設費のご心配は無用，やる気になればできるのではないか。技術に自信はあるのだからみんなで地下住宅実現に，かけようではないか。人類は太古は穴居生活だった。昔にかえるだけか。

（浪速区元町1の762 建設資材研究所長　鈴木忠五郎）

□ 日本建築協会創立総会の出席者氏名 □

日本建築協会の創立総会は，創立委員5名の檄文により，大正6年3月30日に，大阪ホテルにおいて開催されたが，参考までに，その創立総会出席者39名の氏名をかかげてみたい。（敬称略）

井尻　良雄	池田　実	石田　信夫
今林彦太郎	伊部　貞吉	原田　俊雄
浜野　三郎	長谷部鋭吉	徳永　庸
大林賢四郎	小笠原　鋧	置塩　章
片岡　安	葛野壮一郎	金剌森太郎
田中　勘	田中　大作	田中　豊輔
武田　五一	宗　兵蔵	波江　悌夫
永瀬　狂三	村井　三吾	牛島　喜勇
山本鑑之進	吉木　久吉	松本　禹象
藤田旭之助	舟橋　喜一	藤井　厚二
小林　悉	佐藤　彰美	佐藤　四郎
木子　七郎	光安梶之助	設楽　貞雄
本野　精吾	瀬戸　文吾	日高　胖

なお，創立総会に先立って同年2月27日に，北区魚岩楼に準備会の会合をもっている。このとき52枚の案内状をだしている（出席者はやはり39名）が，52人のうち，上記重複氏名を除くとつぎの人の名がみられる。

一井　九平	橋本　勉	渡辺　節
河合　浩蔵	河合　幾次	加護谷祐太郎
亀岡　末吉	中西　甚作	内藤　太郎
野村　一郎	久保田小三郎	山田　静
松田　亥作	北村　耕造	天沼　俊一

（2月27日の会合の52状の案内状には，井尻良雄，日高胖の両氏の名はないが，この両氏は，その後，3月に来阪して創立総会に参加されたものらしい。）　（M）

□ 明治建築土木史・関西編（その3）（明治11年4月24日。至同年5月15日） □

明治

11年4月24日　鹿児島県玉里の島津久光邸落成し，美麗なること旧居は遠く及ばずと新聞の評。

〃　〃　25日　従来東海道筋の電信を一手に引受け，日に平均500通を処理していた沼津電信分局は静岡分局に業務を委譲して閉局す。

〃　〃　26日　豊前中津の国立銀行発起人菅沼新・山口広江などはかねて資本金9万円で銀行設立を申請していたが，大蔵省から8万円にするようにといわれ，8万円で再申請する。

〃　〃　30日　新潟県士族菅原安樹。13年間製薬法研究の末，東京下谷竹町に製薬所「製練社」を建設。

〃　5月1日　信州上田地方の電信線完成。上田電信分局業務開始。

〃　〃　〃　大坂住吉神社正遷宮祭礼開始。

〃　〃　2日　長野県大門町に電信分局落成す。通信業務開始は数日後となる。

〃　〃　8日　華族島津忠義，鹿児島県金山・芹ケ野などの鉱山を開発するため，仏人技師ヲシェを伴って東京出発西下。

〃　〃　9日　政府内国債金1,250万円募集開始。その用途の中に京阪間鉄道の敦賀港迄の延長工事。新潟港の修理。その他各地鉱山の製練所建設。道路開拓などを含む。

〃　〃　11日　高知へ帰郷した前参議板垣退助が招聘した外人宣教師アッキンの耶蘇教仮説教所に，最近おびただしく信者が増えたという。

〃　〃　〃　大坂府下高麗橋5丁目に第三十四国立銀行開設さる。

〃　〃　14日　山尾庸三工部大輔（次官）佐渡の金山と北海道の炭鉱の視察決まる。

〃　〃　〃　信州出身の写真家二見浅熊兄弟。東京「銀座の練化」に，新写真館と邸宅竣工。この費用1,500円。二見は若い頃深川木場の材木問屋で小僧をしていたという。

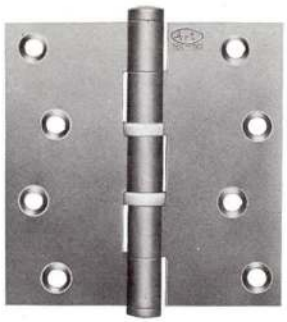
〃　〃　15日　兵庫県加古川駅出身の窃盗常習者入江熊吉，大坂北御堂門前で巡羅中の巡査の胸から時計をすって捕わる。この門前が当時それ位賑かだったという意味のニュースらしい。

（東京都北区神谷2ノ22ノ13　須藤　欣二）

Art の製品には……

日本住宅公団指定規格品

DR-844 ヒンジ



●デルリンブッシュ入
平頭角型ギボシ丁番

- ドアーの開閉時に音を立てない。
- 長期の使用にも摩耗する事がない。
- 注油の必要がない。
- 温度の急激な変化にも耐えられる。
- 衝撃にも強い
- 完全防錆のボンデライズ焼付塗装である。

寸法（㎜）

呼名	全長	横巾	板厚	ナックル外径	ブッシュ	SWAGING	取付巾	鋼材	十字穴付木捻子 JIS.B1112			
	A	B	C	D	E	F	G	JIS G3307	H・I	本数	太サ	長サ
89㎜(3½)	89	89	2.5	12.3	4.5	1.6	29	SPH-1	10×6	6	4.5	25
102㎜(4)	102	102	2.8	13.0	4.5	1.6	32	SPH-1	10.5×6.2	8	4.8	25
127㎜(5)	127	127	3.2	14.7	5.0	1.6	39	SPH-1	12×6.7	10	5.1	32

●丁番の取付けが簡単、作業能率の向上！

木ネジの革命 **スパイラー**



- 錐でガイド(下穴)を設ける必要がない。
- 全ネジ式ですから密着が良く振動のために抜けてくるようなことはない。
- 釘状の部分で木部へ安定した嵌合が出来るのでドライバーの横滑りがなく製品を傷めずに固定出来る。
- 表面硬化をしてあるためにネジ山の破損が少なく反復作用によく耐えます。

※〝アート〟のヒンジの中級品以上（DR-844. NR-64. ST-84. ST-SL-84-1）にはスパイラーが附属されています。

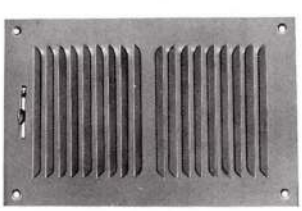
●最新型ウォール
レジスターセット

EWレジスター

●米国FHA規格品

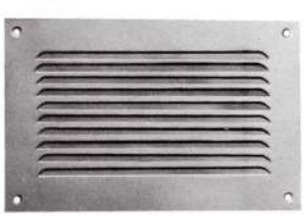
- 自然換気により室内の空気はいつも爽やか。
- 室内冷暖房の保温調節が容易。
- シャッター120°迄自在調節止め付。
- 錆の発生、変色がなく湿度の高い所、バスルーム等にも安心して使用出来る。
- スッキリとしたデザイン中間色の落ちついた色調。
- 風雨の晒す場所でも雨の吹込む心配がない。
- ソフトシートにて取付けの際のガタつきがなく、完全密着取付け施工が出来る。

レジスター
No.55—R



取付部分切込み寸法 ㎜（吋） 縦	横	表面板寸法(㎜) 縦	横
150（6″）	260（10″）	195	295
150（6″）	310（12″）	195	345
150（6″）	360（14″）	195	395

グリル
No.55—G
防虫網付



取付部分切込み寸法 ㎜（吋） 縦	横	表面板寸法(㎜) 縦	横
150（6″）	260（10″）	195	295
150（6″）	310（12″）	195	345
150（6″）	360（14″）	195	395

※鉄筋住宅のお部屋の換気、冷暖房装置の通風口には理想的な吸入、排気のレジスター、グリルをセットして使用ください。

●JIS規格表示許可工場　日本住宅公団指定メーカー

永和工業株式会社

本　社　大阪市生野区巽矢柄町128　TEL 大阪(751)1271～5
工　場　大阪府枚岡市布市町50　TEL 枚岡(81)5566
東　京　東京都中央区日本橋本町4—4　TEL 東京(663)6748
営業所　（クラウンビル内）

建築と社会 ニュース

ニュース原稿をお送りください。

■65年の大阪の基本構想まとまる

昭和65年の大阪の姿を描いた大阪市の長期基本構想案が最終的にまとまり，このほど大阪市総合計画審議会で了承された。基本構想は，都市の未来像，街づくり，市民生活の三編からなり，指標の手直し，追加部分を除いては10数次重ねた審議で了承ずみのものだが，これで長期構想の作業はすべて終わり，今後は昭和50年を目標にした具体的な実施計画の作成に取りかかる。

長期構想では，未来の大阪市は近畿，瀬戸内を含む西日本の経済中枢都市として本社，支店がさらに集中，第3次産業の比重は56%から65%へ伸びるものと予想，就業人口315万人，常住人口350万人を基本指標として計画された。さらにプラン作成のうえで現在の市域を土台にしながら道路，鉄道の整備では50キロを圏内に，その他の項目では西は芦屋，北は池田，箕面，東は寝屋川，東大阪，南は堺市までの地域を含む大大阪構想が生かされた。そのうち，住宅整備については，市民1人当たりの床面積を11平方メートルから2倍弱の20平方メートルに広げ，1人1室を確保する。1世帯平均3～4人の住宅水準を予想，65年までに82万戸を建設，うち63%は中高層住宅として供給する。床面積は当初，1人当たり16平方メートルだったが，建設省ビジョンに照らし一気に倍増へ塗り替えたもの。

■建築家協会のパネルディスカッション

「フライアントに対する建築家の責任」というテーマのもとに，日本建築家協会の第5回パネルディスカッションが去る2月18日，名古屋で開催された。

パネリストとして，円堂政嘉氏，市浦健氏らが報告し，クライアントに対する社会的責任，設計の過失に対する責任の問題等々をめぐって討論した。本部より坂倉準三会長以下21名，関西支部9名，九州支部1名，東海支部約100名が参加した。

訂正：前月号の「渡辺節氏逝去さる」の原稿のうち，名誉職について誤りがありましたので，つぎのように訂正します。

「大阪府建築士会名誉会長，日本建築士会連合会名誉会長，日本建築家協会終身正会員」

また同文の最後の二行をつぎのように訂正します。

「1964年には勲五等 双光旭日賞を授章され，1967年1月には従五位を受けられた」

■広島駅のレリーフ「牧歌」

広島駅の壁面につけられている少年少女のレリーフについて，中国支部の古林義敦氏より，その写真が送られてきたので紹介する。「一般人があまり認識していないのが残念なので……」と古林さんの話。この「牧歌」の少年少女塑像と鳩は，建物全体の中心という意味で，ビルの1階正面の壁面（高さ3.3m，長さ18m）につけられた高肉レリースで，ブロンズ金箔仕上げのりっぱなもの。原型の制作者は，東京芸大講師・新制作協会会員の舟越保武氏である。清純，純真，平和，生育をあらわす由である。







■建設省，〝不燃第829号〟を新認定

建設省はこのたび新しく〝不燃第829号〟を認定した。現在まで鋼鉄板について弱点とされていた発錆，腐蝕防止に新機軸を採用したものである。

その概要は金属メッキによる第一次被覆，化成処理により化学被膜を形成する第二次被覆，無機質繊維配合の難燃性熱硬化合成樹脂を積層する第三次被覆よりなる長尺巻取化学強化被覆鋼鉄板である。その性能は高く評価されている。

△試験結果：東京大学生産技術研究所・大阪市立工業研究所

試験項目	試験条件		試験片の中央部	試験片の周辺部
耐衝撃性試験 JIS，K，5400～1959	1kg×½″×50cm 20回打	表	異常なし	異常なし
		裏	〃	〃
耐加工性試験 JIS，K，5400～1959	試験片のRをOに圧着する		〃	〃
	試験片のRに同厚の試験片を一枚入れ圧着する		〃	〃
	試験片のRに同厚の試験片を二枚入れて圧着する		〃	〃

試験項目	JIS，K，5400～1959	試験項目	JIS，K，5400～1959
10%食塩水	異常なし	30%硫酸	異常なし
10%苛性ソーダ	〃	塩水噴霧	5%食塩水（JIS－Z－2371）35°C 2,000時間異常なし
10%硫安	〃	耐アルカリ	セメント上澄液PH，11 2,000時間異常なし
10%硫酸ソーダ	〃	耐湿性	95%以上50°C 2,000時間異常なし
10%硝酸	〃	水道水	異常なし
15%塩酸	〃	耐候性	ウエザーメーター2,800時間，10年以上表面ツヤ消えるも異常なし
15%弗酸	〃	耐寒性	－20°C±5°C 180°折曲げ異常なし
15%硝酸	〃	耐熱性	250°C±5°C 溶解はくりなく異常なし
15%硫酸	〃		

△規格

呼称	中芯鋼板厚	巾	重量／㎡	長さ
COM 28 #	0.4 m/m	920 m/m	3.4 kg	長尺・巻取
COM 26 #	0.5 m/m	920 m/m	4.2 kg	〃
COM 24 #	0.6 m/m	920 m/m	5.0 kg	〃
COM 22 #	0.7 m/m	920 m/m	5.8 kg	〃
COM 21 #	0.8 m/m	920 m/m	6.6 kg	〃

△標準色

標準色	番号	標準色	番号
COM シルバー	1010 S	COM ブルー	1060 BU
COM クリーム	1020 C	COM レッド	1070 R
COM グレー	1030 GR	COM ブラウン	1080 B
COMライトグリーン	1040 LG	COM ブラック	1100 BK
COM グリン	1050 GN		

開発会社：大島応用化学工業株式会社
東大阪市新庄114（782）4171～3
商品名：ケミカラーオーシマメタル・COM

すぐれた居住性を創造する

軽量気泡コンクリート

シポレックス



壽本舗かねてつ共同ビル

設計　日建設計工務株式会社
施工　住友建設株式会社
使用場所　外壁

軽　　量（比重 0.5コンクリート¼の重量）

断　　熱（コンクリートの１０倍の断熱性）

耐　　火（法　定　耐　火　材　料）

◆シポレックスは工場、住宅から超高層ビルまであらゆる建物の屋根・床・壁・間仕切・耐火被覆に使用されますが次の建物には特に最適です

1　工期短縮を要するすべての建物
2　空調を要する工場・倉庫事務所住宅等
3　鉄骨大張間の工場・体育館等
4　軽量化を要する高層建築物・軟弱地盤の建物
5　鉄骨耐火構造の建物

SIPOREX

シポレックス販売株式会社

本　　社　東京都千代田区岩本町２ノ１ノ16(森川ビル)
　　電話　東　京（861）代　表　７　２　４　１
大阪支店　大阪市西区京町堀通１ノ125(東洋ビル)
　　電話　大　阪（443）代　表　７　７　４　１
名古屋支店　名古屋市中村区広小路西通３ノ２(大商ビル)
　　電話　名古屋（581）代　表　７　４　２　１

□写真と概要をどしどしお送りください。
凡例：a. 所在地 b. 建築面積 c. 延面積 d. 構造規模 e. 工 期



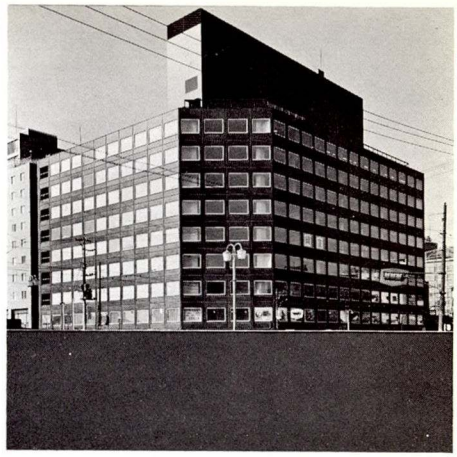
208. 大洋漁業K.K.大阪支社

設計：石川建築事務所
施工：東海興業K.K.
a. 福島区下福島2－41
b. 601.424m²
c. 2976.966m²
d. RC，5F，P2
e. 昭和41年4月～昭和42年1月



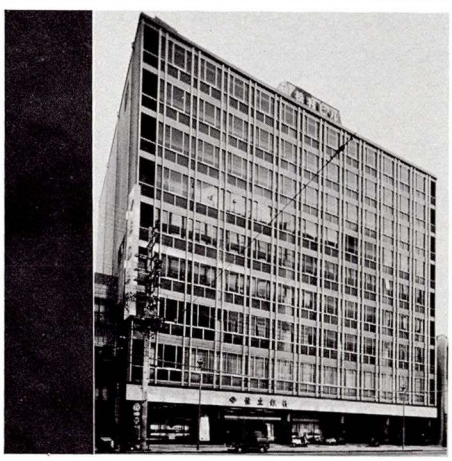
209. 千里保健医療センター新千里病院

設計：日建設計工務K.K.
施工：K.K. 藤田組
a. 吹田市津雲台1－12
b. 1,080m²
c. 5,735m²
d. RC，6F
e. 昭和41年2月～昭和41年12月



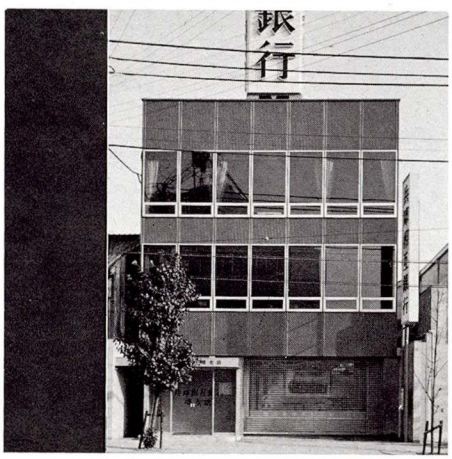
210. 住友商事東銀座ビル

設計・施工：K.K.竹中工務店
a. 東京都中央区銀座東5丁目5
b. 2,106.0m²
c. 25,009.0m²
d. SRC，B4，2F，P3
e. 昭和39年6月～昭和41年11月



211. 松村ビル

設計・施工：K.K. 松村組
a. 東区京橋2丁目15の1
b. 892.02m²
c. 9,363.55m²
d. SRC，一部RC，B2，9F，P2
e. 昭和40年2月～昭和42年2月
地下にコンベアー式機械パーキング内蔵26台。



212. 兵庫相互銀行堺支店

設計：K.K.安井建築設計事務所
施工：清水建設K.K.
a. 堺市一条通り9－138
b. 190.38m²
c. 587.48m²
d. RC，4F
e. 昭和41年4月～昭和41年10月



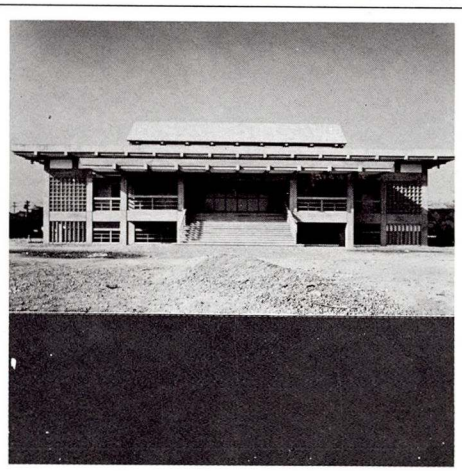
213. 布施岡島ビルディング

設計・施工：清水建設K.K.
a. 布施市足代
c. 8,390.36m²
d. SRC，8F，B2
e. 昭和40年4月～昭和41年9月



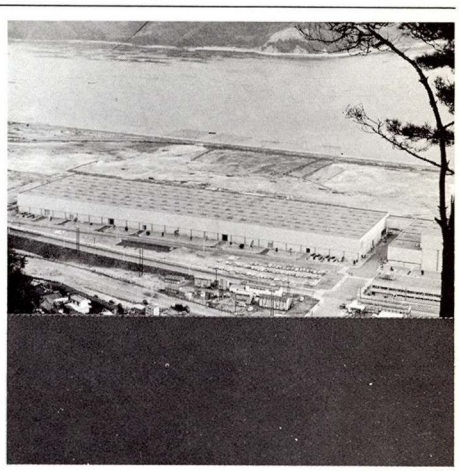
214. 朝日新聞大阪本社伊丹格納庫事務所

設計・施工：K.K.竹中工務店
a. 伊丹市大字下河原半食73の2
b. 1,040.3m²
c. 1,321.5m²
d. RC
e. 昭和41年5月～昭和41年11月



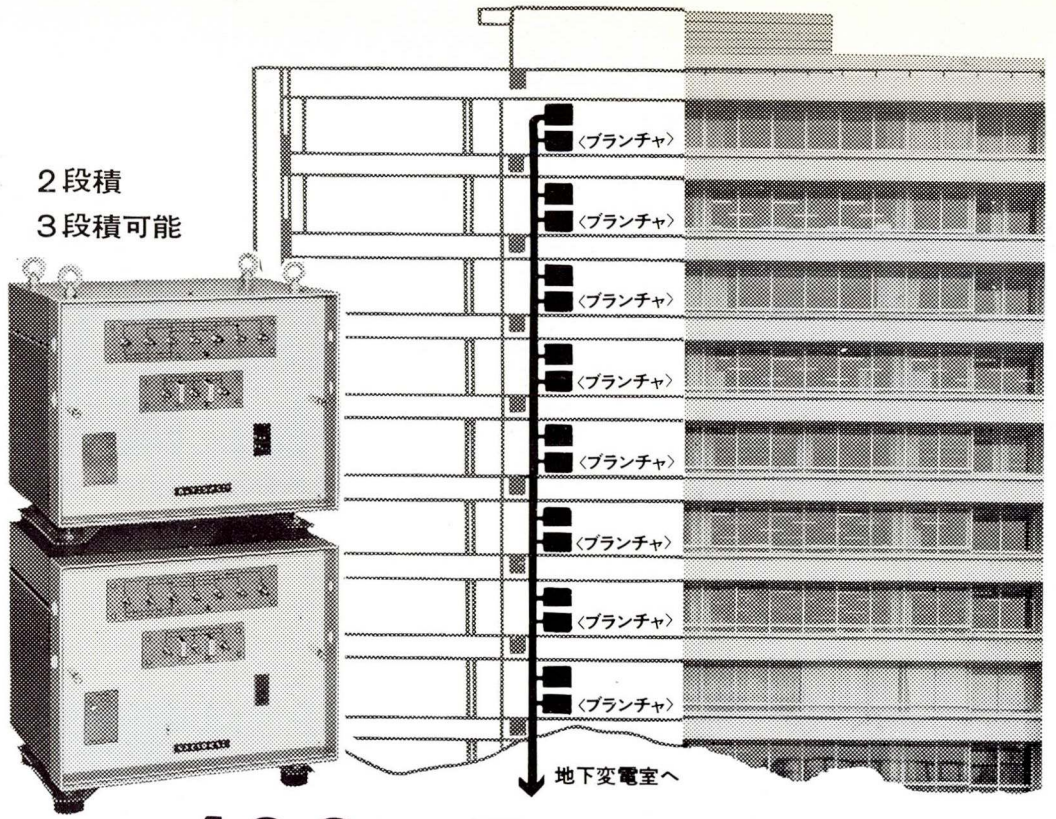
215. 大谷派本願寺八尾別院

設計：(財)建築研究協会
施工：東海興業K.K.
a. 八尾市本町4－12
b. 864.3m²
c. 1545.23m²
d. RC，B1，1F
e. 昭和41年1月～昭和41年10月



216. 東洋工業東地区車体工場

設計・施工：K.K.竹中工務店
a. 広島市仁保沖町
b. 17,244.7m²
c. 34,167.6m²
d. S，2F
e. 昭和41年5月～昭和41年9月



大形ビルなどの400V級配電方式に…

ナショナルトランス〈ブランチャ〉

電源分岐室用乾式変圧器（実用新案・意匠・商標）申請中

■400V級配電の変圧器です。

＜ブランチャ＞は、400V級配電を100V級200V級に円滑に降圧。三相200V級と単相100・115Vの同時使用ができますのでビル・工場・学校・病院などの400V級配電方式の合理化に大きく貢献します。

■積重ね式が特長です。

分岐室を有効に使用するため、難しい条件の積重ね式と結線方式の技術を解決、インピーダンス電圧と位相角を合せて、異種容量〈5KVAと10KVA〉及び〈20KVAと30KVA〉の並行運転ができます。

■諸経費も割引されます。配電方式の合理化により材料費・工事費が減少。また、小形で取扱いが簡単なため設備費・保守費も大へん経済的です。

三相・乾式（H種絶縁）**・二巻線変圧器　容量 5・10・20・30・50KVA**
一次電圧　440V（60%）　415V（50%）　二次電圧　210V－105V
結線方式△－Yノーヒューズブレーカ、防震ゴム取付可能

ナショナル
松下電器

●お問合せは

札　幌（24）9271	東　京（453）3111	富　山（21）8561	名古屋（951）6211	広　島（41）5111	小　倉（53）5221
仙　台（25）8111	横　浜（68）0743	金　沢（61）2125	大　阪（362）5151	高　松（2）1194	鹿児島（3）0671
宇都宮（3）3235	静　岡（54）1241	新　潟（45）6386	神　戸（39）8011	福　岡（28）3331	



クラスメート

22　（京都大学・大正12. 13. 14. 15年卒）

前列左より（敬称略）

野地修左
工博・神戸大学名誉教授・株式会社K構造研究所大阪事務所代表取締役（大正14年卒）

金本房一　四天王寺学園短大教授（大正15年卒）

設楽貞三　洋建築事務所長（大正12年卒）

村田治郎
工博・京都大学名誉教授・明石工業高等専門学校校長（大正12年卒）

大倉三郎
工博・大阪工業大学教授（元京都工芸繊維大学々長）（大正12年卒）

松井清之助
（前西日本建設業保証株式会社常務取締役　元京都府建築部長）（大正13年卒）

滝本義一　工博・大阪工業大学教授（大正13年卒）

岡本弘　株式会社浅沼組顧問（大正14年卒）

後列左より

田中吉太郎　会社顧問（大正15年卒）

貞永直義　貞永建築士事務所々長（大正14年卒）

辛木貞夫　東海興業株式会社調査役（大正14年卒）

伊藤和夫
（元大阪港振興株式会社会長）（大正15年卒）

井上伉一　兼松株式会社大阪支社（大正14年卒）

野田清三
株式会社神崎組本社取締役設計部長（大正15年卒）

伊東恒治
有限会社新構社伊東建築事務所長（旧京都大学助教授）（大正14年卒）

東畑謙三　東畑建築事務所々長（大正15年卒）

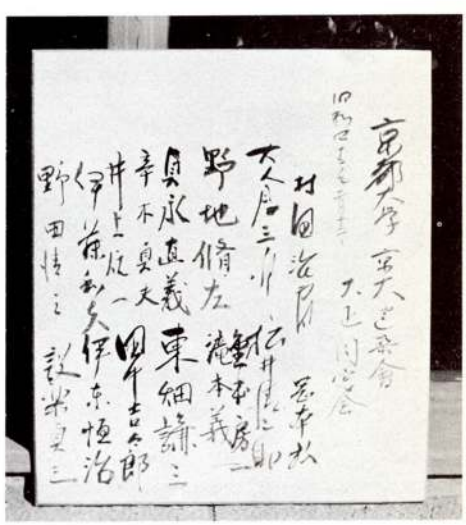
京大建築学科を卒業したのが、大正12年～15年で思えば遠い昔である。40年といえば半世紀に近い。これに比べ4年位の差は10%にも満たないので至極自然にこの間が一緒になり、クラスメートの集りとなった次第で、京大建築会の大正会といっている。

われわれは京大建築学科開設初期の卒業生であるから、どこへいっても先輩とてない世界に放り出された格好で嘗めた苦渋は相当なものであった。創設当時建築学教室は、現在の東南で東塀端にあった大正天皇御即位大典の饗宴場を下賜された木造建物で、現教室本館に移ったのは大正11年であるが、当時は学内一の新建物であった。先生方には故人となられた本協会創設者の一人武田五一博士をはじめ、日比忠彦・天沼俊一・藤井厚二先生等、講師には、これまた本協会創設者片岡安博士をはじめ、古宇田実・坂谷良之進先生等、絵画には帝展審査員太田喜二郎先生、彫塑には中牟田三治郎先生等々異色ある方々がおられた。製図室ではレコードで古典音楽をたのしむなど、当時は学生数も少なく渾然とした雰囲気で、その楽しいムードの思出がなつかしい。

卒業後40余年、脇目もふらず道草も食わず後戻りもせず、一意専心同じ道を歩み続ける**村田**が学界に、**東畑**が設計界にある。いづれも超一流で今後なお一層の活躍を期待される。

また学界あるいは教育界で偉大な足跡を残し、いまなお大に貢献中の**大倉・滝本・伊東・野地・金本**等多士済々である。官界の足を洗って悠々自適—**松井・伊藤**—あるいは建設業界に転身して新天地を開拓—**井上・岡本・辛木・野田**—等々それぞれ独自の道を邁進している。終始建設業界の道を完走した**田中**、設計界では前述の東畑のほか**設楽・貞永**があり、老来ますます元気に独自の難路を踏破している。

（設楽・岡本記）



GOAL® "信頼"のシンボル



専門家は"ユニロック"を選ぶ。

豊富な品種と
精密さ、堅牢さ、美しさ、
をそなえたユニロックは
信頼の出来る錠(ロック)です。

有名ビル・ホテルで採用されているのは
完全な品質管理と半世紀にわたる
鍵づくりの技術を高く、評価されて
いるからです。

建設省・日本住宅公団・各府県市庁
有名建築設計事務所ご指定



GOAL IS THE FINEST NAME IN LOCKS AND HARDWARES

株式会社ゴール

本社・工場／大阪市東淀川区三津屋北通4－30 TEL(三〇二)一七七一
九州工場／佐賀県神埼郡三田川町 TEL(神埼)三一七七
営業所／東京・名古屋・札幌・仙台・静岡・金沢・広島・高松・福岡

建築の眼

浦辺鎮太郎
浦辺建築事務所長

金多潔
京都大学教授・工博

矢野豊作
KK藤木工務店常務取締役

桜川貞雄
東洋陶器KK顧問

1月号より6月号まで上記の四人の執筆者で担当してもらいます。

■三笑主義の採算

世情あわただしくテンポの早い動きの中で，損をしないように少しでもトクをしたいという計算は昔と変わらないようにみえる。封建制の遺風が泌みこんだ中で近代産業を育て上げた紡績屋さんたちはサンカク主義（義理カク，恥カク，人情カク）で，手足まといの遺風をふり切った。別の見方からすれば，これも近代合理主義の先駆者。封建制の遺風は一応公式の場，コマーシャル・ベースの場からは消えたかに見えるが，一方では官僚主義と大組織亡者の悪風が依然として強い——合理主義の世界というには程遠い現状。うかうかとしておれば泣かされるのは，いつも人のよい正直者である。筆者の提唱する三笑主義は，お互いの利益を認め合っていきたい。他人（利害対立者）を泣かせて自分だけが栄えることは，ないではないかという合理的採算点を，いつも基盤に据えての上での話である。（U）

■3月の学内行事

どこの学校でもそうであろうが，3月は先生方にとっても大変に忙がしい月である。私の勤務先でも3月は入学試験とともに始まる。その時点では，まだ学部や大学院学生の期末試験の答案も机上に山積されており，卒業論文や特別研究のレポートも何人かの先生が分担して眼を通さなければならない。卒業設計の製図展示もこの頃である。進学する人，出て行く人，いずれも狭き関門を苦労して通り行く人々である。月の半頃は，先生も学生も受験生も，何事かを期待し，それが未だ満たされぬ，妙に重苦しい雰囲気に包まれている。

やがて，入学試験合格者発表と同時に，大学の構内には希望と，そして一抹の不安とが混じした表情の新顔グループが濶歩し始め，また月末には「蛍の光」で卒業生が送られて行く。そって先生方はまた一つ齢をとったと痛感されるのである。（K）

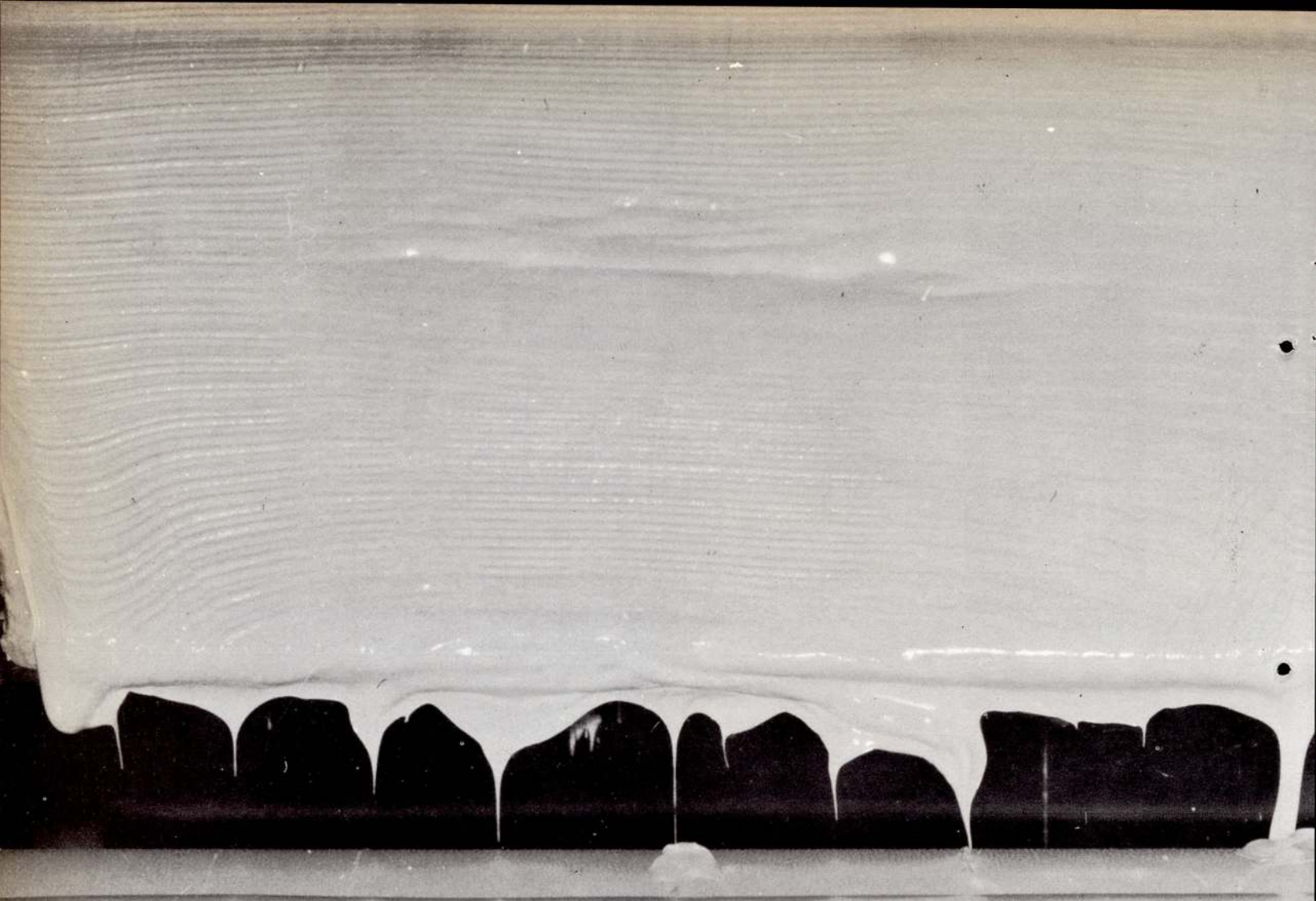
■建築生産の「進歩と調和」

以下は，ある万国博についての座談会席上の発言から示唆をうけた一つの思いつきである。

とにかく，こんどの万博工事は限られた工期で，限られた場所に集中展開され，労働力・資材・輸送その他いろいろの面で隘路が生じ，さきのオリンピック工事とは比較にならないほど困難な状況を生ずるであろうことが予想される。この際，隘路予防の一策として，今のうちに設計と施工と資材の各立場を代表する人々が自主的に集まり，相互の現実の認識を深め，設計の基本的な調整ルールというか，わくというか，そんなものを打出し，その範囲内で自由な設計活動をするように勧告することはできないものだろうか。もし，このようなことが実現できれば，このことは今後の建築生産方式における「進歩と調和」の一つの糸口となるのでなかろうか。（Y）

■良い設備は設計の初めに

スタンド型大便器より壁掛型の方が機能的で，オフィスビルのような公衆便所にはうってつけである。床に関係がないから，床の仕上，天井スペースの利用，掃除のしやすさ等，建築および管理の面で有利である。ところがこれを使おうと思っても，設備業者に図面が回って来た時にはすべての柱割が決まっていて，この型の便器を取付けるのに必要なパイプシャフトは採れない状況になっている。設備業者は弱く，設計変更を強要するほどの力も，意欲もない。これではいくら新しい良い設備をしたくても，従来どおりの器具をつけておくより仕方がない。良い設備をするためには最初の設計基本計画に折込まれていなければどうにもならないことがよくある。せっかく良い器具ができても，普及しない理由がこんなところにあることを認識していただきたい。（S）



建築用塗料

関西ペイント株式會社

ARCHITECTURE AND SOCIETY

建築と社会

Vol.48 第3号

表紙：都市と建築と人間シリーズ
その3.　50年の歩み

表紙デザイン：表紙デザイン小委員会 & 菅谷　淳

©

■1967年・第48集・3月号・目次

会　　告　日本建築協会会告……13
レタリング　M，N……17
読者の頁　参考文献として読みたい（南部薫），万博に地下住宅街を（鈴木忠五郎）
明治建築土木史関西篇その3（須藤欣二）……21
建築と社会ニュース　65年の大阪の基本構想，建築家協会のパネルディスカッション，
広島駅のレリーフ，建設省不燃第829号を新認定……23
スケッチブック　最近竣工の新建築9点……25
クラスメート　22. 京大　大正12年〜15年卒・大正会
（村田治郎，大倉三郎，設楽貞三，東畑謙三ほか）……27
建築の眼　担当：浦辺鎮太郎・金多潔・矢野豊作・桜川貞雄……29
海外写真　カルダーのモビール（ニューヨーク），坂のある舗道（リスボン）
……撮影：徳永　正三……33

日本建築協会50周年記念号

①50年回顧　第1回座談会：創立当初〜大正時代を語る
白杉嘉明三・竹腰健造・東畑謙三・松本儀八・池田宮彦・石川寛三
作間日出生・白石登喜男……39
第2回座談会：昭和前期（昭和初年〜終戦）を語る
竹腰健造・河合貞一郎・篠原太郎・岡田孝男・堀口甚吉・小林　清
宮飼克二・森川喜代之助……46
第3回座談会：昭和後期（終戦〜今日）を語る
西山卯三・鷲尾健三・岩崎甚太郎・小川　正・白石博三・内田成之
沖田誠一・木村博己・山本　茂・松井昭光……53
（以上司会：滝沢真弓・政岡基次）
②年　表　建築界と建築協会50年の歩み……担当：島田　勝次……63
③各　論　創立委員・歴代会長・歴代副会長・名誉正会員肖像……87
委員会活動……担当：政岡　基次……92
日本建築協会支部活動……担当：宮飼克二・各支部長……99
関連団体との関係……担当：野々村五四男…102
「建築と社会」誌の変遷……担当：松井　昭光…104
④総目録　建築と社会（昭和28年・第34集〜昭和41年・第47集）総目録
……担当：近藤　豊…115

月　報　日本建築協会月間の動き（昭和42年1月分）……149

編集人　松井昭光
印　刷　昭和42年3月20日
発　行　昭和42年3月25日
発行人　福中定三郎
発行所　（社）日本建築協会
大阪市東区北浜3—37
電 大阪231—9648
振替口座 大阪39975
印刷者　網野　栄
印刷所　（株）研文社
大阪市北区堂山町66
電 大阪361—2091
売　価　1部　300円・送料共

KENTIKU TO SHAKAI No.3 Vol. 48, March 1967

(Architecture and Society)

A Journal of "The Architectural Association of Japan"

Cover design: J. Sugaya

Editor: *Akimitsu Matsui*
Publisher: *Teisaburo Fukunaka*
Published by
The Architectural Association of Japan.
37, 3-chome, Kitahama, Higashi-ku, Osaka, Japan.
Price: *single copy price ¥300*

CONTENTS

Lettering: Alphabet M, N *17*

Column for Readers *21*

News for Architecture and Society *23*

Column of New Buildings *25*

Class-mates *27*

Essayes ("Kentiku no Me") ..... *29* by *S.Urabe, K.Kaneda, T.Yano, S. Sakuraga*

Photograph: Calder's Mobile at New York Modern Art Gallery ..... *33* Photo: *Masami Tokunaga*

A Slope at Old town, Lisbon, Portugal ..... *34* Photo: *Masami Tokunaga*

COMMEMORATION ISSUE FOR THE 50TH ANNIVERSARY OF "THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN"

1 Symposium on retrospection of 50th Years of "The Architectural Association of Japan" *39*

- The 1st symposium: 1917 to 1927 (Taisho Period) *39*
- The 2nd symposium: 1928 to 1945 (Former-period of Showa) *46*
- The 3rd symposium: 1946 to 1967 (Latter-period of Showa) *53*

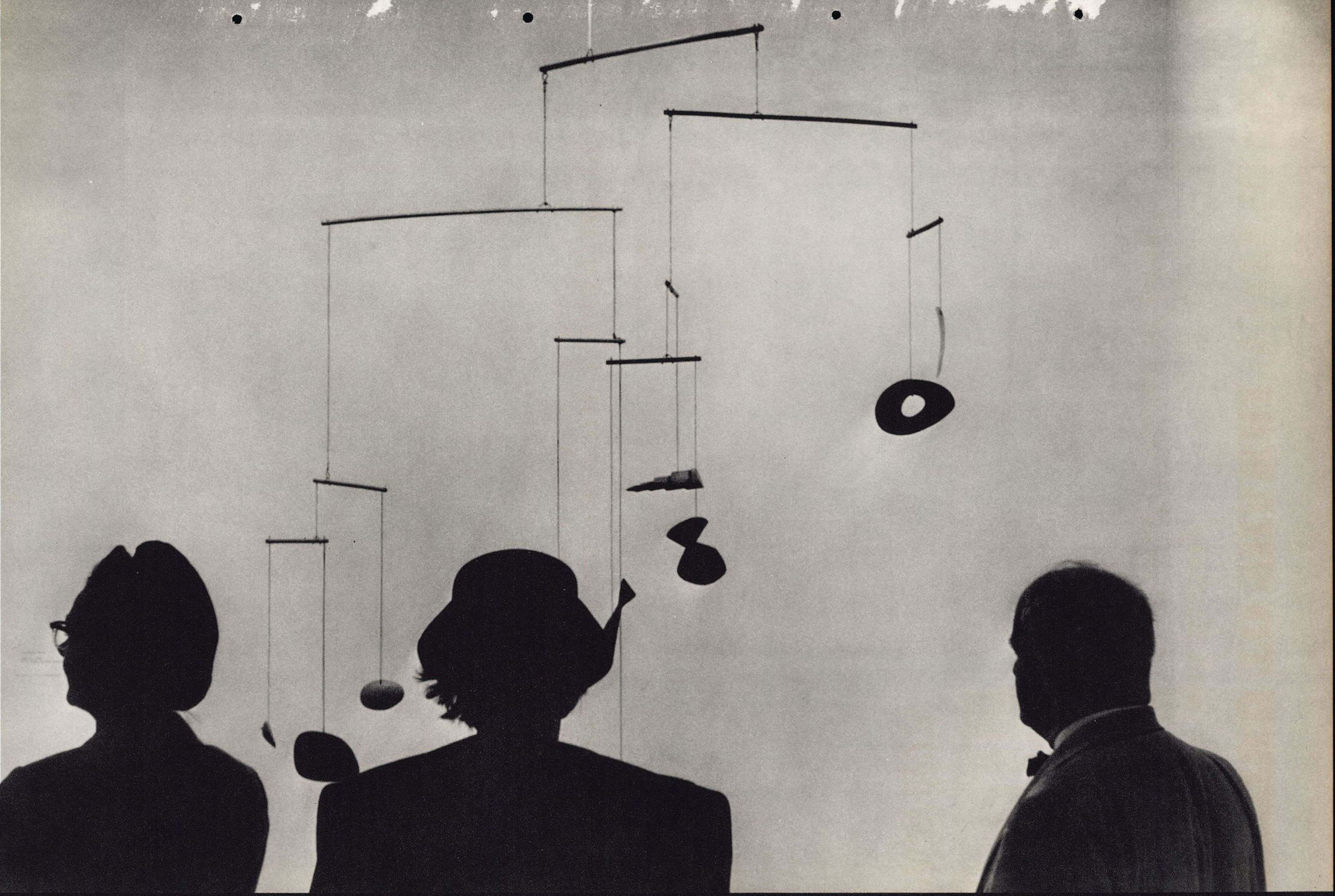
2 The Choronology of The past 50 Years of Architectural Society in Japan and Our Association *63*

3 Activities of "The Architectural Association of Japan"

1. Portraits of Organizing Commitees, Successive Chairmen, Successive Vice-chairmen, and Honorary members *87*
2. Activities of Commitees *92*
3. Activities of The Branches of Our Association *99*
4. Connection between related organizations *102*
5. Vicissitude of "Kentiku to Shakai", Journal *104*

4 General Table of Contents from Vol. 34 to Vol. 47 of "Kentiku to Shakai" *115*

BULLETIN *13, 149*



カルダーのモビール（ニュー・ヨーク近代美術館所見）

ニュー・ヨーク近代美術館の現代芸術の収蔵品は大変優れたものであるが、またその展示効果が秀でている。
カルダーのモビールに見入る人達に、現代芸術を理解しようとする心が感じとられる。（写真・文：徳永正三）



坂のある舗道（リスボン・オールド　タウンにて）

ヨーロッパの都市ではよく、古い街区を保存している姿を見かける。
御多分にもれず、ここリスボンでも坂道に親切に舗石が意匠されて、古めかしい街灯が
街並と共にあり、折しも坂を登って来た漁婦の姿が印象的であった。（写真・文：徳永正三）

日本建築協会創立

50周年記念号

巻頭の言

日本建築協会会長　**東畑謙三**

日本建築協会は本月をもって満50周年を迎えることとなった。折から明治100年，当協会は50年ということである。日本の永い歴史からみれば50年はごくわずかな年月であるが，こと近代建築ということよりみれば，それはきわめて永い年月である。たとえばこれだけ発展した日本の都市で果して50年を経過した建築が，どれだけあるかを見ればよくわかる。もちろん戦災もあったが，日本における近代建築の歴史は，この50年につきるのではなかろうか。

この50年とともに歩んできたのが，わが日本建築協会である。協会の歴史は，すなわち日本の近代建築の歴史でもある。創立当初の記録をみると片岡安氏は，当時の大阪における主なる建築技術者――それは官民を問わず，建築業者，設計者，建材関係者など――を集められて，各職域は異っていても，同じ建築という職業に従事する以上，一致団結して職業を通じての社会奉仕をして，業界の発展をねがうべきであるということを力説されてできたのが当協会である。この初心は世の中がいくら変っても，なお生きているし，50年にわたって当会が連続して続いている所以でもある。

戦後業界も一変した時期に，第2代の竹腰健造会長がこの初心を更に発展させられて，従来建築技術者中心の会の性格を建築業，設備業，建材業，などの組織にも呼びかけられて，これらの会社を団体会員として，当会の主要な構成要素とされたものである。近時わが国の建築業界の発展は全く目をみはるものがあるが，建築職業の成立内容において，またその規模において到底個人の力のみでは行動ができなくなり，個人はどうしても組織の一員として活動せざるを得なくなった現在，竹腰会長の意向は全く時代に沿うたものであって，今日の会の持続的な発展をもたらした所以でもある。第3代の尾崎久助会長もよくつくされながら，会期中不幸にして病に伏されたが，すでに団体的に発展している当会は，何のこだわるところもなく，業界の中心的存在を続けて，こんにちに到ったものである。

ただわれわれが主張すべきことは，古きもの必ずしも貴からず，ということである。世界の驚異とまでいわれている最近のわが建築の発展にともない、当協会もいたずらに過去の歴史にのみ目を向けずに，本日発会した位の新鮮味をもたしたいものである。それには日々新たな建築界の進路を十分見極めて，それに対応できる初心の発展をはかるべきである。幸いにして会は古くてもこれを構成する会員は年々多数の新人を迎え得て，内容を更新し，運営を推進したいものである。これが光栄ある会の歴史に対する現在の会員の義務と信じる。

記念号編集委員長　**滝沢真弓**

この記念号の編集委員長を仰せつかった。会員歴からしても私よりは先輩で有為な人たちがおお勢おられる。なぜ私に白羽の矢が立ったか，実は確かめもしなかった。吾ながら甚だ呑気な話である。ただ何事も奉仕，と思って引受けた。が，ひそかに最近の「近代建築調査委員会」の経験が買われたのかも知れないと察している。

委員長とは名のみで，実はモノグサ太郎であった。現実に働いてもらったのは夫々の分野における委員諸君であった。特に事務局の諸君の労苦は大変なものだった。遠方の支部からも態々馳せ参じていただいた。私はそれらの諸君と時々会談し，その議事進行に，いわば単なる触媒――文字通り“語ライ座”――の位置についていたにすぎない。がただ一つ，いつも提唱していたことがある。それは編集方針として，内容の正確を期すること勿論だが，形式はあくまで簡潔に，しかも見て楽しめる読みものとなるように，ということであった。随分慾ばった注文ではあった。が，果して針路が正しかったかどうかは，ひとえに会員諸賢のご検分にまつほかない。

茲に委員一同の名を列ね，ご挨拶申上げると共に，大方のご諒恕を希う次第である。

50周年記念号編集特別委員会委員

（順不同）

滝沢真弓
政岡基次
浅野清
林野全孝
近藤豊
内田成之
桐本楠雅
塚本喜八郎
堀口甚吉
島田勝次
長谷川哲之助
武曽一郎
田中孝男
坂本勝比古
小西岬
土居一雄
野々村五四男
岡本弘
古林義敦
一圓俊郎
栗林一馬
井手正雄
宮飼克二
岩崎甚太郎
松井昭光

第Ⅰ部

回顧談



武田五一筆

日本建築協会50年の回顧

第1回座談会・創立当初と大正時代を語る

と　き　昭和41年9月29日

ところ　大林組本店会議室

出席者　（50音順・敬称略）

池田宮彦（池田宮彦建築事務所長）
石川寛三（石川建築事務所長）
作間日出生（大阪建築事務所顧問）
白石登喜男（東洋不動産専務取締役）
白杉嘉明三（大林組相談役）
竹腰健造（本会元会長・双星社竹腰建築事務所代表取締役）
東畑謙三（本会会長・東畑建築事務所長）
松本儀八（本会元副会長）
司会　滝沢真弓（50周年記念号特別編集委員長）
同　政岡基次（同　編集委員）

この記録は座談の録音によったが，特に本会に関連ある話題を要約採録したものである。一般建築の問題として多くの興味ある話もあったが，必ずしも本会に関係ないと思われる問題は遺憾ながら割愛することとした。また内容にも，他の客観的な資料によって，多少の修正を施したところがある。しかもなお，史実に合わぬところなきを保し難い。この点，お話し下さった方々はもとより，会員諸賢のご諒恕を乞い願う次第である。（文責・司会者）

挨　拶

会長・東畑　本会は明年(昭42)，創立五十周年を迎えることになりました。その記念行事の一つとして会誌の記念号を出す計画でありますが，今日の座談会はそのために最も重要な意義をもつものと存じます。ここにお集り願いました方々はみな斯界の最長老格の方々であられ，特に本会創立以来並々ならぬご尽力をたまわった方々であります。今日はその頃のいろいろの思い出や，後輩のために有益なお話が伺えると期待いたします。何分よろしく願い上げます。

司会は，事情に詳しい滝沢さんにお願いたします。

司会・滝沢　会長からのご指名ですが「事情に詳しい」とは



作間日出生氏　松本儀八氏　白杉嘉明三氏　東畑謙三氏　滝沢真弓氏　政岡基次氏　竹腰健造氏
（後の胸像は向って右：大林組初代社長大林芳五郎，左：二代大林義雄）　後向き：白石登喜男氏　池田宮彦氏　石川寛三氏

恐縮です。多分，最近の「近代建築調査委員会」での多少の勉強が買われたのかと存じます。なお，いささか手前ミソを申し上げますと，本会創立の頃私は東京にいまして，建築学会の編集などいたしておりました関係で，いわば東京方面から見た本会の姿，というような話も挿入させて頂くことになろうかと存じます。何卒あしからずご容赦のほど願い上げます。

すでにご承知のように，本会は過去におきまして，創立15周年・25周年・35周年と記念号を出しておりまして，それぞれに座談会の記事が見えております。いずれも貴重な記録であります。が，時にはその内容が他の資料と合わぬところもあるようであります。これはいかなる座談会でもまぬがれ難いところであります。今日は，どうかそういう点には一切お気がねなく，思い切って放胆にお話願いたいと存じます。

そこでここに一つ予めご諒解願わねばならぬことは，今回の座談がそのまま全部会誌に掲載されるのではないということであります。過去の記録を勘案して，なるべく重複を避け，但しその反面新しい話題を投入する，という要領で編集させて頂きたいのであります。この点特にご諒恕のほど願い上げます。

本会発足の前夜

滝沢　本会が発足するまでの経緯については，過去の座談会の記事に見えていますが，それには多少あいまいな点がないでもありません。ところが本誌の昭和33年1月号「関西の建築特集」に次のような執筆があります――

今林彦太郎さんの「建築協会創立の頃」

佐藤四郎さんの「創立の頃――第1回編集の思い出」

これは極めて重要な記録であります。今日はお二人とも生憎ご都合でお見えになりませんが，幸に当時の思い出を書面を以って申越されましたから，その大要をご紹介申し上げます。

関西における建築家の集りとして始めて名の出てくるのが「おきな会」というのです。名称の由来は，大阪の「お」と京都の「き」と奈良の「な」をつなぎ合わせたというのですが，この名称は――これは私の憶測ですが――どうも「翁」に通じているらしい。というのは，その会合に今林さんも顔を出されたが「自分ながら若造の感じがして」隅の方に小さくなっていた，といわれているからです。そこで大正5～6年の頃――というと正に本会発足の直前に当るわけですが――東大・建築学科の大正期卒業生の有志，竹腰さん・佐藤さん・今林さんなどが主となって「水曜会」というのをつくって，毎週水曜の夜，道頓堀のカフエ・パウリスタに集まって大いに気勢をあげた由。佐藤さんの通信によりますと，「不思議にもその日はいつも雨がふって，たださえ陰気な二階で，1杯5銭のコーヒーで深夜までカンカンガクガクの論議をたたかわした」のだそうであります。

それがやがて「大正会」と改名され，会場も日程も不定になり，会員にも池田実さん・葛野壮一郎さん・安井武雄さん・波江悌夫さんなどが加わったそうですから「大正」の名は当時の「新時代」を意味したものかと思われます。

なお，前の「おきな会」に対して当時の若手建築家が別に建築家の坊やという意味で「建坊会」というのをつくり，その会員の中からは関西の幾つかの団体を統合して建築学会の支部にしようという提案も出たという話も伝わっています。

とにかく建築関係の団体が幾つかあって，互に起伏もあり交渉ないし対立もあったようです。そういう形勢のところへ，片岡先生が大同団結を提唱されて一応「関西建築クラブ」という名で発足した。そのとき「おきな会」の繰越金43円3銭也がクラブに引継がれたとのことであります。これが本会設立の，いわば地ならしだった，というわけかと思われます。それからのこと――白石さんいかがでしょう。

創立当時の事

白石　私は大正4年に「辰野・片岡建築事務所」に入りました。日当10銭玉3枚，月給にして30円位で，事務所の勤めの外に会の仕事もお手伝いたしました。創立当時の本会の事務所が，この片岡先生の所に同居していました。所は「三越」の東北にあった煉瓦建てで，事務所といっても事実上，波江さんの机一つという程度でした。

滝沢　片岡先生が，あるとき波江さんに「君は，いったい何方に勤めているのか」といって笑ったとか……



創立当時の日本建築協会事務所（煉瓦造）と竣工直後の三越呉服店の「栄え日」に殺到の群衆（大正8年10月1日）－「建築と社会」第2集10月号－

感想一篇

本日は工学博士片岡安先生の追悼会に際しまして感慨無量なものがあり、当然参列して、先生の御霊前に、お別れの言葉を述べるべきでありますが、病気のため出席できませんので、書面を以て、お別れの言葉を述べさせて頂きます。

片岡先生は、平時健康に注意され、決して病気らしい病気にかかられた事はありませんでした。それだけに、今回の御不幸は、一層悲しみが深いのであります。先生は、大正の初年でありますから、学問の方面でも、軽々たる学者ではなかったのでありますが、実に謙虚な態度で、我々後輩に接せられ、いつも、我々と同じ様な立場で、研究問題を論じ合ったものであります。

私が、先生と初めてお目にかかりましたのは、明治時代の末期、大阪の建築家の会合の席上であったと記憶しております。その頃、大阪の建築家は、今日の様に、会員組織になっておりませんでしたが、毎月一回位、会合を開いて、研究問題を論じ合ったり、又は、懇親会を開いたりして、親睦を図っておりました。その会合を、「有会」と名付けまして、大阪市都合良の三都の頭文字を集めた名であります。

私は、住友銀行に勤めておりましたが、建築の方が好きで、建築家の会合には、なるべく出席する様に心掛けておりました。

その頃、大阪の建築家の会合には、辰野博士や、横河博士が、よく顔を出されましたが、辰野博士は、東京帝国大学の教授で、大阪には、時々来られるだけでありましたが、横河博士は、大阪に事務所を持っておられましたので、大阪の建築家の会合には、いつも出席されておりました。

片岡先生は、当時、大阪市の技師でありましたが、大阪市の技師は、非常に多忙で、会合などには、滅多に出席されませんでしたが、片岡先生は、比較的、会合に出席されておりました。

片岡先生は、大阪市の技師を、退官されてから、大阪市都合良の三都の頭文字を集めた名であります。

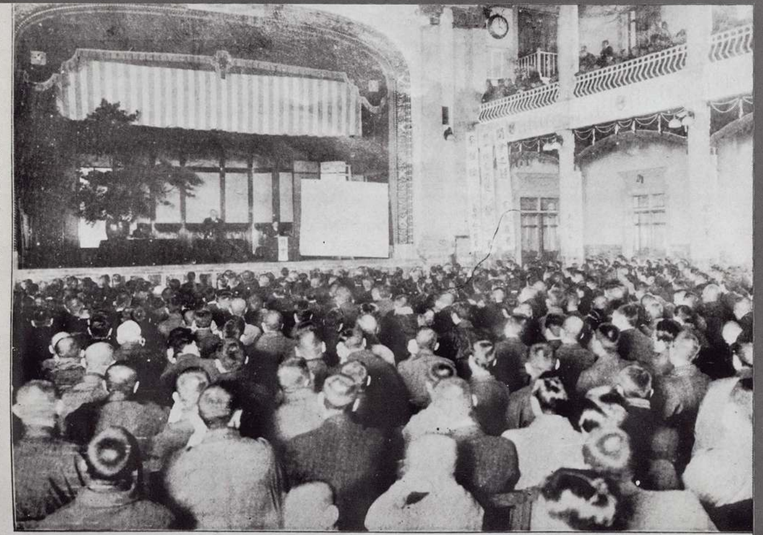
片岡先生は、平時健康に注意され、決して病気らしい病気にかかられた事はありませんでした。先生は、大正の初年でありますから、学問の方面でも、軽々たる学者ではなかったのでありますが、実に謙虚な態度で、我々後輩に接せられ、いつも、我々と同じ様な立場で、研究問題を論じ合ったものであります。

私が、先生と初めてお目にかかりましたのは、明治時代の末期、大阪の建築家の会合の席上であったと記憶しております。その頃、大阪の建築家は、今日の様に、会員組織になっておりませんでしたが、毎月一回位、会合を開いて、研究問題を論じ合ったり、又は、懇親会を開いたりして、親睦を図っておりました。その会合を、「有会」と名付けまして、大阪市都合良の三都の頭文字を集めた名であります。

私は、住友銀行に勤めておりましたが、建築の方が好きで、建築家の会合には、なるべく出席する様に心掛けておりました。

その頃、大阪の建築家の会合には、辰野博士や、横河博士が、よく顔を出されましたが、辰野博士は、東京帝国大学の教授で、大阪には、時々来られるだけでありましたが、横河博士は、大阪に事務所を持っておられましたので、大阪の建築家の会合には、いつも出席されておりました。

片岡先生は、当時



本會第一回大會通俗講演會その日（一）

司會席に在るは委員長宗兵藏氏にして演壇に立てるは工學士片岡安氏なり。

關西建築協會第一回大會記事



◆本會第一回大會

過般來大正七年十二月五日（木曜日）午後一時より、本會第一回大會は大阪市中之島中央公會堂に於て開催せられ、本會第六回委員會は宗委員長着席の下に着々其準備について協議を重ね、理事會亦之れに參加して各般の事項を議定し、特に建築學會に交渉して名の出演を交渉することゝ四百餘通、一般講演會の演題及氏名の廣告を掲げ、十二月三日大會に臨し準備委員總會を開き各員の協應努力につき詳細なる打合をなしたり

當日の天候筆に本會の意に反し、微風陽雲を呼びて遂に雨降するに至らず、會場正面を始め國旗を掲揚し關西建築協會第一回大會通俗講演會場緒會の趣旨として大書したが時半頃より參會するもの引きも切らず、來賓諸氏各位助員會員並びに一般傍聽者の總會開會際に約二千名に達す。各員の熱心實に感悦に堪へざるものなり。

◆通俗講演會

五時閉會

開會の辭　工學士　宗　兵藏氏

委員長

都市住宅問題　法學博士　關　一氏

大阪市助役

本會は設立の趣旨及び本會が都市問題に熱中しつゝあるの努力を貸し、社會のため此種講演會の屢々行はれんことを希望せられしが英學和イギリスのウヰツド氏が近く來朝に際して高唱する住宅問題は確實的事業なりとの勝案を引用し、都市住宅問題の解決は當下の急務なることを論じ、近時當大阪市に於ても住宅に關する講演會の開催し來りたれども未だ之を國家的事業なりと觀るの十分からざるを憂へ、住宅問題は決して家主と借家人との關係の解決に過ぎざる如く思惟するの誤れる必指摘し、近世諸都市の特與及其急激なる發達の趨勢を說明して、人口の過集、貧民窟の增加、住宅の缺乏が惹いて、都市の重要なる

家相論

工學士　島野壯一郎氏

「ダモクラシー」と建築

大阪市助役　佐野利器氏

に就いて

工學士　片岡安氏

大阪市助役

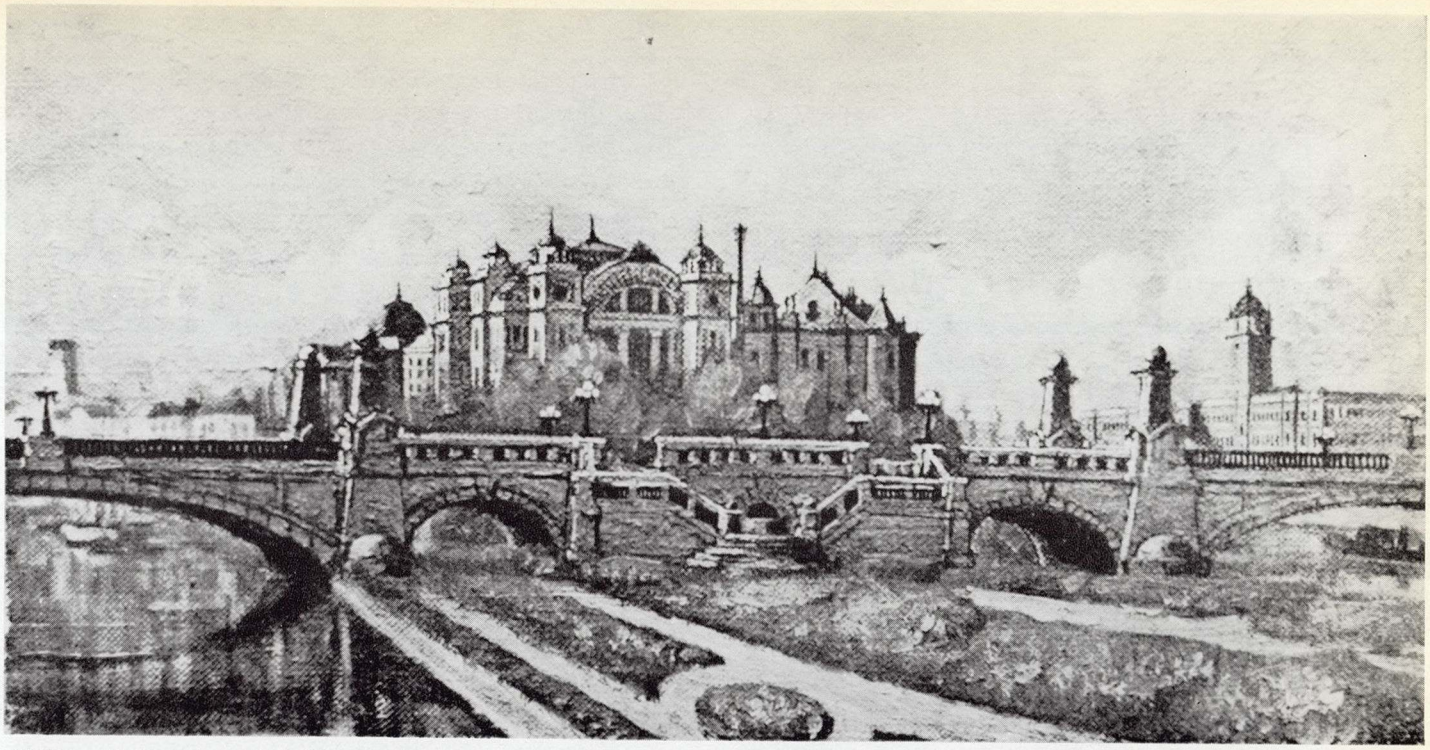
都市の辭

工學士　直木倫太郎氏

大阪市助役

委員長宗兵藏氏司會席につき、更々に演壇に立ちて開會を宣す。盛に拍手を以て之を迎ふ。宗氏は徐ろに一場の挨拶をなし本會の主旨を述べ通俗講演會の目的を述べ、やがて宗氏の紹介によつて法學博士關一君は悠然として演壇に現れたり拍手喝采の裡に博士は暫に其該博なる學識を傾けて市長として經驗しつゝある現在大阪市高級助役の重職に在るの人也、本會の第一回通俗講演會の擧に多大なる賛助を與へられ、特に當日の爲めに遠路態々上阪せられたるの厚意に對し熱誠を振はれたるは、眞に當日の圧巻と申すに係らず、貴重なる時間を割きて出演せられ、

第1集第14号（大正7年12月）より



創刊号の口絵にのった中の島公会堂をふくむ附近の眺望。三色刷。（油絵：当時の片岡事務所員の古賀郷実の作）―関西建築協会雑誌第1集第1号（大正6年9月号）―

白石　事務員も両方共通でしてね……勤めが終ると，会誌の宛名書きや，切手はりや，発送の仕事などやらされました。また会誌のための広告取りを仰せつかって，大林さん，竹中さん銭高さん，須賀工業さん，その他方々歩き回りました。新しい会員の勧誘にも行きました。

当時一流の建築家はたいてい学会の会員で，そこへ新らしい会に入れというのはなかなか困難でした。「学会に負けないほど立派な会なら入る」とおっしゃる。それを先生に報告すると「建築家としての税金だと思って入会せよといって説得せよ」というわけでまた勧誘に行く。会費の集金にも回りました。

滝沢　どうも大変なご苦労だったですな……

白石　夜おそくなると牛ナベをご馳走になりました――「江戸安」という所――先生がポケット・マネーを下さるんで……会の費用なども赤字の分は先生が補充しておられたようです。

滝沢　先生が「税金だと思って」といわれたのは，実は先生ご自身のお気持ちの反映だったんじゃないですかな……とにかく先生がおられなかったら本会も生まれなかったでしょう。これは後々までも銘記しておかねばならぬことだと思います。

会誌の発行については先刻，佐藤さんの記録として申し上げました――波江さんが「編集委員」とありますが――実際にやったのは編集補佐という名目の佐藤さん，それに当時大阪におられた須藤真金さん，事務局の江村郊邨さん，が協力されたようです。

そのころ大阪には高級雑誌を引受け得るほどのよい活字をそろえている印刷屋がなくて，あちこち持回った末やっと「三有社」という所で「ポイント活字の新しいのがたくさんあるというので」会誌印刷が軌道にのった由であります。ただし「3色版は東京の田中にたのむこと」とあります。

この「田中」というのは田中松太郎（俗称「半七」）という人の経営していた印刷所にちがいありません。この人は若い頃，独力でウィーンまで出かけて行って勉強した，という異色ある人物でした。岩波書店の主人が「業界稀れに見る紳士」とほめていたほどです。ついでに，も一つ東京での話――本会創立の大正6年は私どもが大学に入った年ですが「関西建築協会」なるものが設立され会誌が発行されるという報道にいち早くとびついた級友がいました。M君という金持ちの御曹子でしたが，その友人から本誌の創刊号を見せてもらい，その口絵に大阪の公会堂の図があって，それが美しい3色版だったことを今でもありありと思い浮べます。

ところで，皆さんが始めて本会にお入りになった事情，そのときのお気持ちなど……竹腰先生は？　先生は当時欧州にお出でだったのかも知れませんが。

竹腰　はっきり覚えていないな。入ったことは入ったにちがいないが，あまり熱心ではなかった……最初の会員名簿でもあれば判るのですがね。

白石　名簿はありました。が，それは会誌の送り先を書いたもので，たしかガリ版刷りだったと思います。

作間　私はただ，こういう会ができたから入れ，といわれて入ったという程度にすぎません。

松本　私の入会の動機は少々面白いんです。たしか大正8年だったと思いますが，表紙図案の懸賞に入選しましてね，その賞金を会へもらいに行ったところ，役員会のあとだったとかで大勢おられまして「お前も入れ」とつるし上げられた形で……賞金はたしか5円位だったと思いますが。

滝沢　すると，その賞金は例の「税金」として巻上げられたわけですな……ところでその頃の会員は何人位だったでしょうか――今林さんの記録には当初100名以内とかあったようですが。

白石　始めはまあ50～60人位，次第にふえてきましたが，片

岡事務所だけで30人位は入っていました。

（編集注：大正6年末の会員数は74名の由）

滝沢　会誌は会員以外にも寄贈の形で送ったものが少なくなかったと思われますが，当時は建築関係の雑誌の少ない頃でした……私はあの創刊号を見たときの印象で，これは町の本屋にも出すのではないかと思いました。表紙もなかなかハイカラで



創刊当時の表紙　左：第1集　中：第2集　右：第3集

した――武田五一先生の図案だったそうで。

竹腰　本屋にも売らせよう，という考えを片岡先生はもっておられたが実現しなかったそうです。

滝沢　白杉さん，側面からご覧になって何かお気付きのことはありませんでしたか。

白杉　別にありませんが……明治の終から大正の初にかけて，大阪では鉄筋の工事が行われるようになりました。ある現場でエレベーターを試作したのです。ところが，それが木製で，うまくゆきませんでした。

鉄筋コンクリート工事の初期の事情についていろいろお話があり，その後，今林さんからも追信を得たが遺憾ながら，ここには割愛した。

都市計画・大阪の民力

石川　本会の誇りの一つは建築法規の開発ということだと思います。その母体ともいうべきものは大阪府の建築取締規則で，池田実さんが提唱せられ，本会がその推進の委員会をつくり，私もその一員として，かなり永い間ねりました。今の基準法も，たどってゆけばそこまでさかのぼるわけですね。

滝沢　なるほど……ところで，その問題の基礎には都市計画のことがあるのではないでしょうか。「都市計画」という看板は本会発足の頃の大きな特色だったようですが，それは斯道の先覚者たる片岡先生の特色でもあったわけですね……先生には「現代都市の研究」という名著がありました。

白石　先生はその「都市計画」で学位をとられました。それは会誌が出てから後だったと思いますが……

滝沢　先生の学位は，たしか大正9年の夏頃でした。当時私は郷里信州に行っていて，松本駅で買った新聞でそのことを知りました。当時の学位というものは大したものでニュース・ヴァリューもあったわけですね。

念のため，過去の資料を紹介いたします。本誌の「発刊の辞」に「我が国建築界の堅実なる発展を期し，科学的に組織ある文明的都市の建設を計るべき急要の時期なるを覚悟し」とあります。

また本会創立15周年記念の座談会記事によりますと，片岡先生や波江さんが本会発足当時のいろいろの事業計画について述べておられますが「その中で一番問題になったのは都市計画の問題」だったとあります。そして先生が東京の学会に提案したら，先方からぜひ上京してくれ，直接話をききたい，というので出かけて行って，本会・建築学会・都市協会・当時の建築士会の四団体合同で，原案は片岡先生の書かれた通りで内務大臣の後藤新平氏に申入れた。ところが後藤氏はそれを技術家論だとか書生論だとかいって突っぱねようとしたが，こちらから諄々と説明し，下僚ともよく相談してくれといって一応引下った。後藤氏の方でも省内の有力者にきくと，都市の問題は将来内務行政の中枢だ，それを建築家の方からいってきたのは渡りに舟だ，といわれて後藤氏があわてて「直ぐ会いたい」といってきた。そこでまた出かけて，大正7年の2月6日に会談した，とあります。これは重要な資料ですから特に紹介する次第です。

その後，関東震災後の帝都復興院総裁となった後藤氏が東京の根本的改造を企画し――これは遂に実現せず，悔を千載にのこしたわけだが――今では都市計画の大先輩のようにいわれているんですが，その後藤氏を開眼したのが実は片岡先生だった，というわけであります。

ところで，都市計画の問題で逸してならぬのは，大阪の「御堂筋」の建設ですが……これは関市長の大英断ということになっていますが，片岡先生が陰武者ではなかったでしょうか。

白杉　いや，それは市役所にいた直木倫太郎さんでしょう。当時は市民の中にも祖先伝来の土地を取られると強い反対があり，市会でも攻撃され，関市長も直木さんも困り切った，という話でした。

滝沢　直木さんなら，なるほどと思いますね……後に後藤氏に引っぱられて「帝都復興院」に入り，技術上の最高責任者でした。その後，満州国に行かれたようですが……とにかく「御堂筋」のようなのは東京にもありません。

松本　あのイチョウ並木は日本一です。が，功績がみとめられたのはずっと後のことですね。

白石　片岡先生は市庁舎の建築当時，嘱託として関与され，牛島（喜勇）さん，今林さん，それに私などもやりました。前面の道路は将来広くなる見込だから車寄せは引っ込めておけ，



後藤新平氏
昭和4年4月13日逝去。享年72才。本会名誉賛助員。桜ケ丘住宅改造博覧会総裁となり住宅改造の大目的のため尽力された。



関一氏
昭和10年1月26日逝去。享年63才。本会名誉賛助員。第1回通俗講演会で「都市住宅問題」を講演され，会誌にも「田園都市」「集中主義の都市建設」を発表されている。



直木倫太郎氏
昭和18年2月11日逝去。享年70才。本会名誉賛助員。第1回通俗講演会で「大阪港の将来」の題目で講演され，会誌にも「技術家とは何ぞや」を発表されている。

ということでした。

滝沢　そうすると，大阪という所は，都市計画では日本の開発者というわけですね。東京という所は，徳川幕府以来いわゆるお膝元で，万事上からの天下り。それに比べて大阪は昔から民間の力で行くという風がありましたな。

ついでに民間の事業ということで……日本で設計事務所の初めは，東京方面の資料では，辰野博士ということになっていますが本当は関西で，辰野さんより三年後輩の滝大吉さんですね。明治20年——まだ東海道線が全通していなかったとき——神戸で，次いで翌年大阪に出て設計事務所を開設し，夜学も経営して講義録を出版した，というんです。



吉村邸宅調査時の写真（昭和３年５月27日）左より松本儀八，小笠原祥光（俤），姫野武，池田谷久吉（前列），佐藤左，吉村邸の人，小川安一郎（前列），吉村邸主人，古林秀雄，丹藤善雄（前列），西谷節の各氏 ―松本儀八氏所蔵―

白石　私は滝さんの書いた本で勉強したことがあります。

滝沢　その本を今でもお持ちですか。

白石　三冊あったんですが，焼いてしまいました。

滝沢　貴重な，歴史的資料で，惜しいことですね。

滝さんの事業は失敗に終ったんですが，次いで明治30年前後に，大阪に「桑原工業所」という一種のコンサルタントができて，その建築部門を担当したのが山口半六博士。博士は優れた設計家でしたが病を得て，須磨で療養生活をしていたんです。後に独立して設計事務所を開きました。明治32年で，おそらく日本最初の組織的な設計事務所というべきでしょう。設楽貞雄さんが，お若いときこの事務所に勤めておられた由。

中の島の図書館や公会堂など，みな民間人の力によってできました。昔の大阪の比重は大きかったですね。

滝沢　そこで，はなはだ立ち入ったことで恐縮ですが，竹腰さんが大阪へ来られたのは，そういう大阪の実力というものをお考えになられたからではないでしょうか。

竹腰　いやいや，そんなつもりはなかったですがね……

白石　あの公会堂の建築は大事業でしたね……でき上ったのはたしか大正８年頃……

白杉　大正７年です。

滝沢　すると本会創立のときはまだ仕上中——あの創刊号の口絵は竣工間際の姿を画かれたわけですね。

委　員　会

滝沢　本会のやった事業については，これも過去の座談会記録に詳しく出てはいますが，あらためて伺いたいと存じます。

池田　入会して大変ためになったと思うことは委員会で勉強させて頂いたことです。最初「住宅改善委員会」というので住宅の間取りなどについて更めて勉強し直しました。少し後「災害委員会」というので風害や震災などの調査を仰せつかりました。その延長として大阪市内の地質を調べておけといわれ，市中の井戸掘業者を訪ね回って調べたことがあります。

また小笠原（祥光）さんの委員長の委員会で，今いう「生コン」の問題が取上げられました。コンクリートは現場でねるよりも，他所でねったものを現場に運んだ方がよい，という大変進歩的な考えでした。しかし，その頃はまだトラックなど少なく，仮りにあったにしても高価だったし，普通の馬力で運ぶとなると，重い水までいっしょに運ばにゃならぬ，などといろいろ難点がありましたね——結局「時機尚早」ということで見送りましたが，今昔の感にたえません。

滝沢　昔はなかなか進歩的で学究的だったんですね。

松本　学究的でも，片岡先生はいつも「実社会を対象に考えろ」といっておられました。また，たとえば，建築史の問題にしても，今までは古社寺などが対象でしたが，先生は住宅という方面に目をつけられて，関西には古い邸宅が残っているはずだから，そういうものを調査して将来国宝となるように準備をしておけ，といわれました。これも先生の卓見であり，またいかにも大阪人らしい着眼だったと思います。昭和６年に国宝になって有名になった「吉村邸」などもすでに昭和３年に住宅委員会で目をつけまして，京都大学の天沼（俊一）先生にもご鑑定願ったりしました。その他，態取村の御門の中邸，羽衣荘の旧家，門真にある某医師の邸宅なども……たしか池田谷（久吉）さんなども参加されて熱心に調査したものです。

それから——さきの池田さんのお話に関係があるかと思いま

すが——北但の地震のときに早速役員会を開いて調査団を組織し，地震の翌々日には出発したものです。私共は記録写真としてその頃の若手だった斎藤立実君や篠原太郎君などといっしょに二日間も食うや食わずの野宿をしたりしましてね……帰ってから公会堂で本会主催の公開報告講演会をいたしました。

滝沢　どうも文字通りの東奔西走で，創業当時の皆さんの意気込みには頭が下がります。

ところで，お話の吉村邸のこと，それからさきの都市計画のことなど，民間から話し出すと，お役所という所は，あまり好い受取り方をしない，という傾向があるのですが……お役所の顔を立てるとうまくゆく……

政岡　あの吉村邸はその後，文部省にいた沢島（英太郎）君が主となって，森（忠一）君と私が協力して実測して学会に発表しました。その調査のとき，吉村氏に，国の指定になると，たとい所有主でも勝手に現状変更も修理もできなくなるから指定の手続は止めてはどうか，と持ちかけたのですが，結局当主の希望で指定になった。すると今度は見学者が押しかけて閉口した，というわけです。とにかく，本会は，社会啓蒙という目的でやったわけですが，結果はいろいろでしたな。

桜ケ丘住宅改造博覧会*

滝沢　大正11年に「桜ケ丘住宅改造博覧会」というのをやって大変盛んだった，と過去の座談会記録にありますが……

政岡　そのとき，本会が26万円出し，建設業界からも25～26万出してもらったとか，当時としては大変な金額ですね。催物など多くて費用がかさんだ，とのことですが，少なくとも本会にそんな金があったのか……片岡先生のポケット・マネーではなかったか。

竹腰　先生が出された，ということは大いにあり得るですね。

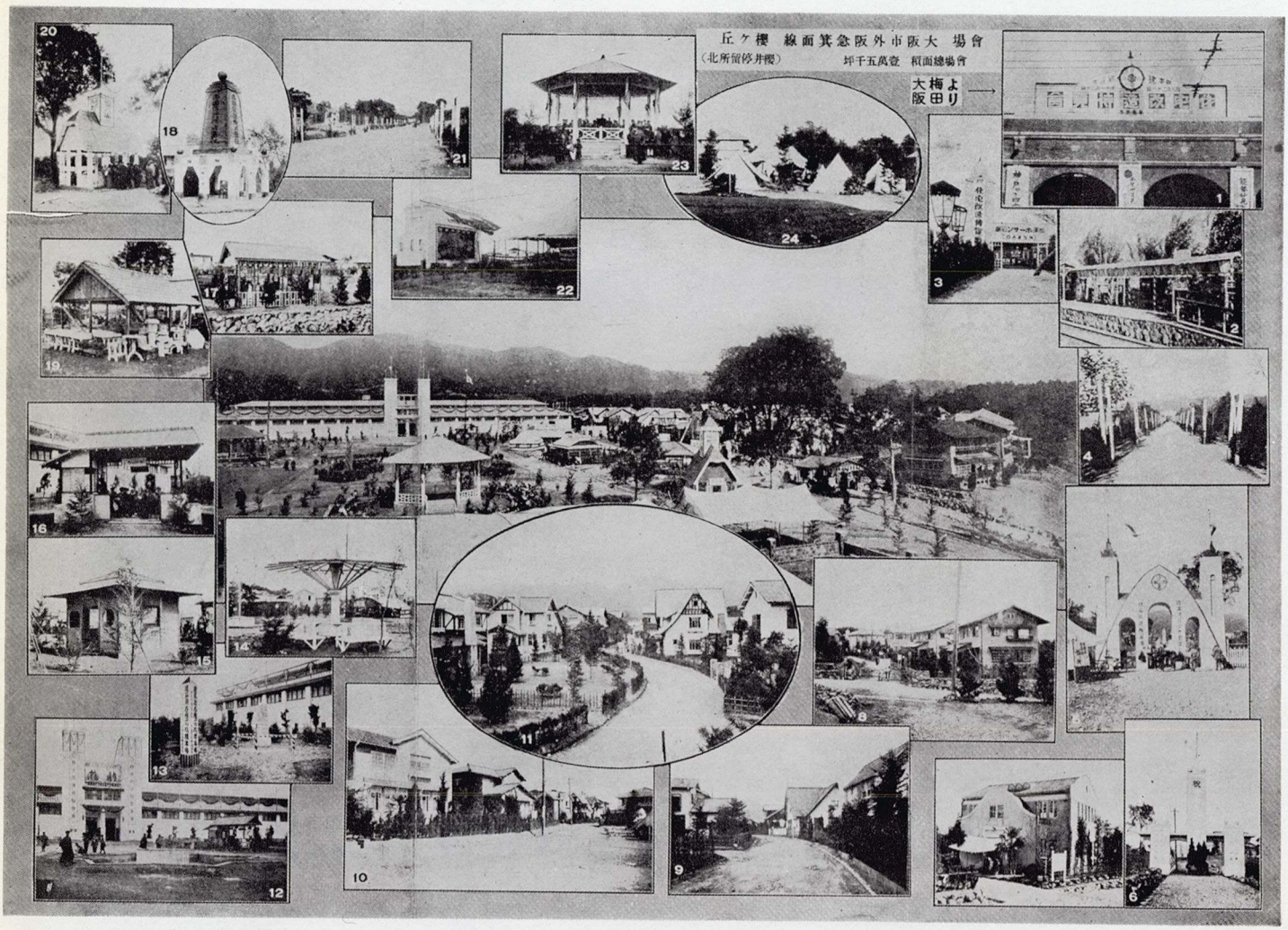
白石　住宅はあとで売れたはずだから，一時立替えられたのではないか……

作間　その住宅というのは立派なものだったでしょうが……

白石　今でも，あそこへお出でになると判るはずですが，いくら当時でも1万や2万でできたはずのものではない……そのときに桜の苗木を植えて，今では大きくなって桜の名所になっています。建設業者のギセイ的な奉仕があったにちがいないですね。

滝沢　そこへ，東京の連中を呼んで歓待し，泊りがけで松茸狩りなどした，とありますから，機密費も大分あったでしょう

桜ケ丘の住宅改造博覧会（大正11年9月～11月）—「建築と社会」第5集第11号より—





片岡　安氏



武田五一氏

が……

東畑　当時はいわゆる「文化住宅」の時代で，そういう高級住宅の催しがあったが，委員会には別に「細民住宅」に関するものや「迷信や伝説」に関するものもあったようですね。

関西の双璧

滝沢　片岡先生は，東京へ出られるとよく建築学会へ顔を出されました――私は当時，学会の役員の末席にいたのですが――ある晩，役員会をやっている所へお見えになった。先生は「役員会だから今日は遠慮しよう」とおっしゃると，学会長は横河（民輔）先生でしたが「片岡君，君は特別だ，遠慮などせずに傍聴でもして，学会でどんな話をしているか関西側の参考にしてくれ」という意味のことをいわれた。

その横河会長のとき，学会としてはおそらく空前だったでしょうが，大会を関西でやることになりました。そのとき横河先生のおっしゃるのに「関西には二人の御大がいる。一人は片岡安君で，もう一人は武田五一君だ。関西でやるには，まずこの二人の内諾を得ておかぬと円滑な運営は期し難い。片岡君には僕が会う機会に直接話す。が武田君には会う機会がないから，学会から手紙で諒解を得ておけ」とのことでした。私が編集をしていて，それに一番の若造だったので，その手紙書きを命ぜられ，原稿は誰だったかに検閲してもらい，更めて巻紙へ毛筆という古典的な様式で出しました。

その頃，学会内のうわさでは，お二人ともヤカマシ屋という風に受けとられ，手紙も大いに慎重に書きました。が後に皮肉にも私は関西にくるようになって親しくお近付き願うようになってみると，お二方とも平民的で人間味ゆたかな感じで救われた心地でした。東京のお偉方が，とかく官僚臭のあるのに比べて関西人の好いところを知り，ありがたいと思ったことです。

石川　お二人とも大学では同期だったでしょう。

白杉　同期でしたな。そこで思い出すが，少し先輩で住友におられた野口孫一さん。この人の設計した「大阪クラブ」は一風ありましたな。

滝沢　中の島の図書館も傑作ですね，大らかで……あれが好き時の大阪の姿，というわけでしょうか。

半百年

松本　片岡先生のことですが――私も入会してからだんだん迫り上って，遂には副会長を仰せつかりました。ちょうど戦争のときでありまして，先生は商工会議所の会頭などをして桃山から通っておられましたが，いつ空襲があるかも知れん。イザというときは会長の代りをせよ，とおっしゃる。私も勤先の方が手いっぱいで，とても身体が保たんから会の方は辞めさせてほしい，というと先生は早速私の勤先の重役や社長に談判されて，松本に辞められては困るからなんて，先生には全くかないませんでしたな。

そこでまた思い出すんですが，私が編集をやっていた頃，仕事が終ると誰いうとなく，さっき話に出た「パウリスタ」へ行こうってわけで出かけたものです――古い話ですが……

滝沢　その「カフエ・パウリスタ」というのは当時としては最尖端をゆくハイカラだったわけですね。その頃のモダン・ボーイ，は失礼だが，うら若いゼントルマンが今は最長老級になられたんですから，本会創立五十周年ということにはさぞご感慨のことと存じます。

このごろ「明治百年」という呼声がしきりですが，本会創立の大正6年は正に明治50年に当る年です。その年に，当時有名だった総合雑誌「日本及日本人」が記念号を出していますが，その標題に「明治半百年」とあります。

白石　白杉さんは，もう満90歳になられましょうか。随分ご健康で……

竹腰　一同，白杉さんにあやかりたいですね（笑）

白石　白杉さんで思い出すことですがね……白杉さんが三十四銀行へお金のご相談に見えた。すると頭取が「会社よりも白杉さんを信用して」といって融通してくれたそうで……（笑）

白杉　全くね……奈良行の大軌の工事で，手形払いで現金が足らなくなった。銀行へ行って専務に話したが専務の一存にはゆかぬというので取頭に会った。実は頭取には片岡先生からの紹介もいただいていてね……どうにかお金にありつきました。

竹腰　そういうことには一層あやかりたいもので……（笑）

滝沢　もう予定の時刻を少しすぎました――そこで，白杉さんに代って申し上げますが――本会もようやく満五十歳。まだまだ若い，これからです。（笑）

どうもありがとうございました。

＊編集注：本誌大正11年8月号～12月号によれば，この住宅改造博覧会は，大正11年9月21日開場して，11月26日閉場，翌27日に中の島公会堂で閉会式を挙行したとある。住宅出品者は，日本建築協会，竹中工務店，大林組，片岡事務所，横河工務所，あめりか屋，鴻池組，銭高組葛野事務所，清水組などの出品住宅も含めて計27戸の由。建築協会出品は懸賞設計入選作にもとづく改良住宅8戸で，ミッション式，コッテージ式，バンガロー式の形式のものであった。会場は東部5千坪を出品住宅街（前頁写真8～11），その西部約1万坪を本館と各種建物に充てている。住宅博事務所（写真7）1戸，毎日新聞社出品テント村数戸（写真24）にして800坪，本館500坪（写真12），無料休憩所（14～18），音楽堂（23），活動写真館（22），その他各種建物を合して約300坪という。なお，ちなみに，片岡安氏，大林義雄氏，竹中藤右衛門氏は事業資金としてそれぞれ本会に5千円寄付されている。

日本建築協会50年の回顧

第Ⅱ回座談会・昭和前期（昭和初年―終戦）を語る

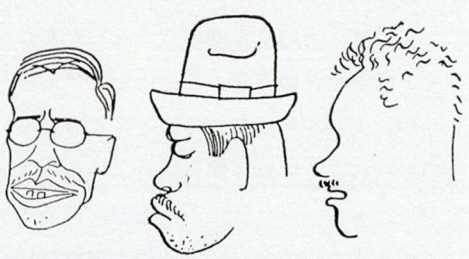
と　き　　昭和41年10月25日
ところ　　日本建築協会会議室
出席者　　（50音順・敬称略）

岡田孝男（近畿大学教授・工博）
河合貞一郎（大林組顧問）
小林　清（新住宅社代表取締役）
篠原太郎（近畿建設常務取締役）
竹腰健造（本会元会長・双星社竹腰建築事務所代表取締役）
堀口甚吉（大阪工大専門学校教授）
宮飼克二（本会兵庫支部長）
森川喜代之助（森川一級建築士事務所長）
司会　滝沢真弓（50周年記念号特別編集委員長）
同　政岡基次（　同　編集委員）

満・鮮視察旅行団の事

司会・滝沢　この前の第一回座談会の主題は，本会創立以来大正末までという建前でありましたが，その時に出なかった話題で申上げておきたい事が一つございます。実はその事に関して本会にはよい資料が見当らぬようなので，学会側の資料によって申上げる事といたします。

大正12年春，当時の満州建築協会・朝鮮建築会の共同主催で，建築学会と本会に対して「見学団を組織して満鮮視察に来ないか」という勧誘があったのです。本会々員の多くは事実上学会の会員でもありました。が，この勧誘は本会が学会とは別な一つの厳然たる存在である，という事を客観的に示した事例として注意すべきものだと思います。有志を募った結果，参加者は総勢13名でしたが，本会側としては波江悌夫・谷民蔵・清水栄二の三人が参加されました。神戸港で勢ぞろい



波江氏　谷氏　清水氏
（滝沢真弓筆―満鮮旅行日記より―）



手前より森川喜代之助，篠原太郎，河合貞一郎，竹腰健造の各氏。
向う正面左より滝沢真弓，政岡基次，岡田孝男，宮飼克二，小林清，堀口甚吉（一番右手前）の各氏。

して船で出かけました。4月下旬か5月上旬にかけての大旅行でしたが，主催者が外部だったので本会の記録には残っていないかも知れません* 。が学会の「建築雑誌」（大正13年8・9・10月号）には「満鮮旅行日記」（拙筆）として報告されています。この機会に紹介いたしおく次第であります。

*（編集注：本誌大正12年7,8,9号に波江悌夫氏の「満鮮紀行」が連載されている）

災害など大正初期の社会状勢

さて，今日は「昭和初期から」という建前ですが，それ以前の古い事でもかまいません。順序が前後してもかまいません。何卒ご遠慮なくお話し下さるよう願上げます。

竹腰　この前の時，記憶がはっきりしなかったのでいいそびれたんですがね……私は住友でのんびりしていた。すると片岡先生に呼ばれて，社会奉仕のつもりでやれといわれて入会したんです。が，間もなく外国に出かけてご無沙汰してしまったように思います。その帰りの船の中で病気して帰ってからも暫く病院生活というわけで表向きに顔を出す事もあまりなかったですね。

滝沢　「竹腰健造」というお名前は東京方面でも有名でした。私共はまだ在学中でしたが，「明治天皇記念絵画館」の競技設計に長谷部鋭吉さんとお二人が入選されまして評判でした。ある先輩から大阪の住友という所は大した所だよ，という事も聞かされました。その後「国民美術協会」に出品されたエッチングがまた評判でした。竹腰先生のエッチングは日本よりもイギリスの何処か美術館に出ているとか……

竹腰　そうそう——リヴァープールのね……それから「日本創作版画協会」というのを作って，恩地孝四郎氏などといっしょにやったりして，これも本会の方にご無沙汰だった理由だったかと思います。

滝沢　芸術家肌・学者肌の先生を俗界に引きずり出した……というわけでしょうかね。そこで俗界の話——昭和初期頃の社会情勢は……

竹腰　経済界は大変でしたね。金解禁，会社の首切り……

政岡　官吏減俸令なんてのがありましたね。

滝沢　浜口内閣の時……昭和6年でした。私はその年神戸に来て文部教官となって3カ月目から月給を減らされて……(笑)

河合　大正時代の事になりますが，第一次大戦で「成金」という言葉もできた位ですが，経済的には大変な起伏があって，米騒動などいうのがあり，関東の大震災では大阪方面からも労力や資材を提供する，それから鈴木商店・台湾銀行・十五銀行の倒壊，昭和の御大典，浜口首相の遭難，満州事変……そういう非常時態のところへ室戸台風でやられて建設業者は忙しかったですね。昭和13年の7月の阪神間の大水害——山津波——というのはすごかったですね。

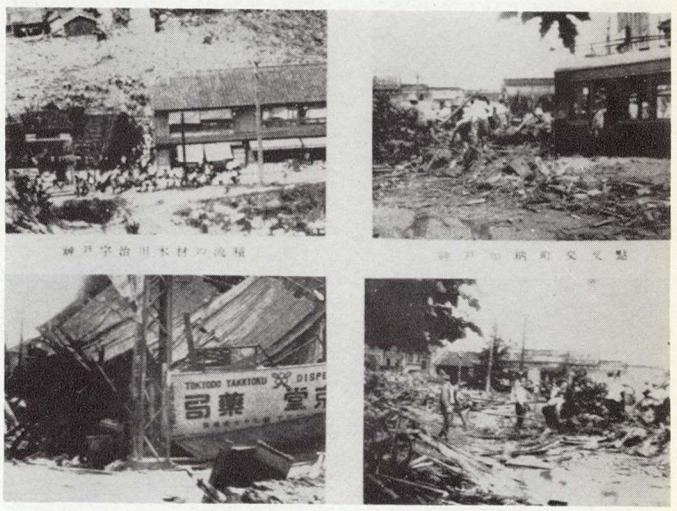
滝沢　室戸台風はいつでしたかね。

河合　昭和9年の9月でした。



関西風水害（室戸台風）昭和9年。大阪駅前通りの侵水

—大阪府風水害誌より—



阪神風水害：神戸市の被害写真　—「建築と社会」昭和13年7月号—

堀口　昭和13年の山津波の時は，私共は編集委員という立場で，記録のための写真班として，阪神間を歩き回りました。神戸の方までずっと……砂に埋もれてしまって交通機関はストップだったし，道路も無くなってしまって……ある銀行の頭取の邸宅など家の中まで砂に埋もれていて，庭から入って写したり…

滝沢　低い所は砂に埋まり，池ができたり川になったりして，鉄道の高架の土手が殆ど唯一の連絡路でしたね。

堀口　そうです，そういう所を往復したんです。

滝沢　あの水害は，支那事変——後の大東亜戦争——の始まった翌年で，軍機の秘密という事があって，詳しい事は公表されなかったですね。そういう厳しい情況の中で，皆さんはそれぞれご苦労なさった事と存じます。が，その水害のすぐあとで，片岡先生と高西敬義先生とがそれぞれ建築・土木の両界の代表者格で，ラジオの対談をされました。高西先生のお話の理詰めだったのに対して片岡先生の方がどこか禅坊主のような趣のあった事を思い出します。

ところで，この前の座談会に，松本儀八さんから但丹の地震の時の話を承ったのですが，その時篠原さんなど大変なご苦労だったそうで，……篠原さん，なにか……

篠原　但丹の時の事は松本さんがよくご存知ですから，ここ

に重ねて申上げるのは差控えますが……ずっと前にさかのぼって，大正12年の関東大震災の時の思い出を申上げます。

当時，本会にはまだ災害委員会のなかった時でしたが，視察を命ぜられて出かけました。東海道線の東部が不通だというので，海軍にお願して駆逐艦に便乗させてもらい，9月12日に神戸港から出発し，清水港に上陸して，それから徒歩で災害地にたどり着きました。災害の日からはもう半月もたっていたのですが現地はまだ大混乱で，上野公園の奥で野宿したり，必要品は露店で買ったりして，東京・鎌倉・横浜と前後10日間ほど，主として記録写真をとって回りました。帰りは横浜から下田まで汽船で，それから西は汽車でした。帰ってから，報告書を謄写版にして理事会に提出いたしました。

滝沢　但丹の時も写真をとり，野宿されたそうで，どうも大変な事でしたね。

ところで，そういう災害とか戦争とかいう方面と反対に，いわば文化的という方面の事……

出版事情・その他

滝沢　堀口さんは昔から図書出版についてご経験がおありのように存じますが……

堀口　先刻もお話があった景気・不景気といろいろ起伏はありましたが，妙なもので不景気の時に意外にも本がよく売れたですね。市街地建築物法が出た時はそういう方面の本が引ぱりだこでした。が今から見ると建築に関する書物が少なくて，書きさえすれば売れるという時代でした。

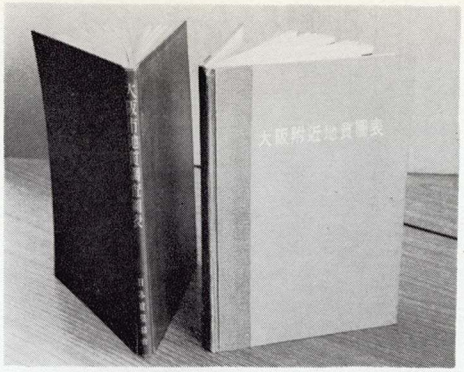
滝沢　第一次大戦後ドイツを中心に共同住宅の問題が盛んになり，「ジードルング」なんていいましたね，それから「バウハウス」だの「国際建築」だのいうのが日本にも流行して――東京の丸善書店の報告ですが――昭和の5～6年頃は建築，特に住宅に関する図書が最も多く輸入された，との事でした。

堀口　そこで読者の方からも会誌に注文が出て，月によって特集号としてほしい「住宅」とか「材料」とかいう問題を，というんですね。そこで本会でも，住宅図案の懸賞募集をやって「35坪以内，坪単価80円，総工費2,500円見当」というので30種ほど選出して特集号として出し，それがよく売れて重版までしたように思います。そこで今度は婦人向きというので，婦人室・子供室・台所というような所に特色をもたせて第2回目の図案集を出し，これも仲々よく売れたと思います。

その他「学校建築図集」とか「地質調査図表」とかいう方面にも手をひろげました。

滝沢　地質図表には大阪市の地下鉄工事のためのボーリングが有力な資料となったとかいう事でしたが……

堀口　その資料，その他たくさんの資料を集めまして，本会の理事会に提出して「これを出版してほしい」と申し出ましたところ，理事会の方ではカネが無いからできない，それは記録として保存しておいて，希望者には本会に来て見られるようにしたらよい，という返事でした。が後に，とにかく出版することはいたしました。浅野新一さんが大変尽力されたですね。



左：大阪市地質調査図表（15周年記念事業・昭和8年発行）
右：大阪附近地質図表（35周年記念事業・昭和28年発行）

篠原　あれは昭和8年に出しました。都島工業学校の生徒に図面を画かせて凸版にしたことを覚えています。その時の委員長が，たしか落藤藤吉さんでした。

堀口　今の学会支部の仕事も実はこの延長なんですね。

政岡　いろいろと経緯があったようですが，大変有意義な仕事で，建築業界は大いにお陰をこうむっております。

滝沢　創立当時，会誌を出すのに大阪には満足な印刷屋もなかった，という事が前の座談会の話題にもなりましたが，今では立派な雑誌が出るようになりました。そこで長年，住宅の雑誌を経営されている小林さん，何か……

小林　私の所で出している「新住宅」の前身は「住宅」という名で東京の「あめりか屋」が始めたものです。ところが，あめりか屋は本業の建築業が忙しくて出版の方には手が回りかねる，というので大阪にいた西村辰次郎さんが引受け，本間乙彦さんが編集をしておられました。が，その本間さんもご自分の仕事が忙しくて放し出したくなった，というので私が引受けたわけです。戦争中に企業整備にかかって一応廃刊し，戦後「新住宅」として再出発したわけであります。



「住宅」昭和9年11月号　―松田啓志氏提供―

滝沢　毎号美しい雑誌を拝見して，出版事情の難しい関西でやっておられることに敬意を表します。同じく住宅が対象でも，岡田さんは一風変った方面を開拓されたのではないでしょうか。

岡田　「三越」

で住宅部というのを始めるから，というのでそこへ入ったわけですが，百貨店が住宅の注文を取って現物を作って提供する，という方式は世界中どこにもなかったですね。ところが，その代金は工事がすんでから後ということになるのです。それも必ずしも順調というわけにはゆかぬ，いろいろと苦情もでる，というわけで，皮肉にも注文をとるよりも断わる方が得じゃないか，なんて事もありましたが，とにかく設計し，下請に出し，施工にも責任をもつという仕事をやったわけです。

ついでに出版のことを申し上げたい，というのは「新建築」の事でありますが，あれは大正12年でしたか，大阪で発刊されたものです。私が新名(種夫)君や元良(勲)さんなどと協力して編集しました。ところが，建築一般の問題を扱うとなると関西ではやっぱり困難ですね。とうとう昭和4年に東京に移って，私共も手を引いたわけです。今では斯界の重鎮という格ですね。

政岡　「朗」（ほがらか）という雑誌がありましたな。

小林　あれは「日本電建」という住宅会社の機関誌で，清水栄二さんの編集された「住宅読本」というのも出しました。

滝沢　そういう皆さんのご経験，ご苦心というものが，ひいては本会の会誌発行の上に反映していると思い有難い事です。ところで今，清水栄二さんのお名前が出て思い出した事があるのです——

阪急電鉄の開発

滝沢　清水さんは大学で私より二年先輩でしたが，卒業論文だったかと思いますが「阪急」の住宅経営の問題に触れられたらしいのです。東京方面にはまだ，ああいう方式はなかったですね——電鉄会社が住宅政策を併せてやるという事は——小林（一三）さんの独創でしょうな。

岡田　そうでしょうね。千里山あたりの開発が一番初めでしょうか……武田先生や葛野壮一郎さんなど参加しておられたようですが……

政岡　住宅の建設，劇場の創設，ターミナルの百貨店，ああいう総合的な企業は全く画期的というべきでしょうね。

篠原　小林社長が，あの駅で降りた，というと翌日からそこの地価が急に高くなった（笑）会社の建物の竣工式に定期券のお客さんを招いて立食のパーティをやり，おみやげに大きな缶入りの飴を進呈した——その時，社長の挨拶があって，この建物は10年毎に改築する，10年たてばこれをすっかり取払って新しいのを建てる，というような話で皆驚いたものです。——しかもその通りになったんですからね。

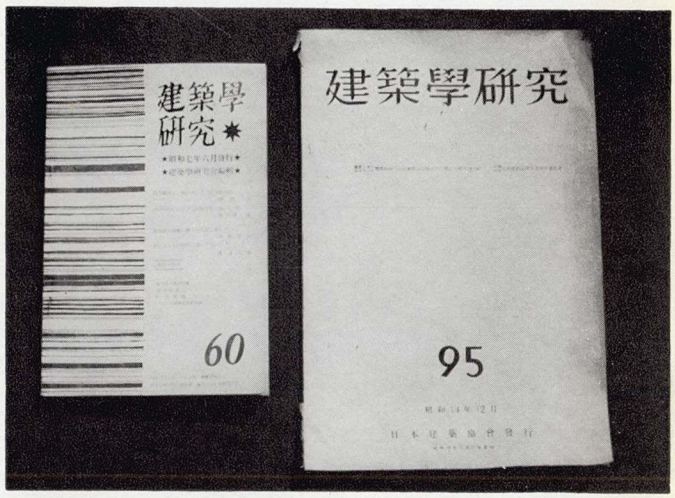
滝沢　本会が行なった事業のうち「桜ケ丘住宅博」というのは最も記念すべき大事業だったようですが，それもこういう近郊開発が基礎となっているわけでしょうね。

「建築学研究」の事

政岡　京大の「建築学研究」との合併問題，という事があったようですね。

竹腰　あの雑誌のできた由来から話さねばならぬが——京大の連中が学会へ論文を送っても仲々出してくれない。東京の連中は顔が利いていて，学会の編集の方に速く出してくれというと出してくれる，京都の方は郵便で送りっ放しで，とかく後回しにされる。まあそんな事が一つの理由で，京大は独立して一つの研究誌を出そう，という事になったのだそうだ。

滝沢　そういわれると私など大いに責任を感ずるわけですがね——関東の震災後，急に学会に論文が集まりまして，それが



「建築学研究」の表紙。左が昭和7年6月発行。右が昭和14年12月発行で日本建築協会発行となっていて，A4の大型判になっている。

学位論文になるというので編集の方に内々話を持込む。中には大学の先生の口添え，なんて事もありましてね——前々からそういう事が慣例にもなっていたようで——後のカリが先になる，という事があったですね。これは不公平であり，不正であります。そういう事情を京大の藤井（厚二）先生など遺憾とされて「建築学研究」が生まれた，というように聞いています。

竹腰　藤井君と私とは親しくて——大学では私の方が一年上でしたが——私は京大の講師を勤めた事もあり，いっその事専任にならんとかいう話もあった位だが，時々二人で話をしているうちに，大学の教室で雑誌の経営をするという事は困難だ，経済的に行きつまる，どうだ協会の方で引受けてくれんか，つまり協会の学術研究部というような形にして……というような話になって本会が引取る事になったのです。私が副会長の時でしたかな。

滝沢　そういう話のあった後，私は森田（慶一）教授の海外留学中に代って講義に行った事があって，藤井先生から，お前も手伝えといわれて片棒をかついだ事もあるのですが……後でいろいろと情報を伺ってみると，事情は微妙なところもあったようですね。

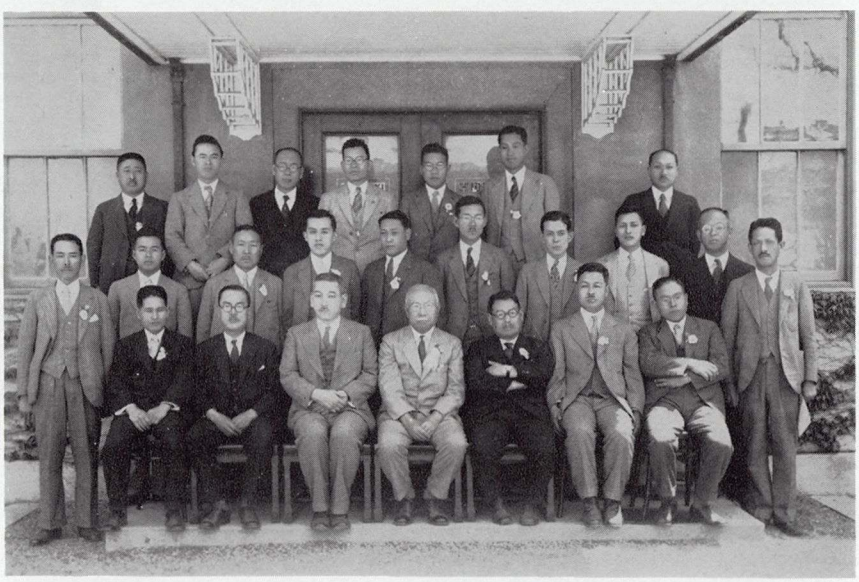
それから，別の話になりますし，また本会とは直接の関係のない事でもありますが——かつて竹腰先生と藤井先生とが内々



昭和４年５月12日の建築協会春季大会記念，於神戸川崎男爵邸



15周年記念・通俗講演会における聴衆
（昭和７年11月２日，於中央公会堂）



日本建築協会15周年記念西日本見学会，於東洋陶器工場にて。（昭和８年４月29日・）
座っている人左より１人おいて小西一良，武田五一，松室重光(中央)，徳政金吾，伴野貞三，高田利一郎の各氏。
―岡村忠一氏所蔵―



上左より葛野壮一郎，武田五一，松本儀八の自画像。中央は古宇田実，右下は本間乙彦の自画像（各自がそれぞれ自分をスケッチしたもの）。大正９年３月13日，於大阪新町小松（敬称略）
―松本儀八所蔵―



日本建築協会25年記念見学会・宮城県松島五大堂前にて。（昭和17年６月11日）
前列座席のもの左より１人おいて松久保敬三，中西六郎，松本儀八，池田実，籔中一良，三浦茂，清水栄二（座席の右端）の各氏。
―松本儀八所蔵―

話された事があるそうで——この話については竹腰さん御自身よりも私からお伝えする方がよいと思いますが——学会は東京本位でいかぬ。全国的な団体なら全国的に公平でなければならぬ。会長が東京地方から選ばれるという事は事情止むなしとするも，副会長は少なくとも二名にして，その中一名は地方から選出する，という制度にしてはどうか……というような話だったそうです——まあ，ここまでの事は当らずといえども遠からずでしょうか，これから先に私の憶測をつけ加えさせて頂きますとね——藤井先生のお考えの中には東大対京大という意識があったようですね。それが，やがて東京対関西，学会対協会，と微妙に関連してくる。そこへ「建築学研究」の経営難の問題が起って，本会に肩代りしてもらっては，という話になった。本会に学術研究部というようなものを設けてはどうか……どうも，これは私のフィクションだ，という事になるかも知れませんがね。だが結果において，戦後これが学会の方で実現しているから妙です。というのは，戦後「建築雑誌」の他に「論文報告集」を出すようになったし，3年前には京大の棚橋教授が「会長」となった，というわけで，さきに申上げた竹腰・藤井会談なるものは，当初の意図はよく知りませんが，歴史的事実としては大した先見だったと思うのですね。

堀口　ところが，本会の方でも経費の都合で，引受けた建築学研究の出版が困難になって，結局別れ話となりました。その会談の時，藤井先生は新名（種夫）さんに向って——師弟関係だったからでしょうが——「お前何をいうか」などときめつけられましたね……

滝沢　あとでさすがの藤井先生も「まるで飼い犬にかみつかれたようだった」といって苦笑しておられました。あの時の編集，特に新名君，それから亀井（幸次郎）君など，仲々強硬だったですね。まあ，これはいわば内輪喧嘩みたいなようなものでした。実は私もその席にいましたがね，これは協会側の言い分の方が筋が通っていると思いましたね。

滝沢　ところで宮飼さんに伺いたいんですが，戦争中でしたかその直後でしたか，神戸の岩尾（保衛）さんが中心になって本会の兵庫支部を作ろうという話がありましたね。

宮飼　岩尾さんが大変熱心に勧誘するので私も引っぱり出されたんですが，よく会合したり，見学旅行をしたりしましたね——赤穂だの姫路だのへ……支部といっても正式なものではなかったですが。

滝沢　そうでしたね——何だか岩尾さんの主催する懇親会みたいなような……

竹腰　岩尾さんは世話好きでしたが，とかく独走される傾向がありましたね。

滝沢　そして仲々お天狗で……岩尾さんにはご自慢が二つありまして，一つはご先祖が，武田信玄に対抗したとかいう信州・佐久の城主だったという事，も一つは謡曲。ただし謡曲では竹腰先生にはカブトを脱いでいました。竹腰先生の次には御自身だ位に思っていたようです。も一つありましたね，俳諧が——「歩月」と号していました。

> 佐久の城主という事は，その頃は大分誇張があろうと思っていたのですが，その後佐藤春夫の歴史小説「戦国佐久」というのが出て，岩尾さんのいわれた事が本当だという事が判りました。あの小説が岩尾さんの生きておられるうちに出ていたら岩尾さんは喜ばれたでしょうに，惜しい事でした。

岩尾さんが亡くなられて，兵庫支部の夢も自然消滅でしたな。何しろワンマンでしたから，仮設とはいえ支部なるものの内容が少しも判らぬ。後始末は早良（俊夫）さんがお一人でして下さったのじゃないでしょうかね。今でも時々思い出して早良さんにはお気の毒だったと思うのです——いわば戦争後遺症の一つの現れでしょうか。

学会との統合問題

滝沢　時刻の都合もありますので，この辺で戦時中の大問題だった，学会との統合問題についてお話し願いたいと思います——といっても，当時の折衝委員5人の中，現存者は2人だけで，それは竹腰先生と私ですが，その頃は何事も軍機に関連するというので万事秘密主義で，統合問題についてご存知の方は至って少ないだろうと思います。そこで私が，司会者としてでなく委員だった一人として，解説的に申上げさせて頂きたいと存じます。

戦争と共にあらゆる事物が統制され，大政翼賛会ができて，国民精神総動員という事になり，文化方面までも統制される事になって，建築関係の諸団体の中では学会と本会を統合して一つに——つまり合併——せよという事になりました。片岡先生はつとにご了解ずみの事だったようですし，その後の予備的交渉に，竹腰先生もご参加だったと存じます。そして，方針の大体のところが，いわば政治的にきまった，という段階でわれわれが委員を依嘱されたわけです。学会・協会それぞれ5人宛出て，初めは東京に集まり，たしか大政翼賛会にも挨拶に行ったと思いますが，第1回の会談をいたしました。この委員会の任務は統合についての具体的な条件を決めるという事でしたが，とても簡単に話のまとまる筋合いの問題ではありませんでした。そこで当然，会談は次回以後に持ち越され，第2回は大阪で，という風に開催地は東・西交互という事になりました。

会談は初めっから難航で，随分激しい応酬もあったのですが，話のキリのよいところで一服というわけで，なごやかに夕食の卓でも囲み一杯やりながら，ということになるわけですがね……ご承知のように特に食糧統制は厳しく，料亭でも旅館でもヤミでなければどうにもなりません。大阪ならば，さすがは

片岡先生のお顔で，何処かにご心配願いました。が，当時市役所に井上新二君がいましてね，この人はその道の通人としては市長以上の実力者だったそうで，頼み込むと心当りを捜して紹介してくれたものです。今から考えると苦笑されるような事もありましたが……

その東西いっしょの委員会で，委員長だったのが竹腰先生でしたので，この辺でお話をどうぞ。

竹腰　今お話にあった予備交渉ということですね——学会の方では学術本位という立場だが，本会では対社会という事を重要視する，というわけで初めから両方の意見が一致しない。たしか学会の大会が京都にあった時だったと思うのですが，学会の内田（祥三）先生と私が，この問題で大いに議論をたたかわしたのです。が，その時はとても結論など出ませんで，それでは両方から委員を出して慎重審議をしようという事になったのです。委員会ができて，私が委員長にされてしまったのですが，片岡先生からはけしかけられるし，私は全体の委員長だから必ずしも本会の利益代表というわけにはゆかぬし，苦しい立場でした。向うには吉田安三郎という闘士がいましてね。

滝沢　そうでしたね——竹腰先生は委員長だったが，学会側が攻勢に出てくると本会の立場を守って下さるのは，やっぱり竹腰先生以外にはない。お二人は随分はげしく論戦されましたね。皮肉にも，その後吉田君は大阪府へ赴任して来ました。

竹腰　吉田君が最も手ごわかった。竹腰の方も手ごわかった（笑）という話だがね。

滝沢　お二人が，いわば互に一騎打ちの形で，わきから口出しするスキもない……論議が熱してくるとお互に感情も手伝ってきて，竹腰先生はある時「もう会談は打ち切ろう，委員長もやめたい」などとおっしゃったですね……

竹腰　学会の方では本会を吸収してしまおうというハラだし，本会は対等で話し合おうという立場だし……要するに根本問題は官僚統制で，いよいよとなれば会誌の用紙の配給を停止する——学会にだけ配給して本会の方には回さぬ——という内々の情報があり，学会側ではそういう事をチャンと勘定に入れての議論なんだからね。

滝沢　官僚統制というわけで，吉田君の威力が発揮された，と実は私は後で思当った事です。吉田君は頭脳明晰の上に長年お役所で訓練をつんでいて，議事の進行など堂に入ったものでした。そういう点で本会側の委員は皆素人ばかり……

河合　薮中（一良）さんは如何でしたか。

滝沢　そうそう，薮中さんの存在を，うっかり忘れていました。あの人は仲々よく奮戦して下さったのです。

河合　あの方は理論家でした。法律に明かるい方でしたね。

滝沢　純粋に本会の利益代表という立場で理論的に話をされたのは薮中さんでしたね——決して興奮などされずに，ねばり強く……まあ，こうして何回か話し合いをして……東京でやったり大阪でやったり……最後にやったのは大阪の「鶴屋」だったと思います。片岡先生のお顔で，ああいう高級な所で……

竹腰　あの時は，もう会談は事実上停頓……そして用紙の配給停上という事も時間の問題で，いささか悲愴でしたな。

滝沢　とにかく初めっから肌合いがしっくりしない——あの鶴屋では私はもうアカンと思って「ともかくも卵二つや鶴の宿」と紙切れに書いて回しました……「春泥を互によけて歩みより」のつもりで出発したんですが……実は，あとで大和さん（事務局代表として出席）から叱られましたがね……

政岡　それからどうなったんですか……紙の配給を止められてはお手上げでしょうが。

滝沢　結局，委員会としては論議をつくしたわけだが，遂に結論は出ず，またその見込が立たぬ。というので，この先は東西両方の大御所——というのは東の佐野利器先生と西の片岡先生——に直々お話願って，問題を白紙に戻し，政治的に解決してもらう外ない，という事になった……われわれ委員は，つまり刀折れ矢つきた，というわけでしたね。

その大御所会談も実現せぬうちに終戦となって，問題は自然解消した。紙の配給は，それ以前に止められてしまっていた。戦後再び配給をうけるに至るまで，当分紙はヤミで入手して「日本建築協会会報」なるものを刊行して会員に配布した。因みに，正式な会誌の再刊は昭和22年の1・2月合併号からである。

滝沢　戦後，片岡先生は本会の委員を慰労の意味で更めて鶴屋にご招待下さいました。その後，まだ食糧事情のきびしい時，たしか公会堂の地下室の食堂だったと思いますが，役員や委員をお招き下さいました。その時私は，先生に内々伺ってみたのです——東西の大御所会談が実現に至らなかった事は幸でした。が，もしも実現したとして，どうしても統合せねばならぬとすると，先生は如何ご処置なさるおつもりだったのでしょうか，と。すると先生は「いよいよとなれば，協会の方はブッツブス考えだったよ——なあに，時機到来のあかつき，若い連中が造りたいというなら，また造ったらいいじゃないか」と。私は先生の決断，その気魄に圧倒されましたね。それにしてもこの一言，これァ先生でなくては言わぬ事だ，と……

政岡　統合問題は，つまるところ戦時日本の縮図，というわけでしたな。

滝沢　そうです。そして片岡先生は，会誌の再刊をご覧にならぬうちに亡くなられました。戦争と共に本会の，いわば「片岡時代」も終ったわけです——何かしら象徴的ですね。

どうも，司会者がしゃべりすぎて恐縮です。時刻も少々すぎたようです。ありがとうございました。

第III回座談会・昭和後期(終戦後—今日まで)を語る

と　き　昭和41年11月15日
ところ　日本建築協会会議室
出席者　(50音順・敬称略)

岩崎甚太郎(日本建築協会参与・前大林組工務監督)
内田成之(須賀工業相談役)
小川正(竹中工務店取締役開発本部長)
沖田誠一(建築学会近畿支部事務局長)
木村博巳(郵政省・会員グループ代表)
白石博三(工博・京都工芸繊維大学教授)
西山卯三(工博・京都大学教授)
山本茂(大日本土木・会員グループ代表)
鷲尾健三(工博・大阪大学教授)
司会　滝沢真弓(50周年記念号特別編集委員長)
同　政岡基次(同　編集委員)
事務局　松井昭光(日本建築協会編集人)


鷲尾　健三氏


西山　卯三氏


白石　博三氏


小川　正氏


岩崎甚太郎氏


内田　成之氏


沖田　誠一氏

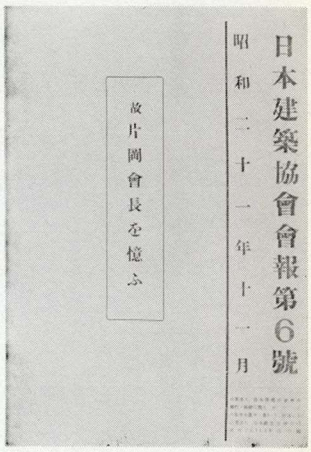

木村　博巳氏


山本　茂氏

滝沢　この前の座談会の最後の話は，本会と建築学会との統合問題でした。その問題の究極は戦時の物資統制令による紙の配給停止という事でした。終戦と共に統合問題は自然解消しましたが，その前に紙の配給が止められて会誌は休刊となりました。そのあと暫く「日本建築協会会報」というパンフレット型のもの——用紙は恐らくヤミで手に入れてでしょうが——会誌の代用として発行していました。それが2部だけ事務局に残っ


日本建築協會會報第3號

20年12月発行


日本建築協會會報第6號
昭和二十一年十一月
故片岡會長を憶ふ

21年11月発行(「故片岡会長を憶ふ」号)

ているそうです。〔席上回覧〕。会誌の再刊は昭和22年3月で1・2月（合併）号となっています。その主文の第一が竹腰会長の「就任に際して」であります。ここに本会が第二の生誕を迎えたわけであります。

そこで先ず，その頃の事について，どなたかお話願いたいのですが——差当り，第二代会長として竹腰先生をお迎えするに至った事についてどなたか……

竹腰会長

滝沢　どなたもおられないようで——では私から申上げる事にいたします。

片岡先生が亡くなられて，本会はいわば虚脱状態——それは戦敗日本の姿でもありましたが——再建のためには何はともあれ，新しい会長を迎えねばならぬ，というので，どういう集り



故岩尾保衛氏葬儀（昭和24年３月31日）　―滝沢真弓氏所蔵―
中列左より４人目・大和栄衛，滝沢真弓，１人おいて銭高輝之，竹腰健造　簸中一良(故人)，早良俊夫，戸川弘(事務局)の各氏。後列左山内嘉兵衛(故人)。円内は故岩尾保衛氏（昭和24.3.30逝去，享年63才）。

であったか，私もその一員に加えられまして懇談いたしました。その時の話をかいつまんで申上げますと――会長たるべき人は，まず関西建築界の長老で，予てから本会に関係の深かった人，徳望がなければならぬが，あまり超越居士では困る，世間も広く関西以外にも声望のある人，となると結局現副会長でもある竹腰先生以外にはないという事になったのであります。

では，その手続きをどうするか――正式にお願いする前に，予め内諾を得ておかねばならぬが，そのいわば走り使いを誰にするか――当時この問題で張切っていたのは神戸の岩尾(保衛)さん。この人はかねてから竹腰先生の崇拝者でもあって，御自分でその役目を買って出た形。そして私に誘いをかけた。も１人は誰でしたかな，――松久保（敬三）さんではなかったかと思うのですが――どうもハッキリ覚えていない。とにかく３人で参りました。

竹腰先生は，先輩も居られる事だからと極力辞退されたが，私共は懇談会での話を卒直にお伝えして，建築界のためにと，いわば拝み倒したわけです。その後正式には，どういう形式でお願いしたか詳にしませんが――とにかく戦後の本会は竹腰会長と共に再出発したわけであります。そこで，次にその頃の話――前後してもかまいませんが――どなたか。

終戦直後の頃

岩崎　それは西山さんか，小川さんか……

西山　統合問題の頃，私は東京にいました。戦後はずっと京都ですが，本会の事についてはよく覚えていない――何か手掛りがあると思出すでしょうが。ずっと古い昭和10年前後の事は多少覚えています。事務所が「朝日ビル」の中にありましたね。

政岡　そうです。初めは広かったですが，戦後は狭い所に圧縮されていました。

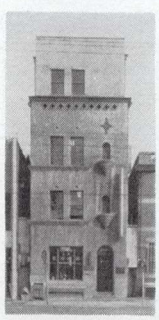
沖田　建設業協会の会館が大林組の隣にできて，事務局をその方へ移しました。が編集部だけはやはり朝日ビルに残っていました。

政岡　そうでしたな――両方に分れていて甚だ不便な事でした――建設業協会の会館というのは，もとは野田屋の倉庫でした。それを建設業協会がゆずり受け，大林組に大改造してもらったのです。が元々古い建物でしたから危険だ，というほどでした。

沖田　木造の三階建でしたね。

松井　事務局の資料によって申上げますと――朝日ビルの事務所が，戦後の昭和21年12月24日に縮小され，23年12月19日に只今お話の建設業協会の会館に分かれて引移りました。朝日ビルに残ったのは，先ほどのお話にもあったように，編集部だけでしたが，同時にそれは会議室をも兼ねていたようです。現在の事務所のこの建物は既存のものを買いとって改増築し，昭和31年10月10日から使用しました。そして名称も「近畿建築会館」となったのです。

岩崎　この会館は，もと伊藤邸で大倉三郎さんの設計になるものです。その由来については大倉さんが本誌の昭和33年１月号に詳しく報告しておられます。



近畿建築会館



当初は上記の５団体が同居していた



当初併設された近畿建築会館地下の談話室・建材陳列場の一部
（現在は倉庫）

滝沢　戦後は到るところ住宅難――本会も，そういう世相はまぬがれなかった，というわけですかね。ところで，学会の近畿支部ができたのは……

沖田　22年です。はじめは京都大学・建築学教室内に……

滝沢　そうすると，その支部創設の下相談や発会式というのは，その前年になるわけでしょうか。発会式の頃はもう寒い時でしたが，汽車には戦後まだ暖房が無く，岸田会長が夜行で毛布にくるまってやって来られた，という話でした。

いささか裏話になりますが，下相談の時，学会の支部ができると本会のお株が奪われはせぬかと心配する向きもあった。い

やそうじゃない。これからは学術方面は学会の方にまかせ，対社会の仕事は本会が引受けるというようにすれば，却って事情が東京よりもスッキリするという意見も出た。とにかく学会支部ができる事になって，その時に記念講演として浅野清君に「法隆寺の修理」について話してもらい散会が夜になりました。すると川勝源兵衛君が世話人一同を晩餐に招待してスキヤキ・パーティをやってくれましたが……まだ食糧難の時代で，大した御馳走でしたな。

ところで，学会はその後，この近畿建築会館ができると，ここに引移って，本会と一時同居の形じゃなかったですかね——

松井　そうです。学会の近畿支部が京都よりこの会館へ移ってきて，昭和38年に科学技術センターへ移るまで沖田さんら本会職員が世話をみていました。

滝沢　本会の内部，というか組織はどうなっていたでしょうか。

沖田　主記・主計・編集と三つに分かれていました。大和さんが主計理事でもあり，書記長でもありました。

その頃，特殊な人として西川常務という方がおられました——土木工学の……

滝沢　そうそう——西川総一さん。この人のおられたのは短期間でしたから，ご存知ない人が多いかと思いますが——実は私も最初はどういう人か知らなかったのですがね。

沖田　仲々学識のある方でした。

滝沢　あの人が大した人だ，という事は実はあとで判ったんです——中学は名門の神戸一中で，後の東大総長矢内原(忠雄)さんなどといっしょに一高に行き，大学は京大で土木工学。満鉄に入り，戦時に華北交通に移って理事までやった人ですが，学者肌の人で，神戸大学の工学部ができると其処の土木工学の教授になって本会を去ったのです。語学にも堪能な人で，鉄道に関するドイツ書の翻訳などされるという風でした。神戸大学を定年退職し，民間事業を手がけられましたが，先年亡くなられました。こういう人が本会の事務局にいたというのも，いわば戦後風景の一つというわけでしょうか。

沖田　その戦後風景も，実は経営面で行き悩んで，次に中沢（誠一郎）先生を常務理事に迎えました。

滝沢　そうでしたね——中沢君が戦後，東京を引きあげてから大阪市大に入るまでの間，本会にいた事がありましたな……

沖田　ところが，それもうまく行かなかった。（笑）

滝沢　西川とか中沢とか，あまり秀才すぎてはいけないらしい。（笑）

再建への道

滝沢　鷲尾さんが本会に関係されたのはいつ頃からですか。

鷲尾　22年からです——3月末に外地から引きあげて，4月に……東畑（謙三）さんに呼ばれましてね。

滝沢　何とも早ワザな——待ってました，とばかり……

鷲尾　東畑さんから，災害委員会か何か手伝えといわれました。そこで，お手伝するのはよろしいが，実は私は会員じゃない，といったら，その場で入会申込書に押印させられました。

滝沢　それこそ災害でしたな（笑）。東畑さんは流石に将来会長たるの資格をそなえていた……

政岡　まあ，そういう風にして戦後の委員会活動が促進されたわけです。事業委員会とか，会勢委員会とかいうようなのが活発に動きましたね。「もっと会員の糾合を計らねばならぬ，そのためには会員の興味をそそるような手をうたねばならぬ，それには差当り見学会でもやろうか」ということになったが，実は建築界もまだ再建の途についたばかりで未だ見るべきものがない。それが実際に動き出したのは，かなり後の事でしたね。

岩崎　会勢委員会の初代の委員長は木村（寛一）さんでしたかね。

政岡　そうです。木村建設の社長の木村さん——その後代々の委員長が建設業界のお歴々ということになりました。見学会とか，その他何かやると，どうしても費用がかかる。そういう場合に建設業の方々にご面倒見て頂くと都合がよい（笑）

滝沢　そういう事とは別に，木村さんには私は思い出があるのです——人情家でしたね。それが却って自縄自縛になったんじゃないですか——最後は本当にお気の毒でしたね。

岩崎　何しろ会費の収納もおもわしくなく，会誌の発行も困難でした。それが大林芳郎さんが編集委員長の時から軌道に乗りました。その後追々と広告収入もふえてきました。

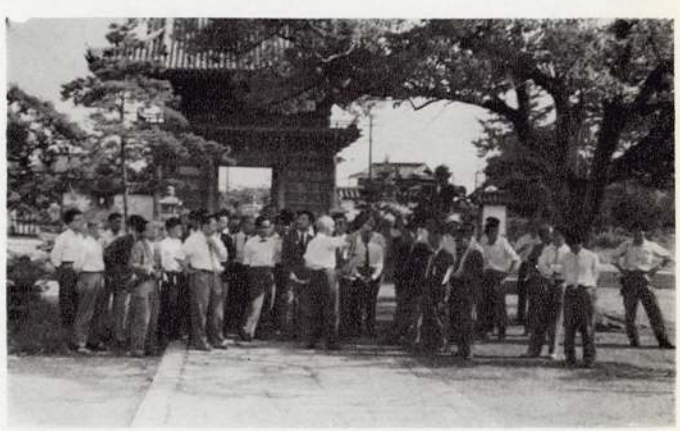
滝沢　建設業界の方におねだりした事はありませんか。

政岡　それはね——建設業の「五日会」あたりを通して——大分お世話になっているはずですよね。

沖田　建築材料審査委員会というのができまして，これも本会の財政建て直しに貢献しているのです。置塩（章）先生が委員長で，建材の審査料，証明料として収入をはかりました。

政岡　当時，雨後の竹の子のように出現した新材料について，本会の名において審査した。本会と建材との結び付きはこんな所からでしょうか。

白石　会誌でも建材特集というのを出したことがあります。



古建築見学会（加古川鶴林寺にて）

鷲尾　建材で思い出す事があります。いつでしたか，ペイント関係の全商品のリストを作って出版し，後援してもらった事がありました。

沖田　あれは31年か32年かでした――主として矢野（豊作）さんがお世話して下さった。

政岡　その後，ペイントだけでなく，総てを集めた建築材料集成にまで発展しました。

松井　建築材料集成の原型は，昭和31年に，会誌に清水建設の伊藤幸一氏が発表され，昭和34年，塚本猛次編集委員長のときに「工事別建築材料集成」としてまとまってきたのです。これは，さらに充実させて再び，昭和39年暮から40年にかけて発表されています。

会員制度の更新

政岡　団体会員なるものができた事について，どなたか……

私の記憶では，その動機が前々からお話の，戦後の経理の事からだったと思います。何しろ今までの正会員の会費だけでは会計がもてない。そこで新たに団体を正会員として会費の増収をはかった。これは竹腰会長がなさった建て直し工事の大きな柱ではなかったか。こういう制度は本会が最初で，後には他の団体もこれに相当するような制度を作るようになりました。

また，設備関係の人々を協力会員とした事なども他の団体の手本になったかと思われます。

沖田　片岡先生の時は，考え方がいわば個人本位で，その人の業種によって多少差別するというところがあったようですが，竹腰先生の時からは職業別のグループという考えが出てきました。そこに部会という制度が生まれたわけです。そのいわば典型的なのが建材部会で，大和(栄衛)さんが世話され，それが発展して今日の建築材料協会として独立する因をなしたのです。

松井　制度の事ですが――昭和22年12月に定款の改正があって，個人会員と団体会員を以て正会員とす，となりました。

政岡　団体会員という制度は竹腰先生の進歩的な考えだったですね。

沖田　多分ロータリー・クラブの考え方が導入されたのでしょう。

岩崎　定款を見ますと，建築またはこれに関係ある業務を営む者または団体，となっています。

政岡　そうですね――そして団体会員は会費としても何口という複数の口数をもって協力していただく……

ところで，岩崎さんは長らく事業委員長として，種々な事業活動，たとえば見学会・講習会などに尽力され，わけても忘年会を軌道に乗せて建築界の名物にまで育てられた。

岩崎　私の前に鷲尾先生がやっておられた。

鷲尾　私の前には藤木（正一）さん……（笑）

岩崎　では私から申上げます――先刻のお話に出ました会勢委員会というのが，委員長が建設会社の社長さんで，本会の会合などには仲々ご出席願えません。そこで政岡さんや私が，よく代理を仰せつかっていたのですが，その他に浅沼組方では岡本（弘）さん，藤木さん方では矢野（豊作）さんなどが代理として見えられました。いろいろ話しているうちに，事業面の事を別にしようという事になって，会勢委員会から分家した形で事業委員会というのができたのです。その初代の委員長が鷲尾先生で私は副委員長でした。

（次に，実際に行ってきた事業について詳しい報告があったが，紙面の都合上ここには割愛する）

そうこうしているうちに，世間の情勢も追々と落着いてきて，見学会・講演と映画の会・各種の説明会・展示会などが次々と催されるようになってきたわけです。その前に，鷲尾先生の時に「若い会員の集い」というのができ，また「ゴルフ同好会」というのもできました。

鷲尾　若い人々に元気を出してもらおうというので「若い会員の集い」という場を提供して新らしい世代のアンビションを促そうというのがねらいでしたがね，この頃はそれが何か別な形で妙に安定してしまったのではないか，とひそかに心配しているんです。

も一つの話は――現場のコンクリートの講習会をやったですね。あれは現場の親方たちを集めて再教育しようという趣旨でやった事なんです。ところが実際集まって来たのは学校の新卒ばかりで「ヒマだからやって来た」というんです。現場は忙しいのでしょうが，これでは折角の企ても意味なしで，大いに考えさせられましたね。

また竹中工務店にいた日野（勝好）君がまだ元気だった頃，私にやれというので――たしか学会支部と合同だったと思うが――駐車場の問題を取上げた事がある。都会が今のままでは近い将来に自動車の処置に行きつまる。ビルの建築に当っては，そのビルの関係者は同時に自己の責任において駐車場をも考慮する，という事を法令化させねばならぬ，というので東京方面にも提案したが東京方からは聞いてもらえなかった。

また，教育委員会――戦後の新しい建築教育は如何にあるべきかという問題――然かるべき関係筋の人々に集まってもらって3～4回座談会をやっていますね。これはその後，学会の教育委員会などに先鞭をつけたものでした。

また，災害委員会――これは後に横尾（義貫）さんが主となってやっておられました。

法規委員会――これは中沢（誠一郎）先生がおられるからでもありましょうが――大変活発にやって，然るべき筋へ進言などもされたようですね。

政岡　本会と法規，という関係は池田実先生以来の伝統ですね。この事は前々の座談会にも話が出ました。ところで岩崎さ

ん，名物の忘年会の事について伺っておかねばなりませんがね……

岩崎　忘年懇親会は私の担当する前からありましたが，お世話した最初のは29年の暮で，来山閣でやり，130人集まって頂きました。その後年々，東天閣・燎仙閣・唐崎寮・大閤閣などでやり，34年には阪神百貨店の大食堂で370人という盛会となって感激しました。最近では500人を越えるという有様です。

政岡　なお見学旅行の事も……

岩崎　国内の事は省きまして，戦後は海外視察という事になりました――これは尾崎会長の提案でもありましたが――37年に第1回の欧米視察団が青木友一さんを団長として44日間の行程で出かけました。その後，欧州だけというのもやりました。また，計画はしたが参加者が少ないので取止めたのもあります。

只今計画していますのは，本会50周年記念の事業の一つとして，モントリオールの万国博の見学団です。これは目下進行中で，そのうちに具体的な形でお目見えすることになるはずであります。

滝沢　只今お話の青木さんは旅行から帰って間もなく亡くなられましたね――当時，旅行の心労のせいじゃないかなどという噂もあったほどで――建材界の重鎮で，責任感が強く確乎たる信念をもっておられた人でしたね。

ところで，山本さん，何か……

山本　話が前に戻りますが，30年4月に「会員の声を聞く会」というのがありました，田中（良太郎先生）が主査で。各界の有志に集まって頂きいろいろご意見を伺いました。委員は田中先生・岩崎さん・政岡さん・増井さん・矢野さん・青木さん，それに私も入っていましたか。この会合が一つのきっかけとなって事業委員会が生まれたように思うんですがね……グループという考えが出てきたのもその頃だったと思います。

組織と人間

滝沢　忘年懇親会の発展は大変結構です。が，同時に平素の会合――たとえば委員会など――事務的になって昔のような気分がなくなったようですね。

政岡　戦前は，委員会など大てい夜でしたね，食事がついて。戦後は食糧事情のせいもあるが，昼間になった――もっとも，この頃は事業委員会など次第に夜に移りつつあるが……

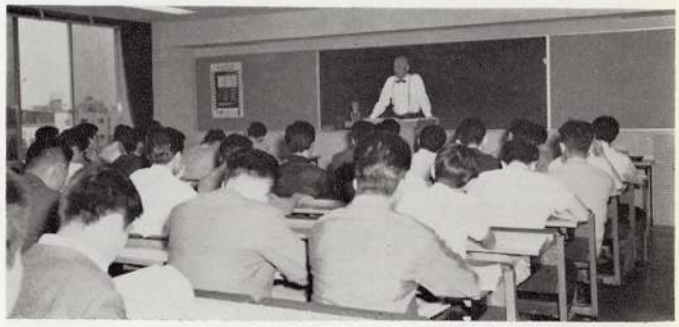
岩崎　昼間集まれといわれても決裁権をもつ者以外は不可能だったがね。

小川　昔の会合は何となく和やかで楽しかったですね。夜分，かなりおそくまで話もできて面白かったが，今の委員会などあまり楽しいとはいえないでしょう。（笑）

昔はアットホームな気分，職場から解放されてレクリェートしているというような気分がありましたね。



工高生デザインコンクール10周年記念作品展（昭和39年）於阪神百貨店


現場実務講習会


若い会員の集い


図書出版の一例


工高生デザインコンクール入選賞碑


忘年懇親会（昭和39年　於大閤園）左より竹腰健造氏・吉田信武氏・高橋誠義氏

滝沢　それは，ひとつには大阪という土地がら，人情のせいでもあろうかと思います。私が東京にいた頃，学会の会合でも大てい夜で夕食付でした，がいささか固苦しい気分でしたね。何しろ上席におられる方々の中には大学の先生などがおられて，まるで学校の延長みたいなような感じがありました。ところが，私が関西へ来た頃——昭和6年からですが——何かの委員会に呼出された所が当時夜間営業をしていたデパートの特別食堂だったかで，さすがは大阪だ，と感心したものです。東京が封建的・官僚的とすればこちらは町人的・庶民的とでもいうのでしょうか。もっとも最近は両方の差異はだんだん少なくなりつつあるようですがね……

政岡　昔は所帯も小さく家庭的でもあったのですね。

滝沢　家庭的——たしかにそうでした，家長格の片岡親仁がいましてね。年末に，親仁が役員・委員一同を招いて御馳走してくれたほどですから……

政岡　所帯が大きくなると人間同志よりも組織がモノをいうようになる——その間の事情は微妙ですが——かって一人一業主義ということが提唱されましたね。一人で幾つも役員や委員を兼ねず，各人一つ宛任務を分担してもらって，なるべく多くの人たちに奉仕してもらうという……それが何時の間にか便宜主義になってしまって一人にいろいろな仕事を頼むようになった。

鷲尾　何処にもある事ですね。「あの人は親切に世話をしてくれる」となると，いろいろな事をその人の所へ持込む。それを側から見て，お邪魔をしてはわるいから，こちらは逃げ腰になる。（笑）

岩崎　そういう傾向がありますな。それが若い人よりも経験を積んだ年配の人に集中する。（笑）

滝沢　鷲尾さん・岩崎さんなど，その典型みたような方々ですがね。（笑）

政岡　事務的な運営という点ではよろしいが，同時にそれはマンネリズムになる恐れがある。進歩発展という点からすると，どうしても若い人たちに出てもらわねばなりませんな。

もっとセンスを

滝沢　若い人，という話ですが——白石さん，何か……

白石　学校から見ての話ですが——近頃の若い者は却って老化現象を起していはせぬか。こちらから問題を持ちかけて見ても，ただ聞くだけで一向に反撥して来ない。自分から求めようという意慾がないのか，質問もしない……アンビションがほしいですね。

滝沢　ラジオ・テレビ時代の児，というわけですかね……人間のタイプがだんだん規格化してゆくのか……

小川　昔，見学会の時など質問攻めに会って面くらった事があります。そこで私の所（竹中工務店）では「質問お断り」なんて事もあったほどです。が，この頃はその質問も少なくなりました。

木村　私も見学の案内をした経験がありますが，若い人々の気分が以前とは大分変ってきたようですね。同時に，こちらのサービスのやり方も時代即応に変えてゆかねばならぬかと思いますが……

鷲尾　職場の都合によっては見学会などに参加できない者もある。そういう人々に対して本会としてはどうサービスするか——という話が，かつて「若い人の集い」の話題となった事があるが——結局は会誌による以外に道はないから，これを強化せねばならぬ，という事でした。そしてただ今の小川さんのお話にもあったような質問——質問があったとすると——そういう事も会誌で紹介してはどうか，というような話も出ました。

小川　建築士会の「ひろば」など，そういう点では参考になりますね。

会誌の方では広告にも，も少しセンスがほしいですね。レイアウトも，もっとハッキリと——最近では，本文の建築紹介と広告の宣伝写真とまるで区別がつかない。「どれが本文か」などと……（笑）

松井　おっしゃる通りです。これについては既に意見も出ていますから，改善に努力するつもりであります。新年号からは型も大きく（A4版）なりますが，広告などについても若干の改善が行なわれるはずです。

滝沢　西山さん——今ではあまりに大家になってしまわれたが，戦後間もない頃はまだ新進気鋭で，本会の懸賞募集に，たしか都市計画に関する建築のデザインで1等賞をお取りになりましたね。来るべき万国博の計画も，その由って来たところ遠し，というわけでしょうか。

西山　いやどうも——関西のコンペはらくでしたね，東京のように厳しくなかったから。

滝沢　その審査員の一人が私だったのですがね。（笑）

西山　デザインで思い出すんですが，かつて会誌の表紙のデザインは会員から募集したんですね。どうもあの方が建築的センスが出てよかったと思いますがね……

滝沢　私もそう思います。この頃は専門のデザイナーとやらに頼んでいるようですが，なるほど取扱っている題材は建築物その物でも，やたら派手なだけで，その構成が建築的とは思われない。ここにも小川さんのおっしゃった「もう少しセンス」がほしいですね——如何にも建築家のものらしいという……これで若い連中が「老人は何をいうか」と反撥して来て，目を見はるような新解決を出してくれると頼もしいんだがな……ボーイズ・ビー・アンビシャスといいたいですね。

明治100年

西山　近代建築調査委員会はなくなりましたね。

政岡　滝沢先生の提案で――ほぼ所期の目的を達成したから，この辺で一応解散という事になったのです。

西山　あれは有意義な仕事だったと思います。政岡さんが率先して提唱されたという事だが，時あたかも明治100年，明治ブームの先駆をなしたわけです。

滝沢　私が神戸へ来た時（昭和6年）には，明治なんて歴史の対象になると考えている人は少なかった。東京にいた時，堀越三郎先生――「明治初期の洋風建築」で学位をとられた，という当時としては珍しい事でした――その先生に教えられて明治建築に興味を覚えた。今では私の弟子格の坂本（勝比古）君が「異人館」で学位をとるという時勢ですが。われわれの委員会の態度は資料の整理・保存であって，現物の保存には関与せぬ，という建前でした。われわれの委員会の後に，学会にも明治建築研究会というのができ，その方面でわれわれの仕事も認めてくれるようになりましたから，学界に対しても多少の寄与はしたかと思っています。

西山　多少どころじゃない，大きな役割を果したと思います。

滝沢　まあ，今まで学会などでやった事が，とかく東京中心であった事に対して，関西以西，九州まで手を延したわけです。

松井　堀口（甚吉）先生が，本会の創立五十周年の記念事業のひとつとして，あの成果をまとめて出版してはどうかというご意見を会誌にだされていましたが……。

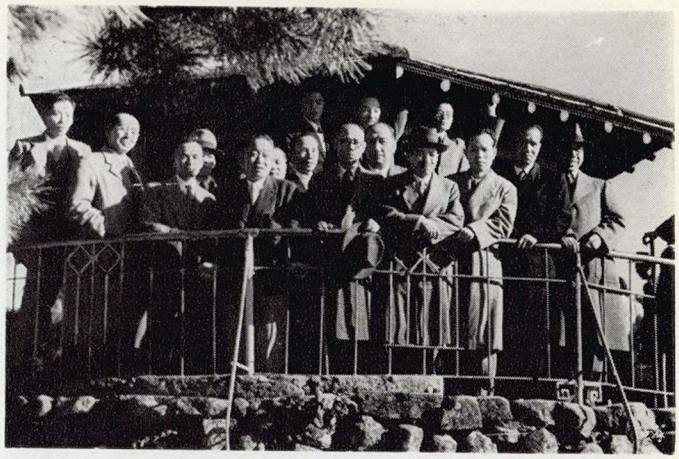
滝沢　そういう話はわれわれ同志の間にもありました。が何しろあれは，行き当りバッタリに採りあげたので，体系も調わず，結果において片寄ったものとなり，とても今のままでは出版いたしかねると思います。むしろ――これは私一己の考えですが――学会あたりで組織的なものを出す場合には，こちらからも資料を提供する，というほどの襟度はもちたいと思っているのです。

鷲尾　といって，放っておくと資料も散逸する恐れがある。文部省あたりに話せば補助金も出ないでもあるまいが……

政岡　有難いお話です。オールドボーイズも大いにアンビションを発揮せにゃならぬ。（笑）

内田　あの委員会には私も設備の方面から参加させて頂き，まことに光栄の至りでしたが，いつも和やかで，話題も豊富で，何よりも楽しい会合でした。こういうところに他に見られぬ本会の性格があると思ったことです。

滝沢　明治は遠くなりにけり，といいますが，その明治が45年で終り，大正も既に遠くなって，昭和も40年を過ぎました。何かと感慨です。話はまだ尽きそうにありませんが，今日はこの辺で。どうも有難うございました。



35周年記念見学旅行・小豆島にて（昭和27年11月2日）



岡山と倉敷の工場古建築見学会（昭和36年3月5日）



45周年記念事業・会員余技作品展，於阪神百貨店（昭和37年）



第3回よろず相談住宅展・於阪神百貨店（昭和41年）



創立祝賀会パーティ・於関電会館（昭和38年３月30日）
左より当時の尾崎久助会長，石原厳，一円俊郎，置塩章の各氏。



49周年のお祝のことばをのべる東畑謙三会長
（於ロイヤルホテル・昭和41年３月30日）



創立49周年を祝う記念パーティ風景・於ロイヤルホテル（昭和41年３月30日）

第2部

年表



武田五一筆

建築界と建築協会50年の歩み

〔年表50年史〕

今年は明治百年を数え，県政百年とか開港百年とかの記念事業が各地で行なわれる。ちょうどそれと機を一にして日本建築協会が創立して50年を迎える。この機会に建築界と建築協会の50年間の動向を年表の形でトレースしておくことになった。

時の流れは，社会・経済・政治・芸術・科学・技術等すべての分野がからまり合い，国や地域によってその事情が異なっていて，年表の形に集約することはなかなか厄介であり，また一つ一つの現象のどれをとりあげるかに必ず評価の姿勢が問題となる。それ故ここでは，項目として海外と日本と関西の建築界と一般社会の状況と建築協会の歩みを年毎に対照させ，われわれなりの事象の選択を行なったが，やはり総花的な羅列となった。そしてこれらをつなぐものとして解説を加えることとしたが，建築の流れと社会の動き，更に海外と日本の姿を対比させて浮彫りするには限度があるので，建築運動の側面になるべくしぼってとりあげた。

また年表作成には時代区分が問題となる。ここでは各年で切ることにとどめ，社会的に重要な事件で一応区切りをつけ，4～8年毎に頁を変えることでその区分をこころみたが，大きな意味はない，その区分は次のとおりである。

1. 1910（明43）——1916（大5）日樺併合，様式論争
2. 1917（大6）——1922（大11）住宅改良(建築協会創立)
3. 1923（大12）——1929（昭4）関東大震災
4. 1930（昭5）——1936（昭11）経済危機
5. 1937（昭12）——1944（昭19）支那事変から戦争へ
6. 1945（昭20）——1949（昭24）敗戦から戦災復興
7. 1950（昭25）——1954（昭29）朝鮮動乱からビルブーム
8. 1955（昭30）——1958（昭33）住宅政策活発化へ
9. 1959（昭34）——1962（昭37）宇宙時代へ
10. 1963（昭38）——1966（昭41）急進的都市化へ

この50年間はまさに近代化への道程であった。明治の近代化＝西欧化の意識で様式吸収に勢力を注いだ建築界は大正期に入ってようやく新しい芽が生まれ出た。技術的には鉄筋コンクリートが本格化して来る。関西では明治38年神戸の東京倉庫・明治43年京都商品陳列所・明治45年百三十銀行曽根崎支店および住友倉庫等がその先駆となって，大正期に花開いて来る。近代建築運動が様式論争から非芸術論・分離派を通って展開する。また市街地建築物法や都市計画法の大正8年公布から都市と建築の明確な役割が社会的行政的な対象となって現れる。そして関東大震災を通過して建築界の歩みが定着する。このような現代に直結する建築の歴史はこの大正期から出発して来たともいえる。この時期に関西で社会に根差した建築協会が生まれ，活発な活動を開始する。それ故建築協会の歩みは関西の建築界の動向をひもとく一つの道ともなる。

本年表作成には下記の者が担当した。政岡基次氏(政岡土地)・内田成之氏（須賀工業）・その他の方々から資料の提供をうけた。記して感謝の意を表したい。なお，日本建築協会の歩みの欄については，松井昭光氏（事務局）の協力をえた。

（注）解説写真は特に建築協会誌「建築と社会」掲載のもののみに限った。写真下に「○月号」とあるのは，「建築と社会」の号数を示す。そのほか若干建築協会手持写真を利用した。

島田勝次（神戸大学助教授）
姉川昌雄（〃　大学院）
有村桂子（〃　大学院）

年代	関　西（建築界・一般社会）	建築協会	日　本（建築界・一般社会）	海　外（建築界・一般社会）
1910 明43	京都商品陳列所／武田　明治屋京都支店／曽弥・中条　堂島米穀取引所／設楽　大阪控訴院／山下・横浜　米井商店／清水　毛馬洗堰／沖野忠雄　帝国産業KK 京阪電鉄天満五条間開通　箕面有馬電鉄開業　神戸市電兵庫春日野間開通　南海鉄道天王寺西門前住吉間開通　天王寺公園拡張　奈良ガス会社創設　奈良春日野運動場開設		議員建築準備委員会設置　建築様式論争起る　早大建築科創立　鉄道院／上野肇　逓信省／吉井内田　日本生命名古屋支店／辰野・片岡 日韓併合　大逆事件　白瀬中尉南極探険　白樺派成立　一握の砂／石川　剃青／谷崎　女／荻原守衛	アムステルダム派起る　オーストリア工作連盟結成　構造物静定理論／チモシェンコ　A.E.G.工場群／ベーレンス　カサミラ／ガウディ 英南阿連邦併合　フロイト汎性欲説提唱　未来派起る　エッフェル塔／ドローネー
1911 明44	名古屋銀行京都支店／鈴木禎次　東本願寺勅使門／亀岡・鈴木　三菱銀行大阪支店／曽弥・片岡　旧文楽座／設楽　藤井大丸呉服店／清水　大阪武徳殿／大林　渋沢倉庫大阪支店／辰野・片岡　住友銀行船場支店／住友建築部　藤田美術館／日比 南海電鉄難波和歌山間開通　阪堺電気鉄道恵美須町大小路間開通大阪電灯安治川発電所運転　神戸大倉山公園・湊川公園開く		建築業協会創立　建築士会創立　帝劇／横河　警視庁／福岡　白木屋／伊東　秀英社／北田九一　三井物産／遠藤・酒井　東京倉庫KK・日本橋建築 特高警察設置　片山潜社会党組織　工場法制定　所沢飛行場建設　野口英世梅毒スピロヘーター培養　或る女　青路発刊	表現派起る　キャンベラ都市計画コンペ／グリフィン　グランストン喫茶店／マッキントッシュ　ストックレー邸／ホフマン事務所建築／ペルツィヒ 中国辛亥革命　アムンゼン南極探険　フォード自動車大量生産開始　ベルリン青騎士展
1912 明45	大阪通天閣／設楽　大阪市庁舎コンペ／小川陽吉　堺公会堂／辰野　百三十銀行曽根崎支店／辰野・片岡　京都高島屋／難波　鐘紡淀川工場／横河　大阪海上火災KK／大林　大阪貯蓄銀行京都支店／松井　北浜銀行大阪支店／鈴木 大阪南区大火　京都軌道事業水道事業開始　大阪市電堺筋開通　神戸市電布引線開通　大阪日日新聞創刊　神戸を起点とする南洋航路ひらかれる		鋼製建具国産開始　早大図書館　慶応図書館／曽弥・中条　渋沢倉庫／清水組　東京クラブ／コンドル　日本赤十字社／妻木　三井貸事務所／横河 労働団体友愛会設立　機械化学重工業抬頭　千曲川スケッチ／藤村　五柳先生／大観	コルブ大量生産と規格化の問題研究　グロピウス乾式構造提唱　クレーラー邸計画案／ローエ　ルーバン化学工場／ペルツィヒ　ドイツ大使館／ベーレンス 中華民国成立　第二インター反戦宣言　青衣の女／レジェ　魔の山／トーマスマン
1913 大2	大阪市中央公会堂コンペ／岡田　神戸旧聚楽館／設楽　同志社女子大ゼームス寮／武田　大和田銀行大阪支店・大同生命京都支店／田中実　大阪安田倉庫 木子七郎建築事務所開く　大阪信濃橋架設　神戸第四突堤完成　能勢電鉄開業　大阪市電淀町線開通　神戸市電兵庫線開通		コンクリートミキサー国産　三菱合資会社コンペ／木子幸三郎　横浜記念館コンペ／福田重義　三井家クラブ／コンドル　神奈川県庁舎／片山・木子 ブラジル移民本格化　東海道線複線化　芸術座創立　白樺派の活躍　赤光／茂吉　燭／秋声	構成主義の抬頭　国際田園都市並に都市計画協会（IFHP）発足　ミッドウェイガーデン／ライト　ショウ邸／ロース　ファウグス靴型工場／グロピウス ボーアの原子模型　フッセルの現象学　キュービズムの画家達／アポリネール　火夫／カフカ
1914 大3	京都商工会議所／武田　旧大阪クラブ／野口・長谷部　神戸銀行集会所／辰野・片岡　三井銀行京都支店／鈴木禎次　楽天地／設楽　京都駅／鉄道局　神戸三菱ドック完工 大阪電気軌道上六奈良間開通　生駒トンネル開通　阪堺電気鉄道今池平野間開通　宝塚少女歌劇開く		東京大正博覧会　全国建築士会設立　セセッション様式移入　不忍弁天竜門／伊東　三越呉服店東館／横河　東京中央停車場／辰野・葛西 日独開戦　憲政擁護運動　桜島噴火　道程／高村光太郎　こころ／漱石　三太郎の日記／阿部	ドイツ工作連盟展　コルブドミノ方式を発表　ガスモーター工場／グロピウス　ガラスの家／タウト　ヘルシンキ中央駅／サーリネン 第二インター解散　第一次大戦勃発　パナマ運河開通　モンドリアンの新造型主義
1915 大4	石原時計店／真水・三橋　豊国火災保険／三橋四郎　朝鮮銀行大阪支店／中村与資平　大阪回生病院本館／宗 難波橋・大正橋架設　神戸サンフランシスコ航路開く　天王寺動物園開かれる		日本初の住宅コンペ　住宅改良の気運高まる　洋釘自給なる　建築非芸術論／野田俊彦　明治神宮宝物殿コンペ／大森喜一　豊多摩監獄／後藤・横浜 米価調整令公布　邦文タイプ　21ケ条の条約調印　羅生門／芥川　山椒太夫／森鷗外	マレヴィッチのシュプレマティズム宣言　二戸建アパート計画／ライト　E.エリイオ病院／ガルニエ　公衆浴場計画案／J.J.P.アウト 相対性原理／アインシュタイン　帝国主義論／レーニン　人間の絆／モーム
1916 大5	朝日新聞社／竹中　三井銀行大阪西支店・神戸支店／長野宇平治　大阪府立貿易館／府営繕　新大阪控訴院／山下・横浜 尼崎市制実施　大阪人口150万人		住宅改良会設立　台所設計コンペ実施　土木建設業組合成立　ライト来日　東京銀行集会所／横河　家屋耐震構造論／佐野利器　台銀東京支店山形県庁　山口県庁 憲政会発足　大隈首相襲撃さる　貧しき人々の群／宮本百合子	米総合用途地域制採用　タトリン構成的オブジェ発表　独鉄筋コンクリート標準仕様書公布　ラ・ショー・ド・フォン荘／コルブ　リヨン競技場／ガルニエ ヴェルダン・ソンムの戦　ポーランドの独立　ダダ起る　変身・判決／カフカ

1910～1916

1900—1903年の恐慌を経過して，資本主義が帝国主義段階に移行した時期に，近代建築は発展への歩を始める。

それ以前の建築運動は，過去様式からの離脱を目指し，工芸も含めた芸術運動であったが，近代工業へのアプローチを欠くという限界をもっていた。それから進んでこの時期の建築の問題は，建築家の扱った芸術的問題と，技術家のうけもった工学的問題をどのように結びつけるかが中心的な課題となった。ベーレンスは始めて，近代社会の象徴である工場建築にとり組んだが，そのA．E．G関係の電気製品，会社の包装紙，カタログ，パンフレットなども作りあげた。

ムテジウスを中心とするドイツ工作連盟は，1914年第一回展覧会を開催したが，そこにおいても，合理主義的な建築を追求し，美術と工芸の協力，量産の問題を追求した。出品作品として，その後の近代建築の発展に影響を与えた，グロピウスのドイツガスモーター工場，タウトのドイツガラス工業館がある。

当時，鉄筋コンクリート造を伸展させたフランスでは，トニイ・ガルニエが1903年から1913年の屠殺場において，鉄筋トラスを使用したり，鉄筋コンクリートの運動競技場を作ることによって，構造の合理性にもとずく単純なデザインを追求した。また，ペレー兄弟は，鉄筋コンクリートを石造の代用から解放し，コンクリート打放しを生み出した。

近代建築の基本的問題にとり組んでいたヨーロッパに対して，近代的な歩みを始めた日本の明治政府は，ヨーロッパ文化を強引な形で移植した。

コンドル，ウォートルスらを中心として移入された西洋建築は，ヨーロッパの建築界が克服しようとしていた歴史的様式であった。日清，日露戦争を通じて，日本資本主義が発展と膨張をとげる中で，建築教育の一応の成果が日本人建築家を生み出し，佐野利器の家屋耐震構造論に代表されるような構造学の発達があり，更に，日本の現実と建築との関係を考える姿勢を作り出した。1910年の議院建築をめぐる様式論争がその一つの現われである。伊東忠太，関野貞らによっていかにして日本的な様式を作り出すかが論議された。その作品的成果として，競技設計した橋本雅介の日清生命保険会社と，大江新太郎の明治神宮宝物殿があった。しかし，それらは不燃構造へ日本の社寺建築のディテールを外被とした建物であって，過去の様式の復活と折衷でしかなかった。1910年に入って，アール・ヌボーやゼゼッションがようやく日本にも紹介された。

しかし，ヨーロッパ社会における抵抗としての運動が，日本においては様式としてしかうけいれられなかった。

1915年に発表された野田俊彦の「建築非芸術論」は，構造学の発達と新材料の発達，一般的な建築への関心のたかまりを背景としていようが，彼は建築に装飾は不必要であり，「……それらの虚偽の美の無くなる時を理想としている。……」と主張した。岡田信一郎も「建築の根本義，すなわち，建築が建てられた目的に適い，実需要を満足したその上，美術的効果を発揮することが，主要な意義である」と主張したが，彼らの主張がそのまま正しい形で発展して行ったであろうか。



1．大正時代の大阪風景
通天閣（大正7年10月号）



2．大正時代の大阪風景　道頓堀（大正7年12月号）



3．大正時代の大阪風景　千日前（大正7年12月号）

年代	関　西（建築界・一般社会）	建築協会	日本（建築界・一般社会）	海外（建築界・一般社会）
1917 大6	明治火災保険神戸店／横河　日本郵船大阪支店／曽弥・中条　三越大阪支店西館／横河　旧京都市公会堂／市建築課　大阪高等裁判所／山下・横浜 渡辺節事務所開く　兵庫電気鉄道兵庫明石間全通　大阪都市計画調査会設置　大阪タクシー自動車㈱成立　西野田小公園・清水谷小公園・北野小公園開かる　神戸市電・電灯市営となる	3月30日協会創立（事務所片岡建築事所務内）災害委員会成立　関西建築協会雑誌発刊	衛生工業協会創立　小田原ホテル計画／ライト　東京日日新聞社／遠藤於菟　三菱21号館・古川邸／コンドル日清生命保険／佐藤・内藤開港記念横浜会館／山田・佐藤 関東関西風水害　金輸出禁止　二科に立体派　未来派の影響与える　父帰る／菊池寛	コルブ・オザンファンピューリズム提唱　ロシア構成主義抬頭デ・ステイル誌発刊　工業都市／ガルニエ　エール大学／ロジャーズ　聖ローレンス河の橋／クエベック 米州各参戦　ロシア革命起る　国家と革命／レーニン　西洋の没落／シュペングラー
1918 大7	大阪市中央公会堂／辰野・片岡　日本郵船神戸支店／曽弥・中条　古河ビル／河合　三井二号館／横河　神戸商船学校／文部省　三井物産神戸支店／河合　旧十合呉服店／竹中　勧業銀行神戸支店　キリンビール尼崎工場建設 米騒動起る　神戸焼打事件　大阪工業試験所創立　大阪電気軌道の生駒山鋼索鉄道開業　京都電車市営となる　京都市区改正委員会設置	第1回大会通俗講演会／都市住宅問題（関）　大阪市区改正について（片岡安）・デモクラシーと建築（佐野利器）・大阪港の将来（直木倫太郎）　第1回懸賞図案募集（雑誌表紙）	内務省に都市計画調査委員会設置さる　住宅改良会主催台所設計図コンペ　東京海上ビル／曽弥・中条　東京日日新聞社／遠藤　銀座映画館計画／ライト　白木屋／木田 シベリア出兵　米騒動　赤い鳥発刊　田園の憂うつ／佐藤春夫　聖者の死／村上華岳　湯女／土田麦僊　焔／上村松園	ハリディビルの総ガラスカーテンウォール出現　アブラムスの水セメント比説　ヘルシンキ都市計画／サーリネン　フィラデルフィア都市計画／クレーパー 第一次大戦終結　ドイツ革命起る　プロレタリアートの独裁／カウッキー　首飾りをつけたヴィナス／マイヨール
1919 大8	横浜正金銀行神戸支店／長野　十五ビル／片岡　内田ビル／設楽　三井銀行神戸支店・神戸十合ビル／片岡　大阪市民博物館　三井物産神戸支店／河合　大阪大紙クラブ 大阪幹線道路計画　神戸街路新設拡張　神戸国道起工　阪神急行電鉄創立　明石市制実施　大阪市長屋及共同宿泊所経営　土地住宅経営始まる	日本建築協会と改称　会誌を「日本建築協会雑誌」と改題　片岡安／東京大改造論発表	市街地建築物法・都市計画法公布　日本土木建築業者連合会　台湾総督府／長野　如水会館／曽弥・中条　岩井商店横浜支店／清水　三菱2号館／三菱地所　国会議事堂コンペ／渡辺福三 国粋会発足　労働争議頻発　野口秀世黄熱病原体発見　第一回帝展　或る女／有島武郎	ワイマールバウハウス設立　エスプリヌボー誌発刊　タウトアルペン建築発刊　第三インター記念塔／タトリン　ベルリン大劇場改築／ペルツイヒ　小学校／デュドック パリ平和会議　ヴェルサイユ講和条約調印　ワイマール憲法制定　パリ・ケルンでダダ運動活発化　デミアン／ヘッセ
1920 大9	日本興業銀行大阪支店／長野　三井物産貸事務所／横河　大阪角座／岡部　神戸海洋気象台／渡辺広岡邸／ヴォーリス　雲中小学校／初のR.C.校舎　藤木ビルブローカー銀行／竹中　大阪税関庁舎／大蔵省　神戸川崎銀行本店／片岡　旧神戸取引所／原田正　大阪神田ビル／渡辺　中の島ビル 大阪市区改造計画　神戸海洋気象台設立　阪急神戸・伊丹線開通	会誌を「建築と社会」と改題　市街地建築物法に関する講演会　第一回講習会／古代埃及の文化と建築（佐藤四郎）　大倭時代の文化と建築（置塩章）　改良住宅設計展覧会　生活改造博覧会	分離派建築会発足　京大建築科設置　組立家屋輸入　明治神宮／伊東・大江　日本工業クラブ／横河　東京区裁判所／山下・横浜・後藤　三菱仲12号館／三菱地所 経済恐慌　日本社会主義同盟結成　第一回メーデー　アララギ発刊　資本論完訳／高昌素之	モンドリアン新造形主義　ロッテルダムテュッシェンディゲン／アウト　アインシュタイン塔／メンデルゾーン 国際連盟第一回総回　ラザフォード中性子存在予告　ピカソ新古典時代　世界文化史大系／ウエルズ　阿Q正伝／魯迅　恋する女たち／ローレンス
1921 大10	大阪市庁舎／市建築部　明海ビル／竹中（汚水浄化槽使用）　大江ビル・丸善大阪支店／葛野　神戸市図書館／竹中　住友ビル／本社工作部　大阪グランドパレス／設楽　白木屋大阪支店／清水　野村北浜ビル／竹中　大丸／ヴォーリス　梅田ビル　淡路町ビル　阪上ビル　岡橋貸事務所　安土町ビル 大軌西大寺郡山間開通　奈良上水道給水開始　大阪第一次都市計画事業着手	事務所移転5月京町堀　不動貯蓄ビル　9月絹笠町大江ビル　法制委員会成立／道路使用に関する件討議　材料委員会成立　建築材料規格統一宣伝講演会／度量衡規格統一について（佐藤功一）・煉瓦について（大熊喜邦）	東京市都市計画構想　建築材料連合調査会　木材及び煉瓦寸法規格統一原案作成　自由学園／ライト・遠藤　日本倶楽部／田辺淳吉　第一生命保険会社／辰野・葛西　住友銀行東京支店／住友営繕 原首相暗殺さる　学術会議設立　総同盟成立　ＪＩＳ制定　麗子像／岸田劉生　暗夜行路／直哉	グループG結成　鉄とガラスの摩天楼案／ローエ　ヒルベルシュムの浴場／デュドック　皇の教会案／バルトニング ワシントン軍縮会議　ドイツナチス党結成　ソ連ネップ発表　デュシャン・マン・レイらによりニューヨーク・ダダ誌発刊　海辺の墓地／ヴァレリ
1922 大11	大阪毎日新聞社／片岡　日本海上保険㈱／横浜長堀高島屋／岡田　神戸中央教会堂／曽弥・中条　大阪銀行集会所／片岡　大阪日本信託銀行・大阪商船ビル／渡辺　兵庫県会事議室／県営繕　京都七条郵便局／逓信省　芦屋山邑邸／ライト 阪急阪神南海沿線分譲住宅地開発　大阪神戸都市計画区域決定　京都防火地区指定　岸和田市市制実施　新世界開かる　分離派第一回関西展　小津小公園開かる　堺四国間定期航空開始	法制委／建築工事請負契約及規定草案に関する件討議　桜ケ丘住宅改造博覧会　第二回懸賞募集／改良住宅設計案　会誌特集／大正建築	平和記念博で分離派活躍　架構建築耐震構造論／内藤　日本の民家／今和次郎　帝国ホテル／ライト　三菱銀行本店／桜井　新橋演舞場／片岡　日本石油有楽館／曽弥・中条　東京会館／清水　平和博会場／堀口 第一次共産党組織　健康保健法公布　ラジオ放送試験	映画館で初めての空調　R.C.造による初めてのプレハブ住宅　トリビューン社屋コンペ／レイモンド　パリ300万人のための都市計画／コルブ　学校／デュドック　商店街／アウト ワシントン条約　九カ国・四カ国条約　国際司法裁判所開設　チボー家の人々／マルタン・デュガール

1917～1922

1914年に始まった第一次大戦は，1918年に一応終結した。近代の産業と科学の総力戦は，ヨーロッパ文明に大きな影響を与えた。機械文明のオプティミズムとペシミズムの中で，大戦前の萌芽が花ひらいた。立体派，未来派，表現派，構成派，ダダなどである。ワイマール憲法下の自由な西欧と，盛り上るロシア革命を社会的背景として，共通の視覚言語を摸索する芸術と建築の協働時代が始まる。

表現主義は敗戦の悲惨な国ドイツ，オーストリアに起っている。それは映画・文学・絵画を含めた芸術運動であるが，特にカンデンスキーやアルキペンコは建築に影響を与えた。代表的な作品として，タトリンの第三インター記念塔，ペルツィヒのベルリン大劇場改築，メンデルゾーンのアインシュタイン塔などがある。それらは感情的な主観強調の建築であった。

立体派の作り出した分析的な視覚言語を基盤とする構成主義は，様々な国で，様々な形で発展した。オランダにおいて，モンドリアン，デスブルヒらの新造形主義デ・ステイル派の運動があり，フランスにおいては，オザンファン，コルブらの純粋主義の運動があった。ソ連構成主義はマーレウィッチやシュプレマティズムの影響のもとに，革命後のソ連で活動を始め，旧社会の古典的様式を否定して，新しい社会の姿を表わそうとした。しかし，ロマンティック過ぎたり，象徴的過ぎたり，形式的過ぎたりした。

1919年，グロピウスの指導のもとに国立バウハウス・ワイマールが創立された。そこで機械生産と手工芸品との関連性，建築教育の問題などが追求された。

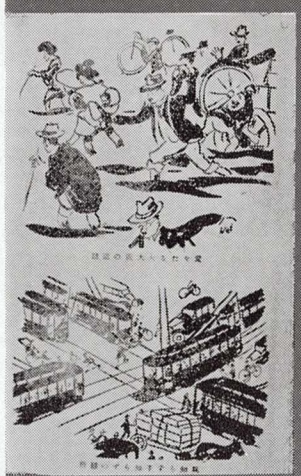
日本では第一次大戦は好況と共に安定的な状況を作り出した。日本の支配体制にとっては，中国侵略の時期であり，市民にとっては，大正デモクラシーの花ひらいた時であった。米騒動，労働争議の頻発という底辺での矛盾の深刻化を内包しながらも，資本主義の象徴でもある高層ビルの建築が始まった。内田の海上ビル，竹中の明海ビル，震災で一時中止されたが，フーラー社と技術提携した三菱地所の丸ビルなどが建設された。それは日本における大規模，多数の土建業者の成立，建築設計事務所の成立と，鉄・ガラス・セメントの大量生産の確立，内藤博士の架構建築耐震構造論に代表される構造学の発展を背景にしていよう。この頃来日したライトは，帝国ホテルを代表的なものとして，自由学園，小田原ホテル計画案，銀座映画計画案などを発表した。ライトを継ぐものとして，遠藤新・レイモンドらがあるが，やはり日本においてもライトは弧高であった。

分離派運動は日本における本格的モダンムーヴメントであった。1920年，東大の卒業生石本・堀口・滝沢・矢田・山田・森田らが過去様式からの分離を宣言した。「われわれは起つ。過去建築園より分離し，総ての建築をしてそれに意義あらしめる新建築を創造せんがために。……」しかし，展覧会などを通して発表された作品をみれば，この運動はゼゼッションの思想をもち，表現主義の様式をもった運動であるということができる。そのままの形では日本の社会にうけいれられなかったが，その後の建築運動に刺激を与えた。

1919年，市街地建築物法及都市計画法が公布され，本格的な建築行政の基礎が固められた。



4．建築協会役員顔写真（大正11年１月号）
中央：片岡安　左下より：池田実、葛野壮一郎、横浜勉、吉井長七、吉木久吉、波江悌夫、小笠原祥光、松本禹象、平井三郎、瀬戸文吾(右下)





5．桜ヶ丘住宅改造博覧会（大正11年９～12月号）

6．交通漫画―大正時代の交通難（大正９年10月号）

■日本建築協会の歩み・1917～22（大正６年～大正11年）

大正初期より、近畿在住の建築家有志約20名がつくっていた「オキナ会」を母体として、大正６年「関西建築協会」が発足した。片岡安、波江悌夫氏等５人が創立委員となり、大正６年３月30日に創立総会（出席者39名）をもって出発したものである。事務所は、片岡建築事務所におき、「関西建築協会雑誌」を発刊し、建築の社会的役割と責任を自覚して、講演会などによる啓蒙活動や、委員会単位の調査研究活動がなされた。たとえば第１回通俗講演会は竣工間もない中之島中央公会堂で開催し、聴衆2000名に多大の感銘を与えた。更に当初から都市計画に深い関心を示し、法制への大きな力となった。大正８年に日本建築協会と改称、会誌も「日本建築協会雑誌」と改題したが、大正９年にその会誌を「建築と社会」と改題し、名実ともに、建築を通じて社会啓蒙する精神のもとに活動した。

初期の大きな事業として、桜ヶ丘の「住宅改造博覧会」がある。これは日本住宅展の嚆矢でもあり、建築費だけで、5000円～２万円の高級住宅25戸を建設し、広く一般に住宅の近代化、西洋化に影響を与えた。

会員数は大正６年末の74名から、数年後には1000名を突破した。

年代	関　西（建築界・一般社会）	建築協会	日　本（建築界・一般社会）	海　外（建築界・一般社会）
1923 大12	神戸市公会堂コンペ／前田・岡田　大阪府庁舎コンペ／平林・岡本　三井物産大阪支店／横河　東本願寺内待所／武田　松竹座／大林　堂島ビル／竹中　甲南高校／宗　大阪三品取引所／片岡　神戸栄光教会／難波 大阪神戸防火地区指定　堺市都市計画発足　桜宮公園開かる　阪急新千里山線開通　大阪電気事業市営とする	事務所移転堂島ビル三階　法制委／請負契約案連合調査会報告審議　都市計画委員会発足／帝都復興案検討　満鮮視察（波江）　第2回京都家庭博に住宅模型及懸賞図案陳列	大震災後帝都復興院設置　創宇社結成　国産スチールサッシュ使用　都市計画論議さる　丸の内ビル／三菱地所　日本郵船ビル／曽弥・中条　東大工学部講堂／内田　レーモンド邸 関東大震災　大杉栄ら社会主義者　韓国人逆殺される	バウハウス芸術と技術の統合を追求　R.C.シャーレ試作　コルブ「新建築」へ発刊　ストックホルム市庁舎／エストベリ　ロッシュ邸／コルブ　帽子工場／メンデルゾーン　ノートルダム／ペレー・ランシー 革命の根本問題／トロッキー　睡蓮／モネ　山師トマ／コクト
1924 大13	淀屋橋・大江橋コンペ　野村ビル／片岡　大阪クラブ安井・片岡　甲子園野球場／大林　京都銀行集会所／武田　日本生命大阪支店／佐藤　鴻池ビル／長野　十五銀行京都支店／片岡　神戸湊川音楽堂／市営繕　宝塚大劇場／竹中　京都大丸二期／ヴォーリス　東洋信託銀行大阪支店／長野 戎橋R.C.様式　大阪下水道改良　大阪市青バス開通　近鉄大阪線上本町八尾間開通	都計委／京都都市計画参考資料図研究の件　春季大会通俗講演会／日本における住宅の変遷とその将来（武田五一）　連合通俗講演会／婦人の立場よりみる住宅教化委員会発足	同潤会設立　建築学会構造強度計算基準設定　セメント連合会設立　帝都復興創案展　歌舞伎座／岡田　丸ノ内ホテル／小笹　東洋文庫／桜井小太郎　邦楽座／片岡・松井 小作調停法・メートル法公布　伸子／宮本百合子　痴人の愛／谷崎　夕風／芋銭	ワイマールバウハウス閉鎖　ポルトランドセメント開発　テッシンの倉庫／マイヤール　レーニン廟／シュチュウセフ　オルレリーの飛行船格納庫／E.フレシネー 英第一次労働党内閣成立　シュールレアリズム宣言／A.ブルトン　魔の山／T.マン
1925 大14	大同生命ビル／ヴォーリス　都ホテル／片岡　京大楽友会館／森田　大平ビル／吉武　京大本館／武田　川西神戸倉庫・大阪ビル／渡辺　大阪商工会議所／片岡　松坂屋大阪支店・明治銀行京都支店／鈴木　三菱銀行京都支店／桜井　神戸税関港務部総合庁舎／県営繕　安宅商会／小笠原 神戸摩耶ケーブル完成　西宮市市制実施　大阪市人口211万我国第一位　奈良バス営業開始	大阪記念博覧会　震災通俗講演会／北担地方の震災視察団（世川憲太）　神戸納涼博覧会（神戸新聞主催）改良住宅模型及図案出品　構造計算調査委員会発足	東大地震研究所設置　新建築・国際建築事論創刊　新橋演舞場／菅原　東京中央郵便局／内藤・山田　東大講堂／内田・岸田　山田市庁舎／蔵田　長崎浦上天主堂完成 普通選挙法・治安維持法公布　プロレタリア文芸同盟結成	デッサウバウハウス成立　ソ連O.C.A結成　パリ市区改革プラン・エスプリ　ヌーボー館／コルブ　グランブルック美術学校／E.サーリネン　聖テレーズ教会／ペレー ソ連スターリン政権確立　イルド・フランス／マイヨール
1926 大15	第一銀行大阪支店／西村　日本銀行／長野　江商ビル／設楽　伊藤邸／大倉　宝塚ホテル／古塚　京町堀ビル／岡部　大林組社屋／大林　阪急天六ビル・日本勧業銀行／渡辺節　不動産貯金銀行大阪西支店／関根　住友ビル／住友合資工作部　朝日会館／竹中　大阪YMCA会館／ヴォーリス 京都土地区画整備　阪急甲子園線開通　あやめケ池遊園地開園　神戸自動交換電話となる	協会社団法人認可される　事務所移転中之島江商ビル　会誌特集／オフィスビル・近世劇場構成・米国建築界の紹介	帝都復興法公布　圧延鋼規格設定　日本建築士誌発刊　東京府美術館／岡田　青山アパート／同潤会　紫烟荘／堀口　明治神宮外苑絵画館／高橋 労働党結成　京大事件　ネオン現る　文芸家協会設立　からたちの花／白秋　伊豆の踊子／川端	建築にアルミ使用　独ジードルンク建設　メンデルゾーン「アメリカ」発刊　デツサウバウハウスと教授用住宅／グロピウス記念碑／ミース　聖家族協会／ガウディ アムンゼン北極横断　エコールド・パリ全盛　点・線・面／カンディンスキー　城／カフカ
1927 昭2	横浜正銀大阪支店／渡辺　先斗町歌舞練場／木村得三郎　京都市庁舎／市営繕　阪大医学部／府営繕　神戸三越／横河　大同病院／竹中　大阪中央電信局／逓信省　川崎銀行大阪西支店／同行建築部　第一銀行大阪支店／同行建築掛　祇園閣／伊東忠太　京都ホテル／清水組　美津野／岡部 大阪市営バス運行開始　阪神国道開通　京都蹴上浄水場第一期拡張事業　北丹地震	事務所移転土佐堀大同ビル　地震と建築通俗講演会／丹後地方震火災実地踏査報告（増田清）　会誌特集／震災特集　庭園と建築特集	不良住宅地区改良法公布　日本インターナショナル建築会設立　代官山アパート／同潤会　華族会館／中条・曽弥　大倉集古館／伊東　東京朝日新聞社／石本 南京事件　第一次山東出兵　前衛芸術家同盟成立　岩波文庫発刊　河童・歯車／芥川竜之介	ストットガルドワイセンホフジードルンク建設　連盟会館コンペ・ガルシェの別荘／コルブ　建康住宅／ノイトラ　工業生産住宅／フーラー　ストックホルム市図書館／アスプルンド リンドバーク太西洋横断成功
1928 昭3	大阪北野病院／森田　神戸ユニオン教会／ヴォーリス　京都日々新聞社／白路社　大阪鉄道局／鉄道省　多聞ビル／古塚　三菱銀行三宮支店／三菱地所　日本勧銀京都支店及び神戸支店・東京銀行大阪支店／渡辺　京都会館／清水組　安治川サイロ／大阪市港湾局　大阪鮮満案内所／安井 総合大阪都市計画なる　大阪駅前広場計画　神戸市乗合バス営業開始　神戸諏訪山動物園開園	法制委／都市計画実施方法並計画について・建築士法案について・美観地区・風致地区指定促進について　建築知識普及展覧会／災害とその予防・住宅と庭園など	パリに日本学生寄宿舎たつ　日本橋白木屋／石本　東大図書館／内田・岸田　徳川公爵邸／中条　資生堂／前田健次郎　神奈川県庁舎／佐野　学士会館／佐野・高橋　東京中央郵便局 赤旗発行　3.15事件　プロレタリア文学盛ん　放浪記／林	CIAM結成　グロピウスバウハウスを去る　プレストレストコンクリート発明　モスクワ市電従業員クラブ／メルニコフ　最小限住宅／E.マイリヨンの住宅団地／T.ガルニエ パリ不戦条約　ペニシリン発見　征服者／マルロー
1929 昭4	大阪阪急ビル第一期／竹中　日赤大阪支部病棟・関西学院／ヴォーリス　南座／白波瀬　神戸商工会議所／古宇田明　大阪モリビル／片岡・石本　曽根崎警察／大阪府　花山天文台／京大　神戸ダンロップ工場／レーモンド　神戸モダン寺／葛西 村野事務所開かる　阪和線天王寺・和泉府中間開通　御堂筋着工　表六甲ドライブウエイ完成　堂島川可動堰完成　橿原神宮・大阪間電車開通	法制委／劇場取締検討・労働者扶助法案作成の件検討　住宅委員会発足　貸家建築展覧会　生活改善展覧会（滋賀県社会科主催）	国宝保存法公布　建築研究創刊　名古屋市庁舎コンペ／平林金吾　ニコライ堂再建／岡田　日比谷公会堂／佐藤功一　小菅刑務所／司法省　上野松坂屋／鈴木 共産党大検挙　山本宣治暗殺　民間航空開始　プロレタリア美術家同盟結成　夜あけ前／島崎	CIAM第2回総会　アルジェ計画／コルブ　パイミオサナトリウム／アアルト　フランクフルトジードルンク／マイ　バルセロナパビリオン／ミース 世界大恐慌　ニューヨーク近代美術館開館　武器よさらば／ヘミングウエイ　女の学校／ジイド

1923～1929

第一次大戦がもたらした相対的安定期が崩れはじめ，社会の激動が始まるこの時期において，様々な文化的展開があった。ダダからシュールへの絵画運動や実存主義文学，彫刻においてはマイヨール・ブランクージらの活躍があった。中性子の予言，量子力学の発展等原子物理学の発展があった。

建築における成果は，20世紀の初めより追求されて来た近代建築へのアプローチを決定的なものとし，さらに以後工業力を背景とした爆発的な昂揚を，理論的にも技術的にも準備するものであった。

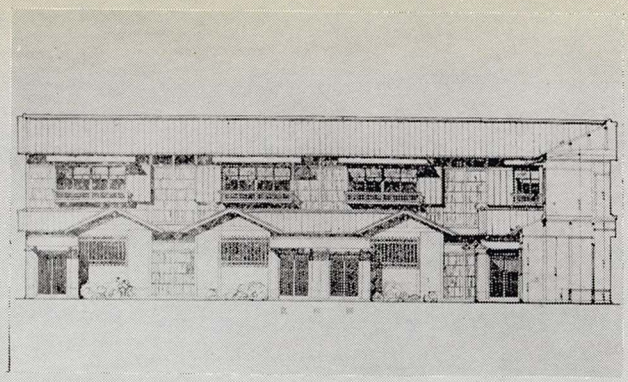
実験的に試みられた鉄筋コンクリート造，鉄骨造が一般に普及し，スラブ・シェル・プレキャストなど新しい分野が開発され，曲面理論が研究された。バウハウス・ワイマールはファッショ内閣の圧迫と経済的困難等により解散し，1926年グロピウスによる新校舎の完成と同時にバウハウス・デッサウが開校された。新校舎はカンティレバー・カーテンウォールなどの近代デザインの手法を用いている。ここでグロピウスらは，機能とデザインの問題，工業生産の問題を通して，国際建築運動を推進した。国際建築という理念は工業技術の進歩を背景としていようが，国際連盟に代表されるような国際協調が想起される。その意味で連盟会館コンペは象徴的であった。

1928年国際近代建築会議（ＣＩＡＭ）がスイスで結成され，第一回総会により「ラ・サラ宣言」が出された。以後第二回は「生活最少限住宅」にとり組まれ，第三回は「配置の合理的方法」第四回は「機能都市」が追求された。しかし，その後の現実的な建築運動の展開において，地方のもつ自然的・歴史的・生産的条件の中でＣＩＡＭのもつ抽象性は否定されていった。この間の建築運動を指導した人として，住宅生産の工業化・規格化を追求したローエ，建築の単純化を追求したアウト，いわゆる五原則を提唱したコルブ，理論的追求をしたギーディオン等があげられる。1927年ドイツ工作連盟のワイゼンホフ住宅展は，戦後の荒廃した土地に建設されたジードルンクを指導するものであった。

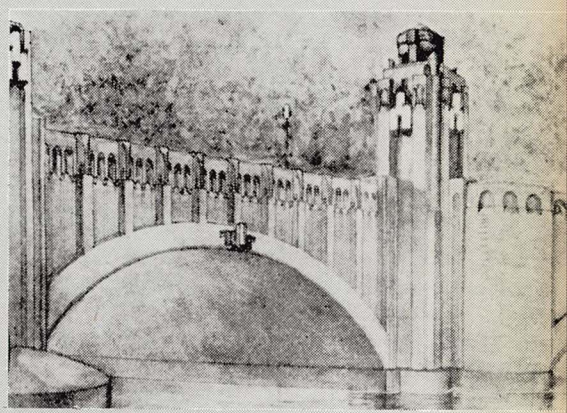
1923年関東大震災がおこり，この震災を契機として，近代建築材料による耐震，耐火建築の要求，大量な住宅要求，都市計画への要求が進められた。住宅要求に対しては，同潤会が発足し，本格的なアパート建設が始まった。1927年不良住宅地区改良法が公布され，東京，大阪，神戸，名古屋などに改良住宅の建設が始まった。都市計画においては，諸外国の様々な都市計画理論が移入されたが，区画整理のみ進行した。

近代的設計組織は，官公庁の営繕課において出来上った。山田・吉田らの逓信省，小学校建築の東京市，各所の停車場建築の鉄道省などである。

1927年に金融恐慌，1929年世界恐慌を迎えたが，その中で普通選挙法実施，赤旗創刊，ナップ結成という革新的な雰囲気が盛り上り，様々の建築運動が展開された。創宇社は帝大出身者達による分離派とは異なり，逓信省営繕課における中層の技術者の自己の階級的立場に立脚したものであった。近代建築の機械的・構造的合理主義を要認しつつも，社会的合理主義の欠如している点を指摘し，社会主義へのアプローチを示すものであった。その他，日本インターナショナル建築会などが起った。



7．貸家住宅コンペ当選図　（昭和４年７月号）



8．大阪大江橋コンペ当選図（大正13年11月号）



9．御堂筋拡巾、高麗橋附近（昭和４年12月号）



10．北但地震
（昭和２年４月号）

■日本建築協会の歩み・1923～29（大正12年～昭和４年）

関東大震災は様々な影響を日本に与えたが、協会においてもその例外ではなかった。会誌で震災特集を出し、震災と建築及び都市計画の問題について研究する一方、通俗講演会を通じて啓蒙活動を行なった。北但地方の地震に際しては、視察団を送って、実情調査の報告を行なった。住宅委員会では、昭和３年頃に吉村邸の調査を行ない、その後国宝に指定される先べんをつけた。

産業の発達、交通機関の発達などにより、大阪市も人口集中が始った。大阪では、古くから発達していた借屋への要求増大の気運を背景として、協会主催の貸屋建築展覧会が開かれた。都市計画委員会においては、都市復興に関する建議案などを作成した。

この間、協会の事務所は、大江ビル、堂島ビル、江商ビル、大同ビルにつぎつぎと移転した。

年代	関　西（建築界・一般社会）	建築協会	日本（建築界・一般社会）	海外（建築界・一般社会）
1930 昭5	甲子園ホテル／遠藤　南海ビル／久野節　日本生命一号館／片岡・石本　三菱商事大阪支店／三菱地所　キリンビール神崎工場／曽弥・中条　大阪桃山病院／市建築課　下寺町改良集合住宅／浅沼　住友ビル／住友建築部　南大阪教会／村野　京都市美術館コンペ／前田健二郎　桜橋／市土木部 大阪地下鉄着工　生駒一王寺間電車開通　東京・神戸間超特急つばめ運転開始　京都風致地区指定	法制委／六大都市病院規則研究・建築物の高さに関する研究　住宅委／メートル法か尺法かの検討　震火災と建築大講演会　婦人と住宅に関する展覧会　産業合理化展	新興建築家連盟結成　創宇社解散　ノイトラ来日　ウクライナ劇場コンペ／川喜田　日本生命館コンペ／高橋　東京海上ビル／曽弥・中条　ソ連大使館／レーモンド 農村危機深刻　清水トンネル開通　日本初のアンデパンダン展	ＣＩＡＭ第３回　英テクトン結成　伊ＭＩＡＲ結成　組立住宅／グロピウス　輝く都市・スイス学生会館／コルブ　クライスラービル／アレン ロンドン軍縮会議　ガンジー反英運動　米サイクロトン発明　米機械冷房普及始まる
1931 昭6	大阪朝日ビル／石川　国産ターボ冷凍機・自家発電機・中央監視盤設備　安田ビル／渡辺　阪急ビル二期／竹中　綿業会館／渡辺　三井銀行船場支店・川口支店／トロブリッチ・エンド・リビングストン　新神戸駅鉄道省　大阪城天主閣復興／市建築課　三井銀行船場支店／竹中　大阪劇場／八木盛二　神戸新川改良住宅着手 円山公園文化保護法にもとづき名勝地指定　参宮急行電鉄大阪一宇治山田間全通　大阪城公園開園　奈良市都市計画地区決定　大阪大学創立	法制委／土地区画整理組合・公園存置の件　住宅委／住宅材料などの研究　香里園改善住宅博共催　神戸鈴蘭台生活改善住宅展　緑ケ丘大美野住宅博覧会懸賞入選図案展	全国建築士会建築競技執行規準　森五ビル／村野　アメリカ大使館／レーモンド　虎屋商店／岡田　軽井沢教会／レーモンド　東京株式取引所／横河　白木屋第二期／石本 満州事変勃発　重要産業統制法公布　日本農民党・全国労働党結成　つゆのあとさき／荷風	デ・スティール解散　ソヴェトパレスコンペ／ヨーファン　エンパイヤステートビル／シュレヴ　ハーモン　ネブら　サヴォイ邸／コルブ　ヒルベルスム市庁舎／デュドック　フランクフルト労組／Ｍ．タウト 恐慌拡大深化　スペイン革命　合成ゴム発明　モビール
1932 昭7	大阪日本放送協会局舎コンペ／渡辺仁　淀屋橋ビル／竹中　大阪パンション／村野　大阪歌舞伎座／大林　神戸基督教会／原科　神戸生絲検査所／置塩章　南海鉄道難波本社／久野　山陽中央電気飾磨発電所／竹中　大阪日本綿業会館／渡辺節　大阪公楽座／池田　京都洛東アパート／土浦亀城　神戸ゴルフクラブ／ヴォーリス　光徳寺／竹中 城東線高架　六甲ケーブル開業　尾町線運転開始	事務所移転朝日ビル　法制委／耐火構造家屋税率に関する意見書検討　住宅委／実用小住宅誌発刊　15周年記念緑ケ丘保健住宅博　大美野田園都市住宅博　住みよい家の展覧会　通俗大講演会　協会マーク制定	日本青年建築家連盟結成　日本第一生命本社コンペ・服部時計店／渡辺　聖ロカ病院・東京ゴルフクラブハウス／レーモンド　お茶の水駅／伊藤滋 上海事変勃発　満州建国　日本橋白木屋火災　5.15事件　進歩勢力への弾圧強まる	バスハウス閉鎖　ニューヨークで近代国際建築展　ライトのタリアセン工房成立　合板家具／アアルト　ベルタ競技場／ネルヴィ　ファシスト記念博覧会ホール／Ｊ．テラーニ 独ナチス第一党　ローザンヌ賠償会議開かれた処女地
1933 昭8	大阪ガスビル／安井（ガスボイラー採用）　大阪三井ビル／高橋貞太郎　伊藤万ビル／小笠原　神戸阪神ビル／久野　大劇／八木　国民会館／岡田　御影公会堂／清水　地下鉄淀屋橋駅／大阪市建設局　野村証券大阪支店／安井　鐘淵紡績淀川工場／横河　三津寺庫裡／今林　京都市美術館／前田　兵庫県警察本部 大阪地下鉄梅田・心斎橋間開通　城東線電化　神戸第一回みなと祭　京阪・神明国道開通	設備委員会発足　法制委／市街地建築物法改正の件討議　都計委／大阪駅前整理事業について　千里山住宅博　上野芝住宅博　瑞光住宅博　新興建築講演会（ブルーノタウト他）／朝日会館	青年建築家クラブ結成　グロピウス来日　デザム解散　日劇／渡辺仁　フランス大使館／レーモンド　日本歯科医専付属病院／岡村蚊象　明治ビル／阿部・渡辺　支那文化東京研究所／内田　名古屋市庁舎 国連脱退　丹那トンネル開通	ＣＩＡＭ第４回　独建築家亡命　金門橋・シュバントバッハ橋／マイヤール　アルジェラスのマーケットホール／トロハ 独ヒットラー内閣成立　米ＴＶＡ発足　ナチスの焚書事件　社会主義レアリズム論議起る　人間の条件／マルロー
1934 昭9	奈般駅・琵琶湖ホテル／岡田　京都文化研究所／村野　甲南病院／木下　日赤京都支部病院／武田　神戸聚楽館／木村組　白鶴美術館／竹中　神戸女学院・大阪大丸三期／ヴォーリス　尼崎関西共同火力発電所／横河　天神橋／市土木局　新大阪ホテル（国産バス使用）・KK辻久商店／竹腰 関西室戸台風風水害　吹田・明石間電化開通　大阪左官組合結成	法制委／建築代願人取締規則研究　都計委／函館大火復興に対する建議　都市武装委員会発足　室生寺に関する講演会　函館市大火視察講演会　大空への武装展覧会	日本建材協会創立　法隆寺国宝保存昭和大修理始まる　東京市庁舎コンペ／宮地二郎　築地本願寺／伊東忠太　東京中郵／吉田鉄郎　江戸川アパート／同潤会　軍人会館／伊東川元 芥川賞・直木賞創設　プロレタリア文化運動解散　函館大火	ハーグ美術館／ベルラーヘ　英ＭＡＲＡ結成　ベラヴィスタ団地／ヤコブセン　典板の力学／フリューゲ　弾性体の力学／チモシェンコ　ロンドン動物園ペンギンプール／テクトン　ユメニアンハウス キュリー夫人人工放射能発見　闘牛の連作／ピカソ
1935 昭10	大阪十合百貨店／村野　京都朝日会館／石川　藤井大丸／上田　大阪株式取引所／長谷部・竹腰　神戸川崎病院／木下　帝塚山学院／岡部　大阪教育塔コンペ／島川精　京都宝塚劇場・神戸武藤山治記念館／竹中　横浜正金銀行神戸支店／桜井　京都醍醐宝聚院／大江 須磨浦公園開園　船岡公園開園　大阪地下鉄心斎橋・難波間完成　阪神三宮地下道完成	法制委／市街地建築物法について　住宅委／私室及特殊住宅街について　武装委／防火・避難施設について	熔接構造物標準示方書出る　東京映画劇場／清水　雲仙観光ホテル／竹中　府中刑務所　有楽座／阿部　富山県庁舎／大能喜那　宮内省　乾式構造／前川 天皇機関説問題化　湯川秀樹の中間子理論　転向文学流行　桜島朝暉／梅原　蒼珉／石川	Ａ．Ｅ．コンクリート開発　ハイポイントアパート／テクトン　円型校舎／ノイトラ　ブラジル教育保健省舎コンペ・ヴィプリ図書館／アアルト　マドリッド競技場／トロハ 独再軍備宣言　伊エチオピア出兵　コミンテルン世界大会
1936 昭11	神戸市公会堂第二回コンペ／武田　大阪中央放送局／渡辺仁　関西日仏学館／木子七郎　大阪市立美術館／市建築課　西宮野球場／中尾　京都都ホテル／村野　大阪博愛社礼拝堂／ヴォーリス　京都丸物／渡辺節　大阪共同ビル／曽弥・中条　大阪市立桃山病院／市建築部 豊中市制実施　阪急三宮乗入れ　奈良天辻トンネル開通　吉野熊野国立公園指定	協会誌にタウト寄稿　法制委／防火防空建築物普及の件　武装委／防火地区完成促進の件　大阪における特殊建築物規則に関する講演会（神戸にても開催）	パリ万博日本館計画／前川　日本工作文化連盟発足　国会議事堂／営繕管財局　東京中央放送局／山下　慶応予科寄宿舎／谷口満鉄東京支社／安井 2.26事件　日独防共協定　国策会社統出　共同通信社発足　シュルレアリズム紹介される	第一回木材会議にて木造のジベル接合　膠着接合注目さる　落水荘／ライト　自邸／アアルト　ブリストルの展示住宅／ブロイヤー・アルヴェ橋／マイヤール　党の家／Ｊ．テラーニ 仏人民戦線成立　ベルリンオリンピック　内乱の予感／ダリ

1930～1936

1929年に始った大恐慌は，全世界を不況におとしいれた。連盟を中心とする国際協調ムードは破れ，各国は自国の経済的混乱を救うため，自国中心の強力な政策を押し進めた。

ＣＩＡＭを中心とする近代建築運動は，1920年代の資本主義の相対的安定期の中で，工業技術の合理性と社会経済的合理性を矛盾なく存在させていたが，1930年代以後の情勢の変化の中で，その欠陥が指摘されていった。近代建築運動の世界的浸透は，英国において，着実な形で伝統的建築をのりこえ，近代建築が定着していった。1932年バウハウスの閉鎖と共にグロピウスらは英国にわたり，ＭＡＲＳが結成される。ペンギンプールやハイポイントアパートを生み出した設計集団テクトンの活動があった。イタリアにおいてはファッショ政権が近代建築を擁護し，スイスではマイヤール，ブラジルではニイマイヤーの活動があった。この頃アメリカは折衷主義建築から，高い工業技術と工業生産に裏うちされた大規模な高層近代建築，エンパイヤー・ステートビル，ロックフェラービルなどが建てられ始めた。

一連の近代建築運動に対立するものが二つあった。それは，ライト・アアルトらの地方性や，伝統性とのかかわりを考えた有機主義の建築である。もう一つは，ソ連の社会主義レアリズムの建築である。1925年，スターリンが政権を確立すると，構成主義の建築は近代主義として排せられ，古典的・バロック的な建築が社会主義レアリズムの建築として抬頭して来た。それはソ連の工業生産の低さと民衆の意識の低さに追随したものでもあったが，一面近代主義の建築が見失なっていた建築の記念性の問題を浮び上らせた。

第二次大戦へと突っ走る世界情勢の中で，1931年満州事変，1932年上海事変，1933年連盟脱退という日本の地すべり的ファッショ化の中で，日本の建築界も右に左にゆれ動いた。新興建築家連盟の結成，分離派，創宇社の解散の後にひきつづき，日本青年建築家連盟，青年建築家クラブ，日本文化工作連盟等が発足した。しかし，それらの運動は日本の軍国主義体制の中で弾圧され，解散させられてしまった。その他アイシーオールやデザムの発刊などの活動もあった。それら一連の建築界の動きは，1920年代のヨーロッパ社会が提出した建築の種々の問題につづくものであった。更にこの当時の具体的な作品として，山田守・吉田らを中心とする逓信省関係建築，伊藤滋のお茶の水駅，山口文象の日本歯科大学，村野藤吾の十合百貨店がある。

この頃，法隆寺の修理が始まり，ブルノー・タウト夫妻の来日があり，日本の伝統建築が見直された。

ファッショ化の中で，ドイツとは異なり，一人の亡命建築家も出さなかった日本建築界ではあるが，1931年帝室博物館コンペで示された前川の抵抗的姿勢は，体制に左右され主体性の乏しい日本建築界において，注目されるべきものであった。

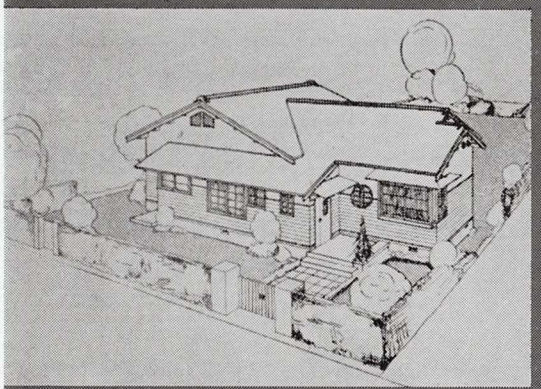
1934年軍人会館が完成し，重々しい帝冠様式が，日本の軍国主義を象徴するものとして作り出され，日本において近代建築運動は豊かな実りを見ることなく戦争に突入して行く。



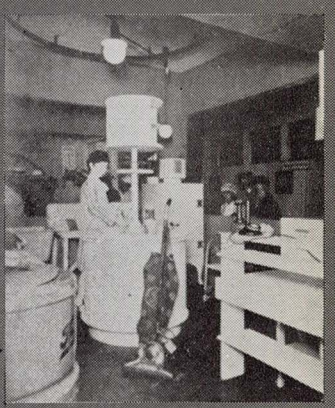
11．建築協会15周年記念
大美野田園都市住宅博会場配置図
（昭和７年10月号）



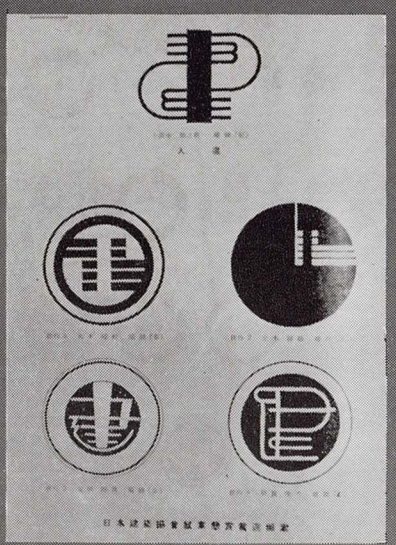
12．建築協会15周年記念
大美野田園都市景観（昭和11年８月号）



13．建築協会15周年記念
阪和上野住宅懸賞設計当選案
（昭和８年４月号）



14．婦人と住宅展会場
（昭和５年10月号）



15．建築協会紋章図案発表
（昭和７年６月号）



■日本建築協会の歩み・1930～36（昭和５年～昭和11年）

協会の事務所が、昭和７年に、それまでの大同ビルより朝日ビル４階に移され、クラブ室・建材陳列場（約100坪）も併設されて多様な活動を開始した。昭和７年、協会15周年の記念事業として、緑ヶ丘保健住宅博、大美野田園都市住宅博等が催され、新しい生活様式に対応する小住宅が追求された。また通俗大講演会が中之島公会堂でおこなわれ、昭和８年には、ブルーノ・タウトを迎えて新興建築講演会が朝日会館で開催された。法制委員会において、市街地建築物法、六大都市病院規則等が研究され、住宅委員会においては、実用小住宅を発刊した。現在の建築協会のマークが、昭和７年に懸賞募集入選案をもとにして制定された。

しかし世は軍国調の時代に入り、昭和９年には、都市武装委員会などを設置して、防火避難施設、防火地区完成と、国策にそった活動がなされた。会員数は昭和11年には、2000名近くを数えるに至った。

年代	関　西（建築界・一般社会）	建築協会	日　本（建築界・一般社会）	海　外（建築界・一般社会）
1937 昭12	京都競馬場／安井　和歌山県庁舎／内田・増田　丸物百貨店／渡辺節　大阪ビル／大林　上宮学園高等学校／宇賀一郎　比叡山ホテル／村野　大阪電気科学館／市営繕　堺水族館・大阪宇治電ビル／長谷部・竹腰　梅田映画劇場／竹中 都市武装促進運動　松屋町筋道路完成　御堂筋完成　彦根・布施市制実施	住宅委／田園住宅地見学　武装委／防空法案討審の件　鉄材に関する講演会　大阪下水に関する講演会　市街地建築物法についての講演会	名古屋汎太平洋平和博開く　東京帝室博物館／渡辺仁　パリ博日本館／阪倉　東京逓信病院／山田守　慶応幼稚舎／谷口　宇部市民館／村野 日支事変　三国防共協定　大本営設置　雪国　路傍の石	ＣＩＡＭ第５回　グロピウス・ナギ・ローエら渡米　パリ博士木工学館／ペレー　ヴドベックの住宅／Ｆ．シュリーゲル　ロックフェラーセンター／ハリソン ゲルニカ／ピカソ　実践論
1938 昭13	大阪帝大附属病院／帝大営繕　日本生命本社・丸紅京都支店／長谷部・竹腰　大阪市立長柄葬儀場・港区役所・大阪市立熱帯病研究室／市営繕　愛知県庁舎／県警建築課　造幣局市舎／大蔵省　満州中央銀行／西村　府立岸和田中学校／府営繕堺市立病院／中尾　京都競馬場／安井 大阪地下鉄難波・天王寺間開通　神戸大風水害　大阪駅前区画整理による土地使用区域指定	法制委／学校規則の件　武装委／防空実験　住宅委／住宅防護研究　都市防火講演会（神戸大阪　京都にて）／木造都市防火改修方法　防空と建築展	古典様式及び記念性論議　偽装耐爆構造研究　小河内ダム建設開始　東京女子大チャペル／レイモンド　強羅ホテル／土浦亀城　第一生命館／渡辺仁　黒部第二発電所／山口　大庄村役場／村野 国家総動員法公布　メーデー禁止　国民徴用令　厚生省設置	ナギーらシカゴに新バウハウス設置　ダッチトラック工場／Ａ．カーン　朝顔型シェルの倉庫／フェラーラ　ヒィンスベリー保健センター／テクトン 独墺合併　ナイロン発明　ウラニウム核分裂発見　ＤＤＴ発見
1939 昭14	滋賀県庁舎／佐藤功一　神戸海洋気象台／堀口捨巳　神戸三越／横河　平野澄翠閣／大林　傷痍軍人大阪職業補導所／厚生省　浪速区役所・北区役所・大阪市営真田山公園水泳場／市営繕　鐘紡サービスステーション 池田市制実施　十三大火	法制委／中学校における建築法規授業細則作表　武装委／灯火管制困難の工場設備について　時局と建築材料展　忠霊塔に関する講演会	住宅問題研究活発　無筋・竹筋コンクリート研究　ニューヨーク万博日本館／山脇巌　大島測候所・若狭邸／堀口捨巳　日本美再発見／タウト ノモンハン事件　河合・土方両教授休職事件　戦争画氾濫	ニューヨーク世界博　ニューヨーク近代美術館／ストーン・ゴットウイン　世界博スイス展セメント館／マイヤール　ジョンソン・ワックス／ライト 第二次大戦勃発　独ソ不可侵条約　連盟ソ連除名
1940 昭15	橿原神宮駅／村野・近鉄　新大阪駅／鉄道省建築課　生駒山航空道場／石川純一郎　四天王寺五重塔／天沼俊一　大阪市立瓜破霊園／市公園部　橿原神宮外苑・同道場 吹田・洲本・芦屋・伊丹市制実施　畷上浄水場第２期拡張事業・山科浄水場完成　嵐山公園開園　大阪駅前地下道完成　奈良伯母峯トンネル開通	法制委／建築関係訴訟について　住宅委／満州移民住宅の研究　空襲に関する講演会　建築文化展覧会　満州北支建材界の事情を聴く会	住宅営団発足　建築資材総制　建築新体制促進同志会結成　国際建築休刊　木構造研究　日光観光ホテル／栃木県営繕　日本化学八戸工場／宮崎謙三 紀元2600年式典　大政翼賛会発足　奢侈品制限	米ＳＯＭ事務所開設　ストックホルム火葬場建設／アスプルンド　イリノイ工科大学／シースボーソン邸・カーン邸／Ｒ．ノイトラ イタリア参戦　トロッキー暗殺　ダリ渡米　誰がために鐘はなる
1941 昭16	石原産業本社／村野　蛍ケ池蛍雪寮／竹中　宇治山田神宮皇学館　武田薬品十三工場 大阪土木建築工業組合　鴨川公園開園　神戸移民収容所閉鎖	住宅委／応急住宅研究　法制委／市街地建築物法発刊　武装委／防空壕築造指導　防空建築施設に関する講演会　市民防空壕展覧会	学会・士会・協会・業協会四会連合で新体制協議会　建築偽装指針発表　木材統制規則　岸記念体育館／丹下　山口画伯邸／吉田　日光竜頭山荘／市浦 太平洋戦争勃発　重要産業団体令公布　思想弾圧激化	ブレナード色彩調節の基礎原理表明　ギーディオン時間空間建築刊　ユトレヒト市立劇場／ヂュドック　オルテベロ格納庫／ネルヴィ 独伊対米宣戦　独ソ開戦　英ソ軍事同盟　ミロ星座の連作
1942 昭17	大阪人絹会館／渡辺節　甲子園竹中寮／竹中 泉大津・相生市制実施　西京極運動公園開園　神戸初空襲を受く	四会合併問題起る　住宅委／集合住宅研究　武装委／都市防空　偽装など研究　25周年記念菖蒲池厚生住宅展　建築と防空展　都市防空大講演会　会旗制定	坂倉準三構成ダヴィンチ展　大東亜建設記念造営計画コンペ／丹下　食寝分離論／西山　国民住宅コンペ 技術院・大東亜省新設　日本文学報国会本土初空襲　ミッドウェイ海戦　大東亜戦争美術展	ローマ博　仏10cmモヂュール制定　ブラジル教育保健省舎／ニューマイヤー　ジョンソン邸／ジョンソン 日独伊軍事協定　スターリングラード独ソ戦　異邦人／カミュ
1943 昭18	川西航空甲南工場／竹中 住宅営団労働者住宅各地に建設　近畿土木建築統制組合　阪急電鉄と京阪電鉄合併	四会合併問題討議続く　住宅委／都市共同住宅仮装の件　法制委／法令発刊の件討議続く　新釘打構法講演会　南方建築展覧会　陳列場講演会	日本土木建築統制組合　登呂遺跡発見　木造街区復興計画　在バンコック日本会館コンペ／丹下　日独会館／ペッツオォールド・久米 大東亜共同宣言　学徒出陣　アッツ島玉砕　細雪／谷崎	コルブＡＳＣＯＲＡＬ創立　聖フランシスコ教会／ニーマイヤー　グランブルック芸術大学博物館と図書館／サーリネン 英米カサブランカ会談　ムッソリーニ失脚　伊無条件降伏
1944 昭19	南海鉄道と関西急行鉄道合併	四会合併・新団体発足決定　住宅委員会のみわずかに活動　その他は活動停止　会誌３月号をもって休刊	建築雑誌・新建築休刊　地下溝作り始める　国民住居論考／西山 決戦非常措置実施　国民総決起運動　サイパン失陥　Ｂ29による本土空爆本格化　改造・中央公論休刊　戦争画製作される	閉鎖されていたシカゴ新バウハウスはシカゴデザイン研究所として新発足 カラカスの大学都市建設着手　チャンネルハイツの住宅団地計画／ノイトラ　連合軍ノルマンディ上陸

1937～1944

1939年第二次世界大戦の勃発，1941年大平洋戦争の開始などの，ファッシズムがもたらした，全世界的大混乱と機械と近代科学の暴力は，これまでの歴史に人間がもったことのないものであり，文化各分野に深刻な影響を与えた。ファッショ化と共に起った建築家の海外亡命は，西欧建築界に沈滞をもたらした。ただドイツにおいて，ファッシズムを象徴するかのような表現主義的な建築活動があった。

1941年に発行されたギーディオンの「空間・時間・建築」は，グロピウスらの開拓した近代主義の建築の理論的集体成とみてもよいであろう。ローエはイリノイ工科大学などの作品によって，近代機能主義の建築を造形的に様式化する一方，ライトやコスタ・ニューマイヤーなどの新しい方向が確立された。

建築関係科学技術の発展もめざましいものがあった。プレキャストコンクリートの開発や，ネルヴィが生み出した，交叉した薄いアーチ，スラブの立体的骨組による大格納庫，マイヤールの独特のスラブ構造の実現などがあった。

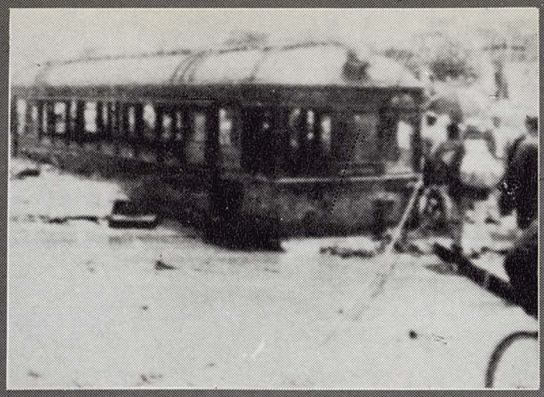
日本においては，神がかり的に戦争が押し進められ，国民総力戦が，一般国民の犠牲のもとにくりひろげられた。すべての分野が聖戦の名のもとに統合合体され，臨戦体制が敷かれ，翼賛体制が設けられた。建築界においては，反戦的な活動をするものはもちろんなく，いち早く戦争協力体制がひかれた。日本ファッシズムの象徴様式である帝冠様式が作り出された。また偽装耐爆構造の研究などもおしすすめられた。

学会・士会・協会・業協会四会連合による新体制協議会が設置されたのもその一つのあらわれであろう。帝冠様式とは異なった方向で，戦争への建築家の協力があった。岸記念体育館で建築家への地歩を固めた丹下健三は，1942年大東亜建設記念造営計画コンペ第一位，1943年日泰文化会館コンペ第一位とめざましい創造活動の実績を積み上げた。日本のファッシズム化と共にデビューした丹下の民主化時代の戦後に果している役割を考える時，建築デザインのもっている非イデオロギー性，両刃的性格を，建築家の主体性とかかわらせながら，やはり問われなければならないであろう。

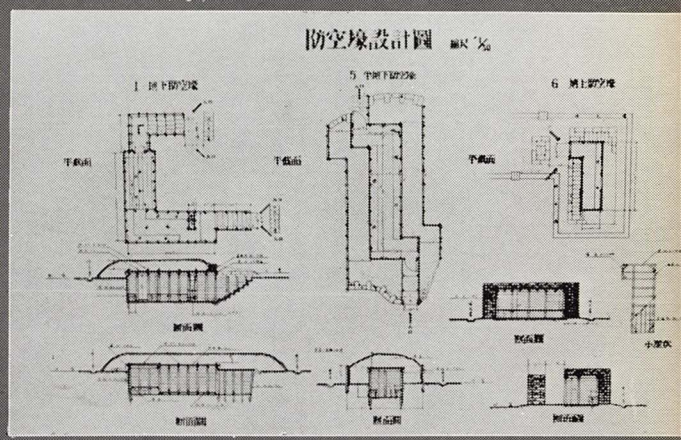
一方，丹下に代表されるような脱イデオロギーの建築とは正反対の立場の研究がなされている。1942年の西山卯三による「食寝分離論」である。建築の社会科学的側面を最初に追求したのは山口らの創宇社であったが，この論文においては，社会科学的側面の追求をより具体化し，より方法論的に扱ったものということができよう。この丹下と西山に対立的に現われたこの二つの傾向は，戦後，作家主義と調査主義という形で引き続き現われて来る。

1943年，1944年と空襲の激化につれ，都市は焼け野原になり，すべての建築活動はストップした。土建統制組合が結成された。地下工場の建設までも研究実施に移されていた。

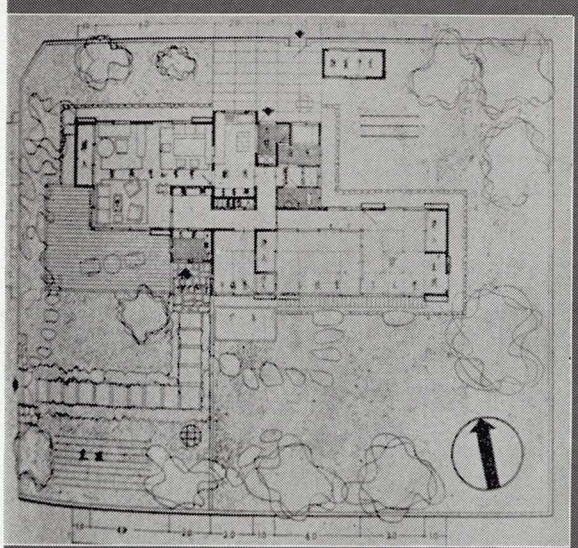
そして，学徒出陣，アッツ島守備隊全滅，サイパン失陥，沖縄決戦，特攻隊，広島・長崎原爆投下，ソ連参戦と続き日本は降伏した。焼土と廃墟の中で日本人は復興への歩みを始める。



16. 阪神風水害（昭和13年7月号）



17. 防空壕設計図（昭和18年4月号）





18. 建築協会25周年記念
あやめ池住宅展
（昭和18年5月号）

19. 建築協会25周年記念
あやめ池住宅展当選
住宅平面図
（昭和18年5月号）

■日本建築協会の歩み・1937～44（昭和12年～昭和19年）

第2次大戦期の協会は、臨戦体制の活動が中心であった。住宅委員会においては、住宅防護室研究や、満州移民住宅の研究などがなされた。都市武装委員会においては、燈火管制困難の工場建設や防空壕築造などの指導が行なわれた。展覧会も軍事色にぬりつぶされており、建築と防空壕展などが開催された。

その間、昭和17年協会25周年を迎え、あやめ池住宅展が催された。昭和17年1月より建築界の新体制問題につき、学会、協会、士会、建設業協会（四会連合協議会）が開催され、昭和19年4月には協会と学会の合併に関する基礎要綱が決定されたが、そのうち終戦となり、この合併問題は自然消滅の形となった。会員数は3000名を越えた。なお、昭和17年に、紺地に白抜きのマークの会旗が制定された。

年代	関　　西　（建築界・一般社会）	建　築　協　会	日　本（建築界・一般社会）	海　外（建築界・一般社会）
1945 昭20	日本建設産業KK設立　文楽座焼失 大阪市人口107万人・京都市人口87万人・神戸市人口38万人に減少　大阪市復興局設置　電気局を交通局と改める　大阪府引揚同胞援護館設置神戸駅待合室で無宿戦災者大会開く　京都市蹴上浄水場第3期拡張事業伏見浄水場完成　奈良ガス会社が大阪ガス会社に合併される	建築学会との合併は当分延期することに常務会で決定	戦時建設団令　工作物築造統制規則廃止　住宅緊急措置令　戦災復興院設置　戦災都市復興計画　住宅営団の6.25坪越冬住宅大量建設　住宅不足430万戸　国土会結成　建築雑誌復刊 広島・長崎に原爆投下さる　ポッダム宣言受諾　日本社会党再建　日本自由党結成　行動美術協会・新日本文学会結成　文芸・新潮復刊　新生創刊	仏建築家憲章を発表　英ニュータウン建設調査委員会設置　コミュニイティの再建／グロピウス　サン・ディエ都市計画案／コルブ　コペンハーゲン放送局／ラウリッツェン　教育保険省／コルブ　ニーマイヤー 第2次世界大戦終結　国際連合ユネスコ世界労連成立　サロン・ド・メ第1回展　人質の連作／フォートリエ
1946 昭21	関西文化建築連盟結成　新住宅創刊　天王寺に復興住宅展が大阪府・市・戦災援護会府支部主催で開かる　神戸サッスーンアパート／武田健三　神戸高砂倉庫建設　神戸駐留軍六甲ハイツ着工 大阪復興都市計画街路決定　神戸市復興基本計画要綱決定　守口市制実施　第1回国民体育大会京都中心に開催　大阪市復興祭挙行　大阪駅構内に一時保護所設置　大阪市電24時間ストライキ　南海地震	復興住宅展が市内天王寺動物園で開かる　片岡安会長死去　竹腰健造会長に就任	日本建築文化連盟　住文化協会　日本民主建築会　工場生産住宅協会　都市計画協会結成　住宅復興会議創立　住宅営団閉鎖　東京都市計画コンペ　戦災復興院建築研究所設置　新建築復刊　建築文化創刊　銀座凧月堂／村田　引揚孤児ホーム／中村・遠藤 日本国憲法公布　農地改革実施　中央公論・改造復刊　日展開催	グロピウスTAC組織　英新都市法制定　コッホの組立住宅エーコン　国連本部建築計画発表　ジェファーソン記念碑コンペ／サーリネン　ヴァヴィスタ銀行／ニーマイヤー 米ビキニ原爆実験　ニュールンベルグ国際裁判判決　凱旋門／レマルク　唯物論と革命／サルトル
1947 昭22	大阪大学構築学科設置　大阪市天王寺区復興コンペ／西山　大阪市南区復興コンペ／石原　ホテルナニワ／日建　喫茶プランタン／村野　中座／木村　スバル座／新工務所　メトロダンスホール／木村 大阪特別都市計画事業決定　大阪市高速鉄道協議会設立　大阪港振興協会設立　枚方市制実施　京都市疎開跡整備事業	雑誌建築と社会再刊第1号として再出発　都市復興論文懸賞募集　建築設備研究所開設　宇治山田市平和博復興住宅設計コンペ募集　都市復興講演会	日本建設工業会　日本建築設計監理協会設立　NAU結成　登呂遺跡発掘開始　これからのすまい／西山　ヒューマニズムの建築／浜口　広島聖堂コンペ　紀伊国屋・組立住宅プレモス／前川　赤十字子供の家／匠 ゼネスト中止　第1回アンデパンダン展　日本アヴァンギャルド美術家クラブ結成　斜陽／太宰	CIAM第6回　大ロンドン計画着手　マルセイユアパート着工　ローエ建築展　タシケント劇場／チチューゼフ　ブロイヤー邸／ブロイヤー　カウフマン邸／ノイトラ　ストックブリッジオペラハウス／サーリネン　グロンダル団地／バックストローム インド独立　ペスト／カミュ
1948 昭23	大阪土木建築業協会設立　大阪平和博開く　西宮・夕陽丘・筆ケ崎・小宮等公共住宅団地建設　高島屋和歌山支店／坂倉　大阪スバルビル／石本　大阪白雲ビル／西沢　神戸木材会館／武田　大阪西成税務署／竹中　神戸新オリエンタルホテル改造／三菱重工　大阪競輪場／府土木部　六甲ハイツ完成 茨木・八尾・泉佐野市制実施　大阪・米国国際電話開通　大阪城公園開園　大阪都市問題研究会結成　大阪高速鉄道10カ年計画樹立	天神橋大阪建設会館に分室設置　法制委／建築制限規則説明会　座談会／これからの建築はどうあるべきか	建設省設置　建築行政協会・全国建設業協会・不燃住宅協会設立　日本建築学会建築設計競技執行規準発表　仙台公会堂コンペ／武　藤村記念館／谷口　芝児童館／河野　慶応附属病院／前川　島根県庁舎／島根県　高輪アパート／建設省 経済安定9原則発表　全学連結成　極東軍事裁判　福井地震　美術手帖創刊　人間失格／太宰	UIA（国際建築家連合）発足　国際建築学生会議発足　モリス商会／ライト　フォード自動車会社／カーン　SPAグリーンアパート／テクトン　MIT寄宿舎／アアルト　エクイタブルビル／ベルスキ 国連世界人権宣言　ガンジー暗殺　トランジスター発明　汚れた手／サルトル　裸者と死者／メイラー
1949 昭24	大阪市立大学建築学科設置　近畿工専連合建築展　人絹文化協会・京都女子大・大阪北税務署・日本毛織本社／竹中　京都公楽会館／村野　兵庫県教職員組合会館／山下　兵庫県繊維貿易問屋街／関・石川　日立造船桜島会館／日立造船　西宮競輪場／阪急建築部　祇園会館改築／白石・福田　神戸元町ジュラルミン街　神戸葺合電話局／逓信省立命館大学／内藤 東京・大阪間に特急平和復活　神戸高速度鉄道委員会設定　保津峡公園開園　十津川紀ノ川総合開発事業計画　法隆寺金堂火災	住宅委／住宅金融公庫設置運動　住宅水準向上・農村住宅改善問題等を研究　法制委／4会連合工事請負規程改正連合会開催　これからの住宅展　建材審査委員会設置（優良証明発行）	建設業法公布　住宅対策審議会設置　広島平和都市建築法公布　法隆寺金堂火災　広島ピースセンターコンペ／丹下　戸山ハイツ／建設省　慶応大学生ホール／谷口　新日本文学会館／NAU　東京逓信病院看護学院／小坂 三鷹・下山・松川事件　湯川博士ノーベル賞受賞　日本美術家連盟結成　新制作協会建築部設置	CIAM第7回総会　アール・ドージュルデュイ誌創刊　ジョンソンワックス研究所・フリーマン邸／ライト　ガラスの家／ジョンソン　実験住宅／イームズ　クラムペンボルグの連続住宅／ヤコブセン　成長する家／ブロイヤー 北太西洋条約成立　西独・東独独立宣言　自由への道／サルトル　第2の性／ボーヴォワール

第２次世界大戦は終結し，世界各国は新しい時代に向って再建を始め，国際連合・ユネスコが成立した。

建築家は，あらゆる国情をのり越え，国際建築家連合（ＵＩＡ）を結成した。世界の建築家を民主主義的基盤のもとに建築家の職能を国際的水準に立たせ，人類社会の進歩と平和に寄与することがその目的であり，戦後の新しい意識に立脚した国際的組織を結束したことに大きな意義があった。

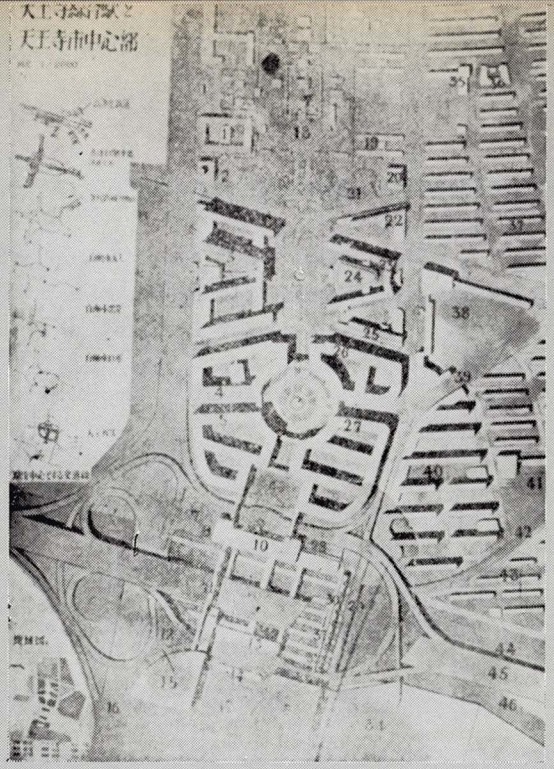
アメリカの強力な工業生産力は，直接平和建設のエネルギーとなり，ナチスファッシズムの弾圧から逃れ，アメリカに渡ったグロピウス・ミース・メンデルゾーン・ブロイヤー等の活発な建築活動を通して，近代建築の砦としてのアメリカの位置を決定付けた。コルブ・ニューマイヤー・マルケリウス・ハリスン等の協同設計で進められた国連ビルは，その象徴でもあろう。ミースは近代デザインにおける工業主義的デザインを徹底的に貫き，グロピウスはハーバード大学で教育活動を行ない，ＴＡＣを組織した。一方ライトは生粋のアメリカ建築家としてジョンソンワックス研究所やモリス商会を手がけた。

ヨーロッパ諸国においては，アメリカの援助を受けて経済危機を乗りこえつつ，建築活動が始められた。福祉国家という社会主義的な目標を掲げて復興をめざしたイギリスではテクトンによるロンドン共同住宅の建設などがあった。イタリアはファッシズムから解放されたが，公共的統制が不十分で，高級アパート建設の反面，庶民住宅は圧迫された。フランスでは再建省が復興にあたったが，建築界の主流は，ボザール出身の建築家であった。近代建築の指導者コルブはマルセイユアパートの建設を試みた。

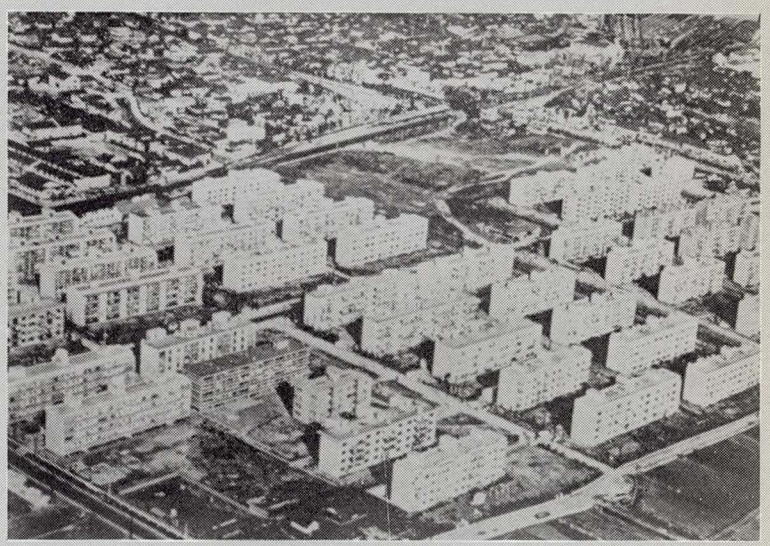
我国は広島，長崎に原爆投下され，ポッダム宣言受諾により，アメリカの軍事支配下におかれ，治安維持法，国防保安法が廃止され，思想・学問・政治行動の自由がもたらされた。価値の変動，爆撃の破壊によって国民の生活は混乱し，労働運動が国民の貧乏・疲弊を代弁する中で，下山・三鷹・松川事件が起り，アメリカ占領政策は変っていった。

建築家は国土会を結成し，東京都復都市計画コンペ，広島聖堂コンペに参加した。一連の民主化の波の中で，日本建築文化連盟，日本民主建築会，住文化協会等が結成され，1947年これらは新日本建築家集団（ＮＡＵ）に統合された。これは建築と社会の連繋を目的とし，進歩的な活動を行なった。作品として新日本文学会館，全造船会館があり，指導者として今泉・西山・池辺・中村等がいた。他方，紀ノ国屋書店における前川，藤村記念館における谷口の活動もあった。

420 万戸の住宅不足は，建築家を住宅問題解決へ向けたが，資材不足は実際の建築活動を思うにまかせず，理論面にそのエネルギーは集中した。社会主義思想に根ざした住宅像を描いた西山の「これからのすまい」，合理主義や機能主義を論じた浜口の「ヒューマニズムの建築」が出た。その他，池辺の生んだ最小限住宅は，あらたなプロトタイプとなり，前川・田中らによるプレモス組立住宅は現実的企業の前で行きずまったとしても意義のある試みであったし，ＲＩＡによる小住宅設計も意義のある活動であった。1948年建設省が設置されると共に，公営住宅が建設され，鉄筋コンクリートによる高輪アパート・戸山ハイツ・戸山ケ原アパート等が建てられた。



20．大阪市天王寺区公館地区復興計画コンペ当選図
（昭和22年3.4.5月合併号）



21．団地のはしり―西宮北口団地（昭和35年11月号）

■日本建築協会の歩み・1945～49（昭和20年～昭和24年）

戦時中の統制により廃刊されていた会誌は、昭和22年再刊することとなった。都市復興論文コンペ、大阪市南区復興コンペ、大阪市天王寺区復興コンペと新大阪建設のための提案等がなされた。また昭和24年には「建材審査委員会」を設置し、申請によって優良な建築材料には証明書を発行してこれを推奨すると共にいかがわしい材料の排除や改善への協力に当った。住宅問題も積極的にとり上げられ、また「これからの建築はどうあるべきか」が論じられ、更に主要都道府県に建築部の設置を提唱し、不燃都市促進運動や、住宅金融公庫設置問題の具体案も提出された。

なお、機構改正のための定款改正（昭和22年）が行なわれ、建築の技術、綜合、建材、管工、電気等のあらゆる分野を含めた綜合団体としての性格を有することになった。

昭和22年には、兵庫、京都、中国、九州、東海に支部が設立された（和歌山支部は昭和25年設立）。事務所は昭和21年に朝日ビル６階に移り、昭和23年には、天神橋に分室を設けた。（会員数4000名以上）

年代	関　西（建築界・一般社会）	建築協会	日　本（建築界・一般社会）	海　外（建築界・一般社会）
1950 昭25	関西建材会設立　日建設計工務KK設立　大阪府工業奨励館本館／府営繕　神戸銀行協会／日建　大阪高島屋／坂倉　大阪球場／坂倉　・南海電鉄　大阪モータース／浦辺　森の宮球場／日本生命営繕　阪神パーク／阪神電鉄KK施設課　神戸市体育館／置塩　竹中工務店神戸支店／竹中　香港上海銀行神戸支店／橘工業　法円坂団地建設 西宮アメリカ博・神戸日本貿易博開く　京都・奈良国際文化観光都市建設法　神戸国際港都建設法公布　豊岡・加古川・富田林市制実施　京都御苑開園　平城宮跡整備工事開始　阪急梅田・四条大宮間直通線開通　ジェーン台風	住宅委／農村住居台所指導・住宅公庫の標準プラン作成研究　法制委／請負規程最終案検討　創立記念日行事講演会／住宅金融公庫と基準法について　講演会／風水害対策・建築新法令　伸びる住宅展	建築基準法・建築士法・金融公庫法制定　農村建築研究会・LV結成　首都建設法公布　国際建築復刊　建築技術創刊　八勝館御幸の間／堀口　山口市庁舎／蔵田　東京逓信病院高等看護学院／小坂　立体最小限住宅／池辺 警察予備隊発足　特需景気　芸術新潮創刊　モダンアート協会創立	独DWB再建　モデュロール／コルブ　メキシコ・シティ大学都市建設に着手　ライトは英・スイスを訪問　国際連合本部／ハリスン他　ハーバード大学寄宿舎／TAC　トリノ展示ホール／ネルヴィ　ファンスワース邸／ローエ　オスロ市庁舎／アルネベルグ・ポウルソン 朝鮮戦争勃発　選ばれた人
1951 昭26	志摩観光ホテル・アポロ座・東京銀行宝塚倶楽部／村野・森　阪急航空ビル／竹中　日端貿易大阪事務所／レーモンド　日経新聞大阪支社／戸田神戸自転車会館／置塩　大阪女学院／ヴォーリズ国際見本市会館／府営繕　大阪南住吉我孫子団地 竜野・赤穂・寝屋川・宇治市制実施　芦屋国際文化都市建設法公布　地下鉄天王寺・昭和町間開通　関西電力KK設立　尼崎港防潮堤築く　神戸第7突堤建設開始　大阪市バスワンマンカー出現	法制委／4会連合請負規定改正最終委員会　プラスチックについての講演会	公営住宅法　官庁営繕法公布　都市計画学会創立　天理教東京会館コンペ／小坂　名古屋放送会館コンペ／富田　下関市庁舎コンペ／田中　日活国際会館／竹中　鎌倉近代美術館／坂倉　リーダーズダイジェスト東京支社／レーモンド　森邸／清家 講和条約　日米安保条約調印　羅生門ヴェニス大賞受賞	CIAM第8回　ロンドン大英博開催　UIA第2回会議　第1回サンパウロ・ビェンナーレ展　シャンディガール建設着工　ゼネラルモータース技術本部／サーリネン　ボストン郊外集団住宅／TAC　繭の家／ルドルフ　レークショアドライブアパート　サイネッツサロのタウンホール／アアルト 朝鮮休戦会談
1952 昭27	ノイトラ講演会／自然に帰れ　大阪産経ビル・第一生命ビル／竹中　大阪金属会館／竹腰　不二屋心斎橋店／レーモンド　大和紡績ビル／安井　住友銀行備後町ビル／日建　神戸証券取引所／竹中　大阪府立体育館／府営繕　蝶理KK／清水 奈良文化財研究所開設　地下鉄昭和町・西田辺間開通　灘埠頭・神戸第7突堤完成　神戸移住民斡旋所業務再開　西脇市制実施　吉野地震	住宅委／防火に関する映画会・住宅に関するパンフレット発行　法制委／建築基準法再検討　講演会／潜函工法について・防火塗料について　沖縄事情講演会35周年記念大講演会・羽衣住宅展示会開催	耐火建築促進法公布　日本建築士会連合会・日本住宅協会設立　ソヴェト建築研究会結成　建築士・建築界・都市計画創刊　法隆寺五重塔竣工　東京都庁舎指名コンペ・広島平和記念館／丹下　日本相互銀行本店／前川　新丸ビル／三菱地所　ブリヂストンビル／松田・平田 電源開発促進法成立　メーデー事件　JIDA結成	独フランクフルト・アム・マイン市の再建計画決定　芸術と技術／マンフォード　ノースカロライナ展示場・レバーハウス／SOM　アルコアビル／ハリスン　モスバーブ邸・南フロリダ大学／ライト キューバ革命　米原子力潜水艦を完成　カミユとサルトル論争　老人と海／ヘミングウェイ
1953 昭28	大阪市営古市団地着工／大阪市・久米　大日本製糖堺工場／山口・池辺　フジカワ画廊／村野・森　新阪神ビル／大林　日綿実業ビル／安井　大阪厚生年金病院／山田　日本紡績検査協会新館／渡辺　第一生命ビル増築・アサヒアリーナ／竹中　真珠会館／光安　室町物産大阪支店／山下　三和銀行京都支店／同行建築課　富士フィルムビル／東畑　近畿電気通信会館／同局新営課　神戸銀行本店／日建　京都アリーナ／三田 トロリーバス大阪駅前・加島町間開通　大阪環状線建設促進委員会設置　庭窪水源地起工式挙行	座談会／これからの建築技術の学校教育はどうあるべきか・米国スタール博士夫人を囲んで欧米住宅様式について　会誌特集／変遷と見通し・水害・創立35年記念史　燃えない都市建築展共催	住宅建設促進法公布　ポドコ・火曜会結成　レーヴァイの建築の伝統と近代主義紹介　住宅における民族的伝統と国民的課題／西山　伝統論争起る　科学博物館理工学館指名コンペ／谷口　愛知県文化会館コンペ／小坂　愛媛県民館・広島児童図書館・丹下邸／丹下　斎藤邸／清家　法政大大学院／大江　東京厚生年金病院／山田 佐久間ダム着工	CIAM第9回　UIA第3回会議　グロピウスハーバード大学建築科教授となる　マルセイユ共同住宅／コルブ　MITオーディトリアム／サーリネン　モスクワ大学／ルードネフ他　エール大学アートギャラリー／カーン　バック・ベイセンター計画案／TAC 朝鮮動乱終結　スターリン死去　ソ連水爆保有声明　欺かれた女／マン
1954 昭29	グロピウス講演会／建築家と環境　近映会館・近鉄会館／村野・森　アシベ劇場／清水　岸和田市庁舎・松下電子工業高槻工場／日建　岡三証券ビル／双星社竹腰　倉敷紡績本社新館／渡辺　兵庫県水産会館／県営繕　豊中市民病院／市営繕　大阪北電話局／公社建築部　神戸銀行大阪ビル／渡部　西成区役所／市建築局　興和ビル／清水　大阪鳥飼大橋／府道路課　岸和田城完成 河内長野・天理・宝塚・高砂・川西・小野・三木市制実施　地下鉄花園町・岸里間工事着手　新長田駅新設　神戸第8突堤着工　日本国際見本市大阪第1回開催	住宅委／ローコスト住宅・住い方について研究　法規委／パーキングエリヤの問題研究　グロピウス博士大阪講演会　会誌特集／青年建築家・国際建築学生会議・グロピウス特集第1回コンクリート技能講座開催	建築研究団体連絡会・例の会結成　日本建築学生会議発足　土地区画整理法制定　国会図書館コンペ拒否から著作権確立運動起る　法隆寺金堂落慶　国立図書館コンペ／田中・大高　神奈川県立音楽堂／前川　サンパウロ日本博／堀口　世界平和記念聖堂／村野　清水市庁舎・津田塾図書館／丹下 自衛隊発足　日本民主党結党　今日の芸術／岡本太郎	ローマ国際建築学生会議　フルシチョフの自国建築批判　第2回サンパウロ・ビエンナーレ展　カサベラ復刊　カラカス大学都市／ヴィラニュヴァ　ウルム造形大学／マックスビル　インランド・スチール・ビル／SOM　ハンスタントン中学校／スミッソン　格納庫試案／ワックスマン 周・ネール会談　国連総会原子力平和利用決議　ローマの休日

朝鮮動乱の勃発は再び世界を危機におとし入れたが，アイゼンハワーが米大統領に，フルシチョフが第一書記にという二大強国の安定政権確立と共に，一応終結した。

ヨーロッパで培われた近代建築は，アメリカでさらに発展した。ＴＡＣを指導したグロピウスは，ハーバード大学寄宿舎，ボストン郊外集団小住宅を建設し，ミースはＩＩＴ建築科主任教授として教育に当る一方，ファンスワース邸，レークショア・ドライブ・アパート等をつくり，鉄とガラスの造形性のうえにたつ工業主義デザインを，構想からディテールに至るまで，徹底的に追求した。ブロイヤーは住宅に力を注ぎ，戦後アメリカ住宅デザインに影響を与え，パリのユネスコ本部建設にも従事した。組織的建築事務所ＳＯＭのレバーハウスは，摩天楼の一傑作として鉄とガラスの使用，技術上の純粋さ，幾何学的形態を誇った。

一方，1954年のフルシチョフによる建築批判により，ソ連建築界は，社会主義レアリズムの装飾過多が変貌し，計画経済のもとで，アパート建築の工業化・規格化・量産化の追求を進めた。

すでに問題となっていた近代建築の歩みにあらたな要素が加わり，北欧の新経験主義，米国の新風土主義，ノイトラらによる新環境主義が建築構想の理論として脚光をあびるようになった。

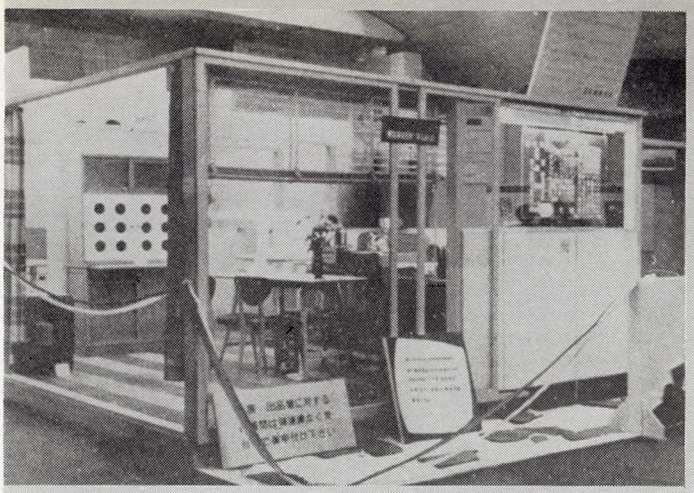
生産は戦前の水準に回復していたが，1950年勃発の朝鮮動乱による特需景気は，日本資本主義を敗戦の混乱から立ちなおらせ，めざましい発展を方向付けた。国内消費を圧迫したドッジラインのため建設工事は一時減じたが，資本は安定した建築投資に向けられ，朝鮮動乱をきっかけに，ビルブームとして表面化した。日活国際会館新丸ビル等はその代表的な作品であろう。一方佐久間ダムを始めとして，大規模な電源開発事業が始められた。

朝鮮動乱を頂点とする反動化の時代に，多くの民主的団体，政党などと共に，ＮＡＵもまた後退しはじめた。この後退の一因として，レッドパージ等の圧力と共に，ビルブームの中で実務に散っていく意識をもった建築技術者を組織し得なかった活動主体の理論と実践能力の底辺を見なおされねばならないであろう。

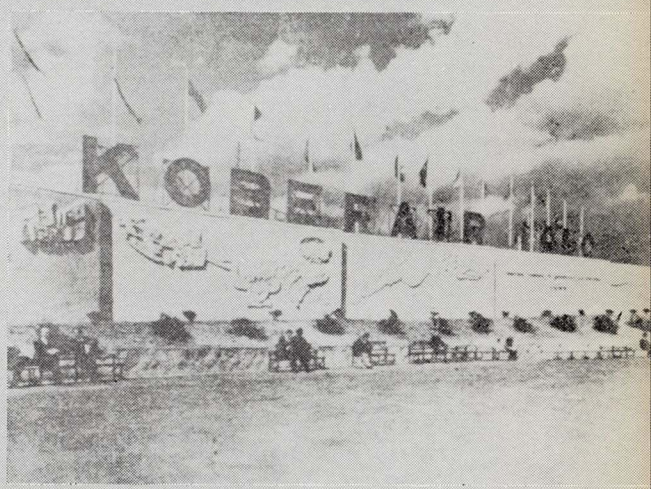
映画「羅生門」のヴェニス大賞受賞は，文化的にも日本を国際社会の一員として位置づけ，日本資本主義の復活と期を一にする戦前の大家の復活は，日本の伝統的なものに対する関心を一層育てた。堀口の八勝館・サンパウロ博日本館，吉村の料亭ぼたんや，ニューヨーク近代美術館の書院造などは，ジャポニカ・ブームを作り出した。

一方，近代主義の建築家による空間追求は，日本建築の古典的空間と結合させた生活空間のフレキシビリティ，コアシステムによる空間の結合といった方面にもテーマが及んだ。日本調の先駆ともなった森邸を設計した清家は，斉藤邸において，住空間の近代化を，増沢はコアシステムによる生活空間を追求した。レーモンドのリーダーズ・ダイジェスト社のスマートな打放しコンクリート造，丹下の津田図書館，清水市庁舎におけるカーテンウォールは，新しい表現の可能性を明示した。前川は日本相互銀行でテクノロジーの合理主義造形を押し進め，神奈川県立音楽堂でそれをさらに発展させた。

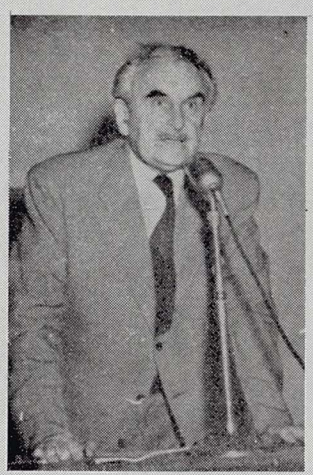
このような情勢の中で発表された西山論文「住宅における民族的伝統と国民的課題」は伝統論争の発端となった。



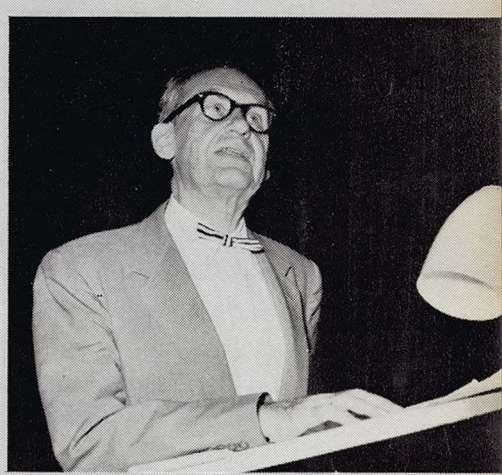
22．建築協会35周年記念羽衣住宅展（昭和27年12月号）



23．神戸博（昭和25年５月号）



24-1．ノイトラ講演（昭和27年７月号）



24-2．グロピウス講演会―昭和29年―

■日本建築協会の歩み・1950～54（昭和25年～昭和29年）

戦後処理も一応終り、活発な建設活動が開始された。特需景気は、ビル・ブームとなり、大阪では第一生命ビル等が目立った。本会は、昭和27年に創立35周年を迎え、三越大劇場で記念講演会を開催した。同年開催された羽衣住宅展のように、住宅供給のみならず、積極的な新しい住宅のイメージや、生活改善をめざしたものがみられた。また当時来日したノイトラ(昭和27年)や、グロピウス(昭和29年)を迎えて、大阪で講演会を開催し、国際建築への理解と啓蒙につとめた。昭和28年に見舞った和歌山大水害や南山城の水害や九州の風水害に対して、会員が公的にも、個人的にも、積極的に災害調査し、その結果を会誌に「水害特集」としてまとめ、貴重な記録を残した。

年代	関　西（建築界・一般社会）	建築協会	日　本（建築界・一般社会）	海　外（建築界・一般社会）
1955 昭30	阪神都市協議会設立　ワックスマン教授講演会 梅田大映／円堂　梅田ビル・ＯＳ劇場／竹中　三和銀行本店／山下　食堂ビルドウトン／村野・森　西宮カントリークラブハウス／双星社竹腰　伊丹市庁舎／久米　大阪府教育会館／府営繕　大阪港サイロ施設／東畑　文楽座・料亭ぼたん／吉田　関電姫路発電所／関電建設部　日本専買公社茨木工場／日建　明治製菓大阪工場／阿部　兵庫県鴨子原団地着工 枚岡・河内松原市制実施　鞠公園完成　奥摩耶ロープウエイ完成　新若草山ドライブウェイ完成　神戸・東京間即時通話　国鉄片町線片町・放出間開通　奈良桜井町で大火173戸全焼　安井武雄死去	住宅委／ローコストハウス・住い方・室内気温について研究　法規委／パーキングエリヤの研究　座談会／ソ連建築を語る　会誌特集／日本に於ける建築的伝統・コンクリート特集・安井武雄特集　芦原義信講演会　主婦と台所講演と映画会　ノイフェルト教授講演会 第１回工高生デザインコンクール（以下毎年開催）	住宅42万戸建設計画政府発表 住宅公団発足　南極建築委員会設置　コルブ・レジェ・ベリアン展開催　図書印刷原町工場／丹下　国際文化会館／前川・坂倉・吉村　法政大学学舎／大江　八雲小学校／吉武　羽田国際空港／松田・平田　総評会館／共同設計　長崎国際文化会館／佐藤　国際電々東京局舎／清水 第１回世界原水爆禁止大会　社会党統一　自由民主党結成　椎葉アーチダム完成　日米抽象美術展 太陽の季節／石原慎太郎	ＵＩＡ第４回会議　ノートルダム・デュ・オー礼拝堂／コルブ　ＩＩＴ建築科教室／ローエ　ＭＩＴ礼拝堂・講堂／サーリネン　エール大学アートギャラリー／カーン　ウェルズレイ大学アート・センター／ルドルフ　メキシコ大学図書館／ゴルフマン　クデネウレ織物工場／レヴェル　ミラノ近代美術館／カルデラ アジア・アフリカ会議　ジュネーヴ４巨頭会談　鹿の園／メイラー　アルジェの女たち／ピカソ
1956 昭31	奈良あやめ池に朝日新聞主催新しい生活と住宅展開催　香里ニュータウン着工　梅田コマスタジアム・神戸国際会館／竹中　大阪テレビ放送局／清水　神戸新聞会館／村野・森　神戸アメリカ領事館／ヤマサキ　大阪建設会館／大林　毎日大阪会館／日建　日本専売公社京都病院／山下　国際電信電話大阪局舎／清水　通天閣／内藤　白浜ゴルフクラブ／渡辺　小林製薬ＫＫ／ヴォーリズ　住宅公団中宮第１団地／大阪建 和泉・箕面・大東市制実施　国鉄環状線着工　地下鉄花園町・岸里間開通　表六甲ドライブウエー完成　神戸で国体開く　六甲山一帯国立公園となる　綜合デザイナー協会結成	近畿建築会館新設と同時に事務所移転　住宅委／都心団地計画の特質と問題点・対社会啓蒙に関する研究　法規委／大阪市の交通事情とパーキングエリアの研究　講演会／軽量鉄骨構造について・メキシコとアメリカの建築会誌特集／都心の団地計画 第１回左官講習会	首都圏整備法制定　日本建築家協会発足　建築５団体で建築国際連絡協議会設立　５期会結成　現代建築不安感論争起る　延暦寺大講堂焼失　長崎立庁舎コンペ／郵政省　福島教育会館／ミド　秩父セメント第２工場／谷口　ヴェニスビエンナーレ日本館／吉阪　聖アンセルモ教会／レーモンド　掛川市庁舎／日建　松井田町役場／白井 日ソ国交回復　日本国連加盟　佐久間ダム完成　東海道線全線電化　鍵／谷崎　金閣寺／三島	ＣＩＡＭ第10回と再編成決議　マイルタワー計画・プライスタワー／ライト　シャンディガール最高裁判所／コルブ　メキシコ大学都市／マニオ・パニ他　ローボロー街団地／ＬＣＣ　コモンウエルス街高層アパート／ローエ　ムンクスゴアの中学校／ヤコブセン　カラカスのアパート団地／ヴィラニュエラ　レーニン中央スタジアム／ローチン他 スエズ問題　ハンガリー暴動　英原子力発電所発足　天国と地獄／ハックスリー
1957 昭32	神戸市庁舎・新桜橋ビル・住友ビル別館／日建　南海会館・塩野義製薬西宮寮／坂倉　竹中工務店本社／竹中　近鉄アベノ百貨店・梅田グランド劇場・花月劇場／村野・森　京都ガスビル／安井　奈良国際ゴルフクラブハウス／大成　播磨造船所相生工場綜合事務所・朝日テレビ／清水　淡路南淡町庁舎／坂・増田　明治乳業ＫＫ大阪工場／山下　東亜紡績ＫＫ／東畑　住宅公団千里山団地／久米　公団出来島団地／日建　難波地下センター／大阪市・大阪地下街 再度山有料道路開通　新淀上浄水場完成　奈良・大阪間電話自動化　神戸市下水工事10カ年計画着手　神戸市内定期巡回観光バス営業開始	住宅委／住宅相談所設置・悪質アパートの調査・住い方の指導の研究　法規委／駐車場問題・建築基準法改正について研究　現代ドイツ建築展　都市と建築展　デューク氏講演／アメリカ建築工事の工事計画と管理　デッカー氏講演／戦後ドイツに於ける都市計画と建築 公団千里団地見学会 若い会員の集い（以下毎年開催） 第１回現場実務講習会	駐車場法公布　学会・家協会・士会３会で建築設計競技規準設定　新建築誌編集者解雇されるライトゲージ・生コンクリート普及する　世田谷区民会館・京都会館指名コンペ／前川　横浜シルクセンター指名コンペ／坂倉　東京都庁舎・倉吉市庁舎／丹下　東京読売会館／村野　ヴィラクウクウ／吉阪　中央公論ビル／芦原 日本デザイン協議会設立　アンフォルメル画家来日　美徳のよろめき／三島　死者の奢り／大江	ベルリンでインターバウ開催　フィラデルフィア・リビング・シティ計画／カーン　ブラジリア計画／ニーマイヤー　シドニーオペラ劇場コンペ／ウッツオン　トロント市庁舎コンペ／レヴェル　ジェネラルモータース技術センター／サーリネン　ヴェラスカの塔／ベルジィオジオセ・ロジャース　ラ・トゥーレット修道院／コルブ ソ連・中共共同宣言　ソ連人工衛星打上げ成功
1958 昭33	新朝日ビル・関西テレビ／竹中　新大ビル・大阪新歌舞伎座／村野・森　読売テレビ・早川電機テレビ工場／清水　相愛学園本部・大和銀行本店／大成　兵庫県農業会館・法円坂高層アパート／東畑　キリン会館・味の素ビル／三菱地所　武田薬品工業研究所／双星社竹腰　住友生命保険本社・神戸多聞団地・サンスター歯磨大阪工場／日建　花屋敷ゴルフクラブハウス・西長堀高層アパート／大阪建　ブリヂストンタイヤビル／松田・平田　吹田市民会館／大林　国際見本市会館／府建築部　大阪府大経済学部校舎／府大施設課　布施市民病院／建財設計　大阪交通学園／海上 地下鉄岸里・玉出間開通　名神高速道路建設開始　阪奈有料道路一部開業　大阪城公園開園　金剛生駒国定公園指定	尾崎久助会長に就任 住宅委／スライド作成・住宅相談所設置について研究　法規委／建築基準法改正意見作成講演会／ドイツの建築プラスチック総合展 四天王寺五重塔見学会 会誌特集／関西の建築・構造・軽量構造・城	国立劇場につき学会・家協会・士会３会で要望書を文化財保護委員会に提出　丹下健三汎太平洋賞受賞　モデュール研究本格化　帝国ホテル増築抗議　国立陸上競技場／建設省　香川県庁舎／丹下　大手町ビル／三菱地所　晴海高層アパート／前川　法政大本館／大江　東京タワー／内藤　スカイハウス／菊竹　米子市公会堂／村野 アジア競技大会東京で開催　特急こだま運転　関門トンネル・新笹子トンネル開通　松川事件／広津和郎	ＵＩＡ第５回会議　ブラッセル万国博　第１回都市再開発国際セミナー開催　ブロードエーカーシティ／ライト　シーグラムビル／ローエ・ジョンソン　インランドスチールビル／ＳＯＭ　アーメダバッド美術館／コルブ　エール大アイスホッケー場／サーリネン　ニューデリー米大使館／ストーン　文化の家／アアルトオ　アラボラダ宮殿／ニーマイヤー アラブ共国・アラブ連邦成立　米人工衛星打上げ成功　ドクトル・ジバゴ／パステルナーク

宇宙時代に入り，世界情勢は一大転機を迎えた。

建築界においても同様で，合理主義的建築・国際的様式の旗印のもとに大きな役割を果したＣＩＡＭだが，1956年第10回総会で，世代交代が明確となりＴＥＡＭ―10への解消となった。このような国際建築運動の退歩と機を一にして，各国ではそれぞれの特色のある建築活動が始められた。

西ベルリンのハンザ地区で開かれたインターバウは，グロピウス，ニーマイヤー，アアルト，コルブ等の近代建築家によって，40棟，3,000戸の集合住宅が建設され，ある意味では，近代建築の最後のショールームとなり，東ベルリンの社会主義建築政策への示威となった。

アメリカでは，新政策として，海外への建築意識を明確にし，有能な建築家を在外公館の設計に当らせ，外交と文化交流の一石二鳥を計った。その建築はネオ・バロックの形をとった。その典型的な例としてストーンのニューデリー米大使館，ヤマサキの神戸アメリカ領事館等がある。そのような中にあってローエは，ＩＩＴ建築科教室，またジョンソンと協同で完成したシーグラムビルは，建築界に強い衝撃を与え，摩天楼の極点を築いたとも言われる。ライトは摩天楼の林立に傍観しておらず，プライスタワー，マイルハイタワー計画を提示した。

世界大戦に巻き込まれなかった南米諸国の建設規模は大きく，ニーマイヤーのブラジリア計画，マリオ・パリ等のメキシコ大学都市建設，ヴィラニュヴァ等のカラカス大学都市建設があり，芸術家との協同が試みられた。

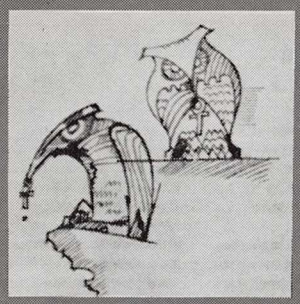
ヨーロッパではコルブが，ロンシャン教会・シャンディガール司法省・アーメダバッド美術館等で，コンクリートの造形的表現に新生面を見出した。ロジャースのヴェラスカの塔は，中世北イタリアの塔を現代的に再現した。

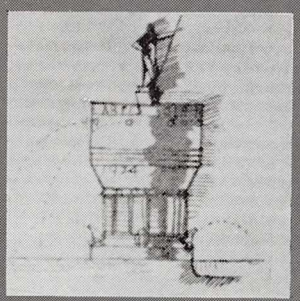
神武景気と言われた経済界の好況を迎える1955年に，第１回原水爆禁止世界大会が広島で開かれ，また日本社会党統一，自由民主党の結成があった，

国会図書館コンペ著作権問題を契機に結成された「例の会」の中堅層の行動に不満を持った人々は，五期会を結成したが，具体的な実りは見られなかった。このような建築設計体制をバックにして，総評会館・全港労働組合会館が協同設計で始められたが，人間関係の民主化と建築デザインの民主化とを混同して出発した誤りは，会館設計への集積とはなり得なかった。しかしこの過程の中から建築家の新しい横のつながりを生じた。

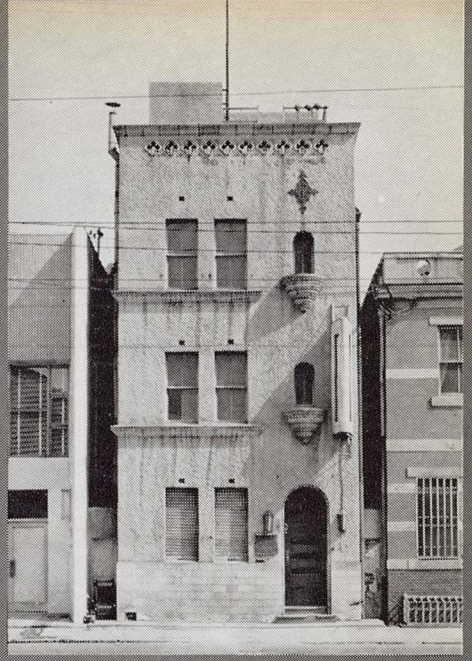
この頃起った竹山謙三郎と浜口隆一の不安感論争は，構造家とデザイナーの意志疎通がその因であったが，それはまた我国の本格的なカーテンウオール導入過程の一断面を見せたものであった。1953年頃から起った伝統論争に取り組んだ丹下は伝統克服を試み，その集積を東京都庁舎，そして香川県庁舎に具現した。ここで民衆との結びつきを迫られはしたが，市民社会を経過しなかった社会的条件や官僚制の中にあって，彼の時代を見る才能は，妥協しながら日本建築の近代化を押し進めた。

モデュール研究が本格化し，ライトゲージ，生コンクリートが普及し，打放しコンクリート，マッシブな壁の表現がクローズアップされ，ミドの福島教育会館，谷口の秩父セメント第２工場，吉阪のヴィエンナーレ日本館等を生んだ。1955年住宅公団が発足し，大規模団地が建てられ始め，晴海高層アパートは以前のものにない力強い新鮮さにあふれていた。1956年首都圏整備法，1957年駐車場法が各々制定された。





26. 元伊藤邸設計者大倉三郎氏スケッチ（昭和33年１月号）



25．近畿建築会館建物（協会手持写真）
－４階を増築して集会室に使用－
－大正15年建設元伊藤邸－



27．近畿建築会館開館式（昭和31年10月10日）－協会手持写真－

■日本建築協会の歩み・1955～58（昭和30年～昭和33年）

昭和31年に近畿建築会館が開設された。この建築は、もと伊藤邸（大倉三郎設計）で、大正15年10月に事務所兼住宅として完成され、30数年経た今日、４階を増築し、本会の事務所として使用することとなった。この会館には、学会近畿支部、大阪府建築士会、建材協会が同居したが、それらの友好団体がこの会館をはなれて他の事務所へ移るまでの間、本会はそれらの団体の育生のちからぞえをした。会勢委員会が昭和31年より事業委員会に改称され、見学会、講演会等々、こんにちの活発な事業活動の基礎をつくりはじめた。さらに「若い会員の集い」が昭和32年につくられ、また昭和30年より「工高生デザインコンクール」が実施されるなど、若い層に応じた活動をしはじめた。

年代	関　西（建築界・一般社会）	建築協会	日　本（建築界・一般社会）	海　外（建築界・一般社会）
1959 昭34	都ホテル佳水園・泉州銀行本店／村野・森　比叡山国際観光ホテル／円堂・富家　寿屋山崎工場・姫路民衆駅／安井　宝塚ゴルフクラブハウス／村野・佐野・加藤　大阪合同庁舎／近畿地建　大阪三井ビル／横河　八鹿病院／吉武　大阪能楽会館／双星社竹腰　大阪市中央体育館／市営繕・大林　ニッカウイスキー西宮工場・ロート製薬／日建　堺市庁舎／大阪建・市役所　神戸外大図書館／市建築局営繕　大阪府放射線中央研究所／京大増田研　大阪府警察本部／府建築部　枚方国際ゴルフクラブハウス／山下　富士天然色写真大阪現像所／東畑　四天王寺五重塔／伽藍復興建築協議会 羽曳野市制実施　大阪空港国際空港に昇格　阪奈道路完通　伊勢湾台風	法規委／基準法の改正について研究　講演会／コンクリートに関する最近の課題　夏期会員懇親会　座談会／日本の現代建築の形成過程をめぐって・生産性に於ける工事建築と建築技術のあり方について・建築におけるローカリティについて　会誌特集／竹腰健造・PC構造・共同住宅 近代建築調査委員会発足	建築業協会・全日本建築士会設立　首都圏高速道路公団発足　国立西洋美術館／コルブ　島根県立博物館・海上都市案・塔状都市案／菊竹　大多喜町役場／今井　善照寺／白井　国際貿易センター展示館／村田　長崎水族館／武　羽島市庁舎／坂倉　海星学園／吉阪　今治市庁舎／丹下　東工大講堂／谷口 名古屋城再建なる　地下鉄丸の内線全通　八海事件無罪判決　朝日ジャーナル創刊　鏡子の家／三島　キクとイサム／今井	第6回国際建築学生会議　F.L.ライト死去　グッゲンハイム美術館／ライト　ユネスコセンター／ブロイヤー・ネルヴィ　サラソタ高校／ルドルフ　メゾン・カレー／アアルト　ローマオリンピック競技場／ネルヴィ　ストックホルムのイタリア文化会館／ポンティ　パリ工業館／ブルーベ他　ローハンプトン団地／LCC 国連総会完全軍縮協定を採択　EEC発足　館／フォークナー　開かれた処女地／ショーロホフ
1960 昭35	国連調査団阪神都市圏調査のため来阪　京都会館／前川　関電ビル・朝日生命館／竹中　電通ビル／丹下　大和文華館／吉田　芦屋市民館・大阪府商工会館・大阪資生堂ビル・久保田鉄工／日建　日本工芸館／浦辺　大阪府農林会館・国際見本市2号館／東畑　大阪富士ビル／松田・平田　輸出繊維会館・吉本ビル／村野・森　京都新聞社／富家　大阪千代田生命ビル・日本麦酒大阪工場／大成　枚方市庁舎／K構造　能勢カントリークラブハウス／彦谷　兵庫県婦人会館／県建築課　安宅産業KK本社／双星社竹腰　香里ニュータウン・春日丘団地／住宅公団 大阪市バス豊中乗入れ開始　地下鉄西田辺・あびこ間開通　京都東山山頂公園開園	テレビ放送実施　欧米建築視察団出発　明るい生活と建築展　新しい都市と建築展　コルブ大阪展共催　講演会／住宅と人間・建築と音響・照明と室内デザインの調和　会誌特集／阪神都市圏の住宅問題・海外の建設工事・児童福祉施設　京都会館と佳水園見学会	住宅地区改良法制定　世界デザイン会議東京で開催　建築年鑑創刊　建設業協会賞・建築年鑑賞設立　民主主義を守る建築会議発足　新建築家集団NAC大阪で再発足　丸の内地下駐車場完成倉敷市庁舎／丹下　外務省庁舎／小坂　ホテル日航／芦原　学習院大学・世田谷区民会館／前川　名古屋大豊田記念講堂／槙　武蔵音楽大学／大林　九州工大講堂／清家 安保闘争　日米新安保条約発効　東京都昼間人口1千万人突破　五島美術館開館	ルクセンブルク国立劇場国際コンペ／ブールボン他　デュッセルドルフ市立劇場コンペ／ノイトラ　ダラス劇場／ライト　ピレリビル／ネルヴィ・ポンティ　ブラジリア議会場／ニーマイヤー　ペンシルバニヤ大医学研究所／カーン　シャトル科学館／ヤマサキ　キンゴーの集合住宅／ウッツオン　ラ・ツーレの僧院／コルブ ローマオリンピック　ソ連衛星船打上げ　米ネオ・ダダグループの抬頭
1961 昭36	阪神高速道路公団設立　千里丘陵住宅地区開発　日本板硝子ビル・東邦商事本町ビル・毎日放送千里丘総合社屋・ヤンマー本社ビル／日建　淀屋橋勧銀ビル／竹中　丸善石油本社ビル／石本　日本バイリーン滋賀工場／海老原　京都ホテル／高橋・小川　京都国際ホテル／吉村　都ホテル／村野・森　塩野義製薬研究所／坂倉　京都中央郵便局／郵政省　大阪興銀ビル／山下　ホテルパシフィック／渡辺　大阪中央図書館／双星社竹腰　宝酒造京都麦酒工場／清水　東本願寺難波別院／松下・太田・内田　大谷婦人会館・大阪ガス総合研究所／安井　大阪厚生会館／大阪建　辻藤ビル／彦谷 地下鉄大阪港・弁天町開通　国鉄環状線開通　大台ドライブウェー完成　第2室戸台風	法規委／違反建築防止の啓蒙運動の実施方法を検討審議　京大建築学科の講座増設につき学生定員増加を6団体連署で文部省に要望　鋼管構造講演会　フーラー博士講演会　会誌特集／居留地建築・長谷部鋭吉・建築と規格　日本近代建築運動史	建築学会大都市対策研究委員会発足　首都整備委員会学園都市構想発表　3会国立劇場・国際会議場を公開コンペとする様建設省に申入れ　コルブ東京展　東京計画—1960・戸塚カントリークラブ／丹下　市街地再構成計画／大谷　東京文化会館／前川　国立国会図書館／ミド　朝鮮大学／RIA　群馬音楽センター／レーモンド　大原美術館分館／浦辺 釜ケ崎暴動　愛知用水完成　雁の寺／水上　瘋癲老人日記／谷崎	UIA第6回会議　サーリネン・トロハ死去　WHO本部指名コンペ／チュミルーズベルト記念碑コンペ／ペダーソン　ヘルシンキセンター計画／アアルトオ　イスラエル原子核研究所／ジョンソン　CBSビル／ヤマサキ　クラウンゼラバックビル／SOM NY大学キャンパス計画／ブロイヤー　北京工人体育館 国連総会核兵器使用禁止宣言　ケネディ米大統領に就任　国際版画ビエンナーレ展
1962 昭37	大阪府建築士会ガイドブック大阪の建築刊行　堂島開発計画／槙・竹中・小川・田村　新阪急ビル・芦屋カントリークラブハウス・大阪グリーンビル・宝塚ホテル・六甲山ホテル新館／竹中　小原流家元会館／清家　天王寺民衆駅／国鉄・安井　新住友ビル・日本生命本館・豊中市庁舎・関西鉄鋼短大・東海ビル／日建　蹴上浄水場／京大増田研　大阪府議会会館／安井　尼崎市庁舎・森田ビル／村野・森　大阪市信用金庫本店／田中・小西　日本生命保険相互会社／長谷部・竹腰　大阪労災病院／近畿地建　兵庫県立精華園・赤穂学園／県建築課　西宮市立中央公民館／池亀　堺鉄鋼ビル／毛利 港域法の改正により大阪港・堺港の港域併合　岡崎公園開園　京都市電急行運転始める	創立45周年記念事業を行う　本会編「ふるさとのすまい」毎日出版文化賞を受賞　京大に住宅工学科新設に関する要望書提出　講演会／H形鋼・鋼管構造・防錆・欧州のプレハブ建築視察について　45周年記念住宅講演会　会誌特集／名古屋・阪神高速道路と近畿の開発・公害・宅地開発・社会福祉施設	全国建築士事務所協会連合会設立　東大に都市工学科新設　コートハウス論さかん　ライト展　東京カテドラルコンペ・日南文化センター／丹下　早大文学部校舎／村野・森　アテネフランセ／吉阪　資生堂ビル／谷口　ホテルオークラ／大成　神奈川県青少年センター／前川　三愛ドリームセンター／日建　日本26聖人記念館／今井　東洋レーヨン基礎研究所／坂倉 北陸トンネル・若戸大橋完成　東名高速道路着工　ピカソゲルニカ展　砂の女／安部	第1回アフリカ・アジア住宅会議　マリン郡庁舎／ライト　TWAエアポート・ダラスエアポート／サーリネン　セイナジョッキシヴィックセンター／アアルト　空軍大学礼拝堂／SOM　ダーラン空港ターミナルビル／ヤマサキ　ハーバード大学ホリデーセンター／セルフ　ホテルインドネシア／ソレンソン　ヴォルスブルグシヴィックセンター／アアルト キューバ問題激化　アルジェリア独立　フルシチョフ首相平和共存を打出す

海外の宇宙開発は更に進み，政治的にはキューバ問題も起ったが，拡がるには至らなかった。

世界の建築界は変貌をつづけ，ここ数年間に多くの新しい動きの芽がみられた。ＣＩＡＭ崩壊以後における傾向として，ＴＥＡＭ-10は，「モビリティ」「成長と変化」を追求し，フランスのグループＧＥＡＭは，動く建築の研究により，未来の予見に力を注ぎ，イギリスのＡＲＣＨＧＲＡＭは，建築における，ポップ・アート的方向をとった。アメリカの，ジョイントセンターはアーバンデザインを総合科学として把え，独自の方法論を見出している。またギリシャのドクシアデスは，エキスティックスを主張し，新しい綜合への道を求めている。日本では発想の面白さを示す，メタボリズム・グループが東京で結成され，1960年世界デザイン会議が東京で開かれた。しかしこれらには，近代建築運動に見られた直進的情熱とは違った摸索の姿がみられる。

アアルトはヘルシンキ文化センターの意想外な形態で建築を際立たせようとし，内部と外部との相関性を強調している。ネルヴィのローマオリンピック競技施設，ポンティのピレリィビルが目立った。カーンはペンシルバニヤ大学医学研究所によって，新しい方法論を提示した。1959年巨星ライトはグッゲンハイム美術館の完成を見る事なく90年の生涯を閉じた。死後ダラス劇場は竣工し，マリン郡庁舎の有機的建築が完成されつつある。1961年建築の可能性を次々とダイナミックな形で示し，これからの活躍が期待されていたサーリネンは，51才の若さで死去した。

日本においては，1960年，安保条約締結を頂点とする民主主義の危険に対して日本の文化人，学生，労働者，一般大衆を包含した各層の人々の反対運動が大規模に行なわれる。建築家も民主主義を守る建築会議に結集して，反対運動に参加した。しかし，人々を支える建築家としての連帯意識が稀薄で，運動全体が下火になると共に消滅した。その後の池田内閣は高度経済成長政策を打ちだし，設備投資がなされ，建設界は活動が盛になった。

近来人口の都市集中は急激となり，1961年東京都昼間人口は1,000万を突破し，大都市の交通問題は悪化の一途にある。住宅や建築のプレファブ化が，建築界より産業界において活発化していた。さらに建売住宅や都市近郊の宅地分譲が進み，都市への人口集中を促し，通勤難や交通戦争が激化する中で，市街地再開発の急務が叫ばれ，事業と構想がからみ合って進んだ。提案として大谷の市街地再構成計画，菊竹の海上都市・塔状都市計画，メタボリズム・グループの主張，さらに丹下の「東京計画―1960」は都市像の一頂点をなすものであり，コートハウス論も都市住居の一方向を示そうとした。

建築ではコルブの西洋美術館，ミドの国立国会図書館，前川の京都文化会館，東京文化会館，学習院大学，清家の九州工大講堂，坂倉の羽島市庁舎と大胆な造形表現が新しい迫力を生み出し，芦原は日航ビル等でスマートな近代建築を表わした。丹下は今治市庁舎，倉敷市庁舎，戸塚カントリークラブ，日南文化センターで線の構成からコンクリートマスの力強い表現に変貌した。異端者的存在の白井は，孤高にヒューマニズムの追求を目指し，善照寺をつくり高村光太郎賞を受賞した。今井の日本26聖人殉教記念館は宗教建築として特異な職人的造形を試み，超自然の表徴を建築の中で浮彫りして，宗教的シンフォニーを生み出そうとした。オリンピックへの前哨としてホテル・オークラがジャポニカスタイルで登場した。



28. 香里団地（昭和34年３月号）



29. 伊勢湾台風
（昭和35年３月号）



30. 建築協会45周年記念講演会（協会手持写真）
―昭和37年３月―



31. 45周年記念事業「ふるさとのすまい」発刊

■日本建築協会の歩み・1959～62（昭和34年～昭和37年）

阪奈道路が開通、国連調査団の阪神都市圏調査、千里丘陵住宅団地の開発が開始され、香里ニュータウンが完成した。

本会でも、会誌特集として、「阪神都市圏の住宅問題」「阪神高速道路と近畿の開発」「宅地開発」をとりあげた。昭和35年欧米建築視察団が出発、昭和37年安定したムードで創立45周年を迎え記念事業を行なった。そのひとつとしての「ふるさとのすまい（日本民家集）」は毎日出版文化賞をうけた。大阪のコルビュジェ展開催にも協力した。

法規委員会では、基準法の改正について研究、違反建築防止の啓蒙運動の実施について研究された。またテレビ放送で「建築の広場」「建築に生きる人たち」が放映された。

近代建築調査委員会が昭和34年に発足し、その調査第１号・泉布観を会誌35年１月号に発表して以来、関西の明治建築の資料保存に大きな貢献した。

年代	関　西（建築界・一般社会）	建築協会	日　本（建築界・一般社会）	海　外（建築界・一般社会）
1963 昭38	近畿圏整備法案成立　重要文化財神戸旧ハッサム邸移築修理完成　大阪科学技術センター・神戸ポートタワー・大阪メディカルセンター／日建　大阪放送会館・大阪神ビル／大林　京大関電記念館・松下電産中央研究所／竹中　大阪府農林技術センター／東畑　京都府立総合資料館／富家　関大第5学舎特別講堂／村野・森　伊丹市文化会館／市建築課　三菱電器ビル／三菱地所　平和生命大阪ビル／銭高　関西大倉学園／大成　京都府宇治市庁舎／石本　京阪淀屋橋ビル／奥村　香里団地・浜甲子園団地／住宅公団　梅田地下センター完成 名神高速道路・第2阪神国道開通　阪急新千里山線開通　奈良電鉄近鉄に合併される	南海住宅設計コンペ法規委／建築基準法改正構想案の説明　講演会／国連住宅会議より帰って　建築―遺跡と現代・建築工事の機械化　ドッサ教授講演／イタリア芸術にあらわれたスポーツ・1960年オリンピック芸術展について　会誌特集／建築教育・地下街・超高層	国際地震工学会開催・同研究所設立　前川国男オーギュストペレー賞受賞　地域開発センター発足　ホテルオータニ／大成　人工土地計画／大高　国立劇場コンペ／竹中　国立国際会館コンペ／大谷　日本武道館指名コンペ／山田　出雲大社庁の舎／菊竹　日生日比谷ビル／村野・森　新制作座／ＲＩＡ　リッカービル／鹿島　倉敷国際ホテル／浦辺 黒四ダム完成　シャガール展　今井正グランプリ受賞	女流建築家第1回国際会議　ニーマイヤーレーニン賞受賞　第7回ＵＩＡ会議　エール大学建築・芸術学部センター／ルドルフ　ベルリン・フィルハーモニックホール／シャロウン　レスター大学工学部校舎／スターリング　ＩＢＭシアトルオフィスビル／ヤマサキ　パンアムビル／エメリーロス 中ソ論争激化　ケネディ大統領暗殺される
1964 昭39	古都保存・開発論議盛ん　重要文化財泉布観・国宝姫路場修理完成　大阪府建築士会誌ひろば創刊　京都計画／京大西山研　浪速芸大コンペ／高橋　京都タワービル／山田　甲南女子大／村野・森　新阪急ホテル・オリエンタルホテル・吹田市庁舎／竹中　大阪共済会館／菊竹　芦屋市民館・枚岡市庁舎／坂倉　全日空ビル・大阪府庁別館・神戸ニューポートホテル・堺東ビル／日建　高槻市民館／彦谷　京都商工会議所／富家　東洋ベアリング本社ビル／大成　住宅公団大阪支所庁舎／公団　箕面市庁舎／Ｋ構造　新京都駅　新米原駅 地下鉄弁天町・本町間開通　阪神高速道路大阪1号線開通　信貴生駒スカイライン開通　近鉄奈良線新生駒トンネル開通	尾崎久助会長死去　東畑謙三会長に就任　住宅相談所開設　日本建築総合試験所財団法人として設立　法規委／基準法改正に関する要望書提出　講演会／Ｈ形鋼建築構造・建築と色彩・地震と超高層建築　座談会／みんなの外部空間　会誌特集／プレハブ住宅・外部空間・宅地開発 第1回現場主任講習会	容積地区制施行　菊竹清訓汎太平洋建築賞受賞　第1回日本建築祭　国立屋内体育館・東京メガロポリス計画／丹下　駒沢体育館施設／芦原・村田　帝人中央研究所／ポルシェック　ホテルニューオータニ／大成　ホテル東光園／菊竹　南山大学／レーモンド　紀伊国屋ビル・学習院大図書館／前川　大石寺客殿／横山 東京オリンピック　東海道新幹線開通　新潟地震　ミロのヴィナス展　現代イタリア50人展	ニューヨーク世界博開催　アリゾナ州立大学記念劇場／ライトエール大学図書館・ガルデナ銀行支店／ＳＯＭ　農機会社の管理棟・ビューモント劇場／サーリネン　ヘインツ会社ビル／パーキン　ベネディクト大付属高校／ミシェルソン　マリナシティ／ゴールドベルグ　ＢＭＡビル／ＳＯＭ　シオンビルのアパート／デュビィソン　ニューヨーク世界博日本館／前川 フルシチョフ党第1書記を辞任　アラスカ地震
1965 昭40	1970万国博覧会会場大阪千里丘陵に決定　大阪府建築士会誌ひろば近畿建築士会誌となる　奈良計画／京大西山研　史都計画／沖他　御堂ビル・夙川学院短期大学／竹中　桜橋東洋ビル／東洋不動産　奈良県庁舎／近畿地建　青少年野外センター／坂倉　神戸中央体育館／神戸大研　甲南大体育館／東畑　ロイヤルホテル／吉田・竹中　四天王寺悲田院／伽藍復興事務所　兵庫県庁舎／県庁舎建設事務所　京都国立博物館／森田　大橋市街地改造ビル／日建・神戸市都市計画局　愛染橋病院／浦辺　堺市民会館／大阪建　日立造船ビル・神戸交通センタービル／日建　松下電産体育館／鹿島	法規委／建築士法改正に関する審議　よろず相談住宅展開催　講演会／西ドイツのコンクリートプレファブ　会誌特集／尾崎久助・内部空間・人間工学・社会開発・建築と騒音	古都保存法成立　東京容積地区制指定　丹下健三ロイヤル建築金賞受賞　日本建築センター発足　日本建築センター展示場コンペ／大林　山口銀行／円堂　蛇の目ビル／前川　花泉町農協会館／大高　岩手教育会館／菊竹　天照皇大神宮教本部／沖・大谷　セントラルロッジ／黒川　東京カテドラル／丹下　第百生命ビル／レーモンド 三矢研究問題化　日韓条約成立　朝永博士ノーベル賞受賞　日本国際美術展開催　広島ノート／大江	エキスティックス世界会議開催　第8回ＵＩＡ会議　コルブ死去　スコピエ計画国際コンペ／丹下　ベルリン図書館コンペ／シャロウン　エンドー製薬工場・研究所／ルドルフ　ヴェニスの病院・ファミュイの教会／コルブ　セントキャサリーンカレッヂ／ヤコブセン　ディアカンパニーセンター／サーリネン　クラーク大学生センター／ＴＡＣ　ミネアポリスオフィスビル／ヤマサキ 人類初の宇宙遊泳成功
1966 昭41	日本万国博会場計画最終案決定　近畿地方砂利対策協議会結成　播磨カントリークラブハウス・マツダオート大阪布施豊中営業所／大阪建　国立京都国際会館／大谷　朝日放送本社／大成　大阪化学繊維会館／日建　西宮商工会館・出光興産京都支店／村野・森　天野山カントリークラブハウス／横河　甲南大講堂兼体育館／東畑　神商大図書館／兵庫県　大阪ガスビル増築／安井　桃山学院大登美丘校舎・東阪急ビル・京阪ビル／竹中 大阪中央環状線茨木・門真間開通　堂島地下街完成　大阪湾西部埋立て構想発表　第2回ソ連見本市開催　岸和田木材コンビナート完成　国道1号線枚方バイパス全通　阪神高速道路大阪1号線堂島渡り線完成　神戸港摩耶大橋完成	日本万博コンストラクションガイド作成　よろず相談住宅展開催　モントリオール万博視察団募集　座談会／20年後の空調設備を語る講演会／基準法・士法制定15周年記念　建築法視の研究と討論の会　左官講習会　第12回工高生デザインコンクール　会誌特集／都市住居・地下街・空気調和設備・1970年万博・最近の地下工法・市街地改造・公害と都市建築	ＩＦＨＰ第28回会議東京で開催　美観論争起る　津山文化センター／川島　文芸春秋本社ビル／竹中　ペアシティ計画・都城市民会館／菊竹　ソニービル／芦原　埼玉会館／前川　千代田生命保険相互会社／村野・森　鎌倉近代美術館増築／坂倉　桃華楽堂／今井　神言神学校／レーモンド　富士銀行ビル／三菱地所　香川県文化会館／大江　帝国劇場／谷口　パレスサイドビル／日建 ロダン・ミロ・現代アメリカ絵画展　沈黙／遠藤	第2回アフリカ・アジア住宅会議　トロント市庁舎／レヴェルソーク生物学研究所／カーン　サイエンスセンター計画案／ゲデス　クラーク大学図書館／ヨハンセン　アメリカンパブリック保険会社／ＳＯＭ　ホイットニー美術館／ブロイヤー　ランベルト銀行／ＳＯＭ　ノウーフォークシヴィックセンター／オリバー 中国紅衛兵旋風　ベトナム問題悪化

1963～1966

宇宙への夢が進む反面，ケネディ大統領暗殺，フルシチョフ第一書記の辞任，ベトナム問題の悪化，中ソ論争が表面化し，世界の政局は新たな局面を迎えた。

建築界では，北米において，ルドルフがイエール大学芸術・建築学部センター，ＳＯＭが大事務所として着実にガルデナの銀行支店，ＢＭＡビル，アメリカン・パブリック保険会社，ランベルト銀行等を計画した。世界の注目を集めたレヴェルのトロント市庁舎が完成された。1965年コルビュジェは死去した。近代主義建築の偉大な開拓者であった彼はライト同様精力的な建築活動に終始したが，各地に作品をつくり，多くの建築家に教示を与えた事はライトの孤高とは対照的であった。この年ヴェニスの病院・ファミュイ教会が完成した。

現在われわれは想像を絶する急テンポで変動する重大な転換期に立っている。未来を夢見る建築家・都市計画家は多くの提案をしている。クックの取替え方式の建築，ジェリコのユートピア，ヨナスの漏斗状のまち，フラーのドーム都市，メーモンの海上都市，フリードマンの空中都市等があり，さらに進歩的都市計画家達は透明な膜で覆った都市全体を気候調節することを考え，宇宙開発が進められている現在，未来の月世界の住いも構想されている。

設備投資過剰による日本経済界の不況の中で，東京オリンピックはひとつの救いとなり，日本建設産業のエネルギーが結集された。東海道新幹線は日本の新動脈となり，高速道路網が開発されることとなった。オリンピックの各種施設のうち特に丹下の国立屋内総合体育館にユニークな造形がみられた。駒沢の各種競技場のみごとな綜合計画が実現した。

一作ごとに問題提起を試みる菊竹は，ホテル東光園・岩手教育会館・ペアシティ計画を発表した。さらに丹下の東京カテドラル，前川の蛇の目ビル，円堂の山口銀行本店，竹中の新阪急ビル・御堂ビル等の設計は落着きがみられ，現代建築の荒涼とした中に，潤いをもたらした。洗練された，美しい建築を試みていた村野は，千代田生命保険会社ビルでもその結晶を見せた。

戦後の２大コンペである国立劇場コンペは竹中，国立国際会館コンペは大谷の設計で各々竣工した。都市化の急速な中で問題化していた古都保存・開発論議は，京都タワー・奈良県庁舎で世論の批判を受けた。京都・奈良計画が西山研究室から発表され，1965年古都保存法が成立し，文化財保存の高まりを築いた。

都市建築の高層化は容積地区・特定街区制実施を通して具体化され，ホテルニューオータニが超高層ビル第１号として誕生した。続いてホテルエムパイヤ，富士銀行ビルが完成，霞ケ関三井ビルの建設は着々進行中である。現在計画中の前川事務所設計の東京海上火災保険会社ビルは，宮城前丸の内地区として美観論争の焦点となっている。

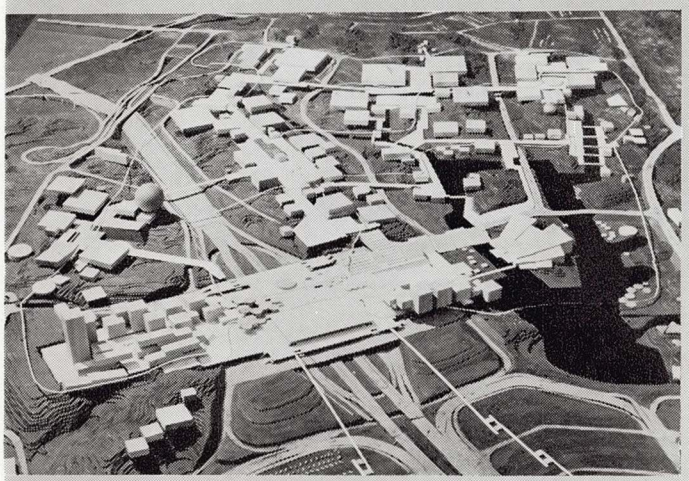
1966年ＩＦＨＰ（国際住宅都市計画会議）が東京で開かれ，都市や地域計画について論じられた。

オリンピックにおける東京での建設に対して，関西では近畿圏整備法の成立，また千里丘陵における万国博開催が決定し，基本計画の決定も見た。これから関西において莫大な建設エネルギーが投入されることであろう。

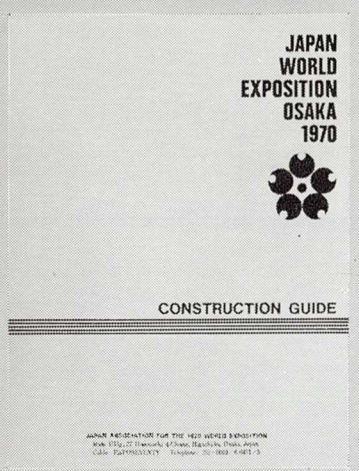
現代をマニエリズムと観じ，主体性の再確認をし，妥協せず組織と個の対決を試みる人もいる。しかし現代建築理論の多くに建築家の恣意を正当化するような傾向が感じられ，すべての建築家が持たねばならない真摯さが見失なわれているようにも思われる。建築家の創造が未来への洞察を深めて力強く立上るか，世紀末への動きを早めるかは，現在にかかっている。



32．よろず相談住宅展第１回開設（協会手持写真）－昭和39年－



33．万国博会場計画第二次案模型（昭和41年８月号）



34．万博コンストラクション
ガイド作成 －昭和41年－



35．国立京都国際会館（昭和41年６月号）

■日本建築協会の歩み・1963～66（昭和38年～昭和41年）

近畿圏整備法案が成立し、近畿圏の開発が進められ、1970年開催の日本万国博覧会会場が大阪千里丘陵に決定、西山、丹下、両研究室が協同で、会場基本計画がなされた。本会では、万博協会より依頼をうけて日本万博コンストラクションガイドの作成に力をつくした。建築生産の近代化に伴って、日本建築総合試験所の設立に協力し、また建築士法、基準法改正気運に対して、審議して意見書をだしたりした。左官講習会や材料説明会も開催した、工高生デザインコンクールも昭和41年で第12回を開催した。また、よろず相談住宅展を昭和39年から毎年開催し、市民の住宅啓蒙につとめるなど、対社会的活動を行なった。会員も7000名近くに達した。

昭和42年の協会創立50周年には、祝賀会、展覧会、講演会、モントリオール万博視察団派遣など各種の記念行事が予定されている。

■ 日本建築協会会員動勢

年度	正会員	地方会員	名誉（賛助員）	終身（賛助員）	特別（賛助員）	（准）普通（賛助員）	合計(名)
大正 6年	74						74
〃 7〃	126	28	17	35	10	232	448
〃 8〃	170	49	64	39	9	243	574
〃 9〃	187	62	60	43	12	287	651
〃 10〃	205	78	71	51	17	344	766
〃 11〃	249	81	67	57	25	415	894
〃 12〃	271	104	71	55	29	477	1,007
〃 13〃	357	152	78	56	31	513	1,197
〃 14〃	378	175	70	54	26	513	1,216
〃 15〃	411	193	69	53	31	459	1,216
昭和 2年	409	199	80	52	30	354	1,124
〃 3〃	394	204	79	53	33	345	1,018
〃 4〃	377	223	44	52	38	366	1,103
〃 5〃	423	218	43	52	54	341	1,131
〃 6〃	450	224	40	52	68	363	1,197
〃 7〃	511	226	39	51	94	495	1,416
〃 8〃	476	232	38	49	125	494	1,414
〃 9〃	501	230	35	48	134	513	1,461
〃 10〃	534	287	33	45	132	501	1,532
〃 11〃	822	308	27	42	158	463	1,820
〃 12〃	932	335	23	38	176	480	1,985
〃 13〃	不明						
〃 14〃	892	361	23	37	175	532	2,020
〃 15〃	1,423	666	22	38	279	439	2,871
〃 16〃	1,429	690	26	39	324	481	2,989
〃 17〃	1,502	745	26	39	365	496	3,173
〃 18〃	1,495	721	26	38	329	485	3,094
〃 19〃	不明						
〃 20〃							
〃 21〃							

年度	正会員	地方会員	准会員	団体会員（口数）		合計（口数）	
昭和22年度	2,744	848	—	250	1,524	3,842	5,116
〃 23〃	2,270	251	—	500	2,038	3,021	4,559
〃 24〃	2,107	236	—	811	1,573	3,154	3,916
〃 25〃	2,369	262	199	501	1,417	3,331	4,247
〃 26〃	2,389	248	199	547	1,380	3,383	4,216
〃 27〃	2,284	229	197	615	1,488	3,325	4,198
〃 28〃	2,202	214	167	611	1,476	3,194	4,059
〃 29〃	2,215	234	189	608	1,471	3,246	4,109
〃 30〃	2,308	202	261	614	1,478	3,385	4,249
〃 31〃	2,396	196	340	605	1,442	3,537	4,374
〃 32〃	2,487	200	419	606	1,443	3,712	4,549
〃 33〃	2,772	198	455	616	1,460	4,041	4,885
〃 34〃	2,952	208	512	607	1,418	4,279	5,090
〃 35〃	3,360	233	508	653	1,699	4,754	5,800
〃 36〃	3,591	239	546	634	1,676	5,010	6,052
〃 37〃	3,873	237	547	641	1,679	5,298	6,336
〃 38〃	3,992	253	768	653	1,692	5,666	6,705
〃 39〃	4,063	272	867	647	1,690	5,849	6,892
〃 40〃	4,054	268	820	627	1,668	5,769	6,810
昭和42年2月末日	4,136	296	506	636	1,627	5,574	6,565

■ 日本建築協会事務所の変遷

創立当時		
大正6年9月	片岡建築事務所内	大阪市東区今橋2丁目
大正10年5月1日	不動貯蓄ビル内	大阪市西区京町堀
大正10年9月1日	大江ビル内	大阪市北区絹笠町
大正12年1月1日	堂島ビル3階（1室）	大阪市北区堂島浜通
大正15年9月15日	江商ビル4階1室	大阪市北区中之島
昭和2年9月15日	大同ビル6階1室	大阪市西区土佐堀
昭和7年5月7日	朝日ビル4階 事務室1，クラブ　陳列場　約 100坪	大阪市北区中之島
昭和21年12月24日	朝日ビル6階1室	大阪市北区中之島
昭和23年12月19日	分室設置（大阪建設会館）	大阪市東区京橋3
昭和31年10月10日	近畿建築会館 現在ニ至ル	大阪市東区北浜3

第3部

各論



武田五一筆

創立委員・歴代会長・歴代副会長・名誉正会員の肖像

創立委員



片　岡　　安
昭21.5.26 逝去　71才



波　江　悌　夫
昭40.2.8　逝去　79才



池　田　　実
昭25.4.24 逝去　72才



設　楽　貞　雄
昭18.12.15 逝去　80才



武　田　五　一
昭13.2.5　逝去　67才

歴代会長



片岡　安
昭21.5.26 逝去　71才
大6.3～昭21.5
（大6～大9 理事長　大14～大15 会頭
大10～大13 副会頭　昭2～昭21 会長）



竹腰健造
昭21.8～昭33.3

歴代副会長



葛野壮一郎
昭19.1.18逝去63才(推定)
大10 理事長　昭9 副会長



横浜勉
死去日不明・昭8退会
大 11



池田実
昭25.4.24 逝去　72才
大12～大13　昭7～昭8



宗兵蔵
昭19.1.30 逝去　82才
大14～15副会頭　昭2～5副会長



松本禹象
昭20.9.16逝去68才(推定)
大14 理事長　昭12 副会長



園部文雄
昭7.12.18逝去42才(推定)
大15 理事長



日高胖
昭27.12.24 逝去　78才
昭2，昭4，昭6



野村一郎
死去日不明・昭10退会
昭 3



古宇田実
昭40.2.16 逝去　86才
昭5～昭6



武田五一
昭13.2.5 逝去　67才
昭7，昭10



竹腰健造
昭8，昭12～14
昭17～昭21



松室重光
昭12.1.30 逝去　65才
昭 9



松井貴太郎
昭37.11.2 逝去　80才
昭 10



設楽貞雄
昭18.12.15 逝去　80才
昭 11

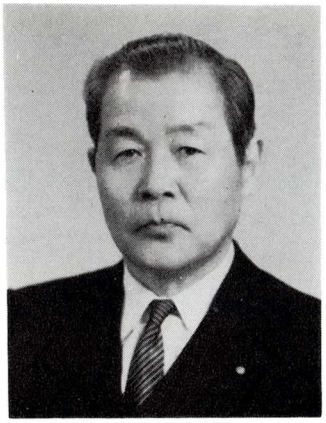


安井武雄
昭30.5.23 逝去　72才
昭 11

歴代会長



尾崎久助
昭41. 1. 22 逝去　70才
昭33. 4 ～昭39. 3



東畑謙三
昭39. 4 ～現在

歴代副会長



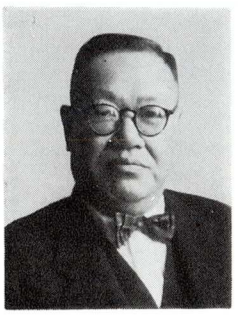
中沢誠一郎
昭13～昭14



坂静雄
昭14～昭15



今林彦太郎
昭15～昭16



井上新二
昭26. 1. 11 逝去　58才
昭16～昭17　昭23～昭25



松本儀八
昭17～昭21



池田宮彦
昭　21



銭高輝之
昭22～昭23



中西六郎
昭39. 3. 16 逝去　68才
昭　22



大林芳郎
昭24～昭29



東畑謙三
昭26～昭28
昭31～昭38



伊東五郎
昭35. 7. 11 逝去　64才
昭29～昭30



鴻池藤一
昭30～昭35



竹中錬一
昭36～昭41



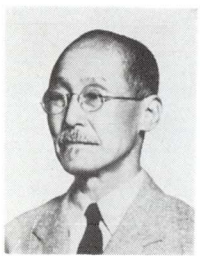
塚本猛次
昭37～現在



鷲尾健三
昭39～現在

名誉正会員

昭21.10.10
名誉正会員推挙
→


天沼　俊一
昭22.9.1逝去 72才

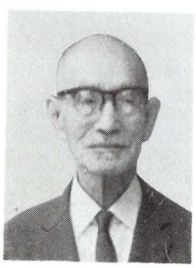

池田　実
昭25.4.24逝去 72才

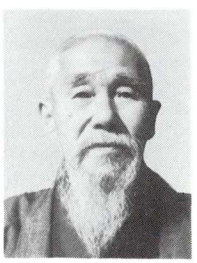

日高　胖
昭27.12.24逝去 78才


古宇田　実
昭40.2.16逝去 86才


松井貴太郎
昭37.11.2逝去 80才


小笠原祥光
昭41.3.25逝去 92才


置塩　章


千賀　正人
昭38.11.1逝去 91才


田中　綱
昭22.2.22逝去 71才


武田　経一
昭41.12.13逝去 86才


谷　民蔵
昭28.6.23逝去 78才


松井　清足
昭23.2.29逝去 72才

顔写真を八方手をつくしましたが入手できませんでした。お持ちの方はご一報いただければ幸いです。

森山松之助
死去日不明・推定昭23頃

昭21.10.27
名誉正会員推挙
→


永瀬　狂三
昭30.1.21逝去 77才

昭21.12.19
名誉正会員推挙
→


伊東　忠太
昭29.4.7逝去 87才


清水　釘吉
昭23.9.7逝去 80才

昭24.1.29
名誉正会員推挙
→


清水　一雄
昭30.8.18逝去 81才


内藤　多仲


波江　悌夫
昭40.2.8逝去 79才


松本　儀八

昭28.1.29
名誉正会員推挙
→


石田　信夫


今林彦太郎


佐藤　四郎


長谷部鋭吉
昭35.10.24逝去 75才

昭30.1.31
名誉正会員推挙
→

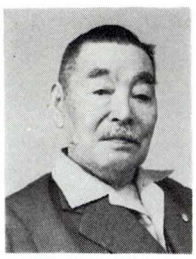
名誉正会員



伊藤幸太郎
昭35. 11. 18逝去 73才



今津　吉兼
昭37. 3. 4逝去 80才



岡田　平蔵
昭41. 6. 27逝去 84才



岡村徳一郎
昭30. 5. 15逝去 70才



佐藤正次郎
昭40. 5. 4 逝去 84才



島田　良馨



野中　　実
昭38. 1. 22逝去 70才



安井　武雄
昭30. 5. 23逝去 72才



渡　　実幸
昭33. 4. 25逝去 72才

昭42. 2. 27
名誉正会員推挙

→



秋田喜代治



井上　福蔵



池田　宮彦



石川　寛三



久保田種吉



早良　俊夫



作間日出生



鈴木　末尾



滝沢　真弓



竹腰　健造



中沢誠一郎



伴　　秀雄



伴野　貞三



坂　　静雄



藤木　正一



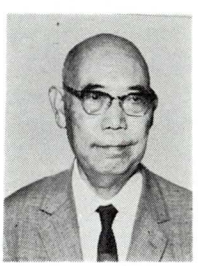
宮飼　克二



村野　藤吾



鷲尾　九郎



渡部　圭吾

委員会活動

委員会の活動記録については，さきに「特集創立35年記念史」（昭和28年12月号・P.72〜94)に，それまでのことが詳述されており，また昭和40年２月号は委員会特集号であって，事業・出版・住宅・教育・法規・編集・建材・近代建築調査の各委員会の詳細な報告がなされている。今回は創立50周年を機会に，昭和28年４月〜昭和42年２月までのことについて，なるべくすでに報告済みのこととは重複しないようにして、要点を記載する。

この報告書は、各委員会の担当事務局の方々の絶大なご協力を得てできたものである。記して深甚の謝意を表する。（**政岡基次**記）

1. 委員会の名称

まず委員会の一覧表を次に掲げる。○印は現在常設の委員会である。委員会の名称は，その仕事の内容が少し変ることによって，変更になったものがある。例えば，材料委員会→建材審査委員会→建材委員会など，その例である。

日本建築協会委員会一覧　（順不同）　○印＝現在常設委員会

委員会名	年度	歴代委員長名
災害委員会	大正６年〜昭和15年	池田実，波江悌夫，光安梶之助，渡辺圭吾，中沢誠一郎，下浦光衛，増田清
○災害調査委員会	昭和24年〜現在未定	堀口甚吉，池田宮彦，越田正勝（現在休会中）
○編集委員会	大正６年〜現在	大正６年〜昭和27年については本誌28年12月号51〜53頁参照。昭和28年〜現在については，本誌93頁参照。
法制委員会	大正10年〜昭和27年	大林賢四郎，池田実，今林彦太郎，鳥井信，津田敏雄，玉置豊次郎
四会連合工事請負規定改正委員会	昭和21年〜昭和30年	尾崎久助，薮中一良
建築行政委員会	昭和24年〜25年	稗田　治
○法規委員会	昭和27年〜現在	中沢誠一郎（昭和29年以降は本誌93頁参照）
材料委員会	大正10年〜昭和18年	片岡安，松室重光，須川廉太郎，池田宮彦，高橋栄治，松久保敬三，楠瀬徹
建材審査委員会	昭和24年〜34年	置塩　章
○建材委員会	昭和34年〜現在	本誌96頁参照。
教化委員会	大正12年〜昭和15年	古宇田実，武田吾一，小笠原鈞，安井武雄，永沢毅一，堀口甚吉
都市計画委員会	大正12年〜昭和15年	横浜勉，中村琢治郎，池田谷久吉，園部文雄，松室重光，鳥井信，井上新二
構造計算調査委員会	大正14年・15年	増田　清
○住宅委員会	昭和４年〜現在	日高胖，葛野壮一郎，武田吾一，石川純一郎，岡田孝男，伊藤和夫，元吉勇太郎，桐本楠雅，赤松修，昭和28年以降については，本誌93頁参照。
建築倶楽部幹事会	昭和７年〜昭和17年	設楽貞雄，須賀藤五郎，中西六郎，鈴木金太郎，三浦茂
陳列場幹事会	昭和８年〜昭和19年	徳政金吾，岡部顕則，今林彦太郎，中西六郎，池田宮彦，松久保敬三，井上新二
設備委員会	昭和８年〜昭和15年	小笠原祥光，酒井勇三郎，岩尾保衛，新名種夫
都市武装促進委員会	昭和９年〜17年	池田実，竹腰健造
新体制委員会（学会・協会合併問題）	昭和16年〜昭和18年（〜昭和20年）	（片岡安，井上新二，竹腰健造，鈴木一幸）四会連合
時局対策委員会	昭和20年〜21年	堀井啓治，松本儀八
会勢幹事会（23年より委員会）	昭和21年〜昭和30年	薮中一良，尾崎久助，銭高輝之，松村雄吉，浅沼猪之吉
○事業委員会	昭和31年〜現在	本誌94頁参照。
建築会館委員会	昭和22年	銭高輝之
○教育委員会	昭和23年〜現在	井上新二，中野順次郎，中沢誠一郎，鷲尾健三（29年以降は本誌97頁参照）
建築設計競技規準委員会	昭和23年	
建築技術者制度調査委員会	昭和23年	
木材委員会	昭和23年	松久保敬三
地震対策委員会	昭和23年〜24年	池田宮彦
「伸びる家」展覧会委員会	昭和24年	中野順次郎
建築資料要覧委員会	昭和24年	尾崎久助
○出版委員会	昭和26年〜現在	小林清，谷口尚武（29年以降は本誌95頁参照）
会勢審議会	昭和31年〜35年	東畑謙三
運営審議会	昭和37年〜39年	塚本猛次
○会勢委員会	昭和41年〜現在	鷲尾健三
都市美特別委員会	昭和31年	滝沢真弓
○表彰候補者推せん委員会	昭和34年〜現在	中沢誠一郎
○会館運営委員会	昭和31年〜現在	榊弘美
近代建築調査委員会	昭和34年〜40年	滝沢真弓
企画委員会	昭和39年〜40年	塚本猛次
万博コンストラクションガイド作成委員会	昭和41年	浦辺鎮太郎
50周年記念号編集特別委員会	昭和41年〜42年	滝沢真弓
記念事業委員会		
創立15周年	昭和７年	片岡　安
創立25周年	昭和17年	井上新二
創立35周年	昭和27年	東畑謙三
創立45周年	昭和37年	東畑謙三
創立50周年	昭和42年	塚本猛次

2. 編集委員会

会誌「建築と社会」の編集については毎号特集形式をとって編集幹事会を毎月設けて企画を考えてきた。現在この委員会には，表紙デザイン・作品作風・技術の頁・その他シリーズものに関しての小委員会がある。（別掲「建築と社会」誌の変遷参照）なお，「建築と社会」の総目録は，大正6年～昭和27年については，昭和28年12月号に，28年～41年については，本号に掲載してある。

年度	委員長名	委員会 回数	出席 延人員	幹事会 小委員会	出席 延人員
28	中村綱	19	79		
29	浦辺鎮太郎	10	71		
30	浦辺鎮太郎	11	103	1	3
31	佐野正一	12	125	10	40
32	佐野正一	12	92	13	63
33	塚本猛次	12	126	12	50
34	塚本猛次	12	111	12	58
35	森忠一（副委員長 上林博雄）	12	96	19	108
36	森忠一（副委員長 上林博雄）	12	101	17	94
37	元吉勇太郎・恒岡俊行	12	95	15	75
38	恒岡俊行	12	81	15	65
39	片山光生	11	85	15	68
40	片山光生・長谷川哲之助	11	92	27	127
41	長谷川哲之助	12	96	30	136

3. 住宅委員会

年度	委員長	副委員長	委員会 回数	出席 延人員	主な活動
28	赤松修		2	16	住宅の見学。住宅問題座談会。
29	中野順次郎		14	78	住まい方文献インデックスの作成準備。ローコスト住宅の研究。
30	中野順次郎		9	69	住まい方文献インデックスの完成。新聞発表の啓蒙企画。
31	中野順次郎	幹事 石堂正三郎 〃 岡橋作太郎 〃 逆瀬淑	12	66	カラースライド（家ができ上るまで）作成，担当上田光雄委員。
32	西嶋徳太郎	幹事 逆瀬淑 〃 鈴木成文	9	54	住宅資料の国際的蒐集と交換。
33	西嶋徳太郎		8	62	住宅のテレビ放送企画。
34	西嶋徳太郎	片山金市	10	67	テレビ委員会が設置され，これと協力してテレビ放送実施（毎日テレビ）。
35	海上静一		7	60	テレビ放送実施。住宅問題座談会開催。
36	海上静一	幹事 木原正雄 〃 下河内信子 〃 光崎育利	9	57	PR冊子の発行企画。住宅問題座談会開催。
37	海上静一	津村重一 幹事 中間廉之助 〃 山本茂	13	92	プレハブ住宅の研究。ハウスコンサルタントセンターの計画。住宅設計コンクールの実施。記念住宅展委員会と協力。
38	海上静一	福永薫	14	107	新住宅設計コンクール優秀作品図集発行。ホテルおよび工場見学。
39	海上静一	福永薫	22	230	住宅よろず相談所開設。住宅展の住宅相談コーナーに委員を派遣（2回延30名）。アパートおよび民家見学。
40	海上静一	黒谷俊一 野々村五四男	18	257	よろず相談住宅展の実施，すまいの手引発行。千里丘陵見学。建設記録映画観賞と座談会開催。照明学会住宅照明委員会に委員派遣。
41	岡橋作太郎	黒谷俊一 野々村五四男	18	238	第3回「よろず相談住宅展」実施。生活形態の研究。外国住宅資料の蒐集企画。千里メゾネット住宅および公団高層住宅の見学。

4. 法規委員会

年度	委員長	副委員長	委員会 回数	出席 延人員	主な活動
29	鷲尾健三	島田儀	3	30	委員会として検討する問題を提起（法規に関する苦情）。
30	中沢誠一郎		8	61	都市における駐車場（パーキングエリア）の問題研究。
31	〃		5	44	建築手続迅速化に対する意見，基準法改正に関する件。
32	恒岡俊行		6	44	基準法改正についての検討。
33	〃		3	21	大阪市の冷房用地下水使用防止条令案について。
34	〃		3	30	基準法改正についての検討。
35	〃		7	52	違反建築の是正に関する検討，違反防止運動，地域指定の修正に関する要望書提出。「建設省建築研究所支所設置に関する要望書」提出。「用途地域の改正および防（準防火）火地域の拡大指定に関し要望の件」提出。
36	〃		2	20	違反建築防止対策。
37	〃		6	47	関係法の改正に関するアンケート。基準法改正についての構想。
38	佐野正一		7	82	市街地改造事業。基準法改正について。
39	〃		11	100	「建築基準法改正に対する要望」書提出，建築士法の改正について。
40	〃	駒敬三	12	121	万国博の建築規制の問題。士法の問題。
41	〃	〃	11	109	士法改正，基準法改正の問題点。法規特集協力。法規討論会。

5. 事業委員会 （旧会勢委員会）

現在この委員会の下には次の小委員会があって，活発に活動している。すなわち，見学会・各種説明会・映画講演会・展示会・若い会員の集い・懇親会である。委員会の中では最も大きい組織で，現在委員数は57名に達している。この委員会の今日の盛大な活動の基礎を作ったのは，前委員長岩崎甚太郎氏である。

会勢委員会　昭和21年～昭和30年　　事業委員会　昭和31年～現在

年度	委員長	副委員長	委員会回数	出席延人員	主な活動 見学会	講演会	映画・観劇会・その他
29	浅沼猪之吉		3	35	キャバレ富士，尼崎兵站補給廠，古建築（西本願寺，角屋，二条城，東寺）見学会。外13回開催。	シリンダーシャーレの設計について講演会。グロピウス博士大阪講演会。外4回開催。	新年観劇会（中座）。定例午餐会9回開催。
		小委員会または幹事会，分科会	1	4			
30	藤木正一		4	40	梅田ビル見学会と座談会。トルコセンター見学会。工夫された小住宅見学会。東映撮影所と広隆寺見学会。桂修学院離宮見学会。外11回開催。	芦原義信氏講演会。「王婦と台所展」講演と映画会。ノイフェルト教授講演会。「リミットデザインについて」ワックスマン教授講演会。外2回開催。	ＯＳ劇場とシネラマを見る会。梅田大映劇場見学と映画観賞会。コンクリート映画会。外1回開催。説明会4回開催。定例午餐会6回開催。
		小委員会または幹事会，分科会	7	29			
31	鷲尾健三	岩崎甚太郎	9	79	市大付属病院見学会。梅田日活劇場見学と映画を見る会。室生寺と大野寺見学会。阪神ビルの井筒基礎工事見学会。神戸国際会館と米国領事館見学会。大阪テレビ放送社屋見学会。コマスタジアムとコマミュージカルを観る会。外16回開催。	「軽量鉄骨構造計算について」講演会。「軽量鉄骨構造に関する」講演会。「プレストレストコンクリートの建築への応用」。「メキシコとアメリカ建築」講演会。外3回開催。	米国建築士会訪日団歓迎晩餐会。ＡＩＡハワイ支部訪日観光団歓迎午餐会。外定例午餐会2回。佐久間ダム工事建設記録映画会。
		小委員会または幹事会，分科会	12	48			
32	鷲尾健三	岩崎甚太郎	9	87	公団千里団地見学会。毎日会館基礎電気固結工法見学会。外12回開催。	「建築塗料について」説明会。外2回開催。デッカー教授講演会。外3回開催。「建築技術者のための原子力講座」2回開催。	ＡＩＡ会長歓迎晩餐会。午餐会2回開催。懇親会（夏の会員懇親会，委員懇親ソフトボール大会。）
		小委員会または幹事会，分科会打合せ会	13	60			
33	岩崎甚太郎	尾亀清四郎	9	88	新大ビル見学会。四天王寺五重塔見学会。アサヒビール吹田工場見学会。読売テレビ放送見学会。西長堀高層共同住宅見学会。新歌舞伎座見学会。サントリー山崎工場見学会。外22回開催。	説明会「スプレッドサテン」5回開催。坂静雄氏「プレストレストコンクリートについて」講演会。	創立記念日映画会とビールパーティ。会館開館記念午餐会。外1回開催。
		小委員会または幹事会，分科会打合せ会	18	76			
34	岩崎甚太郎	岡本弘	12	148	大阪能楽会館見学と観能会。表千家，裏千家見学会。住友原子力研究所見学会。大阪市中央体育館見学会。高麗橋潜函工事見学会。大徳寺の茶室を見る会。外21回開催	最近の基礎工法と新しい建材説明会。外3回開催。「コンクリートに関する最近の話題」講演会。	創立記念日午餐会。外2回開催。夏期会員懇親会（生駒山上）。
		小委員会または幹事会，分科会打合せ会	26	94			
35	岩崎甚太郎		12	167	関電ビル見学会。新阪急ビル竹中式深礎工法見学会。京都会館と京都ホテル佳水園見学会。見学と批評の会（登美ケ丘分譲住宅）コンクリート打放し見学会。外24回開催。	「ハリス博士の建築と音響」講演会。	明るい生活と建築展（神戸王子体育館）。ドームとシャーレ映画会。映画会1回。ル・コルビジエ展。陸屋根の防水説明会。夏の会員懇親会と見学(ワールド)。第1回海外建築事情視察（欧米）午餐会1回。創立記念日ビールパーティ講演と映画会。会員余技作品展。
		小委員会または幹事会，分科会打合せ会	48	238			
36	岩崎甚太郎	岡本弘，原田守	12	171	大和文華館見学会。武者小路千家外茶室見学会。野沢セメント工場及彦根城見学会。外20回開催。欧米の施工技術とソ連の建築。クラブＯＴＡ見学会。	鋼管構造講演会。	これからのパーキング施設説明会。外1回。午餐会1回。夏の懇親（滋賀観光文化会館）建設記録映画を見る会。フランス美術展の観賞と講演会。
		小委員会または幹事会，分科会打合せ会	33	167			
37	岩崎甚太郎	岡本弘，原田守	11	146	新住友ビル見学会。クラソ千扇見学会。日本陶管とトヨタ自動車工場見学会。関西鉄鋼大学見学会。大関酒蔵見学会外16回開催。	H形鋼建築講演会。防錆に関する講演会。欧州のプレハブ講演会。外1回開催。	説明会1回。午餐会1回。創立記念日講演と映画会とビールパーティ。
		小委員会または幹事会，分科会打合せ会	17	62			
38	増井敏克		10	170	小原流家之教場見学会。三神ビル全溶接構造見学会。キリンビール尼崎工場見学会。ＮＨＫ大阪放送会館見学会。梅田地下街見学会。外13回開催。	新しい建築技術開発の集い。ドッサ教授講演会。外1回開催。新しい照明型式鉄筋化粧板説明会。外4回開催。	第1回会員余技作品展。創立記念講演と映画会。ビールパーティ。夏の会員懇親会（カジノ）。
		小委員会または幹事会，分科会打合せ会	70	247			
39	増井敏克	岡本弘，樫根英郎政岡基次，矢野豊作山本義樹	11	172	芭蕉庵，詩仙堂，曼珠院をみる会。長居陸上競技場見学会。永富邸，醤油工場，姫路城見学会。東海道新幹線基地現場見学会と試乗。兵庫県庁舎，相楽会館，神戸市埋立事業場見学。ＯＷＳ地下工法見学会。外19回開催。	高張力ハックボルト塗料，パーライト説明会。外3回開催。地震と超高層建築講演会。建築と色彩講演会。外1回開催。	夏の会員懇親会（ゴールデンミカド）。午餐会1回。
		小委員会または幹事会，分科会打合せ会	43	222			
40	増井敏克	岡本弘，樫根英郎政岡基次，矢野豊作山本義樹	10	180	大埋教病院，松下電器奈良工場，奈良県庁舎見学会。大和屋見学会。大阪安土町駐車場見学会。大阪ロイヤルホテル見学会。関西電力学園と総合運動場施設見学会。白鶴酒蔵第3工場見学会。外9回開催。	講演と映画会（坂静雄氏講演）外講演会1回。	説明会（最近のコンクリート）外3回開催。新年観劇会（前進座をみる会）。午餐会2回。
		小委員会または幹事会，分科会打合せ会	35	192			
41	増井敏克	尾亀清四郎，岡本弘窪田祐，中出俊郎藤沢達夫，政岡基次矢野豊作，山本義樹	10	166	朝日新聞本社地下工法見学会。国立京都国際会館見学会。二条陣屋，南禅寺，円通寺見学会。奥能登見学会。京阪天満ビル見学会。中日ビル明治村を見る会。外13回開催。	建築法規の研究と討論の会。	説明会「新しい防水工法と実例」。外4回開催。午餐回1回。
			34	210			

主な活動の欄で，若い会員の集い，建築写真コンクール，忘年懇親会，海外建築事情視察団については，別に項を設けて示す。

若い会員の集い

昭和32年6月より，青年建築家の交流と研究の場として年間の統一テーマを持って座談会，懇親会，講演会，見学等を開催してきた。

32年	4回開催。
33年	青年建築家として望むもの―懇談会― 外5回開催。
34年	香里園団地見学と批評の会，外5回開催。
35年	在日留学生と話し合う会，外4回開催。
36年	プレジデントクリーブランド号を見る会，外6回開催。
37年	企業内における工業デザイン，外3回開催。
38年	計画上からみた神戸ポートタワー，外6回開催。
39年	都市再開発事業実現のためのシステムとプログラム，外6回開催。
40年	現場監理50年，外2回開催。
41年	大阪府青少年野外センターを見る会，外3回開催。

建築写真コンクール

第1回 昭和32年3月　　第4回 昭和34年8月
第2回 昭和32年12月　　第5回 昭和37年11月
第3回 昭和33年7月　　第6回 昭和38年9月

海外建築事情視察団

第1回 欧米視察団（13名参加）　昭和35年10月12日～11月25日
第2回 欧州視察団（12名参加）　昭和38年6月5日～7月8日
第3回 欧州視察団（12名参加）　昭和40年6月5日～6月28日

忘年懇親会

昭和29年～昭和41年　13年間

年度	開催年月日	曜日	開催時間	会場	出席者数	会費
			時時		名	円
29	29.12.23	木	6～9	来山閣	130	500
30	30.12.21	水	6～8.30	東天閣	160	500
31	31.12.18	火	6～8.30	アベノ 燎泉閣和楽殿	160	500
32	32.12.18	水	6～8.30	来山閣	193	500
33	33.12.17	水	6～8.30	アベノ 唐崎寮	220	500
34	34.12.17	木	6～8	太閤園	270	500
35	35.12.14	水	6～8	阪神百貨店7階大食堂	370	500
36	36.12.14	木	6～8	千日前 味園	380	500
37	37.12.14	金	6～8	太閤園	380	700
38	38.12.13	金	6～8	太閤園	480	700
39	39.12.18	金	6～8	太閤園	506	700
40	40.12.17	金	6～8	太閤園	477	1,000
41	41.12.14	水	6～8	太閤園	490	1,300

6. 出版委員会

年度	委員長名	委員会回数	出席延人員	小委員会又は部会及出版編集委員会回数	出席延人員
29	谷口尚武	4	25	1	5
30	奥島正一	5	30	4	14
31	奥島正一	2	15	6	20
32	奥島正一	2	11	3	13
33	高橋慶夫	5	26	1	10
34	高橋慶夫	3	24	5	22
35	高橋慶夫	1	11	14	58
36	高橋慶夫	—	—	4	27
37	高橋慶夫	2	7	8	33
38	田中良太郎	3	13	20	96
39	田中良太郎 (副委員長)小林 清 野中三郎・寺沢一夫	8	92	20	100
40	田中良太郎 (副委員長) 池 保・伊藤克三 片山金市・野中三郎	5	66	51	384
41	田中良太郎 (副委員長) 吉川剛夫・長沢徹夫 伊藤克三・石崎滸雄	1	16	31	175

出版図書一覧表　（昭和24年～41年）

No.	発刊年	図書名	*委員長，幹事氏名
1	24年	実際に役立つ鋼構造の計算法	高橋慶夫，小西 岬 小泉 昇
2	24	地震とその対策の常識	*池田宮彦，横尾義貫，鷲尾健三，高橋慶夫
3	25	伸びる家と住まい	*中野順次郎，小林 清
4	27	プラスチックスとビニロン	*小林 清
5	27	アスファルト防水工事とセメント防水工事	*谷口尚武
6	27	建築衛生設備	*谷口尚武，上林博雄
7	28	これからの住宅図集	*中野順次郎
8	29	大阪附近地質図表（35周年記念出版）	*池田宮彦，井上 滉
9	29	建設資料便覧（35周年記念出版）	*尾崎久助 青木友一，池田宮彦，井上 滉 大井弘治郎，谷口尚武
10	29,31	鉄筋コンクリート施工指針	*横尾義貫
11	30	漏電とビルのダクト火災とその対策	*奥島正一，*横尾義貫
12	29,31,35	建物および設備の保全	*奥島正一，大井弘治郎，小西岬，谷口尚武，伊藤幸一
13	31,34,35	左官工法指針	*奥島正一，竹内 孝
14	32	建築塗料	*鷲尾健三，矢野豊作
15	33	建築技術者のための空気調和設備と電気設備	*前田敏男
16	34	床の仕上	*高橋慶夫，竹内 孝
17	34	鉄骨構造計算と実例	*馬場善雄，石崎滸雄 宮川達郎
18	35	工高生デザインコンクール入選作品図集	*森田慶一
19	36	鉄骨鉄筋コンクリート構造設計実例集	*石崎滸雄，宮川達郎
20	37	ふるさとのすまい（45周年記念出版）	*浦辺鎮太郎，浅野清，白木小三郎，川島宙次
21	38	建築基準法及関係法規早見一覧表	*高橋慶夫，西島 勇
22	38	新住宅設計コンクール優秀作品図集	*海上静一
23	40	建築基準法及関係法規早見一覧表（追補版）	*田中良太郎，西島 勇
24	40	住まいの手引	*海上静一，野々村五四男
25	41	左官工法指針・改訂増補版	*田中良太郎，谷口尚武，打浪政信，山田幸一
26	41	建築技術者のための電気設備	*羽馬栄夫，清水寿栄次

7. 災害委員会

年度	委員長	副委員長	委員会回数	出席延人員	小委員会または幹事会	出席延人員	主な活動
29	池田宮彦	横尾義貫	5	23	1	6	(1)老朽住宅の実状調査・研究を基に「老朽住宅対策に関する陳状書」を作成し，建設大臣，衆参建設委員長，政党，大阪府，大阪市等に陳状した。これは日本建築学会外4会連名。(2)「戸・障子など建具の撓みの実験・調査・研究」
30	横尾義貫		5	43	1	7	(1)火災の問題の調査，研究を基に「漏電とダクト火災とその対策」を編集した。(2)「戸・障子など建具の撓みの実験・研究」。
31	〃		3	23	—	—	災害防止座談会「地下掘さく工法座談会」の企画・編集。
32	馬場善雄		4	43	4	21	(1)土質試験の標準仕様書。(2)簡易地耐力の調査方法。(3)杭耐力の試験法。(4)鉄骨の計算便覧編集・企画。
33	〃		6	78	6	39	(1)土質試験の標準仕様書（簡易地耐力の調査方法）。(2)杭耐力の試験標準仕様書。(3)鉄骨構造計算と実例（鉄骨の計算便覧・変更）。(4)地震，建築現場の災害予防，風水害の災害調査についての研究。
34	越田正勝		5	48	4	19	(1)大阪を中心にした建築地盤調査規準（簡易地耐力を含む）は，「建築地盤調査規準案」として纏め，学会近畿支部で研究中の「基礎構造設計規準改定委員会」に資料として提出した。(2)風，水，地震などの災害資料を集め，その分類，整理などを研究。(3)「鉄骨構造計算と実例」を編集，発行。
35	〃		5	61	1	8	建築地盤土質調査規準（案）を「建築と社会」35年4月号に掲載した。
36	鬼武信夫		1	12	—	—	7月に委員会を開催し，事業企画の検討・運営。
37	〃						7月に委員会を催し，運営・事業の検討に着手したが，その後は委員会開催もなく自然休会となった。

8. 建材審査委員会・建材委員会

建材委員会の歴史は，本誌28年12月号（創立35年記念史），38年6月号ならびに40年2月号に詳しく述べられているとおり，大正10年初代会長片岡安氏が自ら委員長となって設置された材料委員会にはじまり，昭和19年戦局の悪化とともに一時中止の止むなきに至ったが，終戦後諸種の新建材が誕生して関係者がその選択に迷っていた折，いち早く建材審査委員会を設置して優秀な材料に対しては申請によって優良証明書を発行し，それを推奨すると共に，いかがわしい材料の排除や改善への協力に当ってきた。

このように新発足した委員会は，その後11年の永きにわたって活発な活動を行ない，34年11月，建材委員会に改組してからも，しばらく優良認定を行なったが，その間申請を受けたものは92件におよび，優良証明ならびに優良認定を発行したものはその内61件であった。

37年，世の中も安定し，建材についても混乱期を終えたので委員会も再び新らしい方向に向って転進することになり，現在は建材メーカーに対してコンサルタント的な仕事をすると共に，他方建築技術者のより正しい建材への知識を深める活動を行なっている。

建材審査委員会　24年～34年10月　（優良証明書発行）
建材委員会　34年11月～37年8月　（優良認定書発行）
37年9月～現在　（材料の検討）

年度	委員長	副委員長	委員会回数	出席延人員	主な活動
28	置塩章	竹内成夫	9	76	（建材審査）デコラ・キルコート・東洋波形スレート・日本スタッコ・門田式ボルトナット・ホモゲンホルツ・タイネン2号・ナニワS瓦・三星印石綿ルーフィング・アスファルトタイル・ニュースタンダードメタル・タクミ瓦・佐渡島金属タイル板，スレート（浅野網代板）（浅野大波板）（浅野小波板）
29	〃	〃	11	101	ビフロ・サンウオール・積水ポリエステル板・エスロンパイプ・スチロールタイル・トルナード（鋲打機）・エバーソフト・久田塩ビタイプ
30	〃	〃	8	65	ウオータイトB号・三星ビニリューム・ダイヤウオルペーパー・三星石綿ギルソイドルーフィング
31	〃	〃	7	57	ウオータイトB号・サーモペーン複層硝子・ビニローゼ No. 410・スロール
32	〃	〃	5	42	スプレッドサテン・床張シートトヨサン・ヒッターライト
33	〃	〃	6	56	スプレッドサテン・焼成ヒルコン・ゴーレックスEC・アサヒラス・ハッポーラス・ポロンACP
34・10月	〃	〃	6	50	ミラコート
34・11月			2	13	
35	〃	〃	4	24	ダイヤセム・ダイヤアルテックス・ダイヤローレル・ダイケンインシュレーション吸音板およびプランク
36	竹内成夫	〃	3	23	アートボンド
37	竹内成夫（12月まで） 岡本弘	政岡基次 若木望太郎	7	54	（材料の検討）衛生陶器　3回（担当政岡氏）…38年6月号に掲載 建築金物　6回（榊氏）……　〃
38	岡本弘		10	56	鋼製足場　5回（橋本氏・高尾氏）
39	〃		5	36	2階建プレハブ住宅
40	政岡基次	橋本良介 室井修	12	93	コーキング材　4回（橋本氏）…40年11月号掲載 プラスチックを主とした床材　4回（米田氏）…41年9月号掲載 新建材および工場見学　4回
41	〃		8	90	化学防水　4回（伊藤氏）　防露対策　4回（元木氏） 見学会　1回

9. 教育委員会

年度	委員長	委員会回数	出席延人員	小委員会または審査会講習会打合せ	出席延人員
29	鷲尾健三	5	23	5	26
30	鷲尾健三	6	44	14	75
31	竹内成夫	8	66	7	34
32	竹内成夫	7	73	22	126
33	奥島正一	3	20	17	102
34	奥島正一	3	23	34	144
35	中原茂	4	23	20	144
36	中原茂	6	53	20	134
37	中原茂	2	16	7	40
38	橋本忠保	3	45	5	24
39	橋本忠保 (副委員長) 岩下久哉・小西岬	5	67	12	51
40	岩下久哉 (副委員長) 辛木貞夫 小西岬，原田守	3	48	9	55
41	岩下久哉 (副委員長) 辛木貞夫 小西岬，原田守	1	14	2	17

現場実務講習会

毎年工高を卒業した建築技術者を対象にした講習会で，昭和32年９月に第１回を実施，以来毎年１回乃至２回開催し，昭和41年６月に第15回に至った。総延受講者2,297名。（各回の会期＝６日間　延42時間）

現場主任講習会

建築現場の工事主任技術者または工事監理，現場管理担当者を対象にした講習会。

第１回　昭和39年８月　開催（会期は２日間　延14時間）
（於・神戸まや山ホテル宿泊を含む）延受講者68名
第２回　昭和40年８月　開催（会期は２日間　延14時間）
（於・大阪科学技術センター）　延受講者118名

コンクリート技能講座

第１回　昭和29年８月　開催　延受講者120名
第２回　昭和30年９月　開催　延受講者109名
第３回　昭和31年11月　開催（鉄筋コンクリート）延受講者95名
第４回　昭和32年10月　開催（　〃　）延受講者105名
第５回　昭和33年10月　開催（　〃　）延受講者100名
（地方講習会）昭和32年２月　岡山地方　延受講者200名
昭和34年11月　広島，岡山地方　延受講者220名

左官工法（工事）講習会

「左官工法指針」を教材にして若い建築技術者を対象にその技術向上に資する目的で継続開催している。

第１回 昭和31年10月開催(127名)　第４回 昭和37年７月開催(154名)
第２回 昭和32年10月開催(108名)　第５回 昭和41年７月開催(174名)
第３回 昭和33年７月開催(131名)
（地方講習会）昭和32年４，５，７月　徳島，津，広島，福井，高松，宇和島，新居浜（340名）
昭和40年２月　岡山，広島（410名）
昭和41年４月　神戸，洲本，姫路，豊岡，愛知，岐阜(580名)
昭和41年５月　金沢，秋田，大阪（300名）

空気調和設備と電気設備講習会

教材には「空気調和と電気設備」を使用した。
〔空気調和設備〕　第１回講師　前田敏男，三村胖，吉川照夫，柴田文三，上西圭治，高橋誠義，田辺実，前川純一　各氏
〔電気設備〕　真砂野昭，白庄司秀三，鳴尾源蔵，山瀬暁平，木村武雄，北島英二　各氏
昭和33年11日　開催　　昭和35年４日　開催（120名）

鉄骨計算と実列講習会

「鉄骨構造計算と実例」図書発刊を機会に，それを教材にして西日本各地で講習会を開催した。
昭和35年２月，３月，４月，５月
名古屋，岡山，米子，徳山，広島，福岡，金沢・延 950名の受講者。
講師：奥島正一，奥武信夫，馬場善雄，山肩邦男，鷲尾健三，石崎滾雄，伴潔，五十嵐定義，堯天義久，椋代仁朗，宇井允文，中島亮各氏

二級建築士講習会（建築士会と共催）

昭和29年５月，昭和30年７月　　於・大阪建設会館

工高生建築科優秀卒業生徒の表彰

昭和27年より毎年全国の工高100校～130校に表彰状を送附。

工高生デザインコンクール

昭和30年より実施，全国の工業高等学校建築科生徒の設計技能向上と奨励のため毎年継続して12回に至る。

●工高生デザインコンクール10周年記念作品展

昭和39年に第10回のコンクールを数えることとなったのを記念して作品展を開催
日時　11月19日～24日（６日間）　会場　丸善画廊(阪神百貨店２階)

回及開催年	設計課題	応募校数	応募点数	審査委員長
第１回(昭和30年)	これからの住宅	30校	119点	森田慶一
第２回(昭和31年)	観光案内所	21	94	足立孝
第３回(昭和32年)	学校図書館	25	69	鳥田家弘
第４回(昭和33年)	公園内に建つ公衆休憩所	26	87	岡橋作太郎
第５回(昭和34年)	駅前に建つポリスボックス	24	89	佐野正一
第６回(昭和35年)	ガソリンスタンド	26	94	伊藤貞亮
第７回(昭和36年)	都市の公園に建つ野外音楽堂	19	51	西嶋徳太郎
第８回(昭和37年)	湖畔に建つ学生のためのボートハウス	24	94	清水和弥
第９回(昭和38年)	有料道路のゲート	24	97	森忠一
第10回(昭和39年)	市民のためのスポーツハウス	29	108	渡辺道輝
第11回(昭和40年)	明日の住宅	29	147	海上静一
第12回(昭和41年)	博覧会場に建つゲート	19	106	西沢文隆

○最優秀作品賞（一の会賞）は第７回より実施している。
（一の会とは日本建築家協会関西支部会員有志で結成され毎月１日に例会を催している）

10. 近代建築調査委員会

昭和34年７月から40年１月までの間，委員長は滝沢真弓，幹事は政岡基次・林野全孝，委員総数27名，委員会回数68回，出席延人員543名である。委員会発足の趣旨は昭和35年１月号P.35に，委員会解散の辞および発表建造物目録は昭和40年２月号P.35 に発表されている。その成果は62回にわたって発表し，その建造物数は約90件で，居留地建築については，昭和36年２月号をその特集号として発表している。

11. 会勢審議会（31年9月～35年9月）

会長，東畑謙三。委員21名。

従来の会勢委員会を発展解消し，新らたに事業委員会および会勢審議会が新設された。

この審議会は，会勢発展に関する調査，提案を行ない，会員増加に関する直接の活動を担当することになったので会誌への希望事項，集会のもち方，委員会のあり方，会員倍加方法などを審議し，それぞれ実現をみた。

12. 運営審議会（37年7月～38年12月）

委員長，塚本猛次。委員28名。

協会の現状を展望するため，①会員の現状，②協会の機構，③経理の状況，④部会，委員会，⑤他会との関係などを審議しまた会員構成および運営についての考察を行なったが，38年12月11日付を以て理事会に対して下記答申書を提出した。

運営審議会答申書（抜萃）

今後協会の進むべき方針を確立するために先ず目標を明確にする必要があり，さらに計画を樹てる必要がある。

（1）目標の設定

「建築界の大同団結」を目標として各団体間結合の要となるよう努力する。

「建築に関するすべての者の地位の向上」

「建築と地域社会との結びつき」を強める。

以上の3つの事柄を中心として協会全体が社会に奉仕することを目的とする。

（2）方針の決定と計画の樹立

上記目標の決定により協会の進むべき方向が示され，これを具体的に実現するための基本となる新会館設立を含む長期運営計画と年度運営計画を樹立する。

(イ) 長期運営計画

昭和39年より昭和41年までの3カ年を基礎固めを主眼として第1次計画期間として体質改善の運営計画を樹てる。さらに50周年創立記念日を契機として昭和42年より第2次長期運営計画を樹立する。

(ロ) 年度運営計画

上記長期計画に基いて毎年度当初にその年度運営計画を定めて各機関に示し，有機的結合の実を挙げて事業を計画的に進める。

(ハ) 事業活動計画

長期運営計画および年度運営計画に基いて会全体としての事業活動の具体的計画を樹てる。

なお同時に，会活動の基盤となる会勢の拡大強化についても一段の努力を励むことはもとよりであるが，さらに会勢の拡大に見合う資金計画を樹立して積極的な運営を図ること，組織機構についての再検討などなお多くの問題を残しており，また運営計画についても早急にこれが具体案の作成を必要とするが，これらの検討考究について，今後は理事会の下に企画委員会の如きものを常置してこれに当ることが適当ではないかと考えられる次第である。

13. 企画委員会（39年4月～12月）

委員長，塚本猛次。委員25名。

会員の業種別，年令別，地域分布などを調査し，また会員に対しアンケートによって本会入会の動機，会誌に対する意見，見学会，出版物の評価などを行なってこれを運営面に利用したほか，昭和39年12月10日下記報告書を提出した。

企画委員会の報告書

私たちは，運営審議会以来，協会の過去，現在の実状について検討を行なうと共に，協会の将来の在り方，今後進むべき途についても慎重な考察を重ねて参りましたが，惟うに，わが国建築関係団体の現状は，協会が創立育成され来った時代とは甚だ趣を異にして，わが国建築界の発展進歩に伴い多数の各業種や職能の団体が設立され，混然併存して各独自の運営と事業を行ない，今や同様な事業の重複競合が非常に多くみられる状態であります。このことは頗る無駄と不経済であり，建築界全般の問題として早急に解決さるべきもので，何らかの中心的機関があって内これを調整し，また，外に対し建築界を代表して発言する役割を果すものの出現が期待されるところであります。

今般東京に設立された日本建築センターが，将来この役割を果す可能性が多いと存ぜられますが，関西においては，幸いに協会が，総ての建築関係者を同一の資格で包含して全国唯一の総合団体たる性格を有しておりますことによって，この中心的機関として，建築各関係部門の連繋協力を計り，各関係者間の調整に当るに最も都合の好いものであると考えられる次第であります。この観点におきまして，私たちは，現在の会の運営事業の点についてはこれを一応措きまして，根本的問題である協会をいかにしてこの中心的機関とするかの点に重点をおいて考察を進めました。

協会が上記の機能を果すために考えられることは，協会として各関係者の交歓，交流の場を持つことであり，この場としてある程度設備の整った相当規模の会館を提供することであると存じます。この交流の場の提供によって常に各関係者間の意思の疏通を計り，建築界における各般の問題も随時適当に処理され得るに至るであろうと考えられます。

なお，この状態に立ち至りました場合例えば協会の構成員につきましては，その機能の関係よりして，業種または職能の団体を以て構成会員とし，個人は職場，資格によって所属しておる団体を通じて協会に繋り協会のサービスを享けることとしたらよいかと思います。

これは当協会にとって基本的な問題でありますのでさらに深く研究するために，特別の委員会を設けて専ら本問題について検討を続けるようお取り計らいくださいますようお願い申し上げたいと存じます。

昭和39年12月10日

14. 会勢委員会（41年6月～現在）

委員長：鷲尾健三。副委員長：岩崎甚太郎。委員31名。協会創立50周年を契機として会勢を伸展すべく設置されたもの。

15. EXPO '70 日本万国博コンストラクションガイド作成委員会（41年2月～11月）

委員長：浦辺鎮太郎。委員19名。日本万国博覧会協会よりの委託により作成。該品は既に英文および仏文に訳され諸外国へ送付済。

16. 表彰候補者推薦委員会

委員長：中沢誠一郎。公に表彰せられるものについてその候補者の銓衡，推薦

日本建築協会支部活動

京都支部状況報告

京都支部は，昭和22年４月13日に発足以来18年以上になり，支部の中では古い方になるのであって，初代委員長は松井清之助氏（22年―28年）次は大倉三郎氏（28年―35年）であり，三代は井手正雄（35年現在）に到るのである。

各々各代ともその個性により会の運営も異り，また時代の変化によっても状況が違うのであるが，京都支部は主として親睦を目的としたものと言えるのではないかと思う。ここに各時代を追って回顧して見ることにする。

松井清之助初代支部長は，そのとき京都府庁に勤務で建築課長であったが，間もなく建築部ができてその部長に栄進されたので各方面に人気のあったときと思われる。そのすぐ後に，建築士の制度ができて，やがて建築士会も結成せられることになった（昭和25年）ので，目まぐるしいほど忙がしかった。同氏はまた以前に大阪府庁の勤務でもあったので，大阪方面に知人が多く日本建築協会の初代会長の片岡安先生をはじめ，幹部である中西，清水，新名，松本，河津氏等の方々に懇親があったので，支部長として真に適任であったといえる。

その当時，事務所は中京区ミラノ工務店の内にあり社長の小崎さんに大変ご厄介になったし，また同社の重役本川氏は書記として無報酬で奉仕して頂いたのではないかと思う。そのときよく会合したのは，木屋町の飛雲（中華料理）という店で，私もしばしば行って会員諸兄と歓談して飲んだものである。全く懇親会というような会合が多かったように記憶している。

松井氏が京都府庁を退任せられて遠方へ行かれることになったので二代目支部長を引受けられたのが大倉三郎氏（その当時は京都工芸繊維大学教授）であった。

この頃の事務所は建設業組合（組合は中京区姉小路，富小路に引越してきた）に移されて，いろいろお世話になった。当時は若い人が建築士会に入会して日本建築協会に入る人は少く，会員が少くてさびしくなったので，賛助会員を増加することに力を入れることとなった。

いつも集るメンバーはきまっていて，総会も役員会も人数は同じと言うようなことで，専ら親睦会になる。しかしこの頃から三者（日本建築協会，建築士会，建設業協会）の合同の催しで材料説明会，見学会などが開かれ，住宅展など事業が多くなってきた。

つぎに現在の三代目の支部長の時代となっているが，これは昭和35年に大倉三郎氏が建築士会の会長に就任せられるにおよんで，私が後任として選ばれたのであった。

まもなく事務所も現在のように改築せられて立派なものとなり，その中の一室を借りて建築士会と同居して垂井氏のお世話になっている。

事業はしばしば見学を三者合同で行ない（年10回位），この他役員会が年３回，総会が年１回催されている。しかし日本建築協会だけの独特の事業もしたいものと思っているが，なかなか意に叶わないような現状である。

しかし役員の連中が大体同じ顔ぶれで，特に親しく会合を持つことが多い。現在支部会員正員は93名，賛助会員は25名である。

以上簡単ながら京都支部状況の報告をさせていただきましたが，拙文で恐縮です。　　（京都支部長　**井手正雄**記）

兵庫支部だより

兵庫県特に神戸は大阪に近く，大正６年本会創立のときも，発起人の中に神戸附近の方々も若干おられた。また大正７年頃には堂島の電気クラブ内で，毎月１回例会が開かれ，片岡会長自ら毎回議長を勤められた。われわれ事務所からは故設楽貞雄所長以下数名の会員は，毎回神戸から出かけたものです。故加護谷祐太郎氏など熱心に毎月明石から出席されていた。数年前逝去の故清水栄二氏など，初期の協会の理事を長期間熱心に勤められた。

戦時中理事をやられた故岩尾保衛氏など，まだ支部制のない頃ですが，支部長格を自任して，神戸附近の会員間の連絡懇親に努められ，講演会見学会懇親会などの世話をよくされた。一例―防空大講演会―戦時中，於神戸海員会館。

支部制が敷かれて，兵庫支部は昭和22年11月14日に発足した。爾来下記の歴代支部長を経て，今日に至った。(敬称省略)

初　代　　岡本　茂樹　　昭和22～25

第２代　吉田　信武　昭和25～32
第３代　山内嘉兵衛　〃　32～41（逝去）
第４代　宮飼　克二　〃　41～現在

岡本氏・吉田氏は何れも県建築部長で，公務多端の方々であった。従って副支部長の山内氏が主に実務を担当して，支部長を補佐されていた。

山内氏は戦時中に長崎県から兵庫県建築課長に着任されて，建築行政を担当，戦後引退して，兵庫県建設業協会の専務理事に就かれ，同協会の発展に尽されつつ，当兵庫支部の基礎作りにも貢献された。吉田氏が大阪へ転出された後は，支部長として県下各種建築団体ともよく連繋を保たれ，講演会や見学会など各団体と共催にて実施し，いつも同氏は纏め役＝指導役を勤められた。業協会を引退された後は，兵庫県建築士会の副会長から会長に就かれ，傍ら当兵庫支部の運営にも努力され，本部の理事会にもほとんど毎回出席されていた。

先年県建築部の復活運動にも，置塩氏を会長として関係５団体を纏めて成功し，５団体協議会を形造られ，また40年秋には，神戸にて５団体協議会を母体とし，県市および商工会議所などの協力を得て，第１回建築祭を催し，好成績を収めた。いつも山内支部長が纏め役であった。

昭和41年４月24日夜１カ月足らずの病臥で逝去されたことは，地元のわれわれのみならず，日本建築協会の功労者として，またわが国建築界から見ても，惜しい方を失ったと思う。

昭和41年６月28日の支部役員会で新役員を選定した。

支部長＝宮飼克二，副支部長＝早良俊夫・設楽貞三

幹事＝13名（氏名略）代議員＝12名（氏名略）

前支部長の意図を汲み，各位の声を聞き，役員および会員協力して少しでも支部の前進を計りたい。

（兵庫支部長　**宮飼克二**記）

和歌山支部生い立ちの記

昭和21年だったと思うが，ある日，日本建築協会の会勢委員と，和歌山県建築協会の有志が〝淡の輪〟の料亭に相寄って懇親会を開いた。会勢委員が大挙して和歌山近くまで南下し懇談しようと言うのだから主旨のおおよそは判るが，この陰謀（？）の張本は誰だったのか，また列席の顔ぶれも定かに覚えていないが，ただその中に野中駒吉氏，大和常務，それに島村佐次郎氏らの深い配慮がうかがわれた。双方胸襟を開き肝胆相照して語ったが，これが契機となってやがて和歌山県建築協会の会員が全員揃って日本建築協会にお輿入れすることになったのである。総勢120名といえば大きな会でもないが，総意を纏めてここに至るまでの大和常務と島村氏の骨折りは並々ならぬものであった。いよいよ和歌山支部として発足したのは，それから３年後の昭和25年５月20日であったが，同時に従来の和歌山県建築協会を解消したのである。

さていよいよ発足した和歌山支部の発会式は盛大であったが，奇しくもその日から話題を残した。というのは当日はあいにくの荒天で，瓦は飛ぶ，看板が宙に舞う大変な荒れ方に，列席した人々から「この分では今後の行事も思いやられるぞ」と冗談を飛ばされるくらいだったが，いい当てたようにその後何か行事をやれば必ずというほど雨か風か伴った。しかしこのような悪天のときも欠かさずにわざわざ臨席して指導を惜しまなかった大和常務の熱意には会員も敬服し，かつ親しみを深くしていった。大和氏もまた和歌山支部は育てた子のように思っておられたのではなかろうか。そうして楽しかった白浜の大会，年中行事としている高野山の納涼と見学の会，紀の川の舟遊びなど，折りに触れ想起していられることと思う。

以上の次第で，和歌山支部の業績を語るとすれば，それは大和栄衛氏の熱意と，今日まで多大の犠牲を惜しまず会員をリードして来られた先輩，島村佐次郎氏の功を挙げて語らねばなるまい。

（和歌山支部長　**栗林かずま**記）

中　国　支　部

創立年月日	支　部　長	在任期間
昭和22.4.17	藤田　定市（㈱藤田組会長）	昭和22～32
（当初は広島支部）	古林　義敦（㈱日興社長）	昭和32～現在

中国支部の設立は本会の創立25周年記念事業の具現の一つで，昭和17年頃から慫慂があったが，戦局も災して機熟せず，漸く終戦後の22年３月に竹腰会長からの要望に基いて檄をとばし，４月17日に中西副会長，薮中常務理事，大和書記長を迎え，特建協力会を中心とした地元の官民関係者30余名が集合して，協議の結果設置に決定するとともに，一瀉千里に発会式に進展して結成せられ，支部長には藤田定市氏を推し，事務は高谷与一氏を煩して発足したが，当時の会員は204名であった。

その頃広島地方における建築の団体としては建築学会の中国支部が在ったのみで，協会は技術・総合・管工・電気・建材の５部門からなる会員組織で特異な存在として戦後の混乱時代を過したのであるが，支部活動としては早くも22年末に学会と共催で竹腰会長と・尾崎・岸田・坂の３博士を迎えて復興建築講演会を行なうとか，広島大学工学部に建築学科の新設運動を展開して目的を達し，24年には「中国建設路」を発刊するなど戦災復興の機運醸成に努めた。

25年になると建築士法の制定をみて翌々年には建築士会が誕生し，建築界に精彩を放ったが，協会としては関係団体の発展に陰に陽に寄興し協力提携してまいり，特に日本建材協会が37年に中国支部を設けてからは事業に協力し，新建材の説明会なども中国一円共催で行ない実績をあげている。

本部の手配になる講習会の開催とか各種講演会共催の外，新建築の会誌への紹介，青年建築家候補者の推薦，協会発行図書の頒布取次はもちろん，必要に応じて建築関係の陳情運動にも名を連ねるなど，地方の建築文化の進展にあるいは社会開発の一翼を担って，こんにちに至っている。

（中国支部長　**古林義敦**記）

東海支部から

東海支部は昭和22年12月13日第5番目の支部として設立され，最初の支部長は玉置豊次郎氏であった。

支部は佐藤四郎氏始め古くからの会員によってやっと孤々の声をあげたものの，実のところあまり肥立ちはよくなかった。終戦後の困難な時期でもあり，東と西にはさまれたような地区にある東海支部は月足らずで誕生した子の感なきにしもあらずであった。そのうちに昭和25年の建築基準法，建築士法の施行に伴ない一挙に各県に生れた建築士会の発育が目覚ましく，協会会員の大半は建築士会と建築学会，あるいは建築家協会，建設業協会などの新らしい会員活動にも追われ，当協会支部は事務所らしいものもない居候であって，活発な存在とは言えなかった。篤志会員の努力にもかかわらず次第に先細りとなり，いつとはなくその活動は休止の状態で，ただ連絡所を佐藤四郎氏の事務所に残すのみであった。

昭和35年2月協会主催の鉄骨構造講習会の折，故尾崎会長と前常務理事手島政男氏から当地区会員有志に，復活の強い要請があったのがきっかけで，同年10月15日支部が再発足したという経緯で，それ以来現在まで私が引続き支部長をしている。

支部活動は今もって盛んであるとは申されないが，前記その他の友好団体とは常に協力してやっている。しかしこれではいけないと申訳ない気もしている。

再建後の主な印象は，37年1月「名古屋の街造りの現状と将来」について座談会を行ない，会誌同年3月号の名古屋特集号編集を支部の主要責任で実施したこと，昨41年3月京都市へバスで二条陣屋・国際会議場を見学旅行し成果を収めたことなど。本部主催で例年講習会と当地区中心の見学会があり，41年も講習会2回と10月には「中日ビルと明治村」の見学会があった。支部では42年2月に再びバス旅行の見学会（駿河路を尋ねる一泊旅行）を実施している。

さて，マンネリに落ちない何か目新らしい（金のかからない）支部事業はありませんか，おちえを拝借したいものです。

（41・11・25記）（東海支部長　**一圓俊郎**記）

九州支部設立の頃の思い出

九州支部ができたのは昭和22年12月4日といいますから，今からちょうど20年も前のことです。当時のことを記録も見ずに思い出すままに書き綴るのですから，思い違いがあるかも知れませんが，ご寛容願って置きます。

各都市とも未だ戦災から立ち直れず，世間はこんとんとして闇市が盛んな頃のこと，多分昭和22年の暑い盛りの頃に当時の大和栄衛書記長がわざわざ博多に来られて，「あんたは大阪育ちで建築協会の役員もやったことがあり，協会の性格やなんかもよく知っているから頼みやすいのだが，九州にも協会の支部をぜひつくってほしい」と熱心にたのまれた。

戦時中には，学会，協会の合併問題もあったわけですが，この辺で一つ建築協会も会勢を拡大したいということでしょう。その頃世間はまだ食うことに皆精一ぱいのときであり，建築界では資材の取りやいをやっていた頃で，いまだ文化的な方面に関心のなかった頃です。

そんな頃に建築協会にはぜんぜん馴染のない九州で（その頃一部に九州国独立運動というのもありました。）これは，これは，とちょっと戸惑った次第ですが，あまり熱心な依頼でもあったので，九州大学の中尾竜彦さん，建築家のボス松田昌平氏福岡建設業組合（？）の組合長田中勇雄氏その他竹中の篠原さん等々その当時の福岡の有力者が集ってとにかく支部を発足させることにして，事務の方は役所（戦災復興院福岡建築出張所）で引受けることとし，従って小生初代支部長ということになった次第です。

以上のようなことで支部の形は一応できたものの，大阪とは遠いし，当時世間一般の状態からしても時期尚早だったのでしょう。協会独自にはほとんどこれといった仕事もせずに3年ほども過ぎ，昭和25年に小生兵庫県へ転出してしまいました。

その後のことはどういう実情であったか知る由もありませんが，支部長は代々福岡県の建築部長がつとめられ，宮脇晴美さん小栗治平さんと渡って，何でも目下は支部長が欠だそうです。

（九州初代支部長　**錦田直一**記）

関連諸団体との関係

1

建築協会創立50周年記念号編集委員会より，私に与えられたテーマは，「関連諸団体との関係」である。

私は，50周年記念号が刊行される意義は創立以来50年間における，輝やかしい過去を単に追憶するだけのことではなく，今日にまでに築かれた歴史を回顧することによって，協会の今後におけるいっそうの発展に資するためのものでなければならない，と考えている。

そのような観点にたって，建築協会と関連諸団体との今日に至るまでの関係，特に協会が一時的にもしろ解散に追いこまれようとした，建築学会との合併問題の経過を中心として，諸資料に基づいて，これらを回顧しようとおもう。

2

思いいだせば昭和16年12月，対米英戦争に突入するとともに，わが国は，国をあげていっそう戦時体制を固めねばならなかった。

建築界においても，新しい体制を急いで樹立する必要から，翌17年1月，4会連合協議会(注1)は東京において会合を行なった。その際，前記の状勢に応ずるためには，わが国建築界の2大団体である建築学会と協会とがまず統合されるべきであるとの意見が起こり，この問題について種々検討が行なわれた。

(注1) 昭和16年1月，建築学会長内田祥三氏より建築界の新しい体制について研究協議を行なうため，建築学会・日本建築協会・全国建設業協会・日本建築士会（いずれも当時の正式の会名である。日本建築士会は，戦後建築士法の制定によりそれとの混同を避けるため，その会名を日本建築家協会と改めた。）の4会連合協議会を設置することが提案され，その結果協会は，片岡会長ほか3氏をこの4会連合協議会委員に選出した。

そのため協会内においても，先に設置されていた新体制委員会の第5部会（建築技術団体事項担当）において，前記合併問題についての検討が重ねられた結果，協会は学会と同じく建築技術者の団体ではあるが，**協会が多年にわたって主張してきた建築の社会問題，建築家の団体としての社会奉仕に重点が置かれるべきことを再確認し**，新団体の設立についてはその形態を改組させるのが最も便宜である，とのきわめて消極的な態度に意見の一致をみた。

しかしながら，わが国の各分野における戦時体制への要請は，日を追って厳しく（たとえば昭和17.1.1食塩の配給制実施，2.1衣料切符制実施，2.2各婦人団体の統合，5.20すべての政治結社が統合されて翼賛政治会の結成，7.24情報局1県1紙への新聞の統合発表など）建築界においても建築学会・協会の両会長を中心として，7月22日東京において「建築学会対協会の将来を語る会」が開かれ，協会からは故片岡会長・井上新二・中西六郎氏および竹腰健造氏が出席，懇談が行なわれた。そしてその結果，両会は時局の重大な推移に応じるため，この際合同に進むべきであるとの結論に達し，両会においてその具体案をそれぞれ研究することが申し合わされた。

つづいて9月2日大阪において，両会の合併案について話しあいが行なわれた結果，両会はそれぞれ合併のための折衝委員および連合協議会のあっせん委員を選出することを約し，協会はあっせん委員に故中西六郎・井上新二の両氏を，折衝委員には竹腰健造・滝沢真弓氏らを選出した。

3

これら連合協議会あっせん委員および両会からの折衝委員は，昭和18年2月13日東京において両会合併に関する第1回の会合を開催，その後折衝委員会は19年3月28日に至るまで8回にわたって，東京・大阪において交互に協議を行なった。

これら協議の結果は，翌4月に取りまとめられ（ただし合併後の新会名については決定に至らず保留のまま），両会委員およびあっせん委員会の名において，〝皇国の重大事局に際し，建築技術報国の実を挙ぐるため両会は合併し，真に現下の要請に即応し得る新団体を結成すべきものと認む。〟との主旨をかかげた「両会合併に関する基礎要項」を発表した。

ところが，合併あっせん委員会は，19年7月協会に対して，両会合併後の新会名に関する資料を添えた上，新会名の決定については白紙委任することを申し入れてきた。委員会のこのような一方的な申し入れに対して，協会は，このような措置に対して不賛成であり合併についての協議も延期すべきであるとの態度を決定。8月12日この旨をあっせん委員会に通達。ここに，合併問題は全くデットロックに乗りあげたかのようであった。

しかし，9月12日佐野利器氏より片岡会長宛に，このような事態を打開するため学会・協会の両会長はすみやかに会見して直接懇談されたい，との勧告がもたらされた。そこで協会は，これを検討した結果，10月7日，合併問題について両会長で再び協議を行なう旨の回答を発した。

この結果，昭和20年1月小林政一学会長が来阪，片岡会長と会見（この席に故中西六郎氏と大和書記長列席）して，合併に関する最終的な懇談が行なわれた。懇談の内容は，合併後の新会名を日本建築学会(注2)とすること，先の合併に関する基礎要項については特設される実行委員会によって再審議を行なうことなどであった。

(注2) 建築学会が日本建築学会と会名を改称したのは，戦後の昭和22年1月である。

そして協会は，両会長の懇談による取りきめに基づいて合併を進める，との公文書を2月あっせん委員会に発送するととも

に，両会より出される合併に関する実行委員については，故中西六郎・薮中一良の両氏を決定した。

こうして，難航した学会との合併問題も，ついに国策の線にそって，いよいよ実行の段階に入った。しかし当時は，すでにわが国の敗戦の様相が日一日と濃く，ついにその年の8月15日に終戦を迎えるに至った。

4

終戦直後の11月，協会常務会は，学会との合併問題は終戦による社会状勢万般の変化より考えて延期されるべきである，と合併に関して終止符をうった。そしてそのため，協会側の実行委員は，同月29日付佐野利器委員長に対して，以上の旨を通達した。

こうして戦争の終了とともに，建築協会と学会との合併問題は完全に解消され，その後22年を経て今日に至っている。

以上のように，時の流れと関連しながら諸資料に基づいて，建築学会との合併問題の経過を回顧してみると，そこには「日本の歴史の一齣」をまざまざとみることができる。すなわち，独自の輝やかしい伝統をもった協会が，みずから解散して学会との合併を決意するに至った重大問題も，それが当時どのような意義があると思われたにしろ，忌わしい戦争がもたらした悪夢の一つにしか過ぎなかった，と考えるのは筆者だけなのであろうか。

いずれにしても，合併が協会自身の意志によって進められたものではなく，また，その折衝過程において，その大半がすでに故人となられた諸先輩が，常に，学会とは基本的に異なる協会存在の目的を敢然として守りつづけてきた，輝やかしい勇気と努力の跡をしみじみと知らされるものである。

5

戦争の悪夢から解放されたわが国において，戦災よりの復興がなにより緊急事とされ，その後，復興建設の槌音が全国にとどろきわたり，やがて戦後10年，わが国産業経済の躍進的な成長と繁栄を迎えるに至った。このころ，建築協会は，近畿建築界のいちだんの隆盛をめざすとともに，将来の大阪における理想的建築センター設立の第一歩として，関連諸団体の協力のもとに近畿建築会館の建設を企図し，当時の竹腰会長・東畑建設委員長の下に昭和31年10月10日，関連諸団体との友好裡にこれが完成された。

すなわち，日本建築学会近畿支部（昭和22年11月京都に設置）は京都よりここに事務局を移し，日本建築材料協会（当時は関西建材協会）の事務局も併設されるなど，協会と関連諸団体との連携の一層の緊密化が実現された。

さらにまた，建築士法によるわが国建築士制度の確立とともに，新しく生まれた建築士の協力と業務の進歩改善を目的として，昭和32年12月，大阪府建築士会が正式に発足し，その事務局もまた近畿建築会館に設置された。

その後のわが国産業経済の高度成長にともなう建築界の未曽有の盛況により，協会はもちろん各関連諸団体の発展膨脹も著しく，事業の増大は，ついに各事務局の狭隘をきたし，日本建築材料協会は昭和35年8月西区京町堀に，また大阪府建築士会は昭和37年12月東区博労町にそれぞれ事務局を移し，つづいて翌38年8月，日本科学技術センターが西区靱公園に建設されるとともに，建築学会近畿支部はその6階に事務局の移転を行なった。しかし，その後も協会とこれら関連諸団体とは緊密な連絡をつづけ，かくて今日，日本建築協会は，日本建築学会近畿支部・大阪府建築士会・日本建築材料協会・大阪建設業協会・日本建築家協会関西支部の関連諸団体とともに，いわゆる「建築6団体」として緊密な友好関係を保ち，またこれら6団体は，それぞれの目的を遂行しながら，ますます隆盛に向いつつある現状である。

6

日本建築協会は，いうまでもなくその定款において，建築の関係各部門との協力によって建築の進歩発達を図るとともに，建築を通じ広く社会に貢献することを目的とし，そのために行なうべき事業として，建築各部門間ならびに**建築と社会との連繋**を第一にかかげている。そのためにこそ，戦争とともに引き起こされた学会との合併問題に際しても，前記のごとく協会が多年にわたって主張してきた建築の社会問題，建築家の団体としての社会奉仕という独自の使命を，当時の先輩たちは守り抜かれたものであると信じられる。

そしてまた，大正6年創立とともに発行されてきた会誌の名称をわずか3年後に「建築と社会」と改め，50年後の今日に至るまで，その誌名が象徴する目的に向って続けられてきた日本建築協会の輝やかしい歴史と，諸先輩の本会独自の伝統に対する絶えざる努力に対して，深甚の賛辞と敬意を表したいと思う。

戦後20余年，わが国産業経済は，終戦当時誰一人として思いもおよばなかった繁栄をつづけてきた。しかしさらに，わが国の一層の輝やかしいバラ色の発展を期待するためには，「生活は経済に優先されなければならない」ことが強調せられている。

われわれの生活の「場」をつくりだすのも，産業経済の基礎的施設を築き上げるのも，いずれも建築界に課せられた社会的使命であり，これを思うとき，創立50周年に当たり「建築と社会」の命題がいちだんと重要視され，再認識されなくてはならないと考えるものである。

日本建築協会が建築にたずさわる人びとの団体であるかぎり，関連諸団体と重複する事業の生ずるのは当然であり，それらの調整もまた必要であろう。しかし，それよりも必要なことは，建築協会50年間の歴史が示す，その独自の使命をなお一層明らかにし，そのためにこそ最大の努力を重ねるべきことであり，それがまた関連諸団体とのより以上の連繋協力を保ちつつ，建築界全般の発展を期待し得るゆえんであろうと信ずるものである。

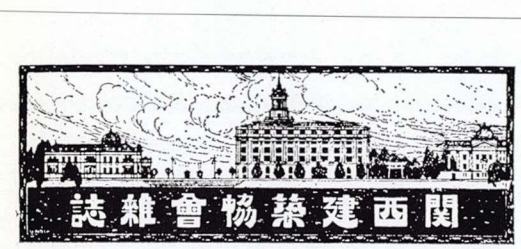
おわりに，関連諸団体との関係資料など，種々ご教示を賜わった各位に対して深くお礼を申し上げます。（**野々村五四男**記）

「建築と社会」誌の変遷

1 創刊当初の精神と編集内容

「建築と社会」誌は昭和42年をもって第48集を数える。その第1集は「関西建築協会雑誌」といっていたが，これは，いうまでもなく大正6年，関西建築協会として誕生したときの会名をそのまま生かした会誌名であり，大正6年9月から大正7年12月まで，6年の10月と12月を除いて，14号だされた。第2集は，会名が，日本建築協会と改称されるにしたがって「日本建築協会雑誌」と改題され，大正8年1月から12月まで12号がだされた。第3集から，すなわち，大正9年1号より「建築と社会」と改題されて，こんにちにいたっているわけだが，戦時中の2年間の中絶をのぞいて，日本建築協会の50年の発展とともに歩んできた日本有数の歴史と伝統ある建築雑誌といえる。

この歴史と伝統を有する雑誌の創刊された当時の精神は，まことに気宇壮大であった。創刊号の「発刊の辞」にあるごとく，創設者たちは，「此の進展期に際し，社会を指導する大抱負の下に，我が国建築界の堅実なる発展を期し，科学的に組織ある文明的都市の建設を計るべき急要の時期なるを覚悟し，以て将に鳴らんとする暁鐘第一の金鋼杵(こんごうしょ)たらんと欲す」と宣言した。大正期のわが国建築界の隆盛期に生きた先達の意気軒昂たる気概がうかがわれるというものだ。



發刊の辭

我が關西建築協會は、時代の機運に促がされ、建築技術家の覺醒に由り、大戰亂第四年の春、梅が香薫る關西の天に呱々の聲を上げたり。

思ふに、明治維新以來、我が國の文物は其のあらゆる方面に亘りて、空しく苟且主義の上に樹てられ、少しも確固たる基礎を有せず、所謂過渡時代の混沌たる狀態にありしが、時は絶ゑ間なく進みて黎明の氣は天地に漲りぬ、曉の鐘將に高く鳴らんとす。

此の進展期に際し、社會を指導する大抱負の下に、我が國建築界の堅實なる發展を期し、科學的に組織ある文明的都市の建設を計るべき急要の時期なるを覺悟し、以て將に鳴らんとする曉鐘第一の金鋼杵たらんと欲す、蓋し、其の事や大にして其の責や亦重し云はざるべからず。

我が關西在住の建築技術家は茲に結束して起ちぬ、偏に其の任務の輕からざるを感じながら、專ら斯の偉いなる目的遂行に熱中し、從來我が國一般に措いて問はざりし都市建築の拘束改良、家屋政策、其の他文明的施設の刻下急要の問題にして苟くも建築に關連せるものは、凡て之が研究調査をなし、之を社會に發表して啓蒙の位置に立たんと期す。

天下有識の士、幸に此の誠意に同情し、斯の事業の成功に協力せらるゝあらば、豈獨り我が關西建築協會の利益のみとなるならんや。

本誌は本協會活動の一部隊に過ぎずと雖も、其趣旨は本協會の目的遂行の一機關にして、今後紙面に現はるゝ熱誠なる努力は漸を逐ふて社會を刺戟し、吾人同志の目的の一部が達せらるゝ日のあらん事を確信して敢て抱負の一端を述べて發行の辭となす云爾。

疑はず。

ある文明的都市の建設を計るべき急要の時期なるを覚悟し，以て将に鳴らんとする暁鐘第一の金鋼杵たらんと欲す」と宣言した。大正期のわが国建築界の隆盛期に生きた先達の意気軒昂たる気概がうかがわれるというものだ。

会誌名が，一年有余にして「日本建築協会雑誌」と改題され，さらに1年にして，「建築と社会」と改題されたこのいきさつについては，第3集・大正9年第1号につぎのように記されている。

「顧みて世界の凡ゆる方面における変転は，僅に既往三百有余日の時間に於てすら既に世紀を累ねたるに等しからんとするものあり。我等少くとも，亦須らく斯の進運に協合する処莫くむばあらず。されば，我協会活動の機関たり其表現たる『日本建築協会雑誌』は茲に再び誌名を変更して，一層，社会的触接を期するの名実相充当せしむことを冀(こいねが)うと共に，駸乎たる躍進的機運に先むぜんことを欲す，維れ，爰に，我誌名を復び更改する所以也。」

まことに，「社会的触接を期するの名実相充当せしむことを冀うと共に，駸乎たる躍進的機運に先むぜんことを欲す」精神は，この時代の編集記事によくあらわれている。たとえば，「我国都市改良計画の特集（片岡安）」（第1集7号，8号），「都市計画と市民的訓練（葛野壮一郎）」（第1集8号），「都市住宅問題（関　一）」（第1集14号），「東京市大改造論（片岡安）」（第2集1号～5号），「我邦に最も適合する建築（後藤新平）」（第3集1号）等々，都市問題や住宅問題に対する意見が枚挙にいとまないほど編集され，社会の啓蒙のためつくしてきている。第5集（大正11年）には住宅号や特別号がだされ，桜ケ丘の「住宅改造博覧会」の特集で埋まっているのも，そのあらわれである。「本誌の題号を見て更に建築家諸氏の重大なる責務を思う」と当時の貴族院議員・仲小路廉という人も投稿しているのも面白い（大正9年第12号）。女性からの住宅・建築観も多く集録されているのも，大正デモクラシーのひとつのあらわれでもあろうか。ときには創作小説も集録されている（大正14年～15年）。

また，防火・防災問題や法制問題にも深く意をもちいているのがわかる。関東大震災特集(第6集・大正12年10月号)や「北但地震の特集記事」（第8集・大正14年7号や第10集・昭和2年4月号）をみてもこのことはよくわかる。「将来の日本の住居」というテーマで懸賞論文の当選論文（第11集・昭和3年2月号）もある。あるいは経済問題にしても，「建築の経済的環境（村野藤吾）」（大正15年1号）など，いま読んでも新鮮な

ものもある。村野氏といえば「様式の上にあれ（村野藤吾）」（第2集・大正8年5,6,7,8号）も，氏の青年時代の思想を知る上でのひとつの歴史的文章であろう。

以上は，「建築と社会」の創刊時代から昭和はじめにかけての本文論説の一端であるが，要するに，編集の内容は，口絵，巻頭言，論説，研究，都市，住宅，講壇，資料，漫録，時報，会報，俳句等々の項目のごとく，多岐にわたりながらも，創立当初の精神をよく生かしていて，いまから顧みて，大正期の建築界を知る貴重な資料であることは論をまたない。また印刷技術の未熟な時代であるにかかわらず，口絵に3色刷のカラー写真も挿入されていて，その編集意欲には頭がさがる。当時の編集担当の波江悌夫，佐藤四郎，須藤真金，江村郊邨氏はじめ，編集陣の熱意に負うところ大きいといわねばならない。

2 昭和前期の「建築と社会」の編集内容

昭和2年の第10集より，いままでのいわば自由編集時代から特集号編集の形式を多くとるようになってきた。「都市問題」「航空と建築」「建築知識普及展覧会」「御大礼記念号」「レストランとカッフェ」「郷土建築」「商店建築」「耐震耐火建築の普及」「ホテルとクラブ」「銀行と事務所」「工場と倉庫」「学校建築」「小住宅」「新興建築」「小売店と百貨店」「劇場」「高層建築」「最近建築研究」「法規」「構造」「材料」「施工」等々……第10集昭和2年から10年ばかり，特集号形式の編集がつづく。その内容は，建築のそれぞれの分野における専門の進化のあらわれを示しているが，社会的啓蒙指導の位置にたつよりも，むしろ，会員層の増加とともにその要望に応じた，建築技術的・実用的な編集という面が強く感じられる。当時としては，頁数も相当あり（100頁以上），内容も充実したものがかなり見受けられる。

このなかで，いまなお重要な歴史的価値をもつ特集は，「震災予防号」（昭和4年2月号），「新興建築特集」（昭和6年7月号と8年6月号），「創立15周年記念号」（昭和7年10月号），「関西風水害特集」（昭和9年11月号），「近世日本建築文化運動号」（昭和12年6月号）等々があげられる。また新建築研究として，当時の大阪・京都の話題をよんだ建築作品——たとえば，「朝日ビル・阪急ビル特集」（昭和7年2月号）「大阪城・日綿会館特集」（同7月号），「大阪歌舞伎座・南海ビル特集」（同11月号），「大阪株式取引所・京都朝日会館特集」（昭和10年6月号）等々の特集が編集されているのも，記録として意義深い。

オリンピック特集や，万博の問題を扱ったものも，昭和11年12年頃にだされている。

しかしながら，昭和12年の「支那事変」以来，「建築と社会」も次第に戦時色をおびてくる。それより前に，「国防と建築」（昭和7年3月号）や「都市武装特集」（昭和9年7月号）の戦争準備のための内容をもった特集もあったが，昭和13年に入り，特集形式の間に時局協力の論筆が目出って多く入ってくるようになってきた。

それが昭和19年3月号まで続くのである。偽装や防空壕などの特集や，木構造や無筋コンクリート造の研究の記事などとりあげられているが，ときにはひどい戦争協力の文でうずまっていたりして，いまから思えばじくじたる思いにかられないものはあるまい。

こうした戦時色の強いなかで，欧米の「国際新建築欄」（海外）の図版が多数あるのには救われる思いである。この「国際新建築欄」は昭和7年ごろより設けられているが，「個人的に対外為替関係の悪化に伴う外国雑誌講入の困難のため」ということで設けられた由。また，当時の記録的価値の高いものでは，「阪神地方水害調査報告」（昭和13年9月号），「四天王寺五重塔特集」（昭和15年7月号），「25周年記念号」（昭和17年5月号），「災害と建築特集（静岡大火）」（昭和15年3月号）などが見られる。

この昭和前期から戦中にかけての編集には，池田谷久吉，伊藤正文，本間乙彦，高橋栄治，岡田孝男，新名種夫，亀井幸次郎，大下順三郎，小林清の各氏らが編集常務として活躍されていることが会誌にもあらわれている。

昭和19年（第27集）3月号は「終刊号」と表紙にいたいたしく刷られている。「出版事業整備要綱に基き，大阪府特高課の命により廃刊届出提出」のため，その後2年間休刊した。会員には学会の「建築雑誌」を配付すると，その終刊号の会告にのっているが，その「建築雑誌」も数カ月のちには休刊しているので，果して全会員に「建築雑誌」が配付されたかどうか……この点の実状はよくわからない。

休刊中は10頁前後の「日本建築協会会報」を発行しているが，第6号（昭和21年11月）までで終っている。この会報第6号は「故片岡会長を憶ふ」特集（34頁）である。

3 昭和後期の「建築と社会」の編集内容

終戦を迎え，いまだ大阪市内の焼あとの匂いの残るなかで，この「建築と社会」の復刊が議題にのぼったのは昭和21年3月であったという。そして昭和22年3月に1・2月号合併として復刊第1号（第28集）が発行された。これは，B5判の30頁足らずのザラ紙の印刷のものであったが，その「再刊の辞」には，「単なる会誌の復興とか再現とか考へることは最も警戒すべきことで願はくば会誌の新生と考へなければならぬ。ここに構想を新にして広く建築界及び社会に向って働きかける本会の

使命をそのまま具体化したものとしたいものである」とのべ，「この会誌を通じ荒廃した日本文化の再建に大いなる努力を続けなければならぬと思ふ」と結んでいる。復刊第２号（22年３・４・５月号）には「住宅経済の再建」(西山卯三）の論説や，「地区復興設計当選案」，「都市復興論文」（懸賞当選論文二点）が掲載され，早くも，都市や住宅再建のための気運をうちだしたことは印象に残るところである。しかしながら，この28集は当時の経済事情のためか４号しか発行されていない。第29集（昭和23年）は７月にその第１号がだされ，３号にとどまっている。

いまだザラ紙の印刷とはいえ，雑誌としての形態がととのいはじめるのは，昭和24年（第30集）１月号からである。この年の３月に「第三種郵便物」の認可をうけている。以来，「建築と社会」は息をふきかえし，大林芳郎，白石博三，中村綱，浦辺鎮太郎，佐野正一，塚本猛次，森忠一（副委員長：上林博雄)，元吉勇太郎（短期間)，恒岡俊行，片山光生，長谷川哲之助各氏らの歴代編集委員長や，委員の努力のもとに，「建築と社会」を編集・発行し，第48集を数えるにいたったのである。

歴代会長も編集には意をそそがれている。その一例として，昭和29年の正月３日に当時の会長竹腰健造氏宅で，招待をうけて新年会兼編集委員会を行ない，編集委員一同ごちそうになったのも忘れえぬものである。

現在では，「特集＝本文」，「作品作風」，「シリーズ」の三本立の編集システムで進めている。本文の特集は，大きく①会員の技術的実用に役立つテーマ，②そのときの社会的要請に応じたテーマの二つに大別されて，その編集を考えてきたといえる。ところが，①の会員の技術的実用に役立つものといっても，建築協会が建築の綜合団体として会員の職種が多岐であるので，その要望するテーマも，広汎にわたらざるをえない。

②の社会的要請に応じたテーマといっても，昨今の社会の発展はいちじるしく，それにともなう問題点に焦点をあてるにも，テーマはいろいろあげられうる。まあ，いってみれば，「建築生産の流れ」と「社会的要請」で考えられるほとんどのテーマは，十分ではないにしても，一応とりあげられてきたのではないかという気がする。もっとも「独占企業（ガス・電気など）にもの申す特集」や「学会賞の建築その後特集」のような編集のむつかしいテーマは実現できなかったにしても……。

試みに，昭和28年(第34集)以降，昭和41年(第47集)までの14年間の166号分＊の特集テーマを分類すればつぎのようになる。

（＊14年間で168号分となるところであるが，昭28，昭30年にそれぞれ合併号があるので全部で166号分である）

都市計画	宅地開発，リクリエーション等も含む	12 回
建築論・歴史	美術，モニュメント，建築のライフ等	14 回
設計	造園設計，インテリア等も含む	9 回
施工	地下工法も含む	7 回
構造	地盤・土，ＰＣ，鋼管，軽量構造等	10 回
設備	空調，水設備等	11 回
建材	工事別建築材料集成等	14 回
管理	保全，防災を含む	4 回
法規		2 回
各種建築	工場，ホテル，学校，病院，福祉施設等	14 回
住宅	公共住宅，小住宅，都市住居等	11 回
建築経済	建築工費，建設産業等	6 回
青年建築家	新人特集も含む	13 回
作家	グロピウス，安井武雄，竹腰健造，長谷部鋭吉，尾崎久助	5 回
地方建築	支部特集も含む	5 回
記念号	創立35年記念史，委員会	2 回
一般号		8 回
社会的要請と関連あるもの	水害，国際，公害，地下街，社会開発教育，自動車，人間工学，万博等々	17 回
	記念建築物（新朝日ビルと毎日会館，京都国際会館）	2 回

計 166 回

このうち，建築技術者の仕事に直接関係し役立つテーマとしての，設計，施工，構造，設備などは，各種建築や記念建築物のなかにもそれぞれとりあげられているし，また，あとでのべる「技術講座」や「技術の頁」なども加味すると，その面の比重はもちろんかなり大きいといわねばならない。会員の構成を考えてもこの傾向はふえてもへることはない。とくに関西の地盤や地下工法の問題，空調設備などは，かなり意欲的にとりくんできたといえよう。

「青年建築家特集」は昭和41年までに第13回を数えているが，中村綱委員長のときに計画され，浦辺鎮太郎委員長がこれを引きついで，理事会の承認をえて毎年実施されてきたものである。また，青年だけでなく，老年建築家（といってはしかられるかも知れないが）の特集も考えてみようということとなり，ひとりの偉大な足跡を残した建築家を通じて，その社会なり建築の歩みを知る特集として，こんにちまで，安井武雄，竹腰健造，長谷部鋭吉，尾崎久助の諸特集を編集してきた。この青年と老年建築家の両企画は異色といっていい。また塚本猛次委員長のときに，「工事別建築材料集成」(昭和34年11月号）をつくり，その後それをさらに充実させた特集（昭和39年11・12月号と40年３月号）は会員から喜ばれた。住宅問題にも力を入れ，なかでも「公共住宅特集」(昭和35年11月号）は適切な企画だった。

社会的要請と関連するものとして，たとえば，「水害特集」（昭和28年11月），国際号（昭和30年７月号），「自動車と建築」（昭和36年６月号），「公害問題」（昭和37年10月号・昭和41年12月），「1970年万博会場計画」（昭和41年10月号），「地下街」（昭和38年10月号・昭和41年２月号）等々は印象に残る特集である。近畿圏の問題や宅地開発も含めて，都市計画

やリクリエーションの特集を組んでいるのも社会的要請の範疇にいれてもよいものだ。

問題作となった新建築の計画から竣工後の管理にいたるまでの一切の特集（新朝日ビル・毎日会館と京都国際会館，それに昭和42年1月号の国立劇場特集）をしたのは，記録性の高いものになっている。

そうじて，執筆者については，できるだけ関西よりタレントをみつけだし，その人に書いてもらうように考えてきている。なお，特集＝本文の企画は，編集委員以外の特別幹事も含めた「○○特集編集幹事会」で原案を作成し，本委員会でさらに協議の上進めている。

つぎに，「作品作風」であるが，これは，浦辺鎮太郎委員長時代からとくに力を入れてきて，とくに関西の優秀な作品を紹介してきた。スペースの面で毎号たくさん紹介できていないのは残念だが，最近は作品作風小委員会で作品を厳選し，グラビヤ印刷で，写真も大きくし，詳細図もつけて掲載されている。関西の新建築の記録としても価値あるものだ。これに付随して，「スケッチブック」は，作品作風にもれた関西の新建築を紹介してきている。

「特集＝本文」，「作品作風」と並んで，「シリーズもの」として，①技術的なもの，②セッセイ・随想的なもの，③人間的なもの，の三つにわけられると思うが，①技術的なものとして，「技術講座」（昭和30年1月号～昭和32年11月号），「設備原論ＱＡ」（昭和32年1月号～12月号・18回），「技術の頁」（昭和38年1月号～現在）がある。②セッセイ・随想的なものとしては，「建築の眼」――これは西山卯三氏の発案ではじめたものだが――が昭和29年12月よりえんえんとこんにちまで続いているのは光っている。そのほか「紫煙室」，「会員の声」，「会員の頁」，「読者の頁」と名称は変ったが，いまなおそういう自由投稿の頁がある。③人間的なものとしては，「職人シリーズ」（昭和38年1月号～40年3月号・27回），「新らしい技能工シリーズ」（昭和40年4月号～41年3月号・12回）をもち好評をえた。最近は「クラスメート」（昭和40年6月号～現在）の写真の頁を続けている。

これらの「シリーズもの」のほかに，特筆すべきことは，日本建築協会の特別委員会として発足した「近代建築調査委員会」（委員長：滝沢真弓）の調査報告を，昭和35年1月号より昭和40年2月号まで62回にわたって発表し，明治建築の資料保存のため，斯界に多大の貢献をしたことであろう。そのほか，「工高生デザインコンクール」の入選作も毎年のせてきている。最近は「海外写真」の紹介を毎号続けている。

4 判型・組み方・定価の変遷

第1集（関西建築協会雑誌）および第2集（日本建築協会雑誌）は，菊判（150×220mm，こんにちのＡ5判に近い）で，組方は縦組であった。定価は，30銭であったが，「建築と社会」と改題された第3集は50銭となり，大正12年の第6集は75銭に値上げされている。大正14年の第8集より，四六倍判（188×258mm，Ｂ5判に近い）に大型化されているが，このときは定価は再び50銭になっている。

その縦組が，こんにちの左横組に改組されたのは，いつ頃であろうか。調べてみると，昭和7年7月号より実施されている。これはおそらく，日本建築協会の創立15周年（昭和7年）を迎えたので，それを記念して，雑誌の刷新をはかる上で，この画期的な左横組を採用したのであろう。（その後，昭和15年5月に若干の組方の改正が行なわれている。）ついでながら，表紙の「建築と社会」という文字は，当初は「會社と築建」と右横書であったが，現在の左横書となったのは，昭和3年の第11集からである。

以来，本文は左横組が採用され，こんにちに至っているが，活字の大きさは，戦前では，5号・9Ｐ活字が主であった。戦後の昭和26年頃から8Ｐ活字が採用され，以来8Ｐ二段組，左横書が支配的な組方を占めてきた。しかし，昭和40年頃から9Ｐ活字をときどき用い，昭和42年（第48集）正月号の大型版より，9Ｐ活字を本文に扱うようになった。

この昭和42年正月号は，日本建築協会50周年を記念して，いままでのＢ5判（182×257mm）からＡ4変形判（223×297mm）の大型化にしたものである。

これは，①50周年を契機として，創立当初の精神にのっとって，さらに誌面の刷新をはかる，②Ａ判の国際サイズにした方が長期的にみた場合好ましい，③作品作風の写真を大きくして迫力あるものにし，詳細図，データシートなども入れることができる，④本文の活字や写真・図面を大きくし，読みやすくすることができる，などの理由から編集委員会で何度も協議の上，理事会の承認をえて大型化にふみきったものである。この大型化には，「作品作風小委員会」の努力におうところも多かったことをとくに記しておきたい。

定価は，大正時代は先にも記したように，30銭～75銭であったが，昭和3年は75銭で，昭和4年から昭和18年まではずっと50銭であった。戦後の昭和24年は60円であったが，それが80円100円，130円，180円，200円と値上げされてきた。大型化の第48集より一挙に300円となった。

なお，戦前は市販もされていたし，「建築と社会」の講読会員はかなり（500人ぐらい）あったようである。

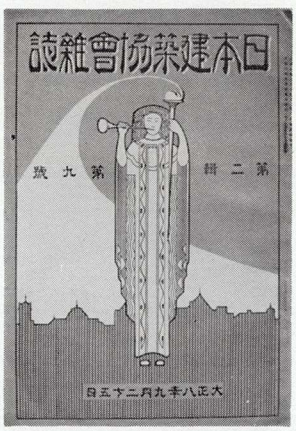
5 表紙の変遷

「創立35年記念史」（昭和28年12月号）のときには，「建築

「建築と社会」表紙図案



第 1 集　大正6，7年



第 2 集　大正 8 年



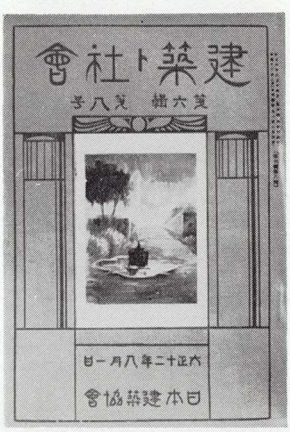
第 3 集　大正 9 年



第 4 集　大正 10 年



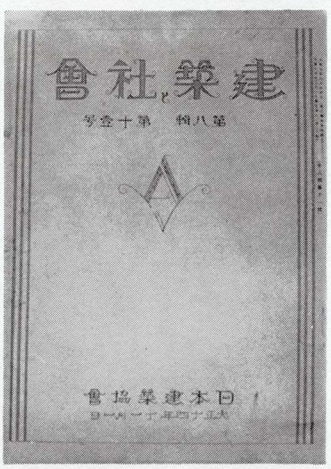
第 5 集　大正 11 年



第 6 集　大正 12 年



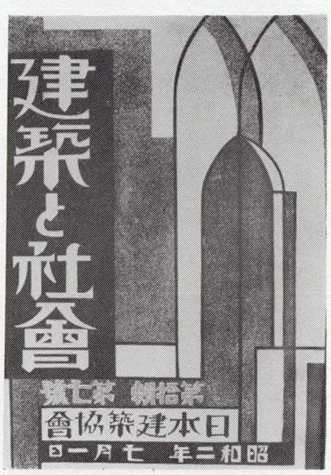
第 7 集　大正 13 年



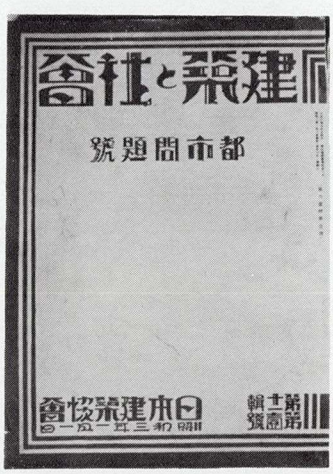
第 8 集　大正 14 年



第 9 集　大正 15 年



第 10 集　昭和 2 年



第 11 集　昭和 3 年



第 12 集　昭和 4 年



第 13 集　昭和 5 年



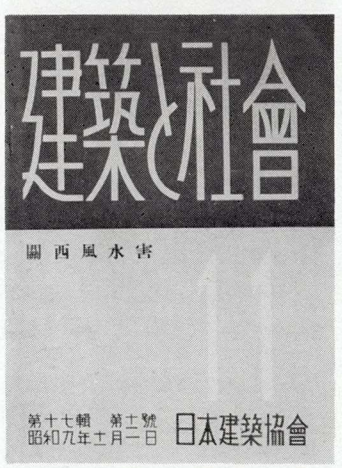
第 14 集　昭和 6 年



第 15 集　昭和 7 年



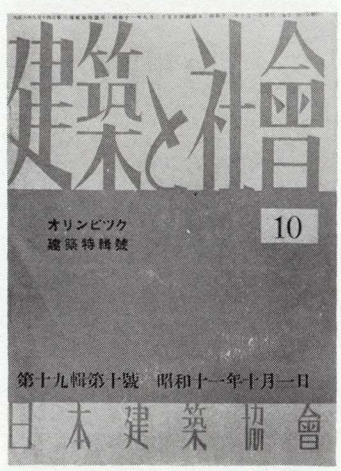
第 16 集　昭和 8 年



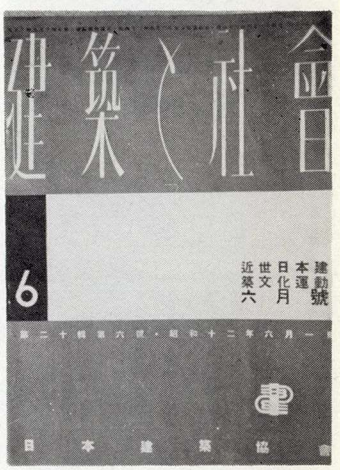
第 17 集　昭和 9 年



第 18 集　昭和 10 年



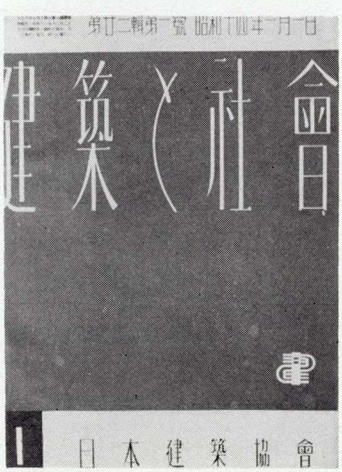
第 19 集　昭和 11 年



集 20 集　昭和 12 年



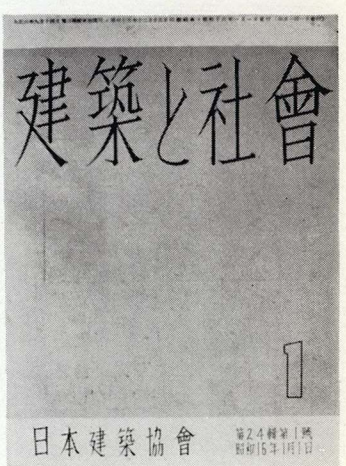
第 21 集　昭和 13 年



第 22 集　昭和 14 年

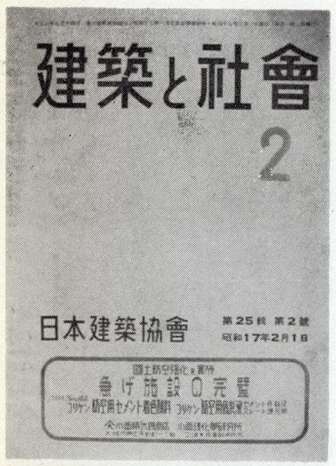


第 23 集　昭和 15 年

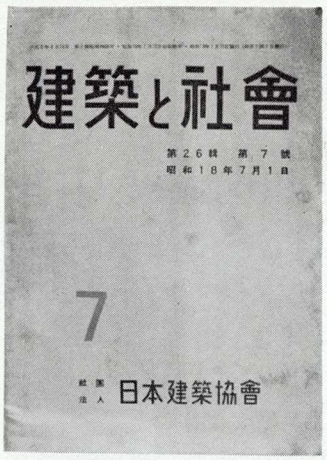


第 24 集　昭和 16 年

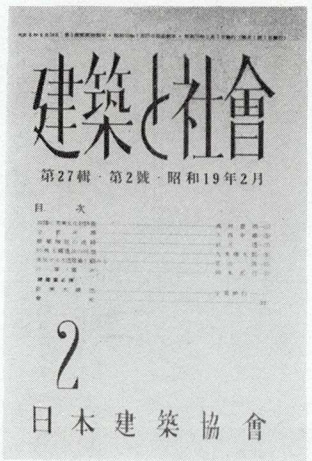
「建築と社会」表紙図案



第 25 集　昭和 17 年



第 26 集　昭和 18 年



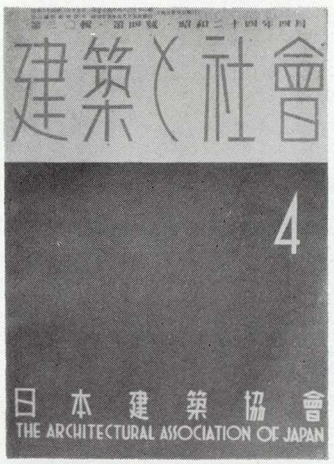
第 27 集　昭和 19 年



第 28 集　昭和 22 年



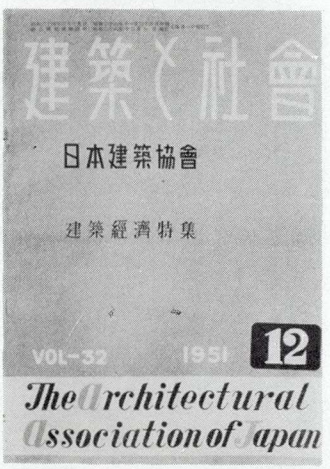
第 29 集　昭和 23 年



第 30 集　昭和 24 年



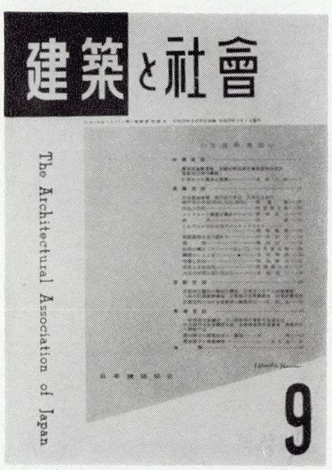
第 31 集　昭和 25 年



第 32 集　昭和 26 年



第 33 集　昭和 27 年



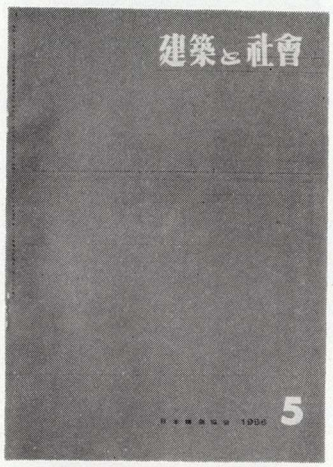
第 34 集　昭和 28 年



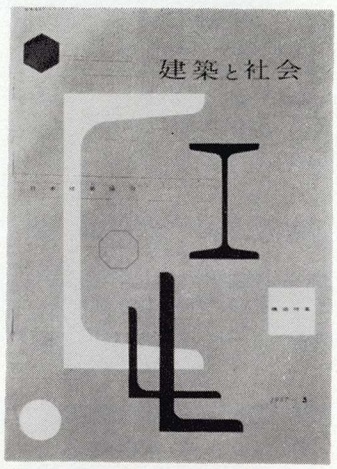
第 35 集　昭和 29 年



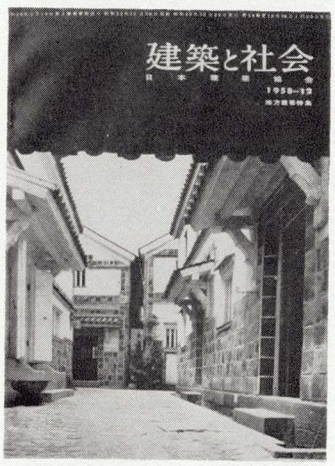
第 36 集　昭和 30 年



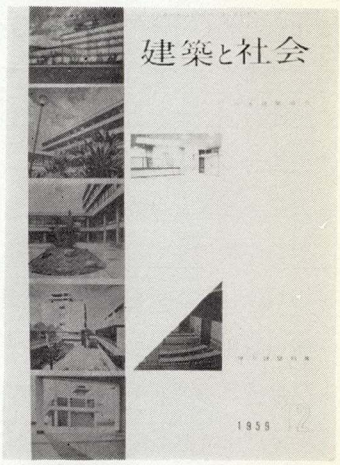
第 37 集　昭和 31 年



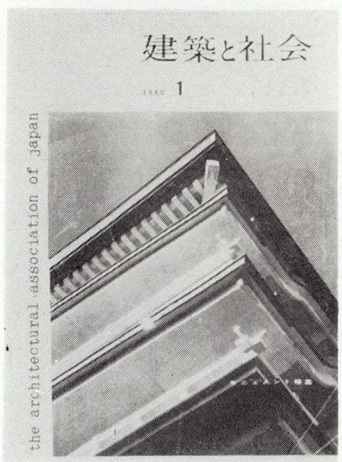
第 38 集　昭和 32 年



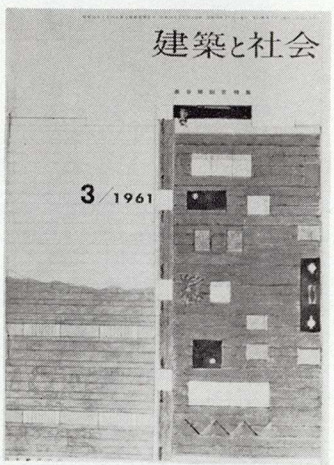
第 39 集　昭和 33 年



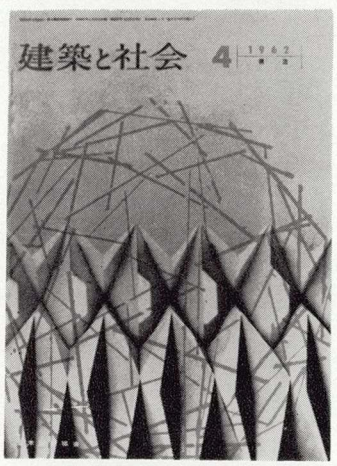
第 40 集　昭和 34 年



第 41 集　昭和 35 年



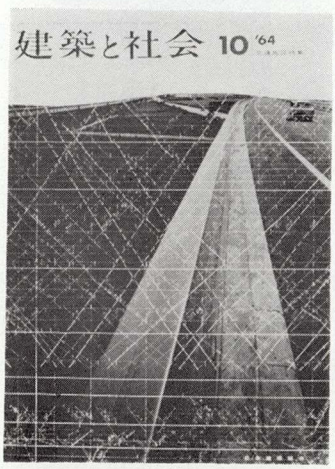
第 42 集　昭和 36 年



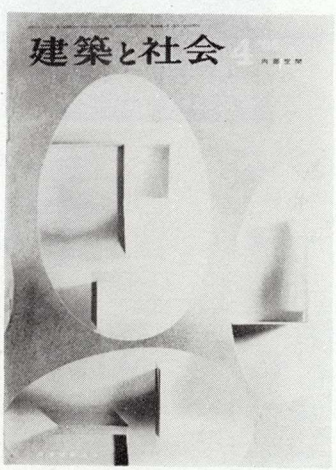
第 43 集　昭和 37 年



第 44 集　昭和 38 年



第 45 集　昭和 39 年



第 46 集　昭和 40 年



第 47 集　昭和 41 年



第 48 集　昭和 42 年

と社会」の表紙図案が写真で紹介されていなかったので，今回は，とくに，創刊号から第48集までの48枚の表紙図案を写真にとって掲載することにした。これによって，表紙デザインの変遷や「建築と社会」の歩みを知る一端ともなれば幸いである。ただカラーで紹介できないのでその印象なり特色をうすくしているのは残念である。

なお，特別号と称して，表紙図案の構成が普通号とかわっているものが数冊あるので，参考までに右に掲げる。

創刊号の表紙デザインは武田五一先生の作である。「花鳥を模様化」したり，「女神の像」，「バンガロのある風景」を図案化したりして，大正時代の表紙は，そうじて，色調の効果と特色ある文字とがうまく生かされていて，いま見ても楽しい。

昭和に入ってからは，格調ある文字で建築的に構成されているものが多い。

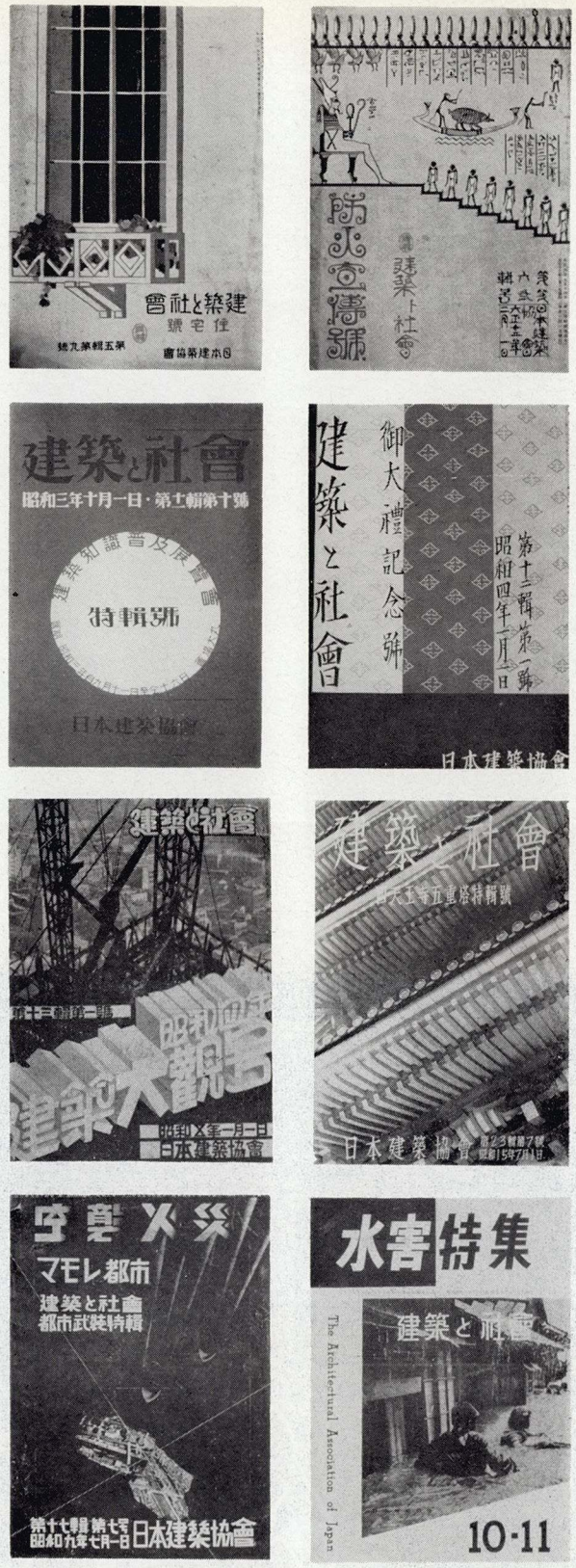
表紙デザインは，大正時代から，会員より懸賞募集してその入選作を使用していた。ちなみに，昭和はじめの表紙デザイン審査員には，本野精吾，滝沢真弓氏らの名が見えている。

戦後数年は，会員のデザインになったが，昭和36年(第42集)より，表紙デザイン小委員会で検討し，その基本案にしたがって，グラフィックデザイナーに図案化してもらってきている。特集号の内容を表紙に図案化したものがほとんどであるが，第47集は，特集号の内容に関係なく，「都市環境とその要素」というテーマで，1カ年の表紙構成を考えてきた。

6 あとがき

以上で，「建築と社会」の変遷について概略を示してきた。最近，雑誌がよくなったと方々からいわれるが，しかし，まだまだ，意にみたぬ点は多い。「建築と社会」の「建築」だけあって「社会」がないではないか，という批判や，「建築」はあっても，その内容はもの足りない,「誌相」が貧弱である，センスがない，という批判もある。「協会」という会の機関誌である以上，予算の面，会員構成の多岐からくる要求度のちがいなどいろいろの条件があって，編集上においても，かなりむつかしい要素も考えられ，悪くいけば，総花式になる恐れもある。

しかしながら，そういう条件のなかで，何とか「会員の役にたつもの」「社会的要請にこたえるもの」というねらいのほかに，後代の批判にもたえる編集，その時点における建築と社会の問題点や矛盾点をうきぼりにして，しかも記録性のあるものにしたいと願ってきたといえる。単なる親睦会誌だけの意味では，後世に残るものとはならないだろう。「後代の批判にもたえるもの」「記録性のあるもの」ということは容易ではないが，それが終局的には，編集者の使命ではあるまいかとひそかに思うのである。そのためには，「社会的接触」を深め「躍進的気運」に先んずるという創立当初の精神を，現代的に再評価・再検討して，新らしい態度で編集にとり入れていく必要もあろうかと思う。



——特別号の表紙図案の数々——

最後に，ご指導いただいた歴代会長はじめ，歴代編集委員長，編集理事，編集委員，編集幹事さらに，貴重な玉稿をいただいた多くの方々——故人も含めて——に厚く感謝いたします。

(松井昭光記)

第４部

総目録



武田五一筆

建築と社会総目録

(昭和28年～昭和41年)

まえがき

この総目録は「建築と社会」第34集1月号（昭和28年—1953）より第47集12月号（昭和41年—1966）までの満14年間の総目録である。

総目録は並べ方にいろいろと方法があろうが，索引としても使えるためにはできるだけ細分して見出しやすく何回も重出したのが便利である。しかし紙面の都合上，これはできないからここでは毎集の総目録の分類にしたがってなるべく同類相近いものを並べることにした。したがって，数個所に出さねばならないものも1個所だけに限定したが，また逆に重複して集録したもの（たとえば〝座談会，アンケート〟等）もある。

見出しの順序は，表題・筆者・集—号・発表年の順を基本としたから，それ以外のものもこれに準ずるものとしてみていただきたい。

なお，「建築と社会」創刊号より昭和27年までの総目録は「建築と社会」創立35年記念史（昭和28年12月号）に集録してある。したがって同号と本号との両方で「建築と社会」第1集～第47集のすべての目録を集録したことになる。

建築と社会総目録目次

昭和28年～昭和41年
（第34集）　（第47集）

（創刊（大正6年）～昭和27年までの総目録は創立35年記念史号（昭和28年12月号）を参照のこと）

◀第　1　部　門

No.1 特　集　号……1
No.2 総　論……2
a．建築と芸術……2
b．評論・美学……〃
c．アイデア……〃
d．外部空間……3
e．内部空間……〃
f．モニュメント……〃

◀第　2　部　門

No.3 歴史・様式関係……3
a．総　論……〃
b．日　本……〃
c．西　洋……〃
d．歴史評論……〃
e．関西の建築歴史随想……〃
No.4 インテリア・家具……〃
No.5 計　画……4
a．建築計画……〃
b．計画・設計……〃
c．設計計画案……〃
d．下水問題……〃
e．建築と規格……〃
f．モデュール……〃
g．原子力問題……〃
h．原子力利用施設……〃
i．自動車と建築……〃
j．造園と建築……5
k．建物と騒音……〃
l．社会教育施設……〃
m．交通施設……〃
n．リクリエーション……〃
o．人間工学……〃

◀第　3　部　門

No.6 材　料……5
a．建築材料……〃
b．工事別建築材料集成……6
c．金属外装……〃
No.7 構　造……7
a．構　造……〃
b．軽量構造……〃
c．土・構造……〃
d．鋼管構造……〃
No.8 施工・技術……〃
a．施　工……〃
b．地盤と基礎・基礎工法……8
c．適正工期……〃
d．技術講座……〃
e．技術の頁……9
No.9 設　備……9
a．設備原論……〃
b．設備各論……〃
c．水と設備……10
d．空気調和設備……〃
e．照明と建築……〃

◀第　4　部　門

No.10 建築作品……11
a．作品作風……〃
① 公共建築（会館を含む）……〃
② 学校・養成所・幼稚園……〃
③ 図書館・美術館……〃
④ 研究所……〃
⑤ 病院・診療所・医院……〃
⑥ 体育館・競技場……〃
⑦ 事務所・銀行・ビル……12
⑧ 劇場・映画館・会館……〃
⑨ 住宅・アパート……13
⑩ ホテル・旅館・料亭・国民宿舎……〃
⑪ 工場・倉庫……〃
⑫ 百貨店・商店・マーケット……14
⑬ クラブ・ゴルフクラブハウス……〃
⑭ 宗教建築……〃
⑮ 室内デザイン……〃
⑯ 福祉施設……〃
b．会員作品……〃
c．新建築・スケッチブック……〃
No.11 海外建築……15
a．海外作品・世界の建築……〃
b．海外の建設工事……〃
No.12 保全・災害・防災……〃
a．保　全……〃
b．建物管理……16
c．建築のライフ……〃
d．災害・防災……〃
e．消・防火……〃
f．公害問題……〃
No.13 各種建築……〃
a．地方都市・地方建築……〃
b．超高層建築……17
c．学校建築……〃
d．ホテル建築……〃
e．病院建築・医療施設……〃
f．工場建築・工場計画……〃
g．児童福祉施設……〃
h．社会福祉施設……18
i．住宅・アパート……〃
j．プレハブ住宅……〃
No.14 開発・団地・都市計画等……〃
a．アパート団地計画……〃
b．宅地開発……〃
c．中小企業団地……19
d．オリンピック競技場施設……19
e．都市計画・公共住宅……〃
f．地下街……〃
g．名古屋……20
h．阪神高速道路と近畿の開発……〃
i．社会開発……〃
j．1970年万国博会場計画……〃
No.15 近代建築……〃
a．近代建築論……〃
b．居留地建築……〃
c．近代建築調査委員会報告……〃

◀第　5　部　門

No.16 作家・作家論・評伝……21
a．作家論・評伝……〃
b．竹腰健造特集……〃
c．長谷部鋭吉特集……〃
d．尾崎久助特集……22
e．青年建築家……〃
No.17 職人・新らしい技能工シリーズ……23
a．職人シリーズ……〃
b．技能工シリーズ……24
No.18 クラスメート・人と建築……〃
a．クラスメート……〃
b．人と建築……〃
No.19 建築運動……〃
No.20 建築教育……〃
No.21 建築経済・建設産業……25
a．労働問題・建築経済・建築生産……〃
b．建築工費……〃
c．建設産業……〃
d．施　主……〃
No.22 座談会……〃
No.23 外国の建築事情……26
No.24 法　規……〃
No.25 コンクール入選作……27
No.26 シリーズもの・他……〃
a．巻頭言……〃
b．建築の眼……〃
c．随想・会員の声……28
d．会員の頁・読者の頁……29
e．書評・新刊紹介……〃
f．アンケート……30
g．建築と社会ニュース……〃
h．文　献……〃
i．レタリング……〃
j．記　事……〃
k．追悼記……31
l．日本建築協会委員会……〃
m．会告・会報……〃
n．創立記念報告号……3

第 1 部 門

No.1 特 集 号

	集	号	年
スポーツ建築特集	34	5	昭28
建築と美術特集	〃	6	〃
変遷と見通し特集	〃	8	〃
支部特集	〃	9	〃
水害特集	〃	10-11	〃
創立35年記念号	〃	12	〃
設備特集	35	1	昭29
工場建築特集	〃	2	〃
建築労働問題特集	〃	4	〃
地盤と基礎特集	〃	5	〃
第1回青年建築家特集	〃	6	〃
国際建築学生会議特集	〃	7	〃
高分子系から見た建築材料特集	〃	8	〃
都市とコア特集	〃	9	〃
日本におけるグロピウス特集	〃	10	〃
住宅特集	〃	11	〃
クライアントから見た建築特集	〃	12	〃
日本における建築的伝統特集	36	1	昭30
コンクリート特集	〃	2	〃
住宅問題と住宅経営特集	〃	3	〃
劇場特集	〃	4	〃
設計システム特集	〃	5	〃
第2回青年建築家特集	〃	6	〃
国際号	〃	7	〃
安井武雄記念号	〃	8	〃
建材特集	〃	9	〃
工場建築特集	〃	10	〃
設備特集	〃	11-12	〃
住宅特集	37	3	昭31
構造特集	〃	4	〃
作品一般	〃	5	〃
第3回青年建築家特集	〃	6	〃
都心の団地計画特集	〃	7	〃
小住宅・小店舗特集	〃	8	〃
設備特集	〃	9	〃
設計・施工特集	〃	10	〃
建材特集	〃	11	〃
地方建築特集	〃	12	〃
歴史特集	38	1	昭32
構造上の諸問題特集	〃	2	〃
住宅特集	〃	3	〃
建築の Life 特集	〃	4	〃
構造特集	〃	5	〃
新人特集（第4回）特集	〃	6	〃
設備特集	〃	7	〃
防災特集	〃	8	〃
施工特集	〃	9	〃
住宅特集	〃	10	〃
建材特集	〃	11	〃
建築生産特集	〃	12	〃
関西の建築特集	39	1	昭33
構造特集	〃	2	〃
世界の建築特集	〃	3	〃
住宅特集	〃	4	〃
軽量構造特集	〃	5	〃
新朝日ビルディングと毎日大阪会館南館特集	〃	6	〃
第5回青年建築家特集	〃	7	〃
保全特集	〃	8	〃
城特集	〃	9	〃
室内デザイン特集	〃	10	〃
建材特集	39	11	昭33
地方建築特集	〃	12	〃
竹腰健造特集	40	1	昭34
PC構造特集	〃	2	〃
共同住宅特集	〃	3	〃
様式デザイン特集	〃	4	〃
学校建築特集	〃	5	〃
都市計画（大阪の場合）特集	〃	6	〃
第6回青年建築家特集	〃	7	〃
工場特集	〃	8	〃
設備特集	〃	9	〃
病院特集	〃	10	〃
建材特集	〃	11	〃
地方建築特集	〃	12	〃
モニュメント特集	41	1	昭35
原子力利用施設特集	〃	2	〃
建築計画特集	〃	3	〃
阪神都市圏の住宅問題特集	〃	4	〃
海外の建設工事特集	〃	5	〃
建築法規特集	〃	6	〃
第7回青年建築家特集	〃	7	〃
施工特集	〃	8	〃
設備特集	〃	9	〃
近代建築特集	〃	10	〃
公共住宅特集	〃	11	〃
児童福祉施設特集	〃	12	〃
アイデア特集	42	1	昭36
居留地特集	〃	2	〃
長谷部鋭吉特集	〃	3	〃
土特集	〃	4	〃
インテリア特集	〃	5	〃
自動車と建築特集	〃	6	〃
第8回青年建築家特集	〃	7	〃
建築と規格特集	〃	8	〃
建築とリクリエーション特集	〃	9	〃
建設産業構造特集	〃	10	〃
材料特集	〃	11	〃
日本近代建築運動史特集	〃	12	〃
都市計画特集	43	1	昭37
建物管理特集	〃	2	〃
名古屋特集	〃	3	〃
構造特集	〃	4	〃
水と設備特集	〃	5	〃
建築工費特集	〃	6	〃
第9回青年建築家特集	〃	7	〃
阪神高速道路と近畿の開発特集	〃	8	〃
工場建築特集	〃	9	〃
公害問題特集	〃	10	〃
宅地開発特集	〃	11	〃
社会福祉施設特集	〃	12	〃
建築教育特集	44	1	昭38
消防火特集	〃	2	〃
緑と建築特集	〃	3	〃
リクリエーション特集	〃	4	〃
社会教育の場特集	〃	5	〃
材料特集	〃	6	〃
第10回青年建築家特集	〃	7	〃
金属外装特集	〃	8	〃
空気調和設備特集	〃	9	〃
地下街特集	〃	10	〃
建築と芸術特集	〃	11	〃
超高層建築特集	〃	12	〃
建築と照明特集	45	1	昭39
プレハブ特集	〃	2	〃
外部空間特集	〃	3	〃
ホテル建築特集	〃	4	〃
鋼管構造特集	〃	5	〃
施工特集	〃	6	〃
第11回青年建築家特集	〃	7	〃
宅地開発特集	〃	8	〃
オリンピック競技施設特集	〃	9	〃
交通施設特集	〃	10	〃

	集	号	年
工事別建築材料集成（上）……	45	11	昭39
〃　（中）……	〃	12	〃
尾崎久助特集……	46	1	昭40
委員会特集……	〃	2	〃
工事別建築材料集成（下）……	〃	3	〃
内部空間特集……	〃	4	〃
人間工学特集……	〃	5	〃
社会開発特集……	〃	6	〃
第12回青年建築家特集……	〃	7	〃
施工の手続特集……	〃	8	〃
建物管理特集……	〃	9	〃
建物と騒音特集……	〃	10	〃
中小企業団地特集……	〃	11	〃
医療施設特集……	〃	12	〃
都市住居特集……	47	1	昭41
地下街特集……	〃	2	〃
空気調和設備特集……	〃	3	〃
建具金物特集……	〃	4	〃
建築法規特集……	〃	5	〃
国立京都国際会館特集……	〃	6	〃
第13回青年建築家……	〃	7	〃
1970年万国博特集……	〃	8	〃
造園特集……	〃	9	〃
最近の地下工法特集……	〃	10	〃
市街地改造特集……	〃	11	〃
公害と都市・建築特集……	〃	12	〃

No.2　総　　論

a 建 築 と 芸 術

	集	号	年
「装飾的近代」の展開—現代建築と「機能主義の超克」—……向井　正也…	44	11	昭38
芸術的綜合としてのゴシック聖堂 —現代建築における綜合的芸術観の反省のために—……前川　道郎…	〃	〃	〃
建築と諸美術—その協同と統一の条件は何か—……鳥田　家弘…	〃	〃	〃
座談会：「新しい空間創造への参加」……	〃	〃	〃
出席者：太田　隆信・根津耕一郎・福岡　道雄 田中　敦子・中西　康雄・大久保昌一			
メキシコ大学の壁画……桐野江節雄…	〃	〃	〃
今井兼次先生とガウディ……岡橋作太郎…	〃	〃	〃
ピカソ；ミロ；ノグチ—パリ・ユネスコ本部にて—……神出津嶺雄…	〃	〃	〃
ロンシャン—建築が造型的事件であるということ—……西沢　文隆…	〃	〃	〃
Possitiveな「街」の建築空間 —大阪市内の画廊みてある記—……高田　威…	〃	〃	〃
村野藤吾のクラフト的魅力……補辺鎮太郎…	〃	〃	〃

b 評 論・美 学

	集	号	年
劇場建築と演劇—劇場は演劇に先立つ—……田中　昭三…	34	6	昭28
最近世界建築界の傾向と日本の建築への提案……リチ・ウエノ・リックス…	〃	〃	〃
建築と美術の歴史的展望……大倉　三郎…	〃	〃	〃
最近の建築美術……上野伊三郎…	〃	〃	〃
近代建築と美術……向井　正也…	〃	〃	〃
近代建築と茶道……丸野　澄江…	〃	〃	〃
建築と絵画……望月　信成…	〃	〃	〃
MOSAICについて……辻合喜代太郎…	〃	〃	〃
建築と美的感覚……高田　克巳…	〃	〃	〃
建築への画家の断想……小松　益喜…	〃	〃	〃
彫刻家の見た現代建築への寝言……池田　遊子…	〃	〃	〃
彫刻と建築について……浅野　孟府…	〃	〃	〃
建築と美……中井　あい…	〃	〃	〃
DESIGNについて……岩本　博行…	〃	〃	〃
高層建築（摩天楼）の美……徳田　顕…	34	6	昭28
住居の国民線……戸田　嘉秋・長　享…	35	11	昭29
ROMANESQUE REVIVAL とリチヤードソン……	〃	2	〃
日本の現代建築における伝統の問題……	〃	7	〃
日本における建築教育……	〃	〃	〃
西洋の建築的伝統について……森田　慶一…	36	1	昭30
民家史の一課題……白木小三郎…	〃	〃	〃
桂離宮と農家……外村吉之介…	〃	〃	〃
民族的伝統と国民的伝統……西山　卯三…	〃	〃	〃
商業建築における Advertising Value……小川　正…	〃	4	〃
建築家ピュウギンの言葉……	〃	8	〃
木材のある解釈と表現について…… 〃 ……	〃	〃	〃
設計システムの諸問題……編集委員会…	〃	5	〃
分業設計システム……山根正次郎…	〃	〃	〃
協同設計について……京大A.K.T…	〃	〃	〃
構造家から見た設計のあり方……坪井　善勝…	〃	〃	〃
日本の建築—過去と現在—……	〃	7	〃
Japanese Architecture—Old & New ……	〃	〃	〃
日本建築のある相……森田　慶一…	〃	〃	〃
Some Aspects of Japanese Architecture …… by Morita Keiichi …	〃	〃	〃
日本庭園について……森　蘊…	〃	〃	〃
Japanese Gardens……by Mori Osamu…	〃	〃	〃
アメリカ現在建築概観……ウイリアム・アレックス…	〃	〃	〃
General Surveys on The American Modern Architecture …… by William Alex…	〃	〃	〃
建築のデザインに望むアンケート……	37	10	昭31
建築家に望む……中島　健蔵…	〃	5	〃
竹山・浜口論争についてのアンケート……	〃	4	〃
現代建築と不安感に関し浜口君の反論を読む……竹山謙三郎…	〃	〃	〃
現代建築の不安と危険……浜口　隆一…	〃	〃	〃
東京1955年グリンプス……補辺鎮太郎…	〃	2	〃
モスクワの建築瞥見……土田　光夫…	〃	〃	〃
フルシチョフ論文……	〃	〃	〃
温故知新—京蛙の話—……池田総一郎…	〃	12	〃
1957年と1857年（新ゴシック論時代）……鳥田　家弘…	38	1	昭32
戦前・戦中・戦後と世代を異にする建築家は学窓を出たとき何を考えていたか（アンケート）…… 〃 ……	〃	〃	〃
執筆者：竹腰　健造・村野　藤吾・滝沢　真弓 東畑　謙三・鴻池　藤一・小川　正 足立　孝・光安　義光・菊竹　清訓 羽藤　文男・薬袋　公明			
C.M.デューク氏講演要旨 —建設工事の計画と管理の進歩—……五十嵐定義…	〃	5	〃

c ア イ デ ア

アイデア特集・総論……	42	1	昭36
第1部　設　計……	〃	〃	〃
岡田　光正・河合　正一・犬束　徳郎 木村　喬夫・島田　勝次・力武　利夫 倉石　秀夫・佐野　正一・三川　栄吉 高原　道夫・河合　正一			
ま と め……	〃	〃	〃
第2部　施工・材料・生産方式……	〃	〃	〃
谷口　尚武・力武　利夫・岩崎甚太郎 倉石　秀夫・島田　勝次・河合　正一 小田島兵吉・橋本　良介・山下　暢雄 吉田　元七			
ま と め 1. 土・基礎工事……	〃	〃	〃
2. 主体構造および仕上材料……	〃	〃	〃
3. 生産方式……	〃	〃	〃
第3部　設　備……	〃	〃	〃
中原　茂・犬束　徳郎・上林　博雄 木村　喬夫・吉田　吉七・川上　秀光 倉石　秀夫			
ま と め……	〃	〃	1
第4部　都市計画……	〃	〃	〃
都市の低空間の再考（図師嘉彦），人工の山上都市（河合正一），新政治都市の建設を（北垣智造），呼応計画（松井昭光），建築のイメージをささえるもの（西原清之），SHUTO（秀島乾一）			
ま と め……	〃	〃	〃
その他（向井　正也・三田　一男）……	〃	〃	〃

集　号　年

d 外部空間

「外部空間の構成」…対　談：芦原　義信・神代雄一郎…45　3　昭39
編集側：大久保昌一・松井　昭光
都市空間の歌……写真選択と文：西沢　文隆…〃　〃　〃
座談会：みんなの外部空間……〃　〃　〃
出席者：植木　　茂・宮島　久七・西沢　文隆
浦辺鎮太郎・大久保昌一
外部空間雑感……紙野　桂人…〃　〃　〃
広場あれこれ……宮島　久七…〃　〃　〃
コミュニテイ・センター……富安　秀雄…〃　〃　〃
屋外附帯工事費
—住宅団地の原価要素として—……今井準之助…〃　〃　〃

e 内部空間

私見—スペースと評価……浦辺鎮太郎…46　4　昭40
空間表現について（覚書）……増田　友也…〃　〃　〃
生活空間とその混乱……坪居　恭平…〃　〃　〃
内部空間のしおり（写真と説明）
1. 建築家から…ブルーモスクほか……西沢　文隆…〃　〃　〃
2. 画家から…ミラノのピヤホールほか……中村　　真…〃　〃　〃
3. 室内設計家から…新阪急ホテル……村尾　　栄…〃　〃　〃
4. 照明設計家から…ユネスコビルの委員会室ほか
……岡田　喜義…〃　〃　〃
5. 商業デザイナーから…蘇生する家具ほか
……黒川　雅之…〃　〃　〃

f モニュメント

記念性と建築……島田　家弘…41　1　昭35
建築のモニュメンタリティと彫刻，絵画への原則
……河本　敦夫…〃　〃　〃
新しい構造と記念性……岡本　　剛…〃　〃　〃
商業主義のモニュメンタリテイ……小川　　正…〃　〃　〃
公共建築における記念性の問題……西原　清之…〃　〃　〃
都市計画と記念性……中沢誠一郎…〃　〃　〃
宗教建築における記念性……福山　敏男…〃　〃　〃
「お城ブーム」……河東　義方…〃　〃　〃
—サグラダ・ファミリア教会他—
……写真と文…勅使河原宏…〃　〃　〃

第 2 部 門

No.3 歴史・様式関係

a 総　　論

石に柄がつき道具となるまで
—石器時代の道具—……芹沢　長介…37　1　昭31
写実より抽象（アブストラクト）への移行
—石器時代の絵画—……〃　…〃　〃　〃

b 日　　本

私たちの建築史（1～11）……林野　全孝
……34.1～5, 7, 8・35.1, 3, 4, 7　昭28・昭29
書写山円教寺の古建築……野地　修左…37　12　昭31
日本の古建築における基準寸法……大森　健二…38　1　昭32
法隆寺再建非再建論争の終末とその後……山本　栄吾…〃　〃　〃
吉村邸（古建築分科委員会委員会撮影）……〃　〃　〃
平等院鳳凰堂……川上　　貢…39　1　昭33
熊本城……塘　　一郎…〃　9　〃
小倉城……藤岡　通夫…〃　〃　〃
高梁城……高端　政雄…〃　〃　〃
広島城…基礎と瓦……松田　　実…〃　〃　〃
広島城…橋御門復元……橋本　秀夫…〃　〃　〃
松江城……飯塚　源吉・古林義敦…〃　〃　〃
松山城……河東　義方…39　9　昭33
高知城……高端　政雄…〃　〃　〃
姫路城……棚橋　　諒・南井良一郎…〃　〃　〃
岸和田城……三田　青里…〃　〃　〃
和歌山城……藤岡　通夫…〃　〃　〃
彦根城……大森　健二…〃　〃　〃
富山城……宝来佐一郎…〃　〃　〃
名古屋城……一円　俊郎…〃　〃　〃
天守を中心とした城の歴史的考察……城戸　　久…〃　〃　〃
城復興の意義，観光厚生の見地から……重松　敦雄…〃　〃　〃
水口と永原の城……川上　　貢…〃　〃　〃
明石城……野地　修左…〃　〃　〃
郡山城……河東　義方…〃　〃　〃
日本建築の源流雑考……村田　治郎…40　4　昭34
宮古群島の民家について……久恒　治郎・脇本　啓一…44　6　昭38

c 西　　洋

The Rise of the CityとIntellectual History
……徳田　　嶺…34　4　昭28
ヨーロッパ古建築の旅（抄）……山本　利雄…44　7　昭38

d 歴史評論

江戸時代における大阪商家の特徴……牧村　史陽…39　1　昭33
明治建築の三つの姿……滝沢　真弓…〃　〃　〃
堺の町家二題……浅野　　清…〃　〃　〃
京の町家・近江の町家……西川　幸治…〃　〃　〃
神戸の町と洋館……坂本勝比古…〃　〃　〃
関西と長屋住宅……西山　卯三…〃　〃　〃
大阪近郊の農家……白木小三郎…〃　〃　〃
京都の施主・京都の手法……白石　博三…〃　〃　〃
e 関西の建築歴史随想……（28頁参照）

No.4 インテリア・家具

誰にも作れる胴縁製家具……政岡　基次…34　7　昭28
竹中工務店本社事務用家具について……村尾　　栄…38　11　昭32
これからの住宅と家具について……住宅委員会…〃　3　〃
大阪瓦斯（株）心斎橋サービスステーションおよび
（株）寿屋多摩川工場P. R. 室……安井建築設計事務所…39　10　昭33
家具—事務的なスペースにおける—…大成建設大阪支店…〃　〃　〃
某商事（株）社長室・他……大阪建築事務所…〃　〃　〃
室内デザイン十数点……日建設計工務株式会社…〃　〃　〃
家具と装飾の試み：……大阪・三座グループ…〃　〃　〃
1957年 La Chambre Charmante 展出品作品
……樋口　　治…〃　〃　〃
安楽椅子・飾棚—市田（株）京都支店—
……小河建築設計事務所…〃　〃　〃
多用室の室内……中村建築研究所…〃　〃　〃
室空間の基底的機能……足立　　孝…〃　〃　〃
建築以外のインテリア・デザイン二つの例によって
あるぜんちな丸と特急あさかぜ……樋口　　治…39　10　昭33
家具の Ready Made について……角尾　篤彦…〃　〃　〃
家具の Order Made について……上田　幹一…〃　〃　〃
テキスタイルについて……笠井　　篤…〃　〃　〃
絵画と室内デザイン—新大ビルの大理石
モザイクタイル—……矢橋　六郎…〃　〃　〃
室内デザインと彫刻……植木　　茂…〃　〃　〃
インテリア・デザインということについて…渡辺　　力…42　5　昭36
建築における内部について……増田　友也…〃　〃　〃
エール・フランス—東京（ペリアンのインテリア・
デザインについて）……小室　勝美…〃　〃　〃
鉄道車両におけるインテリア・デザイン—「つばめ」
の食堂車に一例をもとめて—……米満　知足…〃　〃　〃
造船計画におけるインテリア・デザイナーの立場
……種村　真吾…〃　〃　〃
殻とその中の生活……すぎやま・たかつぐ…〃　〃　〃
建築設計と室内設計とのあり方
—竹中工務店の場合—……村尾　　栄…〃　〃　〃

No.5　計　画

集　号　年

a 建 築 計 画

科学とその対立概念……浦辺鎮太郎…41　3　昭35
対談「デザインの曲り角」……吉阪　隆正・足立　孝…〃　〃　〃
計画研究者へのアンケート
　計算資料と定数資料……小島　武男…〃　〃　〃
　研究と実用……前田　敏男…〃　〃　〃
　設計の組織編成……石原　正雄…〃　〃　〃
　研究の細分化……岡田　光生…〃　〃　〃
　求心的と遠心的……向井　正也…〃　〃　〃
　色彩計画と現場調整……山崎　勝弘…〃　〃　〃
　微妙な調整……上田　光雄…〃　〃　〃
　環境計画技術者の職種の確立……前川　純一…〃　〃　〃
　研究の結論を年報に……黒川　正巳…〃　〃　〃
設計者へのアンケート
　障害は設計者が作る……彦谷　邦一…〃　〃　〃
　結露と厨介……田村　敏夫…〃　〃　〃
　建築計画のあり方……佐野　正一…〃　〃　〃
　基本計画に対する施主（建築家）の受けとり方において
　……近藤　正志…〃　〃　〃
　建築家の手に負えない建築計画上の困難…志保井正夫…〃　〃　〃
　道路幅員と建築物の高さ……陶浪　貞彦…〃　〃　〃
　熱遮断に関して……香取　礼三…〃　〃　〃
　計画原論の適用について（音響）……光安　義光…〃　〃　〃
　雑　感……井上　滉…〃　〃　〃
　具合よくなったこと・困ること……小林　武夫…〃　〃　〃
　プラスチック原床材……松本　彦次…〃　〃　〃
　七癖―建築，建築物，建築家……鍛冶　延男…〃　〃　〃

b 計 画・設 計

大阪府立体育会館について……竹内　成夫…34　5　昭28
京大学生結核サナトリウム設計の素描……京大ＮＡＵＫ…〃　〃　〃
構造問題1952～1953年……鷲尾　健三…〃　1　〃
構造1952～1953年……伴　潔…〃　〃　〃
構造技術者は何を為すべきか……室井　修…〃　5　〃
近代建築構造の発展……横尾　義貫…〃　8　〃
近鉄会館が生れ出るまで……竹内　孝…36　4　昭30
明治製菓株式会社大阪工場について……細川　正…〃　10　〃
松下電子工業K.K.高槻工場設計のみそ……坂永　金重…〃　〃　〃
姫路発電所……関西電力K.K.建設部…〃　〃　〃
富士鉄広畑薄板工場
　……高橋　慶夫・坂永　金重・佐々木　保…〃　〃　〃
川鉄千葉製鉄所製鋼工場・分塊工場について
　……高橋　慶夫…〃　〃　〃
大阪ガスK.K.岩崎工場増熱水性瓦斯プラント設計について
　……大阪瓦斯K.K.施設部…〃　〃　〃
大阪港サイロ施設について……佐々木　保…〃　〃　〃
大阪港安治川サイロの施工について……中川　貞雄…〃　〃　〃
無窓か有窓か……日建設計工務K.K.名古屋事務所…〃　〃　〃
ガラス帳壁の解設……浦辺鎮太郎…〃　8　〃
窓……中野　吉弥…〃　〃　〃
新朝日ビルディングの設計について……小川　正…39　6　33
毎日大阪会館南館一般計画……橋本　喬行・塚本　猛次…〃　〃　〃
新朝日ビルディングの音響計画とその結果
　……小川　正・北村　隆夫…〃　〃　〃
毎日ホール建築音響設計……山形　勝久…〃　〃　〃
国立京都国際会館のデザインについて
　―設計者大谷幸夫氏に聞く―……47　6　昭41

c 設 計 計 画 案

上野市慰霊塔懸賞競技設計当選案……小倉伝治案…35　10　昭29
近畿大学工高卒業設計コンクール入選案　1955年……36　6　昭30
筑後市庁舎指名競技設計当選案……〃　8　〃
都心における高層アパート群団地計画試案……〃　7　〃

d 下 水 問 題

地方都市の下水問題……西村　豊…39　12　昭33
衛生工学の立場から下水・汚水処理の現況について
　……西原　脩三…39　12　昭33
神戸市の下水道計画と汚物処理……海淵養之助…〃　〃　〃
尼崎市の下水道計画について…松村　栄・北村　哲也…〃　〃　〃
岐阜市の下水道……高橋　三郎…〃　〃　〃

e 建 築 と 規 格

部材と規格――ＪＩＳと建築――……長沢　武…42　8　昭36
モデュールと規格……鈴木　雅夫…〃　〃　〃
規格とプレファブ……吉田　圭三…〃　〃　〃
公団住宅の部品規格化について……田中　弥一…〃　〃　〃
標準ディテールの歩み……ＫＫ竹中工務店設計部…〃　〃　〃
標準図面……（竹中工務店）…〃　〃　〃
標準ディテールへのアプローチ……大林組　岩崎甚太郎…〃　〃　〃
施工標準図集――防水関係――……（大林組）…〃　〃　〃
標準詳細とその周辺……電々公社近畿電通局…〃　〃　〃
標準詳細図……（電々公社）…〃　〃　〃
標準ディテールへのアプローチ…近畿地建　片山　光生…〃　〃　〃
公団住宅標準詳細図集……住宅公団…小西　嘉夫…〃　〃　〃
標準詳細図……（住宅公団）…〃　〃　〃
建築と規格アンケート：三輪泰司ほか10名……〃　〃　〃
新農林規格……〃　〃　〃
規格サッシ……斎藤　祐義・井上　千寿…〃　〃　〃
義務教育用家具……杉垣仙治郎…〃　〃　〃

f モ デ ュ ー ル

建材標準――モデュール――デザイン……鳥田　家弘…39　11　昭23
住宅建設とモデュール……長沢　誠…〃　〃　〃

g 原 子 力 問 題

原子力実験室における建築の問題　A.D.Mackintosh
　……室井　修（訳）…38　5　昭32
原子力発電と建設技術……室井　修……〃　6　〃
原子炉建造用高密度コンクリート　HAROLD S.DAVIS
　……室井　修（訳）…〃　11　〃

h 原 子 力 利 用 施 設

原子力利用施設とは……藤井　正一…41　2　昭35
原子力利用施設設計施工における基本的態度
　……岡島　暢夫…〃　〃　〃
関西研究用原子炉の立地問題をめぐって……横尾　義貫…〃　〃　〃
放射線遮蔽コンクリートとその施工について
　……菅田　豊重…〃　〃　〃
アイソトープ実験室の建築材料……藤井　正一…〃　〃　〃
住友宝塚放射線研究所……日建設計工務株式会社…〃　〃　〃
放射線研究所の計画について……京大増田研究室…〃　〃　〃
　A．日本放射線高分子研究協会大阪研究所
　B．大阪府立放射線中央研究所

i 自 動 車 と 建 築

危機に立つ路面交通……山下　豊久…42　6　昭36
大都市圏の自動車交通対策の調査……水野福太郎…〃　〃　〃
激増する自動車交通と交通問題解決へのアプローチ
　……毛利　正光…〃　〃　〃
アンケート：自動車問題に対する都市への新しい提案
　……〃　〃　〃
　自動車問題に対する都市への提案……谷口豊三郎…〃　〃　〃
　都心部の交通をどうする……栗本　順三…〃　〃　〃
　増加する自動車に対する都心部のあり方…小野　逞三…〃　〃　〃
　アンケートに答えて……松本　完三…〃　〃　〃
　都市道路立体化論……沢田　徳蔵…〃　〃　〃
　貸ビルと車両あるいはパーキング……出口清三郎…〃　〃　〃
　都市再開発における駐車場問題……中島又十郎…〃　〃　〃
駐車場法・関係法令質疑応答……〃　〃　〃
大阪市駐車場条例……〃　〃　〃
大規模建築場の神戸市駐車場条例について…景山　正明…〃　〃　〃
名古屋豊田ビル駐車について……奥井　三郎…〃　〃　〃
新阪急ビルディングの駐車場計画について…松本　洋…〃　〃　〃
大阪興銀ビルのパーキングについて……添田　賢朗…〃　〃　〃
出光興産のガソリンスタンドについて……斉藤　格司…〃　〃　〃
クラブパークシステム……〃　〃　〃
立体駐車場の必要……〃　〃　〃
新三菱ＮＳＢ駐車設備について……〃　〃　〃

集　号　年

j　造　園　と　建　築

公園緑地はこれでよいか
　—新しい都市の庭を求めて—……三村　浩史…44　3　昭38
人間環境と自然環境……四手井綱英…〃　〃　〃
現代庭園の表現……重森　完途…〃　〃　〃
造園と建築をめぐっての座談会：……〃　〃　〃
　近藤　公夫・森　俊一・荒木　芳邦
　生野　吉弘・浦辺鎮太郎・光安　義光
　彦谷　邦一・大久保昌一
タカラビール京都工場庭園……荒木　芳邦…〃　〃　〃
ダイハツ工業池田第二工場の造園……森　俊一…〃　〃　〃
「すまい」と「みどり」
　—個人住宅と共同住宅の庭—……高橋理喜男…〃　〃　〃
「庭園と建築の間」
　—新らしい Townscapeへの試論—……西沢　文隆…〃　〃　〃
イスラマバードの造園……近藤　公夫…〃　〃　〃
イスラエル—砂漠から緑の文化へ—……山内　六郎…〃　〃　〃
都市公園変遷と大阪市の公園事業について…佐藤　泰…〃　〃　〃
フラワーソサェティー……加藤亮太郎…〃　〃　〃
花いっぱい運動……岡山県知事室…〃　〃　〃
貸植木屋ききかじり……白砂　剛二…〃　〃　〃
文化財保全と造園……森　蘊・中川　喜幸…47　9　昭41
自然の保全と造園
　—古都保存法による庭づくり—……狩野　勝也…〃　〃　〃
住宅団地の屋外空間と造園について
　……薮内　幸雄・池田　博・沖中　健…〃　〃　〃
駒沢オリンピック公園の造園……三橋　一也…〃　〃　〃
緑地のための造園樹木（付・造園樹木特性便覧）
　……近藤　公夫…〃　〃　〃
造園用樹木生産地リスト……荒木　芳邦…〃　〃　〃
地被植物について……前窪　伸雄…〃　〃　〃
大阪ロイヤルホテルの造園設計……荒木　芳邦…〃　〃　〃
特別史蹟百済寺跡公園について……近藤　公夫…〃　〃　〃

k　建　物　と　騒　音

音と設計
　—環境工学の立場からの問題提起—……前川　純一…46　10　昭40
外部騒音とは—その対策と考え方—……桜井　美政…〃　〃　〃
窓・壁面と遮音—その実例と考え方……米田　正義…〃　〃　〃
屋根にかかる衝撃音について……樋田　直人…〃　〃　〃
内部騒音とは—その対策と考え方—……山本　到…〃　〃　〃
軽量構造と遮音……船越　義房…〃　〃　〃
空調設備における騒音対策
　—その実例と考え方—……中原　信生…〃　〃　〃

l　社　会　教　育　施　設

わが国の社会教育施設の現状……中島　俊教…44　5　昭38
社会教育施設設計の諸問題……河野　通祐…〃　〃　〃
公民館計画の諸問題……西川　馨…〃　〃　〃
公共図書館の計画をめぐって……栗原嘉一郎…〃　〃　〃
大都市の場合—大阪市社会教育施設—
　—その現状と問題点—…… O.U.R.研究会…〃　〃　〃
ニュータウンの場合
　—高蔵寺ニュータウンと社会教育施設—…土肥　博至…〃　〃　〃
社会教育施設随想ルポまえがき……松井　昭光…〃　〃　〃
公民館の諸問題……荒木兵一郎…〃　〃　〃
グロテスク—会館にみる変形意欲—……鳥田　家弘…〃　〃　〃
ALLとNOTHING の谷間を埋めること……吉野　正治…〃　〃　〃
児童会館……相川　浩…〃　〃　〃
青少年の家……片倉　健雄…〃　〃　〃
美術館・博物館……伊藤　克三…〃　〃　〃
消えゆく幼稚園？……日下　あこ…〃　〃　〃
大阪市体育館……白砂　剛二…〃　〃　〃
音楽ホール随想……北村　隆夫…〃　〃　〃
ショールーム見聞……竹内　さく…〃　〃　〃
尼崎の結婚式場……田代　正尚…〃　〃　〃
音楽喫茶……岸本　幸臣…〃　〃　〃
二十五分の一（愛隣会館）……水島　恒子…〃　〃　〃
公共職業訓練所……松井　昭光…〃　〃　〃

m　交　通　施　設

交通施設計画はどうあるべきか
　—近畿圏も含めて—……毛利　正光…45　10　昭39
大阪市の高速鉄道について……水野福太郎…45　10　昭39
神戸高速鉄道について……山形　謙二…〃　…　〃
名神高速道路の施設について……橋本　卓明…〃　〃　〃
阪神高速道路について……福田　守邦…〃　〃　〃
大阪中央環状線計画の概要……荒井　好数…〃　〃　〃
築港深江線……北田純三郎…〃　〃　〃
東海道新幹線……沢　健一…〃　〃　〃
郊外市街地形成と私鉄の発達……寺内　信…〃　〃　〃
民衆駅とは……鈴木　旭…〃　〃　〃
空港施設について……山本　智雄…〃　〃　〃

n　リクリェーション

生活におけるリクリェーション……今　和次郎…42　9　昭36
リクリェーション開発のマスタープラン……三村　浩史…〃　〃　〃
国民休暇村の構想……糸賀　黎…〃　〃　〃
国民宿舎の設計について……永嶋　正信…〃　〃　〃
日本のユースホステル……林　幸二郎…〃　〃　〃
びわ湖観光開発計画……京大西山研究室…〃　〃　〃
　Ⅰ．リクリェーション生活の発展と観光計画……〃　〃　〃
　Ⅱ．都市発展の中における観光開発計画……〃　〃　〃
K-地区レゾート開発 ……大久保昌一…〃　〃　〃
立山観光開発計画……宇野　佐…〃　〃　〃
大阪城公園の計画について……田治　六郎…〃　〃　〃
トータル・リクリェーション・ゾーン……〃　〃　〃
　小島　将志・太田　隆信・沖田　裕生
遊園地ドリームランド……村野・森建築事務所他…〃　〃　〃
都市生活とレクリェーション
　—その現状と将来—……林　実…44　4　昭38
大阪1999……MON同人…〃　〃　〃
ソーシアルツーリズムとユースホステル……林　幸二郎…〃　〃　〃
「国民大衆旅行」推進の一翼をになう
　国民休暇村……前野淳一郎…〃　〃　〃
修学旅行施設（旅館）への夢……秋田　貞男…〃　〃　〃
スポーツの社会学……飯野　節夫…〃　〃　〃
スポーツ施設の種類と発展方向……西田　泰介…〃　〃　〃
大阪のキタとミナミ……チェックの会…〃　〃　〃
観光地ルポ・白浜……小島　将志・鈴木　茂…〃　〃　〃
久美浜観光開発計画……大久保昌一・湯川　利和…〃　〃　〃
山の観光地開発—ドライブウエー批判—……天城　三郎…〃　〃　〃
フィンランドの休日と余暇……ダピオ・ペリアイネン…〃　〃　〃
ふたつの国民レクリェーション実態調査
　「全国旅行実態調査報告」
　「スポーツに関する世論調査報告」……三村　浩史…〃　〃　〃

o　人　間　工　学

人間工学とは……真辺　春蔵…46　5　昭40
よい照明と環境……清水寿栄次…〃　〃　〃
色彩と人間工学：Organic Colorについて…近藤　恒夫…〃　〃　〃
音響環境……北村　音壱…〃　〃　〃
空調（人間工学に望みたいこと）……田中良太郎…〃　〃　〃
ガス・粉じんと労働環境……大志　野章…〃　〃　〃
オフィスのレイアウト
　—人間のワークスペース—……安田　賀計…〃　〃　〃
家具と人間工学……渡辺　敏雄…〃　〃　〃
建築現場の安全管理……長谷川泰民…〃　〃　〃

第　3　部　門

No.6　材　　料

a　建　築　材　料

建築材料としての新しい合成樹脂……井本　稔…34　7　昭28
杉皮葺について……上田　善一…〃　3　〃
最近の塗装材料について……伊藤　幸…35　2　昭29
高分子というもの……井本　稔…〃　8　〃

		集	号	年
プラスチックスと建築	田中良太郎	35	8	昭29
建築用合成高分子材料一覧表	編集委員会	〃	〃	〃
現代建築とガラス	大野　正巳	〃	〃	〃
「アンチサル」防熱ガラスについて	木村　喬夫	〃	〃	〃
優良証明発行建材について		36	9	昭30
仕上別による建築材料名の索引	伊藤　幸一・森　正信	〃	〃	〃
優良証明発行製品		〃	〃	〃
対談：建築材料はどう発展するか	竹腰　健造・中村　文夫	37	11	昭31
サンドウイッチパネルの強さと断熱性	飯塚五郎蔵	〃	〃	〃
異形鉄筋・とくに高張力の異形鉄筋について	小倉弘一郎	〃	〃	〃
新しい塗料	川合　繁昌	〃	〃	〃
新しいガラスとその特性	村上　義雄	〃	〃	〃
仕上別による建材名の索引	伊藤　幸一・森　正信	〃	〃	〃
関西建材協会会員の建材（誌上出品）		〃	〃	〃
軽量鉄骨について	鷲尾　健三	38	11	昭32
仕上別による建築材料名の索引	伊藤　幸一・森　正信	〃	〃	〃
大阪市鶴町団地軽量鉄骨造テラスハウスについて	竹田　隆次	〃	〃	〃
建築材料としてのプラスチックス	大島　敬治・楠山　寿己	〃	〃	〃
二種高炉セメントを使用したコンクリートについて	高野　卓也	〃	〃	〃
関西建材協会々員の建築材料		〃	〃	〃
標準サッシについて	斉藤　裕義	39	11	昭33
アルミニウム・サッシ・ドアー	井上　千寿	〃	〃	〃
規格サッシＳＫ－２型について	福山忠治郎	〃	〃	〃
窓：アルミニウム・サッシの一試作について	小川　正	〃	〃	〃
ハードボードの需給	市瀬　輝雄	〃	〃	〃
ハードボード一覧表		〃	〃	〃
独乙の防水剤について	土橋　隆	〃	〃	〃
金属の表面処理について	渡部　圭吾	〃	〃	〃
新しい建築材料ならびに関西建材協会員材料（Ｐ．Ｒ．）		〃	〃	〃
新材料の反省	塚本　猛次	42	11	昭36
新材料について	山根正次郎	〃	〃	〃
内装材の吸音と遮音と防音と	前川　純一	〃	〃	〃
音響に興味を持つ建築技術者の立場で	山形　勝久	〃	〃	〃
樹脂防水	北山二十三	〃	〃	〃
アスファルト防水について	松本　大平	〃	〃	〃
材料の湿気特性と防湿計画 一材料の吸湿性と透湿性を中心に—	斉藤　平蔵	〃	〃	〃
接着剤の建築への応用とその問題点	武井　伴治	〃	〃	〃
左官材料と上塗材料	中村　伸	〃	〃	〃
建築材料の耐候性試験法をめぐる問題	田村　恭	〃	〃	〃
新材料一覧表	脇田　勝之	〃	〃	〃
材料アンケート		〃	〃	〃
シリカリチート	川上　玄	〃	〃	〃
電導性ガラス（ＥＣガラス）の応用	旭硝子KK	〃	〃	〃
パターン・スティニング	谷口　尚武	〃	〃	〃
モザイクパーケット	千田　安男	〃	〃	〃
タキロンスーパー防水シート	タキロン化学KK	〃	〃	〃
ＡＬＣ研究会の概況と同会寸法形状部会の提案について	横山　不学	44	6	昭38
シポレックスについて	大野　勇	〃	〃	〃
イトンについて	沢村　松男	〃	〃	〃
シリカリチート	旭化成工業KK	〃	〃	〃
特許「ベロコン」について	鈴木　信一	〃	〃	〃
麻生フォーム・クリートについて	石黒　文次・橋爪　豊	〃	〃	〃
日本建築協会と建材委員会	建材委員会	〃	〃	〃
衛生陶器と附属金具について	政岡　基次	〃	〃	〃
衛生陶器回顧談：(小川　誠耳・内田　成之・伴　秀雄・政岡　基次)		〃	〃	〃
建具金物について	榊　弘美	〃	〃	〃
錠前対談会（中原　英一・榊　弘美）		〃	〃	〃
実務に直結した新企画の説明要旨		45	1,2,6,8,10	昭39
建材のしおり		〃	8,9,10	〃
建築金物の変遷と分類	福井亀之助	47	4	昭41
建築金物の現状と将来	山本　貞吉	47	4	昭41
建築金物のデザインについて 一日本と外国からみる—	上野誠次郎	〃	〃	〃
建具金物チェックリスト	長谷川哲之助	〃	〃	〃
建築金物リストの作り方	KK竹中工務店設計部	〃	〃	〃
錠と生活—公団住宅から—	星野　二郎	〃	〃	〃
住まいと錠前と防犯	三木　章弘	〃	〃	〃
拝啓　建築家先生様	牛谷　四郎	〃	〃	〃
大阪における建築金物業界の組織		〃	〃	〃

b　工事別建築材料集成

A　地業・基礎工事用建築材料		40	11	昭34
B　鉄筋コンクリート工事用建築材料		〃	〃	〃
C　鉄筋工事用建築材料		〃	〃	〃
D　コンクリートブロック・煉瓦工事用建築材料		〃	〃	〃
E　防水工事用建築材料		〃	〃	〃
F　石工事用建築材料		〃	〃	〃
G　タイル・テラコッタ工事用建築材料		〃	〃	〃
H　木工事用建築材料		〃	〃	〃
I　屋根・壁張工事用建築材料		〃	〃	〃
J　金属工事用建築材料		〃	〃	〃
K　左官工事用建築材料		〃	〃	〃
L　建具工事用建築材料		〃	〃	〃
M　ガラス工事用建築材料		〃	〃	〃
N　塗装工事用建築材料		〃	〃	〃
O　内装工事用建築材料		〃	〃	〃
P　プラスチックス関係建築材料		〃	〃	〃
Q　外部工事用建築材料		〃	〃	〃
R　雑		〃	〃	〃
S　家具装飾関係建築材料		〃	〃	〃
工事別建築材料集成総索引		〃	〃	〃
新しい建築材料ならびに日本建材協会会員材料（Ｐ．Ｒ．）		〃	〃	〃
A　地業・基礎工事用建築材料		45	11	昭39
B　鉄筋コンクリート工事用建築材料		〃	〃	〃
C　鉄骨工事用建築材料		〃	〃	〃
D　コンクリートブロック煉瓦工事用建築材料		〃	〃	〃
E　防水工事用建築材料		〃	〃	〃
F　石工事用建築材料		〃	〃	〃
G　タイル・テラコッタ工事用建築材料		〃	〃	〃
H　木工事用建築材料		〃	12	〃
I　屋根葺・壁貼工事用建築材料		〃	〃	〃
J　金属工事用建築材料		〃	〃	〃
K　左官工事用建築材料		〃	〃	〃
L　建具工事用建築材料		〃	〃	〃
M　硝子工事用建築材料		〃	〃	〃
N　塗装工事用建築材料		46	3	昭40
O　内装工事用建築材料		〃	〃	〃
P　プラスチックス関係建築材料		〃	〃	〃
Q　外部工事用建築材料		〃	〃	〃
R　プレハブ住宅関係建築材料		〃	〃	〃
S　家具装飾関係建築材料		〃	〃	〃
T　雑		〃	〃	〃
追加・訂正		〃	〃	〃
総索引		〃	〃	〃

c　金　属　外　装

金属外装について	山根正次郎	44	8	昭38
金属外装と建築の過程	小川　正	〃	〃	〃
米国建築の金属外装とアルミニウムルーバー	浜田　保	〃	〃	〃
アルミニウム	小松　茂雄	〃	〃	〃
ステンレス	菊池純一郎	〃	〃	〃
銅・銅合金	恩田　雄弘	〃	〃	〃
ビニール金属板	出水　賢蔵	〃	〃	〃
ホーロー鉄板	丸田　裕美	〃	〃	〃
金属外装における絶縁の問題	小松　茂雄	〃	〃	〃
電気メッキについて	石田　武男	〃	〃	〃
金属外装と下地（アルミニウム鋳物の利用）	溝田賢太郎	〃	〃	〃
アルミニウムの着色法（着色塗装板）	荒巻　毅	〃	〃	〃
法規と金属外装	山本　康雄	〃	〃	〃
米国高層建築権威者の来日	豊田　孝雄	〃	〃	〃

No.7　構　　造

集　号　年

a　構　　造

基礎の新しい試み(脚壁つき浮函基礎の話)…高橋　慶夫…34　7　昭28
外壁帳壁の耐火構造について……法規委員会…35　11　昭29
古典建築の秩序と構造……元良　勲…37　4　昭31
構部の秩序のために……横尾　義貫…〃　〃　〃
ライトゲージ構造について……棚橋　諒…〃　〃　〃
構造技術か現場技術か
　—キレツの建物を主題にして—……木村　俊男…38　2　昭32
デザイナーへ—構造の場よりの発言—……構造研究会…〃　〃　〃
〝耐震ということ〟雑感……小堀　鐸二…〃　〃　〃
ニューゴシックの夢……小川　泰弘…〃　〃　〃
構造計画について……鷲尾　健三…〃　5　〃
建物はどこまで高くできるか……構造研究会…〃　〃　〃
大阪市高層アパートの構造計画について
　……高橋　慶夫・長田　正雄・上田　宏二…〃　〃　〃
南淡町庁舎のP.C.構造について……〃　5　〃
　坂　静雄・増田　友也・六車　熙
　寺沢　輝夫
H.P.シェルの設計……坪井　善勝…〃　〃　〃
神仙閣の構造について……板原　弘…〃　〃　〃
竜田紡績姫路工場の構造について……三宅　晋…〃　〃　〃
毎日大阪会館の沈下実測結果について
　……宮本　猛次・宮川　達郎…〃　〃　〃
アメリカのP.C.構造の現状…坂　静雄・六車　熙…39　2　昭33
鉄骨鉄筋コンクリート構造の計算法と研究の現状について
　……若林　実…〃　〃　〃
建築・土木の鉄筋コンクリート構造計算規準の相違点
　……奥島　正一…〃　〃　〃
建物の健康診断……布施　忠司…〃　〃　〃
塩野義製薬株式会社西宮寮の構造計画……平田　定男…〃　〃　〃
坂倉準三建築研究所大阪出張所の構造設計…　〃　…〃　〃　〃
新朝日ビルディングの構造について
　……島田　義典・村田千之助…〃　6　〃
毎日大阪会館南館の構造について……宮川　達郎…〃　〃　〃
プレストレストコンクリート建築への応用例
　……河合　三郎・永田　憲男…40　2　昭34
Dywidag 工法について……小川　武・中島　儀八…〃　〃　〃
国鉄大井工場塗装工職場の設計と施工……猪股　俊司…〃　〃　〃
松下電子工業株式会社のP.C.構造……日建設計工務KK…〃　〃　〃
P.C.スラブを採用した建物（兵庫県独身寮）について
　…兵庫県建築課・神大災害科学研究所…〃　〃　〃
住友ベークライト京都工場P.C.構造……横尾　五郎…〃　〃　〃
ハイストレングス・ボルト接合について……鶴田　明…〃　〃　〃
東映劇場(大阪梅新)の摩擦ボルトについて…陶浪　貞彦…〃　〃　〃
H型鋼について……海野　三蔵…〃　6　〃
国立京都国際会館の構造設計について……木村　俊彦…47　6　昭41
H型鋼を使用した構法……伴　潔・山田　稔…43　4　昭37
新らしい鋼管構造……鷲尾　健三…〃　〃　〃
最近のPC建築構造……鈴木　計夫…〃　〃　〃
座談会：「鉄骨鉄筋コンクリート構造計算規準」
　をめぐる諸問題……〃　〃　〃
　伴　潔・若林　実・山田　稔
　宮川　達郎・佐々木　保・長田　正雄
　村田千之助・北村　俊男・久保田哲雄
　木田　幸夫・倉石　秀夫・小阪　義夫
構造ずいひつ—外遊漫筆—
1.　私の見たソ連……寺沢　一夫…〃　〃　〃
2.　外遊して各国の建築構造を見るの記…金多　潔…〃　〃　〃
3.　欧米見聞記……奥島　正一…〃　〃　〃
4.　構造屋の神経……馬場　善雄…〃　〃　〃

b　軽　量　構　造

軽量構造の考え方とその方向……鷲尾　健三…39　5　昭33
L.G.S.構造について……伴　潔…〃　〃　〃
軽量コンクリート……谷口　尚武…〃　〃　〃
軽量間仕切について……山本　俊介…〃　〃　〃
軽量建具……中山　孝廉…39　5　昭33
軽量化・不燃化とその意匠—車輌の新しい型—
　……中井　良彦…〃　〃　〃
ジオデシック・ドームについて
　—その設計者フラー氏に聞く—……〃　〃　〃
軽量構造と材料（P.R.）……〃　〃　〃

c　土・構　造

土の工学の歩み……竹中準之助…42　4　昭36
大阪の地盤沈下と対策について……高津　俊久…〃　〃　〃
附　大阪の地盤図……（大阪市大岩津研究室）…〃　〃　〃
建築地盤土質調査規準（案）…日本建築協会災害委員会…〃　〃　〃
用語解説……〃　〃　〃
1.　O.P.とT.P.……藤野　良幸…〃　〃　〃
2.　物理地下探査……馬場　善雄…〃　〃　〃
3.　地耐力……山肩　邦男…〃　〃　〃
4.　くいの耐力……長田　正雄…〃　〃　〃
5.　建物の沈下……平田　定男…〃　〃　〃
6.　砂・シルト・粘土……小泉　昇…〃　〃　〃
7.　圧密沈下……陶浪　貞彦…〃　〃　〃
8.　ヒービング・ボイリング・パイピング
　……谷口　尚武…〃　〃　〃
9.　「グラウティング」について……宮川　達郎…〃　〃　〃
10.　建築水位……貝戸　俊一…〃　〃　〃
ビルの転倒問題と地盤へのメリコミ……鷲尾　健三…〃　6　〃

d　鋼　管　構　造

鋼管構造のあゆみ……鷲尾　健三…45　5　昭39
鋼管構造の断手……黒羽　啓明…〃　〃　〃
鋼管構造の施工……吉田　俊夫…〃　〃　〃
鋳鋼管構造……長田　正雄…〃　〃　〃
鋼管コンクリート構造……山田　稔…〃　〃　〃
鋼管柱を用いる地下工法……谷口　尚武…〃　〃　〃
鋼管構造実例
1.　神戸ポートタワー……〃　〃　〃
2.　住金和歌山製鉄所SG煙突……〃　〃　〃
3.　慶応義塾高等学校日吉会堂……〃　〃　〃
4.　日本航空ジェットハンガー……〃　〃　〃
5.　品川ボーリングセンター……〃　〃　〃
6.　箱根園食堂……〃　〃　〃
7.　丸一鋼管株式会社堺工場……〃　〃　〃
8.　尼崎市藻川水道橋……〃　〃　〃
9.　東海道新幹線新大阪駅……〃　〃　〃
10.　世界長ビル……〃　〃　〃

No.8　施　工・技　術

a　施　　工

ドライブイットについて……日野　勝好…34　3　昭28
コンクリート床の仕上工法について
　……政岡　基次・日野　勝好・岡本　弘…〃　5　〃
施工法の変遷に将来の見通し……日野　勝好…〃　8　〃
コンクリート建築の寿命について……設楽　貞三…〃　9　〃
打放しコンクリート床仕上げ工事報告
　—尼崎駐留米軍倉庫工事—……多屋　幹夫…35　2　昭29
アスファルト防水工事の歩み……横田喜一郎…〃　〃　〃
プレストレストコンクリートの設計……坂　静雄…36　2　昭30
ピアノ線について……狄田　英二…〃　〃　〃
コンクリート簡易試験法……奥島　正一…〃　〃　〃
鉄製型枠について……政岡　基次…〃　〃　〃
スライディングフォームについて……菅田　豊重…〃　〃　〃
水と土……河田　明雄…〃　〃　〃
米国における建築産業の概況……藤阪捨治郎…37　10　昭31
米国建設業の経営管理について……井上鴻太朗…〃　〃　〃
アメリカの施工の現況について……中出　定夫…〃　〃　〃
鼎談：施主・設計者・施工者をめぐる諸問題
　……(東畑　謙三・浦辺鎮太郎・西川　卯三)…〃　〃　〃
工事契約の変遷について……大林組庶務課…〃　〃　〃

	集	号	年
ショットコンクリート工法…38	9		昭32
1. ショットコンクリート工法について…永本 善三…	〃	〃	〃
2. 国鉄での実例…天王寺鉄道管理局建築課…	〃	〃	〃
3. 大成建設での施工例…山下 暢雄…	〃	〃	〃
プレパクトコンクリート…高橋 慶夫・長田 正雄…	〃	〃	〃
重晶石を骨材とするグラウチング工法…	〃	〃	〃
LEWIS NARROW …室井 修（訳）…	〃	〃	〃
掘方の障害…永山 豊二…	〃	〃	〃
現場のウマの高さ…七尾 健三…	〃	〃	〃
防水失敗談…今林彦太郎…	〃	〃	〃
P.C.建築対談…河合 三郎…	〃	〃	〃
一施主の立場より…元木 貞次…	〃	〃	〃
工事の出来栄え…小西 岬…	〃	〃	〃
施工精度基準化…岩下 久哉…	〃	〃	〃
建築工事施工の成功失敗とその根元…渡部 圭吾…	〃	〃	〃
新朝日ビルディングの施工を担当して…中出 定夫…39	6		昭33
毎日大阪会館を施工して…藤本 辰二…	〃	〃	〃
新阪急ビルの竹中式深礎工法…木曽 優吉…41	8		昭35
日本生命日比谷ビルのニューマティックケーソン工法について…清浦 直明・福田 邦雄…	〃	〃	〃
迫持式山留工法…志岐 武司…	〃	〃	〃
欧米の基礎工法を視察して…庄野 勝…	〃	〃	〃
新しい施工機械…原田 勲…	〃	〃	〃
住宅のプレファブ工法…品川多美二…	〃	〃	〃
連続貫入試機（記録式）…岩津 潤…	〃	〃	〃
高張力鋼の熔接…長田 正雄…	〃	〃	〃
モノレールトランスポーター…鬼頭 寿郎…	〃	〃	〃
非破壊試験…小阪 義夫…	〃	〃	〃
高層建築の施工—仮設工事を中心として—…橋本 良介…45	6		昭39
高層建築の軀体工事はどうあるべきか…中川 中夫…	〃	〃	〃
高層建築の外装仕上工事はどうあるべきか…小川 正…	〃	〃	〃
高層建築への道・実施例：カーテンオール工事…菊池純一郎…	〃	〃	〃
イケマンビル外装カーテン・ウォール（完全無足場式）…ダイケンサッシKK研究室…	〃	〃	〃
西独における高層ビル実施例—ティッセンハウスの建設—…土屋 明彦・伊藤 秀夫…	〃	〃	〃
座談会：設計者と施工者との間に横たわる諸問題…山本 純孝・鈴木 洋也・安盛 寿一 笠原 正幸・高橋 裕・藤沢 達夫 鬼頭 寿郎	〃	〃	〃
京都タワービルの鉄塔…岩崎仁右衛門…	〃	〃	〃
立体トラスによる見本市展示館…石田 正…	〃	〃	〃
市内高速道路の実態…福田 守邦…	〃	〃	〃
高速道路の建設を急ぐ…津村 潔…	〃	〃	〃
断熱材の軀体全先貼り工法…岡井 福三…	〃	〃	〃
工事施工上の諸手続について…伊藤 幸一…46	8		昭40
道路と建築工事について…武内 勝…	〃	〃	〃
一般国道（指定区間）道路管理の許認可事務関係の申請から許認可までについて…木村 惣市…	〃	〃	〃
道路上における建築作業用の工作物設置基準と許可手続などについて…藤原 一男…	〃	〃	〃
消防機関への諸手続…恩田 一則…	〃	〃	〃
上下水，電気，電話，ガスの諸手続…桜井 満男…	〃	〃	〃
プレキャスト・ストーン・ブロックによるカーテンウォール…橋本 喬行・千葉 春梅…	〃	〃	〃
ショックベトン…西村 清一…	〃	〃	〃
合板型枠工法（その一例）について…高尾総之助…	〃	〃	〃
土壌凍結工法について…岡崎 楠雄…	〃	〃	〃
新らしい材料を使う〝防水〟について…樋口 倶一…	〃	〃	〃
特許制度の概要…石川 義雄…	〃	〃	〃
「特許工法一覧表」について…	〃	〃	〃
特許工法一覧表…	〃	〃	〃
国立京都国際会館の施工について…高木 義夫…47	6		昭41

b 地盤と基礎・基礎工法

地盤と基礎…伊東 五郎…35	5		昭29
大阪の地盤…森田 紀元…	〃	〃	〃
最近の土質調査法…村山 朔郎…	〃	〃	〃
WELL POINT 工法 …瀬古 新助…	〃	〃	〃
続脚壁つき浮函基礎…高橋 慶夫…	〃	〃	〃
建物の不同沈下問題…横尾 義貫…35	5		昭29
大阪合同庁舎の基礎工法並びに基礎地盤…角田 栄…	〃	〃	〃
広島ビルディング基礎決定について…宮川 達郎…	〃	〃	〃
大阪古図雑記…中沢誠一郎…	〃	〃	〃
地下工法に関する座談会…森田紀元他…38	9		昭32
土質安定工法…村山 朔郎…	〃	〃	〃
被圧材と施工…谷口 尚武…	〃	〃	〃
新大ビル新築工事におけるウエルポイント工法…谷 一郎…	〃	〃	〃
新朝日ビルの基礎に応用されたサンドレーン工法…小泉 昇…	〃	〃	〃
阪急ビル増築工事の基礎工法について…木曽 優吉…	〃	〃	〃
建物の基礎地盤について（DADIO ALLISON）…日建（抄訳）…39	12		昭33
最近の地下工法の変遷…北山二十三…47	10		昭41
今後の地下工法の問題点…福田 乙二・上野長八郎…	〃	〃	〃
座談会：最近の地下工法について—新進施工技術者が語る—（井田 宏二・伊藤 俊夫・岡部金太朗 木村 稔・丹羽 稔・長谷川年弘 若野 麗次・上田 宏二・安井 猛）	〃	〃	〃
T.W.A工法について—石原ビル施工例—…長谷川年弘…	〃	〃	〃
日生東館地下工事実施記録……大崎 憲一・阿部 義徹…	〃	〃	〃
朝日新聞大阪本社ビルの地下工事…吉永 深…	〃	〃	〃
地下工法，とくに新しい土留壁工法一覧表…	〃	〃	〃

c 適正工期

工期について…堀内四知丸…41	8		昭35
適正工期アンケート			
工期はこのように短縮されている…北山二十三…	〃	〃	〃
適正工期アンケート…桑山 音吉…	〃	〃	〃
工期がなぜ短かくなったか…山本 茂…	〃	〃	〃
適正工期について…位上 謙一…	〃	〃	〃
アンケートに答えて…永井 義徳…	〃	〃	〃
設備工事の観点から…高橋 誠義…	〃	〃	〃
公共団体の営繕工事…北垣 智造…	〃	〃	〃
適正工期アンケートの答え…山地 英雄…	〃	〃	〃
適正工期確保のために…神田 省三…	〃	〃	〃
適正工期について…H. O. 生…	〃	〃	〃
〃 …松岡 照夫…	〃	〃	〃
アンケートに答えて…K. U. 生…	〃	〃	〃

d 技術講座

シャーレの応力の話…横尾 義貫・北村 修…36	1		昭30
現代建築のエアコンディショニングにおける二・三の問題点…井上 宇市…	〃	2	〃
アパートにおける共通の諸施設並びに設備の改善について…伊藤 幸一…	〃	3	〃
劇場を主とした室内音響…船越 義房…	〃	4	〃
劇場を主とした照明…梁瀬 正男…	〃	〃	〃
観覧席床勾配の算出について…鷲尾 九郎…	〃	〃	〃
不規則ラーメンの1つの実用解法…鷲尾 健三…	〃	5	〃
建築のモデュルシステムについて…会勢委員会編…	〃	7	〃
ノイフエルト教授講演要旨 リミットデザインについて…坂 静雄…	〃	8	〃
建材のテキスチュアーと色彩…布施忠司編…	〃	9	〃
シャーレの常識—主として経済性の問題—…構造研究会（K.K.K）…	〃	10	〃
工事施工に関する基準について…岩下 久哉…37	2		昭31
アパートのダストシュート…石原 正雄…	〃	3	〃
住宅の暖房について… 〃 ……	〃	〃	〃
住宅・アパートの水と排水…石堂正三郎…	〃	〃	〃
建築施工技術の教育に対する一考察…犬束 徳郎…	〃	〃	〃
プレストレストコンクリートの建築への応用…坂 静雄・六車 熙・前田 米穂…	〃	4	〃
水族館計画に関する資料…加藤 大雄…	〃	6	〃
現代のアパート建築から「設計管理」の裏窓をのぞく…石原 正雄…	〃	8	〃
ダクトの消音…前川 純一…	〃	9	〃
工事契約について…田辺 信…	〃	10	〃
軽金属の加工と応用…小林藤次郎…	〃	11	〃
禅宗の伽藍配置…北尾 嘉弘…	〃	12	〃

	集	号	年
和歌山市における襖材……竹本　説夫…37	12	昭31
畳表について……佐藤　重夫…〃	〃	〃
姫路城天主閣群の振動実験……石崎　滋雄…38	1	昭32
デフォルマされた建築……越智　隆晴…〃	2	〃
公団住宅の電気設備について……仲井　喜作…〃	**3**	〃
耐用年数について……井上　英彦…〃	4	〃
耐震壁の話……鬼武　信夫…〃	5	〃
伝熱の理論（防火被覆計算を例として）……前田　敏男…〃	8	〃
金額を基準とした工程表……大成建設Ｉ．Ｌ．Ｕ…〃	9	〃
住宅団地植栽の問題点……中村　一…〃	10	〃
改良木材……後藤　輝男…〃	11	〃

e　技　術　の　頁

1. 物を吊り上げる機械……篠田　駿二…44	1	昭38
2. 超高層建築について……金多　潔…〃	〃	〃
3. 設備機械室の広さについて……高橋　誠義…〃	2	〃
4. 「くい」について……近藤　幸雄…〃	〃	〃
5. 事務所建築における空気調和設備の方式……三村　胖…〃	3	〃
6. 施工部門：切梁材のない地下工法……金田　宏…〃	4	〃
7. 構造部門：大型鋼管を用いた高層建築の柱……山田　稔…〃	〃	〃
8. 構造部門：▽形トラスの数例について…大野勝三郎…〃	5	〃
9. 施工部門：放射線と遮蔽……吉田　繁…〃	6	〃
10. 原論部門：壁面展示室の採光……伊藤　克三…〃	7	〃
11. 材料部門：アルミニウム建材の彩色……園倉　栄…〃	8	〃
12. 原論部門：遮蔽係数（Shade Factor）について……松浦　邦男…〃	〃	〃
13. 材料部門：防火塗料……南　誠佑…〃	9	〃
14. 原論部門：大気汚染防止のためのガス排出の制御……技術の頁小委員会…〃	10	〃
15. 構造部門：最近の軽量鉄骨建築……椋代　仁朗…〃	11	〃
16. 材料部門：人工軽量骨材コンクリート…奥島　正一…〃	12	〃
17. 構造部門：「ジョイントの近代化」のために……鷲尾　健三…45	1	昭39
18. 原論部門：大気汚染防止のための粉塵排出の制禦……技術の頁小委員会…〃	2	〃
19. 構造部門：土質と基礎の形式―基礎の設計の考え方―……小泉　昇…〃	**3**	〃
20. 原論部門：ホテルの騒音制御……前川　純一…〃	4	〃
21. 積算部門：見積りの合理化・能率化への諸問題……天池嘉平治…〃	5	〃
22. 施工部門：全溶接工法について……山下虎太郎…〃	6	〃
23. 原論部門：日当りの早見図表……伊藤　克三…〃	7	〃
24. 原論部門：ガスのカロリーアップによせて……大貫　啓嗣…〃	8	〃
25. 原論部門：共同住宅の採光規準……松浦　邦男…〃	9	〃
26. 原論部門：熱伝導率の現場測定……金谷　英一…〃	10	〃
27. 構造部門：異形鉄筋のガス圧接について……鈴木　豊明…〃	11	〃
28. 原論部門：輻射測定とストーブの性能…上林　博雄…〃	12	〃
29. 施工部門：雨仕舞について……笠原　正幸…46	1	昭40
30. 原論部門：地下鉄の温湿度測定について……赤松　義夫…〃	2	〃
31. 原論部門：蓄熱式熱回収ヒートポンプサイクルについて……中原　信生…〃	3	〃
32. 材料施工部門：コンクリートのワーカビリチー……福島　正人…〃	4	〃
33. 設備部門：空気―水ヒートポンプの一実例……中山　春樹…〃	5	〃
34. 原論部門：熱環境とオリエンテーション……金谷　英一…〃	6	〃
35. 構造部門：鉄骨のジョイントの形式……山田　稔…〃	7	〃
36. 施工部門：最近の施工用機械の紹介……依田　潔…〃	8	〃
37. 材料部門：最近の左官材料・モルタル混和材について……山田　幸一…〃	9	〃
38. 環境部門：環境音楽（Planned Music）……秋田　正克…〃	10	〃
39. 材料部門：ポリサルファイド（チオコール）コーキング……建材委員会：橋本　良介・青山　幹…〃	11	〃
40. 設備部門：空調用冷凍機の温度調節装置について……荏原製作所大阪支社技術課…〃	12	〃
41. 材料部門：コンクリートの亀裂と硬化乾燥収縮……下鳥　正孝…47	1	昭41
42. 材料部門：耐摩耗のモルタル床について……樋口　倶一…〃	2	〃
43. 設備部門：ビル建築のモジュール化と蛍光灯照明器具……富本　恭弘…〃	3	〃
44. 材料部門：BORED LOCK（ボアド・ロック）の構造……鈴木　直…〃	4	〃
45. 設備部門：ガス器具の排気について……後藤　宏造…〃	5	〃
46. 構造部門：高力ボルト……脇山　広三…〃	6	〃
47. 環境工学部門：吸熱ガラスの透過光の演色性……中根　芳一…〃	**7**	〃
48. 目録：技術の頁一覧表……〃	8	〃
49. 材料部門：プラスチックを主とした床材…日本建築協会建材委員会（担当：米田正義）…〃	9	〃
50. 環境工学：高温工場の熱環境調整……石原　正雄…〃	10	〃
51. 環境工学：ガラスブロック窓の昼光率の計算……松浦　邦男・古江　嘉弘…〃	11	〃
52. 材料部門：耐候性鋼と建築―ＹＡＷ・ＴＥＮについて―……小川　通一…〃	12	〃

No.9　設　　備

a　設　備　原　論

建築の音響設計と吸音材料の使い方……船越　義房…35	7	昭29
Ⅰ　室の形の設計　Ⅱ　室の残響設計		
Ⅲ　吸音材料の使い方		
夏季の戸外風速・風向について……石原　正雄…〃	8	〃
設備原論Q・A……関西設備原論研究会		
1. 壁の結露や湿りを防ぐにはどうすればよいか……38	1	昭32
2. 風があれば寒く感ずるが，その湿感に及ぼす影響はどれ程か……〃	〃	〃
3. 建物各面の受ける日射量を簡単に知る方法……〃	2	〃
4. 騒音を防ぐには建物配置を如何にすべきか……〃	〃	〃
5. 住宅内の空気中にはどの程度の塵埃があるか……〃	3	〃
6. 昼光照明で間接照度を簡単に求める方法は……〃	〃	〃
7. 日照日射図表の応用性……〃	4	〃
8. 夜間輻射とは何か，建物とどんな関係があるか……〃	5	〃
9. コアープランにおける浴室・便所・厨房の換気はどうしたらよいか……〃	〃	〃
10. 同時使用率はどのようにして決められているか……〃	6	〃
11. ルーバーの遮日効果を簡単に知る方法……〃	7	〃
12. Air Washerで除塵できる水量はどの位か……〃	〃	〃
13. ルーバーの日射に対する遮蔽効果はどうして検討すればよいか……〃	8	〃
14. Air Curtain ……〃	9	〃
15. デイクリーデーとはなにか，燃料消費量はいかにして求めるか……〃	10	〃
16. 天井面を保温すると暖房上どれ程有利か……〃	11	〃
17. 中層アパートの各住戸の損失熱量はどれ程違うか…〃	12	〃
18. 壁体遮音の重量則とは何か……〃	〃	〃

b　設　備　各　論

建築設備について……山根正次郎…35	1	昭29
建築設備の問題……田中良太郎…〃	〃	〃
住宅の設備改善について……竹内　さく…〃	〃	〃
交通計算によるエレベーター及びエスカレーターの台数の選び方……木村　武雄…〃	〃	〃
電話設備について……杉浦　春二…〃	〃	〃
銀行の設備について……高橋　誠義…〃	〃	〃
電力事情に対応すべき建築電気設備について……牛田信次郎…〃	〃	〃
消火設備談義……小川　誠耳…〃	〃	〃
衛生設備雑文……大路清一郎…〃	〃	〃
設備外論……石原　正雄…〃	〃	〃
最近のアパート用エレベーター……公文　一三…36	3	昭30
三和銀行本店建築設備について……宮川　清…〃	11-12	〃
三和銀行本店の電気設備について……清水靖一郎…〃	〃	〃
建築設備のウエイトについて……富吉志乃武…〃	〃	〃

		集	号	年
鉄筋共同住宅の設備について	小寺　保…36	11-12		昭30
照明について	笠原　裏…〃	〃		〃
エスカレーターについて	公文　一三…〃	〃		〃
塵芥の処理	須賀　栄一…〃	〃		〃
建築衛生工業とプラスチックス製品	小川　誠耳…〃	〃		〃
建築設備工事分離発注問題				
綜合建設業の立場から	高橋　誠義…〃	〃		〃
官庁側の立場から	諫早　信夫…〃	〃		〃
第三者の立場から	田中良太郎…〃	〃		〃
管工事請負契約に関する陳情	〃	〃		〃
梅田ビルディングのクーリングタワーについて	鈴木　俊男・竹原　義昭…〃	〃		〃
事務所建築のAir Conditioningの効果	石堂正三郎…37	9		昭31
設備の眼　設備管理の問題：冷却塔と川の水：設備のリミットデザイン：ダクトの汚損：冷暖房の季節：冷房のほてり：便所と大衆	〃	〃		〃
設備トピックス	〃	〃		〃
アース工事について：Air Curtain：水中モーターポンプ：コペンハーゲンリブ：蛍光灯の演色性：太陽エネルギーの利用：夜間輻射：温湿度調整のオートメーション：火災報知装置と消火設備				
熱環境への新しいアプローチ	檜崎　正也…38	7		昭32
建物に利用される新しい熱源の展望	柳町政之助…〃	〃		〃
空気調節の新しい傾向	平野彦兵衛…〃	〃		〃
空気調節自動化の現状	宗岡　博生…〃	〃		〃
換気技術の現状と展望	石原　正雄…〃	〃		〃
騒音防止技術の現状	竹内　竜一…〃	〃		〃
室内音響の現状と進歩	前川　純一…〃	〃		〃
電灯照明技術の現状と将来	大谷　泰之・阪口　忠雄…〃	〃		〃
日照調節の現状と将来	関原　猛夫…〃	〃		〃
新しいビルディングの受配電方式	真砂野　昭…〃	〃		〃
大阪の地下水の現状と展望	渡辺　知喜…〃	〃		〃
設備技術トピックス				
除塵と集塵	田中良太郎…〃	〃		〃
殺菌ランプ	石堂正三郎…〃	〃		〃
Time Lag	前田　敏男…〃	〃		〃
熱対流	金谷　英一…〃	〃		〃
相互反射	松浦　邦男…〃	〃		〃
アパートのガス暖房	上林　博雄…〃	〃		〃
ブレードレス・ポンプ	寺田　進…〃	〃		〃
Building Control Engineers	須賀　栄一…〃	〃		〃
エレベーターのスケジュルコントロール	板垣　晃平…41	9		昭35
エアリーポーター（気送管）	植村　勲…〃	〃		〃
クーリングタワー	日本管工事工業協会…〃	〃		〃
電子冷房時代がくるか	南条孝一郎…〃	〃		〃
新朝日ビルディングの設備計画	鈴木　俊男…39	6		昭33
毎日大阪会館建築設備計画	有馬　正・渡辺　信昭…〃	〃		〃
毎日ホール電気音響設備	〃 …〃	〃		〃
建築設備室の実態調査	高橋　誠義…〃	12		〃
大阪市地盤沈下防止条例実施に際して	田中良太郎…40	9		昭34
償却資産としての建築と設備との差違	鳴尾　源蔵・吉川　照夫・本田　知之…〃	〃		〃
計画原論から見た現在の建物の欠陥	前田　敏男…〃	〃		〃
最近のビル内弱電設備	河村　信男…〃	〃		〃
エヤーソースヒートポンプについて	生方　文次…〃	〃		〃
屎尿浄化槽の問題点	越智　隆晴…〃	〃		〃
煙試験	小川　誠耳…〃	〃		〃
ビル管理者より建築と設備設計者に望む	小島庄之助…〃	〃		〃
設備管理技術者の取締規定について				
1. 電気設備管理技術者の保安規定	渡部　弟次…〃	〃		〃
2. ボイラーおよび圧力容器関係取締規定	椎名栄一郎…〃	〃		〃
3. 冷凍設備関係の作業主任者制度について	織田　実…〃	〃		〃
4. 特殊建築物・建築設備などの定規検査について	信濃小路正…〃	〃		〃
建築設備裏話—衛生設備篇（第1回）	編集委員会編…〃	〃		〃
関電ビルの設備工事について	清水寿栄次…41	9		昭35
電通大阪支社の冷暖房計画について	柳町政之助・石黒　次郎・中村　猛…〃	〃		〃
空気調整装置のオートメーション設備の実例	倉本武二郎…41	9		昭35
建築設備裏話第2回空気調和設備篇	編集委員会編…〃	1		昭36
〃　第3回電気設備篇	編集委員会編…〃	9		〃
国立京都国際会館の設備について	福田　鋼一・野口　勇…47	6		昭41

c　水と設備

水資源の保全について	合田　健…43	5		昭37
大阪市の上水道の現状と将来	松下　伸一…〃	〃		〃
大阪市の下水道の現状と将来	井内　万治…〃	〃		〃
千里丘陵住宅地区上下水道計画	辻本　巌…〃	〃		〃
小規模団地の下水処理について	大内　栄一…〃	〃		〃
最近の給水設備について	富吉志乃武…〃	〃		〃
最近の排水設備の問題点	小川　誠耳…〃	〃		〃
浄化槽の種々な型式とその機能	本多　淳裕…〃	〃		〃
工業用水道—大阪市の概況	〃	〃		〃
中層アパートの排水通気系統の実験	種田　稔…〃	〃		〃
給湯（給水）管の薬品処理	青野　正明…〃	〃		〃
ＡＩフィルター	〃	〃		〃
屎尿浄化槽とその容量算定基準のＪＩＳ化	〃	〃		〃

d　空気調和設備

空調設備計画について	守安　虎治…44	9		昭38
年間空調方式				
Ⅰ　デュアル・ダクト方式	日建設計工務KK…〃	〃		〃
Ⅱ　スリーパイプ・システム	大熊　芳郎…〃	〃		〃
照明空調合成方式について	木村　建一…〃	〃		〃
フレンガーシステムとテトアルワカーテン	柳町政之助…〃	〃		〃
空調方式における設備費と経常費の問題	宮川　清…〃	〃		〃
座談会＝ビル管理者からみた空気調和設備	鈴江　章平・滝井　章男・佐藤　鉄雄 天羽　晴一・小山　貞夫・吉岡　佐一 秋岡　実則・中　義雄・石原　正雄 生方　文次・宮脇　毅	〃		〃
プログラム方式による空気調和設備の自動運転とスキヤニング装置について	中坊　俊夫…〃	〃		〃
天井面吹出しについて	秋岡　実則…〃	〃		〃
ベロベント・ユニット	日本熱学工業KK…〃	〃		〃
サンエックス	伊藤忠商事KK…〃	〃		〃
近代建築へ対する空気調和の表現	落合　藤雄…〃	〃		〃
空調設備のあり方	新津　靖…47	3		昭41
建築工程と設備工程	飯田　朋弘…〃	〃		〃
20年後の空調設備を語る（座談会）—新進技術者が語る将来の空調設備	牧　英二・荒井　清・小林　進 中原　信生・秋岡　実則・竹添　輝男 大江　和弘・宮脇　毅・中村　堯	〃		〃
空調設備裏話—空調設備設計施工上の失敗談とその対策—	編集委員会編…〃	〃		〃
エアロマスター方式	長谷川幸雄…〃	〃		〃
コンジットウエザーマスター方式と設計例（百十四ビル）	日建設計工務KK…〃	〃		〃
全電気方式暖冷房装置	中原　信生…〃	〃		〃
遠心式・吸収式冷凍機組合わせ冷凍方式	KK竹中工務店…〃	〃		〃
空調方式とその特色一覧表	桜井建築設備研究所…〃	〃		〃

e　照明と建築

照明と眼の生理	山地　良一…45	1		昭39
建築と照明について	上田恒太郎…〃	〃		〃
建築家より照明家に望む	渡辺　敏雄…〃	〃		〃
照明家より建築家に望む	藤井　肇…〃	〃		〃
照明設計の基本的問題	岡田　喜義・佐土根範次…〃	〃		〃
新しい光源とその応用	小堀富次雄…〃	〃		〃
照明方式とその問題点	笠原　裏…〃	〃		〃
最近の事務所照明と色彩調節—快適照明色彩委員会による調査—	真辺　春蔵…〃	〃		〃
事務所ビルの照明と実態	清水寿栄次…〃	〃		〃
住宅・事務所・商店・ホテル・道路の照明例	〃	〃		〃

第 4 部 門

No.10 建 築 作 品

集　号　年

a 作 品 作 風

① 公 共 建 築（会館等も含む，会館の項参照）

京都地方検察庁庁舎……34 9 昭28
岸和田市庁舎……35 12 昭29
船岡町役場庁舎……36 1 昭30
大阪北電話局……〃 2 〃
愛知県市町村会館……〃 〃 〃
西成区役所……〃 〃 〃
下関市庁舎……〃 5 〃
愛知県文化会館・美術館……〃 〃 〃
国際電々株式会社東京局舎……〃 9 〃
伊丹市庁舎……〃 11-12 〃
延岡市庁舎・野口記念館……37 2 昭31
府中市庁舎……〃 5 〃
天理市庁舎……〃 〃 〃
島根県警察本部庁舎……〃 12 〃
神戸米国総領事館……38 1 昭32
兵庫県警察本部庁舎別館……〃 4 〃
下関市立外浦水族館……〃 5 〃
神戸市庁舎……〃 7 〃
岡山県庁舎……〃 〃 〃
倉吉市庁舎……〃 〃 〃
南淡町庁舎……〃 11 〃
広島東税務署……39 8 昭33
Y・T・V（よみうりテレビ）放送局……〃 11 〃
笠岡電報電話局……〃 12 〃
広島発明会館　広島市……〃 〃 〃
広島労働会館　広島市……〃 〃 〃
背振村役場　佐賀県神埼郡……〃 〃 〃
有田町役場庁舎　佐賀県西松浦郡……〃 〃 〃
松島郵便局　熊本県天草郡……〃 〃 〃
宮田町庁舎　福岡県鞍手郡……〃 〃 〃
大阪府警察本部庁舎……40 5 昭34
堺市庁舎……〃 11 〃
京都中京税務署……〃 〃 〃
福山市庁舎……〃 12 〃
島根県庁舎……〃 〃 〃
山口県警察本部庁舎……〃 〃 〃
小松町役場……〃 〃 〃
倉敷市庁舎……41 9 昭35
尾道市庁舎……〃 〃 〃
広島合同庁舎……42 4 昭36
京都中央郵便局……〃 11 〃
鳴門市民会館……43 4 昭37
呉市役所・呉市民会館……〃 7 〃
豊中市庁舎……〃 〃 〃
広島県立体育会館……〃 8 〃
天王寺民衆駅……〃 10 〃
尼崎市庁舎……44 2 昭38
尾道市公会堂……〃 6 〃
枚岡市庁舎……45 〃 昭39
小林市庁舎……〃 〃 〃
吹田市庁舎……〃 7 〃
日本住宅公団大阪支所庁舎……〃 〃 〃
箕面市庁舎……〃 8 〃
新大阪駅……〃 10 〃
新京都駅……〃 〃 〃
新米原駅……〃 〃 〃
大阪府庁別館……45 11 昭39
奈良県庁舎……46 5 昭40
大阪東電話局……〃 6 〃
堺市民会館……〃 9 〃
大阪府厚生会館……〃 〃 〃

② 学校・養成所・幼稚園

大阪市教育会館……34 7 昭28
鳥取市立西中学校……〃 9 〃
京都府立医科大学綜合講堂……〃 〃 〃
京都市日吉ケ丘高等学校……〃 〃 〃
大阪市立東中本小学校給食施設……37 5 昭31
ノートルダム清心学園マリア科学館……〃 11 〃
兵庫県立姫路南高校体育館兼講堂……〃 12 〃
小出美容専門学校……38 9 昭32
相愛学園本館・音楽ホール……39 5 昭33
学校法人立命館大学広小路学舎　京都市……〃 12 〃
大阪市立すみれ小学校……40 5 昭34
名古屋市立金城小学校分校……〃 〃 〃
浪花学園東校舎……〃 〃 〃
大阪交通学園……〃 〃 〃
東筑高校図書館……〃 〃 〃
福岡大学新校舎……〃 〃 〃
名古屋工業大学講堂……43 3 昭37
関西鉄鋼短期大学……44 〃 昭38
夙川学院短期大学……46 7 昭40
松山商大研究センター……〃 9 〃
兵庫県立州本高等学校……47 2 昭41
追手門学院大学……〃 9 〃
神戸商大図書館……〃 12 〃
桃山学院大学登美ケ丘校舎……〃 〃 〃

③ 図 書 館・美 術 館

THEATER ARTS CENTER ……34 3 昭28
広島児童図書館……〃 9 〃
潮画廊……47 7 昭41

④ 研 究 所

米国科学院原子爆弾傷害研究所……34 9 昭28
通産省大阪工業技術試験所……38 〃 昭32
武田薬品工業（株）研究所……39 11 昭33
大阪府立放射線中央研究所……41 2 昭35
日本放射線高分子研究協会研究所……〃 〃 〃
京大原子炉実験所……45 8 昭39

⑤ 病院・診療所・医院

大阪府立結核療養所羽曳野病院……34 2 昭28
京都市五条保健所……36 〃 昭30
大阪市立大学医学部附属病院……37 5 昭31
公立学校共済組合近畿中央病院……〃 〃 〃
国立大阪病院新病棟……〃 11 〃
日本専売公社京都病院本館……〃 〃 〃
中国支部地御前通信病院……〃 12 〃
兵庫県立医大附属病院精神科病棟……38 4 昭32
常滑市民病院……40 10 昭34
豊川市民病院……〃 〃 〃
豊橋市民病院……〃 〃 〃
公立八鹿病院……〃 〃 〃
愛知県立精神病院新病棟……〃 〃 〃
大阪警察病院新館……〃 〃 〃
住友病院……41 5 昭35
神戸海星病院……43 2 昭37
聖マリア病院……44 7 昭38
姫路鉄道病院……〃 9 〃

⑥ 体 育 館・競 技 場

リオ・スポーツセンター……34 5 昭28
大阪府立体育館……〃 〃 〃
アサヒ・アリーナ……〃 〃 〃
国営阪神競馬場第二馬見所……〃 〃 〃
TWO—FACED STADIUM ……〃 〃 〃
天理大学プールスタンド……37 〃 昭31
勝山中学校兼雨天体操場……〃 〃 〃

	集	号	年
大阪市中央体育館	40	9	昭34
熊本市立体育館	〃	12	〃
広島県立体育館	43	8	昭37
岩国市体育館	44	6	昭38
松下電器体育館	46	7	昭40
神戸市立中央体育館	47	5	昭41
西宮市民体育館	〃	〃	〃
須磨女子高等学校体育館	〃	〃	〃
ラサボーリングパレス	〃	7	〃
甲南大学講堂兼体育館	〃	10	〃

⑦ 事務所・銀行・ビル

室町物産（株）大阪支店	34	3	昭28
三和銀行京都支店	〃	4	〃
住友信託銀行難波支店	〃	6	〃
神戸銀行船場ビル	〃	7	〃
富士フイルムビルディング	〃	8	〃
新阪神ビルディング	〃	〃	〃
福武ビルディング	〃	〃	〃
日本真珠会館	〃	9	〃
神戸銀行本店	〃	〃	〃
兵庫相互銀行	〃	〃	〃
一宮市商工会議所	〃	〃	〃
不二商事（株）名古屋支店	〃	〃	〃
住友銀行名古屋駅前支店	〃	〃	〃
第一生命ビルディング	〃	12	〃
丸一紡績（株）大阪出張所	35	10	昭29
日本紡績検査協会新館	〃	10	昭29
K. K. 松下商店	〃	12	〃
興和ビルディング	〃	〃	〃
グリーンビル	36	1	昭30
梅田ビルディング	〃	8	〃
双星社・竹腰建築事務所ビル	〃	9	〃
三和銀行本店	〃	11-12	〃
扶桑相互銀行鳥取本店	〃	8	〃
早川電機工業（株）	37	9	昭31
小林製菓株式会社	38	4	昭32
株式会社大沢商会大阪支店	〃	〃	〃
木下商店大阪支店	〃	〃	〃
大阪建設会館	〃	〃	〃
丸紅飯田株式会社	〃	8	〃
京都ガスビル	〃	9	〃
徳島ビルディング	〃	〃	〃
住友ビルディング別館	〃	〃	〃
中庭のある社屋（K. K. 竹中工務店本店）	〃	11	〃
（株）大阪吉川商店	〃	〃	〃
新桜橋ビルディング	〃	12	〃
坂倉準三建築研究所大阪出張所	39	2	昭33
出光興業株式会社中国支店	〃	〃	〃
味の素ビルディング	〃	5	〃
新朝日ビルディング	〃	6	〃
東亜紡績株式会社本社社屋	〃	8	〃
新大阪ビルディング	〃	11	〃
東京銀行心斎橋支店（株）	〃	8	〃
三井ビルディング	40	6	昭34
住友生命保険相互会社	〃	〃	〃
福助足袋（株）大阪支店	〃	9	〃
興紀相互銀行本店	〃	12	〃
関電ビルディング	41	6	昭35
大阪朝日生命館	〃	10	〃
泉州銀行本店	〃	3	〃
中国電力（株）本社	〃	8	〃
大阪国際貿易センター	〃	5	〃
大阪千代田生命ビル	〃	12	〃
大阪富士ビル	42	1	昭36
大阪神鋼ビル・大井ビル・北海道拓殖銀行	〃	2	〃
日本板硝子本社ビル	〃	7	〃
東邦商事K. K. 本町ビル	〃	〃	〃
淀屋橋勧銀ビル	〃	8	〃
広銀ビル（大阪）	〃	〃	〃
大阪興銀ビル	〃	9	〃
丸善石油本社ビル	42	9	昭36
レナウン商事大阪支店ビル	〃	10	〃
尼崎三和ビル	〃	〃	〃
毎日放送千里丘総合社屋	〃	11	〃
松下電器産業K. K. 本社事務所	〃	12	〃
順慶町三和ビル	〃	〃	〃
新阪急ビルディング	43	3	昭37
トヨダ自動車工業K. K. 本館	〃	〃	〃
兵庫県信用金庫会館	〃	4	〃
ヤンマー本社ビル	〃	〃	〃
京阪神不動産K. K. 瓦町ビル	〃	6	〃
大阪グリーンビル	〃	7	〃
日本生命本館	〃	〃	〃
新住友ビル	〃	8	〃
淡路町ビル	〃	9	〃
住友生命保険相互会社本館	〃	〃	〃
大阪屋証券ビル	〃	11	〃
平和ビル	〃	12	〃
大阪機工K. K. 健康保険会館	〃	〃	〃
東海銀行本店	〃	3	〃
大阪市信用金庫本店	〃	12	〃
堺鉄鋼ビル	44	2	昭38
大阪神ビル	〃	8	〃
大証金ビル	〃	〃	〃
大名古屋ビル	〃	10	〃
平和生命大阪ビル	〃	12	〃
島根ビル	45	2	昭39
京阪淀屋橋ビル	〃	〃	〃
池万ビルディング	〃	3	〃
東洋ベアリング本社ビル	〃	〃	〃
京都山一証券ビル	〃	5	〃
三神ビルディング	〃	〃	〃
全日空ビル	〃	8	〃
東洋工業大阪支社ビル	〃	11	〃
姫路O. S. ビル	〃	〃	〃
大阪富国生命ビル	〃	12	〃
堺東ビル	〃	〃	〃
日立造船ビル	46	3	昭40
御堂ビル	〃	5	〃
川鉄本社本館ビル	〃	8	〃
大阪明治生命館	〃	10	〃
森本倉庫三宮ビル	〃	11	〃
神戸交通センタービル	〃	〃	〃
広島銀行本店	〃	4	〃
桜橋東洋ビル	47	2	昭47
広島ステーションビル	〃	3	〃
広島商工会議所	〃	〃	〃
広島不動産ビル	〃	〃	〃
日本生命保険相互会社広島ビル	〃	〃	〃
敷島ビル	〃	4	〃
富山第一生命ビル	〃	5	〃
飯野株式会社社屋	〃	7	〃
朝日放送本社	〃	8	〃
大阪マツダ東営業所	〃	〃	〃
大阪ガスビルディング	〃	10	〃
京阪ビルディング	〃	11	〃
京都中央信用金庫西五条支店	〃	7	昭41

⑧ 劇場・映画館・会館・センター（公共建築の項も参照）

浪花座	34	4	昭28
近畿電気通信会館	〃	6	〃
八坂女紅場歌舞練場	〃	9	〃
博多会館	35	10	昭29
兵庫県水産会館	36	1	昭30
近鉄会館	〃	4	〃
近映会館（近畿映画劇場）	〃	〃	〃
O. S. Theatre	〃	〃	〃
アシベ劇場	〃	〃	〃
愛知県農民文化館	〃	5	〃
梅田大映	〃	11-12	〃
大阪府教育会館	37	2	昭31
毎日大阪会館	〃	9	〃

	集	号	年
毎日名古屋会館	37	9	昭31
神戸新聞会館	〃	10	〃
裏千家茶道会館	〃	12	〃
石橋文化センター	〃	〃	〃
神戸国際会館	38	1	昭32
梅田コマ・スタジアム	〃	2	〃
梅田グランド劇場・花月劇場	〃	8	〃
関西大学教育会館	〃	12	〃
東洋工業（株）宮島迎賓館	39	8	昭33
兵庫県農業会館	〃	〃	〃
南海会館	〃	4	〃
毎日大阪会館南館	〃	6	〃
大阪新歌舞伎座	40	4	昭34
大阪東映会館	〃	5	〃
大阪能楽会館	〃	〃	〃
八幡市民館・美術工芸館	〃	6	〃
佐賀県医師会館	〃	12	〃
ラジオ熊本放送会館	〃	〃	〃
大阪府農林会館	41	6	昭35
明石天文科学館	〃	8	〃
広島県立図書館	〃	〃	〃
東本願寺同朋会館	〃	2	〃
輸出繊維会館	42	3	昭36
広島放送会館	〃	4	〃
兵庫県職員会館	〃	〃	〃
兵庫県婦人会館	〃	〃	〃
大谷婦人会館	〃	8	〃
御園座	44	10	昭38
大阪メディカルセンター	〃	4	〃
大阪府農林技術センター	〃	5	〃
大阪科学技術センター	〃	9	〃
松下電器健康管理センター	〃	11	〃
福岡市職員保健会館	〃	〃	〃
日本放送協会大阪放送会館新館	〃	12	〃
長島町漁業協同組合事務所	〃	〃	〃
伊丹市立文化会館	45	5	昭39
南海放送会館	〃	7	〃
大阪共済会館	〃	8	〃
富山県民会館	〃	11	〃
広島青少年センター	47	3	昭41
国立京都国際会館	〃	6	〃
大阪経済大学学生会館	〃	7	〃
大阪化学繊維会館	〃	9	〃

⑨ 住宅・アパート

THE NEW CASE STUDY HOUSE	34	3	昭28
帝国銀行夙川寮	〃	〃	〃
HOUSE BY RICHARD NEUTRA	〃	4	〃
京都府営住宅	〃	9	〃
長谷部鋭吉氏邸	35	11	昭29
東畑謙三氏邸	〃	〃	〃
竹腰健造氏邸	〃	〃	〃
村野藤吾氏邸	〃	〃	〃
安井武雄氏邸	〃	〃	〃
村田治郎氏邸	〃	〃	〃
増田友也氏邸	〃	〃	〃
佐藤重夫氏邸	〃	〃	〃
倉敷レイヨン岡山アパート	〃	12	〃
大阪府高層アパート計画	36	3	昭30
大阪府古市団地計画	〃	〃	〃
芦屋高層都市計画	〃	〃	〃
代官山東急高層アパート計画	〃	〃	〃
日本電信電話公社甲子園宿舎	〃	〃	〃
H邸	37	〃	昭31
逆瀬川コンクリート住宅	〃	〃	〃
甲東園団地住宅	〃	〃	〃
日本住宅公団中宮第一団地	〃	〃	〃
日本住宅団公共住宅標準設計プラン	〃	〃	〃
東洋綿花㈱西宮社宅	〃	5	〃
堀内邸	〃	〃	〃
鉄筋住宅・楽しい生活と住宅博・入選作	〃	8	〃
豊輪閣（大阪府自転車振興会宿舎）	37	11	昭31
北畑邸	38	3	昭32
日本住宅公団千里山団地	〃	〃	〃
日本住宅公団中宮第一団地	〃	〃	〃
日本住宅公団出来島団地	〃	〃	〃
電々公社高槻アパート	〃	〃	〃
神戸銀行呉川町家族寮	〃	〃	〃
旭硝子高樹町アパート	〃	〃	〃
三田東急アパート	〃	10	〃
切戸町施設付住宅	〃	〃	〃
兵庫県の併存住宅「Sビル」	〃	〃	〃
横浜市内共同ビル紹介	〃	〃	〃
翁町一丁目共同ビル	〃	〃	〃
長者町四丁目第二共同ビル	〃	〃	〃
扇町二丁目共同ビル	〃	〃	〃
塩野義製薬株式会社西宮寮	39	2	昭33
多聞団地施設付住宅	40	3	昭34
大成建設茨木アパート	〃	〃	〃
西長堀高層アパート	〃	〃	〃
法円坂団地高層共同住宅	〃	〃	〃
矢田部団地（大阪府営）	41	4	昭35
高丸団地（兵庫県営）	〃	〃	〃
仁川団地（公団住宅）	〃	〃	〃
春日丘団地（公団住宅）	〃	〃	〃
公共住宅15年			
1. RCアパートお目見え……夕陽丘団地…	〃	11	〃
2. 疎開跡の整備—店舗併存アパート……堀川団地…	〃	〃	〃
3. 団地のはしり……西宮北口団地…	〃	〃	〃
4. スラムの改良……番町地区…	〃	〃	〃
5. 応急住宅の建てかえ……大開団地…	〃	〃	〃
6. 持家へも公共融資……近鉄学園前住宅地…	〃	〃	〃
7. 給与住宅への公共融資 ……富士製鉄広畑製作所社員住宅…	〃	〃	〃
8. 団地の計画……古市団地・矢田部団地…	〃	〃	〃
9. 宅地の造成……鴨子原団地…	〃	〃	〃
10. 高層化の試み……西長堀アパート…	〃	〃	〃
11. 「ニュータウン」へ……香里団地…	〃	〃	〃
12. 都心のアパートビル……天神橋施設付住宅…	〃	〃	〃
芦屋グランドハイツ	47	〃	昭41

⑩ ホテル・旅館・料亭・国民宿舎

EL SALVADOR HOTEL	34	4	昭28
料亭　河文	〃	9	〃
八勝館中店	〃	〃	〃
兵衛旅館新館　兵庫県有馬	39	12	昭33
旅館文珠荘　京都府宮津市	〃	〃	〃
比叡山国際観光ホテル	40	11	昭34
開花亭	〃	12	〃
京都ホテル（増改築）	42	6	昭36
都ホテル	〃	〃	〃
京都国際ホテル	〃	10	〃
国民宿舎玉野荘	〃	9	〃
小豆島ユースホステル	〃	〃	〃
志摩観光ホテル（増築）	〃	〃	〃
ホテル・パシフィック	〃	〃	〃
鳴門逓信保養所観潮荘	〃	〃	〃
国民宿舎しんぐ荘	45	3	昭39
神戸ニューポートホテル	〃	4	〃
倉敷国際ホテル	〃	〃	〃
宝塚ホテル	〃	〃	〃
六甲山ホテル新館	〃	〃	〃
ホテル紅葉	〃	〃	〃
新阪急ホテル	〃	〃	〃
大阪ロイヤルホテル	46	12	昭40

⑪ 工場・倉庫

名港海運西埠頭倉庫	34	9	昭28
明治製菓株式会社大阪工場	36	10	昭30
松下電子工業株式会社高槻工場	〃	〃	〃
姫路発電所	〃	〃	〃
富士製鉄広畑薄板工場	〃	〃	〃
川崎製鉄株式会社　千葉製鉄所	〃	〃	〃

	集	号	年
大阪瓦斯株式会社　岩崎工場	36	10	昭30
大阪空港サイロ施設について	〃	〃	〃
大東紡績鈴鹿工場	〃	〃	〃
多奈川発電所	37	9	昭31
国際電信電話㈱大阪局舎	〃	〃	〃
大阪テレビ放送㈱社屋	〃	〃	〃
文化財建造物・古建築　正倉院双倉	〃	6	〃
三井土佐堀倉庫	38	4	昭32
竜田紡績姫路工場	〃	5	〃
播磨造船相生工場綜合事務所㈱	〃	12	〃
新宇部火力発電所　山口県宇部市	39	〃	昭33
サンスター歯磨㈱大阪工場	40	2	昭34
西日本精工㈱本館・研磨工場	〃	〃	〃
聯合紙器清水工場・名古屋工場	〃	〃	〃
八幡製鉄所戸畑工場	〃	8	〃
東京芝浦電気KK大阪工場	43	2	昭37
近畿コカコーラボトリングKK本社工場	〃	4	〃
宝酒造KK京都麦酒工場	〃	5	〃
日米コカコーラボトリングKK本社工場	44	11	昭38
全日本空輸株式会社大阪第1号格納庫	47	12	昭41

⑫　百貨店・商店・マーケット

大沢商会名古屋支店㈱	36	1	昭30
オプトンカメラ店	〃	8	〃
食堂ビル「ドウトン」	〃	9	〃
トルコセンター	〃	8	〃
そごう神戸店（増改築）	38	4	昭32
近鉄百貨店阿倍野店新館	〃	8	〃
千里ニュータウン南地区センター専門店街	47	4	昭41

⑬　クラブ・ゴルフクラブハウス

西宮カントリークラブ	38	8	昭32
古賀ゴルフ・クラブ	39	4	昭33
奈良国際ゴルフ場クラブハウス	〃	5	〃
宝塚ゴルフクラブハウス	41	3	昭35
枚方国際ゴルフクラブハウス	〃	〃	〃
枚方カンツリークラブハウス	〃	〃	〃
城陽カンツリークラブハウス	〃	〃	〃
花屋敷ゴルフクラブハウス	〃	〃	〃
名古屋ゴルフ倶楽部ハウス	〃	〃	〃
岐阜カンツリークラブハウス	〃	〃	〃
桑名カンツリー倶楽部	〃	〃	〃
下関ゴルフクラブハウス	〃	〃	〃
福岡カントリークラブ	〃	〃	〃
垂水ゴルフ場クラブハウス	〃	9	〃
安威川ゴルフクラブハウス	47	7	昭41

⑭　宗　教　建　築

天理教おやさとやかた東棟	37	5	昭31
天理教教会本部炊事場	〃	〃	〃
清風寺本堂	〃	7	〃
東本願寺難波別院	42	7	昭36
智源寺	44	9	昭38
大林寺	〃	12	〃

⑮　室　内　デ　ザ　イ　ン

クラブOTA	42	5	昭36
商品陳列場	〃	〃	〃
大阪駅ステーションパーラー	〃	〃	〃
某銀行内部・連結椅子・他	〃	〃	〃

⑯　福　祉　施　設

堺市立八田荘老人ホーム	43	12	昭37
神戸市立軽費老人ホーム福寿荘	〃	〃	〃
芦屋老人ホーム朝日ケ丘荘	〃	〃	〃
神戸市立救護院	〃	〃	〃
兵庫県立精華園・赤穂学園	〃	〃	〃
石井記念愛染園愛染橋保育所	〃	〃	〃
大阪市立早川福祉会館	〃	〃	〃
新潟県労働者福祉センター	〃	〃	〃

q　会　員　作　品

天橋立成相公園 REST HOUSE	41	1	昭35
大阪音楽大学	47	2	昭41
名神八日市カンツリークラブハウス	〃	3	〃
赤のれん	〃	4	〃
三原市文化会館	〃	5	〃

c　新建築・スケッチブック

大阪市東住吉区役所	36	5	昭30
日綿実業本村ビル	〃	〃	〃
滝定株式会社大阪支店ビル	〃	〃	〃
松江国際映画劇場	〃	〃	〃
大崎町役場	〃	〃	〃
岡三証券ビル	〃	〃	〃
福井地方裁判所庁舎	〃	〃	〃
名古屋学院名古屋高校校舎	〃	〃	〃
大阪府営住宅	〃	8	〃
中小工場	〃	10	〃
沖縄の新建築	37	2	昭31
生国魂神社本殿	〃	5	〃
河内銀行本店	〃	〃	〃
日本専売公社広島地方局食堂	〃	〃	〃
三稜中学校独立図書館	〃	〃	〃
大阪府立図書館新館	〃	8	〃
殖産住宅相互㈱大阪支社	〃	9	〃
ある若い USONIAN の建てた自分の家	〃	10	〃
白浜ゴルフクラブ	〃	11	〃
ディーゼル博士記念苑	38	3	昭32
明顕寺	40	12	昭34
坂記念館	41	3	昭35
九州の新建築	44	11	昭38

最近竣工の新建築（スケッチブック）

1. 福井商工会館　2. 大阪府私学教育文化会館　3. 島屋ビル 4. ダイハツ工業本社事務所　5. 大阪婦人子供服会館　6. 南海徳バスビル　7. 小林聖心女子学院礼拝堂　8. 豊中電報電話局　9. 大成閣	46	4	昭40
10. 日本生命松江ビル　11. 福徳相互銀行本店　12. 高橋ビル富田町別館　13. 辰巳ビル　14. 御木本真珠会社神戸支店 15. 勝良荘新館　16. 新南森町ビル　17. 貝塚市立産業会館 18. 泉大津市和泉市伝染病院	〃	5	〃
19. 京阪神不動産シャトー白浜　20. 西陣市街地住宅 21. 明治生命豊中家族寮　22. 光洋精工旭ケ丘独身寮 23. 大門統合小学校々舎体育館　24. 第二心斎橋ビル 25. 相愛学園十二期図書館体育館　26. 高野山大学松下講堂 27. 南山大学	〃	6	〃
28. 明治生命保険相互会社下関社屋　29. 名古屋港湾合同庁舎　30. 川崎重工業健康保険組合保健会館　31. 三井物産塩原寮　32. 山口銀行福山支店　33. 阿波銀行松山支店 34. 京阪ロードサービス琵琶湖大橋レストハウス　35. 関カンツリ倶楽部クラブハウス　36. 江商ビル	〃	7	〃
37. 安土町立体駐車場　38. 内外衣料製品本社ビル　39. 安治川突堤船客待合所　40. 貝塚市庁舎　41. 大成建設日吉台独身寮　42. 一宮中小企業福祉センター　43. KKマツダオート大阪豊中営業所　44. 中川商業高校本館　45. ナショナル金銭登録機大阪事務所	〃	8	〃
46. 東陽倉庫本部倉庫　47. 総合結婚式場月華殿　48. 東海工業高等学校（第3，4期新築工事）　49. 西大寺駅舎 50. 新家工業KK本社ビル　51. 大阪美術倶楽部　52. 大阪市立小児保健センター　53. KK名古屋螺子製作所本社ビル 54. KK日本ハードボード工業KK汐止独身寮	〃	9	〃
55. 中日シネラマ会館　56. 京都住信ビル　57. フクエイビル 58. 姫路市立婦人会館　59. イヨ森藤ビル　60. 立命館大学衣笠学舎6号館　61. 真宗大谷学園大谷大学校舎　62. 菱信ビル　63. 穂積町庁舎	〃	11	〃
64. 海南市庁舎　65. 長谷川第11ビル　66. 高島町立高島小学校　67. 岐阜薬科大学　68. 名古屋第一ビル　69. 新宇治電ビル　70. 日生不動産尼崎ビル　71. 興正寺別院　72. 丸元ビル	〃	〃	〃
73. 四ツ橋ビル　74. 日本生命保険相互会社広島ビル　75. 東野田ビル　76. 大阪府立大学農学部　77. 大東市庁舎　78. 西宮電報電話局　79. 京都産業会館　80. 東京近鉄ビル　81. OUビル	〃	12	〃

集　号　年

82. 同志社記念館　83. 中央電気倶楽部（増築）　84. よみうりテレビ放送株式会社（増築）　85. 帝塚山大学（1期）
86. 調布市立第四中学校（第1期）　87. 京都新聞本社（増改築）　88. 久保田鉄工健康保険組合保養寮　89. 兵庫県立洲本高等学校　90. 桜橋東洋ビル……47　1　昭41
91. 山口ビル　92. マーカンタイルバンクビル　93. 東海ビルディング　94. 洲本市民会館　95. 京都府立勤労会館　96. 白雲ビル　97. 大谷女子大学校舎　98. 京都府西陣警察署
99. 全国印刷工業近畿保健センター……〃　2　〃
100. 岐阜市庁舎　101. 西宮市民体育館　102. 西脇市市民会館　103. 陸上自衛隊阪神地区病院　104. 田中茂商事ビル
105. 甲子園学院西2号校舎　106. 百五銀行大阪支店
107. 小松原建物株式会社　108. 東予国民休暇村「ひうちなだ荘」……〃　3　〃
109. 三井生命商工中金ビル　110. 七福相互銀行箕面支店
111. 住友銀行守口支店　112. 京阪神不動産京都場外発売所
113. 日本冷蔵木津工場　114. 菱和調温工業招提団地
115. 奈良中小企業従業員共同宿舎　116. 大阪府立花園高等学校（第4期）　117. 岐阜農協センタービル……〃　4　〃
118. 住友銀行和泉支店　119. 池田カトリック教会　120. U・G・Iウガンダ工場　121. 天理よろず相談所　122. 日本放送協会徳島放送会館　123. 郵政省京都地方簡易保険局
124. 玉野市庁舎　125. 文芸春秋ビル　126. コメヒデビル…〃　5　〃
127. 泉州銀行和泉府中支店　128. 住友生命保険本町ビル
129. 東京造形大学　130. 大阪ファミリー会館　131. KK神戸製鋼所青木寮　132. 緑屋松竹会館　133. 愛媛県農協会館
134. 日本放送協会北九州放送会館　135. 指宿国民休暇村レクリェーション……〃　6　〃
136. 堺商工会議所　137. 兵庫県宝塚保健所　138. 宍道町庁舎　129. 東阪急ビル　140. ホテル長島和風別館　141. 協和醗酵工業KK本社共同住宅　142. 扶桑土地建物渋谷ビル
143. 東洋棉花KK本社社屋　144. 和泉ショッピングセンター〃　7　〃
145. 追手門学院大学　146. 福山葺陽同窓会館　147. 柏原市民会館　148. 阪神千船駅前防災建築街区　149. 城星学園特別教室講堂　150. 兵庫県立宝塚高校　151. 日本国内航空大阪営業所　152. 四条外科病院（増築）　153. 医療法人葵会北病院……〃　8　〃
154. 鶯花荘　155. 千里中央公園展望台　156. 出光興産㈱京都支店　157. 大石寺総坊　158. 新千里ニュータウン南地区センターオアシス　159. 小牧市庁舎　160. 岐阜地方簡易保険局　161. 神戸市分庁舎　162. 中部日本ビルディング…〃　9　〃
163. 岸の里市街地住宅　164. 松下電器健康保険組合松下病院（増改築）　165. 北島ビル　165. 船場電話局　167. 新淀川電報電話局　168. 全国信用金庫連合会広島支店　169. 大阪府立老人福祉センター「延寿荘」　170. 京都府立勤労者センター　171. K氏邸……〃　10　〃
172. 妙光寺本堂　173. 西上汐市街地住宅・上六センタービル　174. 星久ビル　175. 天野山カントリークラブ・クラブハウス　176. 本渡市立天草切支丹記念館　177. 本田技研工業名古屋支店　178. 山田商店麻布ビル　179. 橿原学院
180. 横浜精糖KK岡山事業所第二本館……〃　11　〃
181. 宝塚市民会館　182. 若戸病院　183. 滝定社屋　184. 電通資材配給局八尾新倉庫　185. 住友銀行六甲山荘　186. 豊中文化幼稚園　187. 佐久島観光ホテル　188. 岐阜市外電話局　189. TNC福岡放送会館……〃　12　〃

最近竣工の新建築（PR）

大阪証券会館・姫路観光交通会館・河野KK本社ビル・長谷川第10ビル・浪花組ビルディング・オリエンタルホテル・浦島本館従業員宿舎・秋田市庁舎・丸亀市庁舎・寝屋川市庁舎・日本専売公社橋本工場・堀川電話局・三笠コカコーラボトリングKK本社工場・石切農業協同組合・大阪身体障害者職業訓練所・立花製菓KK高槻工場……46　1　昭40
京都タワービル……〃　4　〃
ホテルエンパイア・貝塚市庁舎……〃　7　〃
梅ケ枝電話局・大阪合同ビル……〃　8　〃
東梅田ビル，毎日新聞社西部本社・毎日西部会館・東芝大阪ビル，日本経済新聞大阪本社新館，ホテルながやま，大橋スカイビル（市街地改造ビル），新宇治電ビル，岩井産業KK北浜分室，新家工業KK本社ビル，太地町庁舎，大東市庁舎，労働福祉事業団和歌山労災病院，京都市立病院，立命館大学以学館，奈良地方・家庭・簡易裁判所合同庁舎，帝塚山大学，千里丘陵ふじしろ幼稚園，大阪合同ビルディング，広島商工会議所，黄桜酒造醸造工場，辰巳ビルディング，播磨カントリークラブ・クラブハウス，広島ステーションビル……47　1　昭41
大和銀行神戸ビル，東阪急ビルディング……〃　4　〃
日本住宅公団大阪支所津久野市街地住宅……〃　5　〃
NHK徳島放送会館……〃　〃　〃
三宮室町殖産ビル……〃　6　〃
東洋棉花KK本社社屋……〃　〃　〃

No.11　海外建築

a　海外作品・世界の建築

欧米旅行から拾う……岡橋作太郎…34　7　昭28
ローマ：美しき廃墟……徳永　正三…39　3　昭33
ヘルシンキ郊外：AALTO'Sアトリエ……〃　…〃　〃　〃
モスクワ：建築現場風景他……土田　光夫…〃　〃　〃
スツットガルト：ドイツの建築……棚橋　諒…〃　〃　〃
ウイン：ウイン旅日記より……小川　正…〃　〃　〃
ロンドン：Trinity Church……小田島兵吉…〃　〃　〃
フローレンス：Palazzo Pitti ……〃　…〃　〃　〃
デトロイト他：Grosse Pointe Public Library ……〃　…〃　〃　〃
リンカーン：グロピウス邸……伊藤　鉱一…〃　〃　〃
シカゴ他：Parking Garage・IIT 他……〃　…〃　〃　〃
ロサンゼルス他：House of Tomorrow他…六車　熙…〃　〃　〃
フェニックス郊外：ライトのアトリエ……内田　成之…〃　〃　〃
ニューヨーク・ダラス他：アメリカの印象…菅田　豊重…〃　〃　〃
メキシコ：メキシコの建築……東畑　謙三…〃　〃　〃
インド：古い建築と新しい建築……坂　静雄…〃　〃　〃
ボンベイ：Marine Driveway他……松本　宇一…〃　〃　〃

b　海外の建設工事

プラント建設輸出に関する諸問題……岡島　美行…41　5　昭35
海外建設の隘路……山崎　毅…〃　〃　〃
海外紡織工場の建設……元木　貞次…〃　〃　〃
ミクスタ製鉄所について……KK大阪建築事務所…〃　〃　〃
東パキスタン肥料工場附属火力発電所の建設工事について……垣内　泰雄…〃　〃　〃
アラスカ・パルプ工場の建設について……中村　留吉…〃　〃　〃
エジプト砂糖プラントに携って……吉田　洋二…〃　〃　〃
鼎談：沖縄における建設工事（出席者…松村　雄二・山本　義樹・畠山隆三郎）…〃　〃　〃
マレー連邦での手控えから……的場　浩…〃　〃　〃
イランの住宅建設……市浦　健…〃　〃　〃

No.12　保全・災害・防災

a　保　全

計画原論から見た保全について……前田　敏男…39　8　昭33
繰返し応用による構造物の保全について……海野　三蔵…〃　〃　〃
建築経済と保全—保全を中心としたビル管理者へのPR—……小林　清周…〃　〃　〃
ビル管理者への要望
　建物保全清掃について……関西建材協会建物保全部会…〃　〃　〃
　設備の寿命を延ばしたい……三村　胖…〃　〃　〃
ビル管理者より設計者・施工者への要望
　使う者の身になって物を考えてもらいたい……福山　竜雄…〃　〃　〃
　蛇　足……高橋　淡…〃　〃　〃
設計・施工・保守の不備による故障の実例とその対策
　1.　外装について……桑山　音吉…〃　〃　〃
　2.　内装について……北山二十三…〃　〃　〃
　3.　設備について……川口与四郎…〃　〃　〃
　4.　金物について……大塚　幸三…〃　〃　〃
公団アパートの維持管理と住い方……松下　勝副…〃　〃　〃

集　号　年

b 建物管理

保全管理（メーンテナンス）……小林　清周…43　2　昭37
管理費の算定基準について……藤森春太郎…〃　〃　〃
ビル管理会社のあり方……〃　…〃　〃　〃
ビルの管理のポイント
1. 自家用ビルの管理のポイント……古井　謙治…〃　〃　〃
2. 貸ビル経営管理の経験……大西喜代実…〃　〃　〃
大阪市内における主要ビルの設備ならびに管理の一覧表
（ビル管理アンケートを集計して）……〃　〃　〃
公団団地の管理について
（大団地管理の問題点）……関　正三郎…〃　〃　〃
地方公共団体の住宅団地管理……上村　俊弘…〃　〃　〃
「株式会社団地サービス」の設立とその事業内容
……林　良香…〃　〃　〃
住宅団地等の水道施設の水道技術管理者……石関　秀穂…〃　〃　〃
新らしいビル管理の問題点……小林　清周…46　9　昭40
オフィスビルのＩＬＯ条約……〃　…〃　〃　〃
ビル管理の仕様……榊　弘美…〃　〃　〃
建物のもつ外部空間の管理
座談会：新住友ビルの環境スペース・新大ビルの緑の屋上庭園……青井　義臣・藤田猪太郎…〃　〃　〃
建物の手入法（一覧表）……日建設計工務KK研究室編…〃　〃　〃
大阪市内における新らしい主要ビルの設備ならびに管理の一覧表（ビル管理アンケート）……〃　〃　〃

c 建築のライフ

ライフとは？—問題の提起—……浦辺鎮太郎…38　4　昭32
「ライフ」の古さと新しさ……島田　家弘…〃　〃　〃
ライトのいう建築のライフ……増田　友也…〃　〃　〃
耐久的消費材説について……足立　孝…〃　〃　〃
Air Conditioningのライフについて……畔柳健太郎…〃　〃　〃
衛生工事の耐用年数について……小川　誠耳…〃　〃　〃
電気工事のライフについて……白庄司秀三…〃　〃　〃
環境調整より見た建築のライフ……関西設備原論研究会…〃　〃　〃
スチールサッシュの耐久性について……斉藤　祐義…〃　〃　〃
アスファルト防水の耐久性……市川　良正…〃　〃　〃
鉄筋コンクリートの耐久性……谷口　尚武…〃　〃　〃
人造石について……伊藤　幸一…〃　〃　〃
アンケート（ライフのある建築について）……〃　〃　〃

d 災害・防災

福岡県の水害……宮脇　晴美…34　10-11　昭28
門司市の水禍……増井　敏克…〃　〃　〃
熊本県の被害と復興対策……板井　公威…〃　〃　〃
長崎県の地すべりと被害と対策……丹羽　漢吉…〃　〃　〃
九州の水害に直面して……松崎　甫…〃　〃　〃
和歌山県下の水害……和歌山県建築課…〃　〃　〃
気象，地質，生態，土木，建築，経済からみた水害，その被害原因と対策……（近畿各大学連合水害科学調査団調告書）…〃　〃　〃
農村住宅と水害……和歌山県農村部・崎山　福夫…〃　〃　〃
南近畿のコンクリートの水害調査
……大阪府技師・菅　良春…〃　〃　〃
南山城の水害とその対策…京都府建築課長・森口　清…〃　〃　〃
台風13号による大阪府下建築物被害……大阪府建築部…〃　〃　〃
和歌山県水害について……栗林かづま…〃　〃　〃
新中国の水利建設……M. M. 生…〃　〃　〃
オランダの堰堤，干拓地，洪水…ド・ワード　伊藤幸一訳…〃　〃　〃
水害の感想
水害について想う……鷲尾　健三…〃　〃　〃
水害に答えて……薄　胞月…〃　〃　〃
災害に思う……山内嘉兵衛…〃　〃　〃
九州の風水害に想う……岸川　康蔵…〃　〃　〃
木材入札に与えた影響……西田　亀次…〃　〃　〃
和歌山被災者は援助を求めています……野田　義夫…〃　〃　〃
建築家は保険の規則も識っているべきだ……中村　綱…35　1　昭29
スプリンクラーと建築火災の実験レポート…竹口　信夫…〃　2　〃
構造物に作用する風圧力に関する諸問題……石崎　滝雄…38　8　昭32
コ型ＰＬＡＮの鬼門（風と平面）……光安　義光…〃　〃　〃
消防局より建築家への忠告……空本　吉造…〃　〃　〃
建築物と排煙の問題……〃　…〃　〃　〃
火災保険料率規定について……中村　綱…38　8　昭32
根伐山留工事の災害防止としてのウエルポイント工法
……大阪建設業協会労務研究会…〃　〃　〃
足場によって生じる災害の防止について……〃　…〃　〃　〃
建設機械と災害について……〃　…〃　〃　〃
アメリカの建築工事安全規則について……五十嵐定義…〃　〃　〃
木造建築物の白蟻被害について……真宮　透…〃　〃　〃
大阪市内の老朽住宅とその現状……斧出　正隆…〃　〃　〃
電気と火災……黒本　勝夫…〃　〃　〃
スプリンクラーとドレンチャー……竹口　信夫…〃　〃　〃
国宝および重要文化財の防火措置の現状……大滝　正雄…〃　〃　〃
工事用の電源……中島　弘…〃　〃　〃
1.0より大きい風圧係数……石原　正雄…〃　〃　〃

e 消防火

消防水法規についての問答—これだけは聞いておきたい・知っておきたい……恩田　一則…44　2　昭38
消防用設備の今日の問題点……堀内　三郎…〃　〃　〃
屋内消火設備……谷川　丈夫…〃　〃　〃
新しい消火設備……酒井　一平…〃　〃　〃
火災報知設備……浅川広市郎…〃　〃　〃
排煙設備……川越　邦雄…〃　〃　〃
消火設備系統図（付　火災報知設備系統図）
1. 事務所建築の場合…大阪グリーンビル……〃　〃　〃
2. 病院の場合……住友病院……〃　〃　〃
3. 映画館の場合……梅田日活劇場……〃　〃　〃
4. 地下街の場合……梅田地下街……〃　〃　〃
構造上の失火原因について……空本　吉造…〃　〃　〃
日本の防火建築の思い出……亀井幸次郎…〃　〃　〃
建物構造と火災保険料率……賛川　善幸…〃　〃　〃

f 公害問題

公害の法的規制と大阪における公害問題の現状
……和田　孟子…43　10　昭37
建築工事における公害と防止について
……中出　定夫・北山二十三…〃　〃　〃
最近の公害問題をめぐって……東田　敏夫…〃　〃　〃
公害問題随感……川名吉衛門…〃　〃　〃
建築基準法と公害防止……山本　康雄…〃　〃　〃
騒音の公害防止と建築計画……前川　純一…〃　〃　〃
測定の立場からみた振動公害……鳥海　勲…〃　〃　〃
ガス，ふんじん，煤煙防止の問題点……田中良太郎…〃　〃　〃
巷の声（公害陳情）……〃　〃　〃
書評：私的企業と社会的費用（カップ著）
—現代資本主義における公害問題—……湯川　利和…〃　〃　〃
団地の害虫……石関　秀穂…〃　〃　〃
公害防止からみた将来の都市計画のビジョン
……川名吉衛門…47　12　昭41
用途地域制と公害問題……椚座　正信…〃　〃　〃
陳情公害と都市行政
—環境衛生監理員の立場から—……井上　勉…〃　〃　〃
地域開発計画と行政の立場からの公害問題…有本　淳一…〃　〃　〃
建築工事に伴なう公害クレーム（苦情）処理事例
アンケート回答一覧表……編集幹事会(原　桂一郎)…〃　〃　〃
大気腐食……中野　道雄…〃　〃　〃
煤煙問題と建築設備……岡市　甚市…〃　〃　〃
騒音公害とその実例……兵庫県営繕課…〃　〃　〃
公害防止の新らしい条例と法規……下中　融…〃　〃　〃

No.13　各種建築

a 地方都市・地方建築

戦前戦後の地方都市の様相……玉置豊次郎…39　12　昭33
地方都市における民衆駅……中島　政清…〃　〃　〃
中小都市における商店街……遠藤　繁儀…〃　〃　〃
公共建築の位置選定……中原　茂…〃　〃　〃
姫路民衆駅と駅前地下商店街……石見　元秀…〃　〃　〃
福山市の駅前広場と住宅地の復興……松本　房次…〃　〃　〃
大分市駅前広場……大分市計画課…〃　〃　〃

	集	号	年
大垣市商店街と住宅の計画と復興……関本　弥一…39	12		昭33
福井市の駅前広場・商店街・住宅地の計画と復興……〃	〃		〃
中小都市と建築についての二，三の問題……佐藤　重夫…40	12		昭34
北陸地方の建築上の諸問題……塩原　正典・寺井　俊夫…〃	〃		〃
福井地方における新建築の影響およびその批判と地方建築家の活動状況……伊藤　道夫・江上　外人…〃	〃		〃
福井市の都市計画について……永井　竜巳…〃	〃		〃
建築通信「その後の広島」……熊井　安義…〃	〃		〃
津山地方における農家住宅の研究……長尾　斉…〃	〃		〃
島根の古建築（主として大社造を中心として）……古川　潤…〃	〃		〃
道後温泉における公衆浴場建築物について…大野　勝国…〃	〃		〃
福岡地方建築家の活動……松田　昌平…〃	〃		〃

b　超　高　層　建　築

都市計画からみた超高層建築問題……中沢誠一郎…44	12		昭38
行政上からみた大阪市の超高層建築問題……越田　正勝…〃	〃		〃
大阪の地盤と超高層建築……小泉　昇…〃	〃		〃
超高層建築の経済性……塚本　猛次…〃	〃		〃
超高層建築と工期の問題……金多　潔…〃	〃		〃
高層ビルデザインのゆくえ……佐野　正一…〃	〃		〃
25階で火事がおきたら……恩田　一則…〃	〃		〃
空調衛生設備はどうなるか……大路清一郎…〃	〃		〃
エレベーターの考え方……岡崎　時夫…〃	〃		〃

c　学　校　建　築

学校建築の流れ……菅野　誠…40	5		昭34
教室の採光・色彩通風について……渡辺　久雄…〃	〃		〃
住宅団地の建築と学校施設について……薮内　幸雄…〃	〃		〃
小学校の配置形式とその動向……大阪市大鈴木研究室…〃	〃		〃

d　ホ　テ　ル　建　築

ホテル建築について……若山　麓…45	4		昭39
ホテル・マネージャーから……川名鍬次郎…〃	〃		〃
ホテル建築について……小倉　克巳…〃	〃		〃
ホテルについて……清水　一…〃	〃		〃
ホテルと建築……永井　賢城…〃	〃		〃
観光ホテル寸感……村田　政真…〃	〃		〃
ホテルの今後……滝浦　潤…〃	〃		〃
ホテル建築のコストのあり方……岩下　秀男…〃	〃		〃
公室スペースと客室スペース……大辻真喜夫…〃	〃		〃
客室のスペース……〃　…〃	〃		〃
客室の設備のあり方……桜井　満男…〃	〃		〃
フロントデスクの配置……小川　正…〃	〃		〃
フロント内部について……大辻真喜夫…〃	〃		〃
宴会場・集会室のあり方……吉家　光夫…〃	〃		〃
従業員スペース……大辻真喜夫…〃	〃		〃
新阪急ホテル……〃	〃		〃
ホテル・オータニ……〃	〃		〃

e　病院建築・医療施設

最近の医療施設について……吉武　泰水・伊藤　誠…40	10		昭34
これからの医療保健施設網（大住宅団地建設の場合の試案）……浦　良一…〃	〃		〃
看護単位の種類と大きさについて……伊藤　誠・栗原嘉一郎…〃	〃		〃
京都大学病院手術室特殊照明装置について…染田　武男…〃	〃		〃
大阪府成人病センターの構想について……安田　一男…〃	〃		〃
理学療法の施設について……霞末　正…〃	〃		〃
医者の立場より病院建築をみる			
1.　病院建築断想……三浦　百重…〃	〃		〃
2.　建築家・医者・病人……松田　道雄…〃	〃		〃
3.　現代日本の精神病院の特性……式場隆三郎…〃	〃		〃
4.　産科病棟について……足立　春雄…〃	〃		〃
5.　病院建築の将来を考えて現状の矛盾をつく……藤本　淳…〃	〃		〃
医療制度のあり方			
—日本と外国の医療制度のちがい—……吉田　幸雄…46	12		昭40
これからの病院建築のあり方……伊藤　誠…〃	〃		〃
大団地における医療施設網の計画について…栗原嘉一郎…〃	〃		〃
病院の空調設備のあり方……島田　和治…〃	〃		〃
より良き病院建築のために……柏原　良夫…46	12		昭40
日本の病院の現在と将来……柏木　大治…〃	〃		〃
最近の病院建築をみて……三島　甫…〃	〃		〃
看護管理からみた病院建築……増永　道子…〃	〃		〃
建築家の立場から……日建設計工務KK病院計画研究会…〃	〃		〃
官庁営繕の立場より……片山　光生…〃	〃		〃
愛知県がんセンター……〃	〃		〃
天理よろづ相談所（病院）……〃	〃		〃
富山県立中央病院……〃	〃		〃
国立姫路病院……〃	〃		〃
神戸労災病院……〃	〃		〃
和歌山労災病院……〃	〃		〃
大阪府立中宮精神病院……〃	〃		〃

f　工場建築・工場計画

欧米の製鉄工場見学の記……高橋　慶夫…35	3		昭29
紡績工場から合成繊維工場まで……浦辺鎮太郎…〃	〃		〃
紡績工場建築雑感……若木望太郎…〃	〃		〃
サイロについて—大阪製紛サイロ—……陶浪　貞彦…〃	〃		〃
神戸港第7突堤上屋倉庫建設工事について……東　寿・田賀　秀和…〃	〃		〃
大日本製糖株式会社堺工場設計者のことば…山口　文象…〃	〃		〃
建設工事施工面について……桑山　音吉…〃	〃		〃
「大関」醸造工場について……太田　達…〃	〃		〃
タイガー計算器株式会社大阪工場について…紺谷　繁信…〃	〃		〃
工場計画雑観……塚本　猛次…〃	〃		〃
資料　工場労務者のための福利施設…EDWARD D.MILLS　室井　修訳…〃	〃		〃
八幡製鉄戸畑工場の建設……海野　三蔵…40	8		昭34
第1部　八幡製鉄における第二次合理化のねらいと戸畑構想			
第2部　建設工事の概要			
第3部　設計規準および構造方針			
第4部　主要工場各論			
鋼管構造工場建家……高椋　正雄…〃	〃		〃
軽量形鋼でどこまで大きい工場を造り得るか……森田　康次…〃	〃		〃
関西電力大阪発電所……関電大阪火力建設所…〃	〃		〃
工場建築の諸問題……東畑　謙三…43	9		昭37
工場建築計画における建築家の参画問題……浦辺鎮太郎…〃	〃		〃
工場工期の問題点……篠田　駿二…〃	〃		〃
工場建築の構造……高橋　慶夫…〃	〃		〃
神戸製鋼所茨木工場……〃	〃		〃
住友機械大府工場……〃	〃		〃
久保田鉄工枚方機械工場……〃	〃		〃
中川電機藤沢工場……〃	〃		〃
住友電気工業横浜製作所通信ケーブル工場……〃	〃		〃
松下電器産業厨房器事業部ガス器具工場……〃	〃		〃
倉敷レイヨン中条工場……〃	〃		〃
ダイハツ工業池田第二工場……〃	〃		〃
ハリス小田原工場……〃	〃		〃
日糖飲料本社工場……〃	〃		〃
大阪市清掃局住吉工場……〃	〃		〃

g　児　童　福　祉　施　設

児童福祉施設について……岡村　重夫…41	12		昭35
問題をもつ児童に対する児童福祉施設の現状と今後……寺島　久男…〃	〃		〃
児童福祉施設の建築計画……島田　勝次…〃	〃		〃
兵庫県精神薄弱児施設の計画について……千葉　文雄・三川　栄吉…〃	〃		〃
茨木県立整肢療護園の計画について……野村　東太…〃	〃		〃
旭川荘の設計について……河合　三郎…〃	〃		〃
肢体不自由施設について……柏木　大治・横山　三郎…〃	〃		〃
子供の病院—ヘルシンキ—……栗原嘉一郎…〃	〃		〃
欧州の保育所視察記……西田　誠行…〃	〃		〃
児童福祉施設訪問記……島田　勝次…〃	〃		〃
旭川荘……〃	〃		〃
名張育生園……〃	〃		〃
国立秩父学園……〃	〃		〃
香川県ひかり整肢学園……〃	〃		〃
兵庫県整肢施設のじぎく園……〃	〃		〃

集　号　年

h　社会福祉施設

老人福祉における「施設」の意義……岡村　重夫…43　12　昭37
老人のすまいへの要望……栗原嘉一郎…〃　〃　〃
老人ホームの現況とその問題点……荒木兵一郎…〃　〃　〃
「有料老人ホーム現状調査」…山口　敬二・鈴木　良介…〃　〃　〃
団地保育所……湯川　聡子…〃　〃　〃
大阪市におけるスラム・クリアランス……柴田　善守…〃　〃　〃
労働者福祉施設について……田代　正尚…〃　〃　〃

i　住宅・アパート・団地

家庭台所のあり方……野田　義夫…34　2　昭28
ヨーロッパの住宅建設と戦災復興……尾崎　久助…〃　3　〃
戦後における住宅問題のうつりかわり……扇田　信…〃　8　〃
これでよいのか木造アパート・ラッシュ……越智　隆晴…〃　9　〃
生活の独立（アパートに住んで）……山内嘉兵衛…〃　〃　〃
浴衣と日本住宅……野沢幸三郎…〃　〃　〃
大阪府高層アパート計画……元吉勇太郎…36　3　昭30
代官山東急アパートの計画と経営……増田　誠一…〃　〃　〃
住宅団地と生活環境　特に大阪古市団地について
……日本建築協会　住宅委員会…〃　〃　〃
住宅の経営……政岡　基次…〃　〃　〃
公営住宅の家賃と建築費……住宅研究会…〃　〃　〃
台所設備と住居費……〃…〃　〃　〃
イギリスにおける住宅政策の成果……〃　〃　〃
建てよ殖せよ不燃住宅……諫早　信夫…37　3　昭31
老人アパートの問題……竹腰　健造…〃　〃　〃
甲東園一団地の住宅経営……鐘　勇一…〃　〃　〃
都心のアパート団地について……諫早　信夫…〃　7　〃
高層アパートの設計企画……〃…〃　〃　〃
都心の団地計画の特長と問題点……住宅委員会…〃　〃　〃
都心団地成立の史的根拠とその性格……中沢誠一郎…〃　〃　〃
大規模住宅団地の開発……西山　卯三・絹谷　裕規…〃　7　〃
市街地のアパート団地調査より……上林　博雄…〃　〃　〃
関西の住宅について—上野伊三郎氏と語る—
……伊藤　幸一・増田　友也…〃　8　〃
ローコスト住宅……日本建築協会住宅委員会…〃　〃　〃
関西の住宅に……清家　清…〃　〃　〃
「最小限住居」とはどんな意味があるか……丹下研究室…38　3　昭32
都市の住宅配分の問題……川名吉衛門…〃　〃　〃
住宅と生活意識……牛田尹久子…〃　〃　〃
あぱーと団地の景観……諫早　信夫…〃　〃　〃
住宅問題解決への段階……住宅委員会…〃　〃　〃
三田TOKYU-APARTMENTSの企画と経営について
……増田　誠一…〃　10　〃
横浜市内共同ビル群建設5年……石橋　逢吉…〃　〃　〃
金融公庫の中高層耐火建築物の融資について
……竹内佐平治…〃　〃　〃
住宅公団の市街地建設について……小西　嘉夫…〃　〃　〃
中高層建物への融資について……増井　敏克…〃　8　〃
住宅新（増）築に伴い賦課される税と保存登記の登録税について
……西嶋徳太郎…〃　10　〃
鹿児島での住宅……扇田　信…〃　〃　〃
一室住居論……清家　清…39　4　昭33
居住空間……平生　舜一…〃　〃　〃
寸法について……西沢　文隆…〃　〃　〃
勝手口不要論……光安　義光…〃　〃　〃
台所設備の配置……竹内　さく…〃　〃　〃
水洗便所……須賀　栄一…〃　〃　〃
住宅暖房……石原　正雄…〃　〃　〃
住宅内の空気衛生……花岡　利昌…〃　〃　〃
鉄筋アパートの音響……久我　新一…〃　〃　〃
住宅トピックス
　大宅・吉阪論争……足立　孝…〃　〃　〃
　最近の公団住宅……吉田　圭三…〃　〃　〃
町屋の変遷—とくに大阪の町屋の歴史私観—
……玉置豊次郎…47　1　昭41
都市住居の型—文化住宅・マンション・パンション・etc—
……野々村五四男…〃　〃　〃
大阪市内にある借家例について……政岡　基次…〃　〃　〃
建築行政と都市住居—行政側の意見を聞く—
……答える人：吉村　卯一…〃　〃　〃
都市環境と住居……石堂正三郎…47　1　昭41
今後の都市住居の方向—郊外社会の否定—…住田　昌二…〃　〃　〃
未来の都市住居……西沢　文隆…〃　〃　〃
住宅の建設資金……大橋　孝則…〃　〃　〃
「住宅よろず相談展」を開催して……住宅委員会…〃　〃　〃
福岡の市街地住宅2点……〃　〃　〃

j　プレハブ住宅

プレハブ住宅への期待……芦沢　達・森　克巳…45　2　昭39
プレハブ住宅の計画・事始め……光安　義光…〃　〃　〃
プレハブ住宅について……木戸口信義…〃　〃　〃
プレハブ住宅と建築部品の工業化について…松尾　彪…〃　〃　〃
プレハブ住宅の問題点……平松　重郎…〃　〃　〃
コンクリートプレハブ住宅の問題点……平野　忠雄…〃　〃　〃
コンクリートプレハブ住宅の昨今……堀江　夏彦…〃　〃　〃
プレファブ路線……田中　弘義…〃　〃　〃
プレハブ住宅についてのアンケート……〃　〃　〃
　西山　卯三・上林　博雄・清家　清
　鷲尾　健三・後藤　典夫・青樹　英次
　深尾　実郎・高田　威・浦辺鎮太郎
　山根正次郎・図師　嘉彦・今泉　善一
　岩下　久哉・中出　定夫・谷口　尚武
　斉藤　裕義・谷　軍三・竹中　寛次
　樋口　治・西尾　健・諫早　信夫
座談会：明日のプレハブをさぐる……〃　〃　〃
　菅野　久嗣・森岡　正・下河内信子
　中畑　恒・森脇　久嘉・東　孝光
　角橋　徹也・白砂　剛二・岩本　尚三
大和式プレハブシェル……森脇　久嘉…〃　〃　〃
テーパースチール建築……森田　康次…〃　〃　〃
ＥＬ工法……日本ドライヴィットKK…〃　〃　〃
３—Ｓプレハブ……KK大末組プレハブ部…〃　〃　〃
テイルトアップ工法……清水　吉盛…〃　〃　〃

No.14 開発・団地・都市計画等

a　アパート団地計画

香里ニュータウンの紹介……諫早　信夫…40　3　昭34
団地計画，当面する問題……絹谷　祐規…〃　〃　〃
住宅の多量建設を通じて……藤本　太郎…〃　〃　〃
大型プレキャストコンクリート組立建築……平賀　謙一…〃　〃　〃
ソ連のコンクリート組立住宅……市浦　健…〃　〃　〃
アパート家具あれこれ……西田　康治…〃　〃　〃
欧州のアパートについて……西嶋徳太郎…〃　〃　〃

b　宅地開発

農地問題と都市的土地利用計画……播磨　重男…43　11　昭37
住宅開発と近郊農業……鶴嶋　雪嶺…〃　〃　〃
農地—宅地問題：英国の場合（食料対住居）
……セルフ著　抄訳　湯川　利和…〃　〃　〃
＜用地取得方式＞まえがき……泉　資一郎…〃　〃　〃
1.　土地区画整理方式……瀬能　治郎…〃　〃　〃
2.　任意買収方式（私鉄の場合）……木梨　正夫…〃　〃　〃
3.　収用買収方式……原田　明治…〃　〃　〃
4.　還元方式……泉　資一郎…〃　〃　〃
宅地評価とその制度化について……木村　覚…〃　〃　〃
英国の都市開発における土地補償のうつり変り
……by Charles M. Haar 抄訳　廻　節男…〃　〃　〃
ゴネドクをどう考えるか……住田　昌二…〃　〃　〃
宅地開発と地方財政—枚方市の場合—……藤井　幸夫…〃　〃　〃
宅地開発と地方行政—労働者の立場から—…秋山　桓士…〃　〃　〃
法規解説
1.　宅地造成等規制法……立成　良三…〃　〃　〃
2.　新産業都市建設促進法……大阪府知事室…〃　〃　〃
3.　全国総合開発計画……大阪府知事室…〃　〃　〃
4.　近畿圏整備法立法化への動き……大阪府知事室…〃　〃　〃
宅地開発の現状と問題……足達富士夫…45　8　昭39
堺金岡東住宅地開発事業……立成　良三…〃　〃　〃
八幡・楠葉地区の開発……大久保昌一…〃　〃　〃

	集	号	年
神戸市の宅地開発事業……松本　幸憲…45	8		昭39
北須磨労働者住宅団地の開発—その基本的な考え方—			
……秋山　桓士…〃	〃		〃
民間宅地開発の実態……鶴嶋　雪嶺…〃	〃		〃
住宅地造成事業に関する法律の紹介……高橋　久栄…〃	〃		〃
傾斜地における宅造規制の問題点…神戸市土木局防災課…〃	〃		〃
地価安定についてのアンケート……〃	〃		〃
（清水馨八郎・中西　兵二・大森　通孝			
小谷　省三・佃　順蔵・柴田真一郎）			
大阪府住宅協会の設立について……泉　資一郎…〃	〃		〃
宅地開発ニュース……高橋　久栄…〃	〃		〃

c　中小企業団地

中小企業の近代化と団地化……庄谷　邦幸…46	11		昭40
中小企業（工場）団地と行政機関……山田　雅章…〃	〃		〃
中小企業団地計画・設計技術……水谷　頴介…〃	〃		〃
中小企業集団化移転と従業員宿舎の問題……三宅　醇…〃	〃		〃
清水焼団地……三輪　泰司…〃	〃		〃
大阪婦人子供服団地……大阪大学足立研究室…〃	〃		〃
久世工業団地……弘　照夫…〃	〃		〃
大阪金物問屋団地……三宅　醇…〃	〃		〃
ハリマ繊維センター……出田　肇…〃	〃		〃
和歌山木工団地……和歌山木工センター協同組合…〃	〃		〃

d　東京オリンピック競技施設

オリンピック施設について……角田　栄…45	9		昭39
東京都市計画とオリンピック……吉田　全弥…〃	〃		〃
競技施設……室橋正太郎…〃	〃		〃
（国立競技場・国立屋内総合競技場・同付属体育館・渋谷公会堂・駒沢陸上競技場・駒沢体育館・駒沢バレーボール場・駒沢球技場・朝霞射撃場・江の島ヨットハーバー・馬事公苑・日本武道館・相模湖漕艇場・戸田漕艇場）			
オリンピック競技施設の電気設備……高田　岬…〃	〃		〃
競技施設の機械設備……川口與四郎…〃	〃		〃
国立競技場の照明……田中　圭三…〃	〃		〃
オリンピック競技施設の照明について……伊東　孝…〃	〃		〃
オリンピックと電気通信……今井　一郎…〃	〃		〃
代々木選手村について……吉田　全弥…〃	〃		〃
オリンピックとホテル……林　幸二郎…〃	〃		〃
オリンピック大会に想う……大松　博文…〃	〃		〃

e　都市計画・公共住宅

都市計画から考えるスポーツ・センターについて			
……中沢誠一郎…34	5		昭28
田園都市から近隣計画まで……三輪　雅久…〃	8		〃
国土開発の変遷と見通し（その1　アメリカの部）			
……松井　光夫…〃	〃		〃
コアという考え方……高山　英華…35	9		昭29
古代ギリシャ都市のコア……森田　慶一…〃	〃		〃
わが国における Community 建設に関する課題			
……日笠　端…〃	〃		〃
大阪市改造計画の抱負……伊東　五郎…〃	〃		〃
大阪市上町改造計画試策……大阪市大中沢研究室…〃	〃		〃
大阪市の地域構成……吉田安三郎…〃	〃		〃
大阪における住宅地計画……西山　卯三…〃	〃		〃
30年後の大阪……中村　綱…〃	〃		〃
中小都市の都心の造成……楠瀬正太郎…〃	〃		〃
都心の設計実例について……秀島　乾…〃	〃		〃
海外都市計画紹介「パリー及びパリー圏」に関する研究報告書			
……吉阪　隆正…〃	〃		〃
アメリカの都市計画—特に都市再開発事業に関連して			
……本城　和彦…〃	〃		〃
ソ連都市の工業の配置と人口の配分について			
……高谷　義重…〃	〃		〃
芦屋高層都市の建設計画……船越　義房…36	3		昭30
大阪の市街地高度利用について			
……山田　忠顕・上野　正樹…40	6		昭34
大規模建築物を中心とした自動車の滞溜について			
……久保　晴茂…〃	〃		〃
大阪市の地盤沈下とその対策について			
……八木　健二・上村　正人…〃	〃		〃
大阪駅前改造計画について……堀　新次…〃	〃		〃
NEW TOWN —大阪の場合……前田　勇…〃	〃		〃
公共住宅15年が語ること……絹谷　裕規…41	11		昭35
公共住宅アンケート……〃	〃		〃
阪神都市圏開発計画研究報告			
……日本・国連合同阪神計画調査団…〃	〃		〃
阪神都市圏の開発に関する断想……中沢誠一郎…〃	4		〃
京阪神10年後の将来図……諫早　信夫…〃	〃		〃
神戸市における宅地造成の規制条例について			
……稲垣　茂樹…〃	〃		〃
神戸市における鴨甲山—団地の住宅経営計画について			
……稲垣　茂樹…〃	4		〃
災害予想地にひらくアパート住宅			
……金沢　弘真・にしだたかお…〃	〃		〃
近鉄の住宅地経営について……中沢　俊雄…〃	〃		〃
欧洲のアパート住宅……池田　宮彦…〃	〃		〃
大阪南船場問屋街地区改造の提案……藤田　邦昭…42	1		昭36
都市計画についてのイメージ—人物論を通じて—			
堀　新次氏……43	〃		昭37
藤田　邦昭氏……〃	〃		〃
絹谷　祐規氏……〃	〃		〃
小川　正氏・浦辺鎮太郎氏……〃	〃		〃
鈴木　洋也氏……〃	〃		〃
あたらしい都市づくりの組織を			
その1　地方自治体の開発組織……三村　浩史…〃	〃		〃
その2　市民組織……水谷　頴介…〃	〃		〃
その3　都市再開発……藤田　邦昭…〃	〃		〃
千里丘陵住宅地区開発……寺内　信…〃	〃		〃
大阪既製服縫製近代化協同組合枚方工場団地の計画			
……水谷　頴介…〃	〃		〃
大阪駅前市街改造事業について……長尾　正広…〃	〃		〃
高津台地区再開発計画……橋本　忠保…〃	〃		〃
彦根銀座街再開発計画……都市開発研究会…〃	4		〃
戦後におけるモスクワの都市計画と建築			
……抄訳　早川　和男…〃	1		〃
氾濫の都市（1）……セルフ著　抄訳　湯川　利和…〃	〃		〃
国際会議都市京都と国立京都国際会館……島村　忠男…47	6		昭41
都市再開発の現況と目標……高口　恭行…〃	11		〃
都市再開発手法としての市街地改造……山田　忠顕…〃	〃		〃
再開発建築施設の管理における問題……福原　裕治…〃	〃		〃
大阪市における市街地改造……沖　尚一…〃	〃		〃
神戸市における市街地改造事業……西村　賢進…〃	〃		〃
各地都市における市街地改造			
—その考え方と問題点と事業概要—……白国　高弘…〃	〃		〃
オランダ・ハーグにおける市街地改造計画…霜田　稔…〃	〃		〃

g　地　下　街

都市計画からみた地下街……谷　重幸…44	10		昭38
地下街計画のポイント—都市設計の課題をさぐる—			
……水谷　頴介…〃	〃		〃
地下街設備のキーポイント……路次　安彦・上杉　哲也…〃	〃		〃
地下街の構造について……長田　正雄…〃	〃		〃
地下街建設工法について……松本　澄…〃	〃		〃
地中街と建築マネージメントの問題……諸岡　博熊…〃	〃		〃
梅田地下街……西田　忠光…〃	〃		〃
神戸三宮地下街……森本　泰好…〃	〃		〃
名古屋地下街……水野　誠…〃	〃		〃
池袋地下道地下駐車場……小笠原正巳…〃	〃		〃
地下街とビルディング……田村　真二…47	2		昭41
道路管理と地下街……諸岡　博熊…〃	〃		〃
地下街と経営……小林　実…〃	〃		〃
地下街の内装計画……松田　昌久…〃	〃		〃
地下街設備の問題点……上杉　哲也…〃	〃		〃
新らしいスタイルの地下街			
—Santica Town のすべて—……森本　泰好…〃	〃		〃
名古屋地下街……名古屋地下街㈱…〃	〃		〃
横浜地下街（ダイヤモンド地下街）……駒田　順一…〃	〃		〃
ウメダ地下センター思いつくまま……西田　忠光…〃	〃		〃
中之島地下街……老田　茂…〃	〃		〃
生まれ出る〝堂島地下街〟……矢野　善雄…〃	〃		〃
地下街資料			
—道路占用による全国の地下街調—……〃	〃		〃

集　号　年

g 名　古　屋

とら群像……森川音三郎…43　3　昭37
伊勢湾台風と建築のその後……原　清…〃　〃　〃
特集・名古屋リポート―計画者の視角から―
1. 都市計画への註文がき　とくに名古屋の現在と将来のために
……はつとりちゆき…〃　〃　〃
2. 名古屋の土地利用計画……奥田　千蔵…〃　〃　〃
3. 名古屋の公共施設―水道事業―……松尾　博雄…〃　〃　〃
4. 地域計画と工場誘致……御船　哲…〃　〃　〃
5. ニュータウン開発をめぐって……若林　時郎…〃　〃　〃
6. 新しい計画の方法論を摸索する……長峯　晴夫…〃　〃　〃
トピックス
1. 名古屋の駐車場……水野　誠…〃　〃　〃
2. ACR & JAM ……広瀬　一良…〃　〃　〃
名古屋　座談会：街造りの現状と将来……〃　〃　〃
一円　俊郎・水野　金市・城戸　久
谷　重幸・宮本　良三・溝口　闇
三輪　恒・石原　厳・山根正次郎
片山　節義・山口喜代枝・浜田　瑞穂
宮地　二郎・相徳　定幸

h 阪神高速道速と近畿の開発

阪神高速道路を中心とした大阪の道路網計画
……毎度　好数…43　8　昭37
阪神高速道路と業務地域との結びつき
1案：スーパーブロック方式による都心再開発の要点
……秀島　乾…〃　〃　〃
2案：市街地と高速道路……竹中工務店設計部…〃　〃　〃
3案：大阪市内ハイウェイと業務地域の改造計画
……共同設計株式会社…〃　〃　〃
4案：商業地計画……ＲＩＡ建築綜合研究所大阪分室…〃　〃　〃
5案：阪神高速道路の建設に伴なう大阪業務センターの改造について……籔内　幸雄・湯川　利和…〃　〃　〃
阪神高速道路に思う……中沢誠一郎…〃　〃　〃
"住民のための計画" ……粂川　義男…〃　〃　〃
明石海峡のかけ橋……仲野　真夢…〃　〃　〃
神戸市背山総合開発計画……諸岡　博熊…〃　〃　〃
兵庫県綜合開発マップ―加古川河水統制を中心として―
……松宮　勝・大久保昌一…〃　〃　〃

i 社　会　開　発

"社会開発"について……前田　勇…46　6　昭40
社会開発批判……広原　盛明…〃　〃　〃
開発の態度―保存と開発に関連して―……扇田　信…〃　〃　〃
社会開発と環境計画……田村　明…〃　〃　〃
地方計画と社会開発……加藤　修吉…〃　〃　〃
コンビナート開発……谷沢　文男…〃　〃　〃
社会開発と住宅問題……西山　卯三…〃　〃　〃
社会開発と厚生施設……三輪　泰司…〃　〃　〃
都市近郊住宅地と通勤交通……天野　光三…〃　〃　〃
開発と文化財……浅野　清…〃　〃　〃
社会開発メモ……鎌田　恭男…〃　〃　〃
都市環境の水準と計画：Town Planning Institute の50周年記念会議について……加藤　邦男…〃　〃　〃

j 1970年万国博会場計画

万国博と建築……東畑　謙三…47　8　昭41
1970年万国博の会場計画……西山　卯三…〃　〃　〃
万国博会場計画における技術的諸問題……〃　〃　〃
上田　篤・三輪　泰司・高口　恭行
久谷　政樹・霜田　稔・藤原　昭
中村　輝子
1. 会場計画の方法とプロセス……〃　〃　〃
2. 万国博の機能……〃　〃　〃
3. 会場計画の考え方……〃　〃　〃
4. 建築条件の想定……〃　〃　〃
5. 地形と土地利用の現況……〃　〃　〃
6. 交通計画―アプローチ―……〃　〃　〃
7. 会場跡地の計画……〃　〃　〃

No.15　近　代　建　築

a 近　代　建　築　論

ワルテンシュプール「現代建築の諸相」
……藤本　康雄・相川　浩…41　10　昭35
P. Waltenspuhl「現代建築の諸相」を読んで
……森田　慶一…〃　〃　〃
建築三巨匠論……向井　正也…〃　〃　〃
現代にたいするライト建築の意味……樋口　清…〃　〃　〃
ミース・ファン・デル・ローエの二，三の作品について
……薬師寺　厚…〃　〃　〃
コルビュジェの変貌……西沢　文隆…〃　〃　〃
海外の近代建築アンケート
ケルン市庁舎……鈴木　洋也…〃　〃　〃
ストックホルム市庁舎……秀島　乾…〃　〃　〃
ウッパルタール市営浴場……坂　静雄…〃　〃　〃
マラカアナ・スタジアム……吉成　武…〃　〃　〃
アインドフェーン駅本屋……山崎　克…〃　〃　〃
Republic National Bank of Dallas …伊藤　鉱一…〃　〃　〃
レバーハウス……小川　正…〃　〃　〃
〃　……木村幸一郎…〃　〃　〃
〃　……東畑　謙三…〃　〃　〃
ピレリー・ビル……角田　栄…〃　〃　〃
〃　……山根正次郎…〃　〃　〃
〃　……永井　賢城…〃　〃　〃
〃　……池田　宮彦…〃　〃　〃
シーグラム・ビル……徳永　正三…〃　〃　〃
〃　……陶村　功…〃　〃　〃
ノートン・ビル……長谷川　大…〃　〃　〃
トレ・ベラスカ……黒川　紀章…〃　〃　〃
Manufacturers Trust Company……稲田　芳郎…〃　〃　〃
LORRAINE-ESCAUT ……稲垣　皎三…〃　〃　〃
ブラジル学生寮……近藤　正志…〃　〃　〃
ウェイン大学記念館……吉原慎一郎…〃　〃　〃
メキシコ大学構内の一群の建築……高田　秀三…〃　〃　〃
Administration Building（メキシコ大学）
……中村　功…〃　〃　〃
Chapel for M.I.T. ……桜井　清…〃　〃　〃
大学の礼拝堂（OTaniemi）……塚本　猛次…〃　〃　〃
ロンシャンの教会……前川　国雄…〃　〃　〃
バシリカ St. pie X……川崎　清…〃　〃　〃
サグラダ・ファミリア寺院……柳橋　諒…〃　〃　〃
明日の住宅（プラスチックスの住宅）……亀井　勇…〃　〃　〃
アルバ・アールトのアパート……大倉　三郎…〃　〃　〃
ベリンピのアパート……吉永　光夫…〃　〃　〃
オールボルグ市民会館……寺島　三雄…〃　〃　〃
パリユネスコ大会議場……村田　政真…〃　〃　〃
近代ヨーロッパの建築文化……大倉　三郎…〃　〃　〃

b 居　留　地　建　築

居留地建築特集号によせて……42　2　昭36
明治初期居留地……〃　〃　〃
明治中期居留地……〃　〃　〃
明治後期居留地……〃　〃　〃
小松益喜画伯の描いた明治12年ごろの神戸居留地……〃　〃　〃
バーナードの描ける神戸居留地風景……〃　〃　〃
小松益喜画伯の描いた居留地洋館および山手洋館……〃　〃　〃
山手に現存する木造洋館……〃　〃　〃
川口居留地の沿革……林野　全孝…〃　〃　〃
神戸における洋館建築の特色とその変遷
―居留地を中心として―……坂本勝比古…〃　〃　〃
欧米木造技法の伝統と神戸の木造洋館……桐敷真次郎…〃　〃　〃
神戸の洋館と「外国造」……稲垣　栄三…〃　〃　〃
居留地と神戸……島田　勝次…〃　〃　〃

c 近代建築調査委員会報告

近代建築調査報告序言……滝沢　真弓…41　1　昭35
1. 泉布観……〃　〃　〃
2. 日本生命保険株式会社の旧館建築……堀口　捨己…〃　2　〃

		集	号	年
3.	宝山寺客殿（獅子閣）……近藤　豊	41	3	昭35
4.	奈良国立博物館……林野　全孝	〃	4	〃
5.	株式会社江商神戸支店……坂本勝比古	〃	5	〃
6.	初代・二代目大阪駅　付・三菱倉庫……波江貞夫他	〃	6	〃
7.	京都銀行本店（元京都高島屋）……鷲尾　九郎	〃	7	〃
8.	八角議事堂（初代の兵庫県会議事堂）…滝沢　真弓	〃	8	〃
9.	大阪府立図書館……林野　全孝	〃	9	〃
10.	同志社の明治建築……近藤　豊	〃	10	〃
11.	第一銀行京都支店本館建築……牧野　忠	〃	11	〃
12.	同和火災海上保険KK……竹中工務店名古屋支店	〃	12	〃
13.	異人館……大石　健次	42	1	昭36
14.	居留地建築特集……	〃	2	〃
15.	新島旧邸……近藤　豊	〃	3	〃
16.	三重県庁舎……近藤　豊・林野　全孝	〃	4	〃
17.	オリエンタルホテル……坂本勝比古	〃	6	〃
18.	日本銀行大阪支店……林野　全孝	〃	6	〃
19.	京都国立博物館……近藤　豊	〃	7	〃
20.	三菱銀行神戸西支店……坂本勝比古	〃	8	〃
20.	三菱銀行大阪支店……林野　全孝	〃	8	〃
21.	奈良県庁本館・奈良国立文化財研究所・奈良ホテル……浅野　清	〃	9	〃
22.	兵庫県・旧庁舎……滝沢　真弓	〃	10	〃
23.	京都ハリストス正教会聖堂……近藤　豊	〃	11	〃
24.	明治高楼建築……林野　全孝	〃	12	〃
25.	龍谷大学本部の諸建築……近藤　豊	43	1	昭37
26.	富士銀行大阪支店と製鉄化学株式会社…林野　全孝	〃	2	〃
27.	神戸地方裁判所……坂本勝比古	〃	3	〃
28.	コンドル博士関係の図面（その1）……近藤　豊	〃	4	〃
29.	〃（その2）……〃	〃	5	〃
30.	旧武藤山治氏邸……坂本勝比古	〃	6	〃
31.	聖ヨハネ教会……近藤　豊	〃	7	〃
32.	大阪帝国座……林野　全孝	〃	8	〃
33.	尾山神社神門……近藤　豊	〃	9	〃
34.	旧神戸市役所庁舎……坂本勝比古	〃	10	〃
35.	京都市の明治初期小学校—講堂を中心に—……近藤　豊	〃	11	〃
36.	毛馬閘門と洗堰……林野　全孝	〃	12	〃
37.	辰馬力氏　本宅……坂本勝比古	44	1	昭38
38.	金沢大学理学部本館（旧四高）と熊本大学法学部本館（旧五高）……近藤　豊	〃	2	〃
39.	明治生命保険相互会社大阪総局……林野　全孝	〃	3	〃
40.	旧長浜駅駅舎……近藤　豊	〃	4	〃
41.	京都府庁庁舎（本館）……〃	〃	5	〃
42.	京都・河原町カトリック教会（天主堂）……〃	〃	6	〃
43.	旧三十四国立銀行……林野　全孝	〃	7	〃
44.	日本天主公教下山手教会聖堂……坂本勝比古	〃	8	〃
45.	京都府立医科大学附属病院本館……近藤　豊	〃	9	〃
46.	浄土真宗本願寺派兵庫別院……坂本勝比古	〃	10	〃
47.	京都・中京郵便局庁舎（本館）……近藤　豊	〃	11	〃
48.	柳原学校旧校舎……〃	〃	12	〃
49.	朝日新聞大阪本社……林野　全孝	45	1	昭39
50.	天鏡閣と白石公民館……〃	〃	2	〃
51.	山形県田川地方事務所庁舎・荘内文化会館……近藤　豊	〃	3	〃
52.	山形市立病院済生館……〃	〃	4	〃
53.	柏原高校記念館と柏陵会館……林野　全孝	〃	5	〃
54.	鹿児島と山形の刑務所……近藤　豊	〃	6	〃
55.	佐賀県の明治建築……林野　全孝	〃	7	〃
56.	国鉄二条駅と同福島駅駅舎……近藤　豊	〃	8	〃
57.	仁風閣と興雲閣……〃	〃	9	〃
58.	大阪湾に臨む明治期の洋式灯台……坂本勝比古	〃	10	〃
59.	細部特集　1. 各種の返景……近藤　豊 2. 階段廻りと手摺	〃	11	〃
60.	細部特集　3. 柱……〃	〃	12	〃
61.	細部特集　4. 手摺　5. 天井……〃	〃	46	1	昭40
62.	（終）細部特集　6. 小屋組・窓，扉金具 7. 壁隅の手法・扉・切妻……〃	〃	2	〃
近代建築調査委員会発表建造物・件名目録……		〃	〃	〃

第 5 部 門

No.16 作家・作家論・評伝

a 作家論・評伝

建築家と環境……グロピウス	35	10	昭29
東京におけるグロピウス……野生司義章	〃	〃	〃
近畿地方におけるグロピウス—その日日の足どりについて—……川上　貢	〃	〃	〃
グロピウス氏と遊んだ話……白石　博三	〃	〃	〃
中国地方でのグロピウス……佐藤　重夫	〃	〃	〃
ドイツ時代のグロピウス……蔵田　周忠	〃	〃	〃
紫煙室・倉敷のグロピウス教授……浦辺鎮太郎	〃	〃	〃
村野藤吾評伝（作品）そごう茶室・広島世界平和記念聖堂……	36	7	昭30
Murano Togo, Architect ……	〃	〃	〃
前川国男評伝（作品）神奈川県立図書館・音楽堂……	〃	〃	〃
Maekawa Kunio, Architect ……	〃	〃	〃
安井武雄作品……	〃	8	〃
安井君の想い出……波江　悌夫	〃	〃	〃
安井君……長谷部鋭吉	〃	〃	〃
安井先生……村野　藤吾	〃	〃	〃
安井先生追想……川村種三郎	〃	〃	〃

b 竹腰健造特集

竹腰健造エッチング　1915〜17……	40	1	昭34
竹腰健造作品　戦前：大阪証券取引所ほか 戦後：聖心女子大学ほか……	〃	〃	〃
回顧五十年……竹腰　健造	〃	〃	〃
近代建築偶感……竹腰健造講演 —昭和31年2月22日・大阪倶楽部講演転載—	〃	〃	〃
竹腰健造氏を語る（順不同）			
竹腰さんを語る……山本為三郎	〃	〃	〃
竹腰君を語る……川田　順	〃	〃	〃
竹腰健造への期待……藤村　朗	〃	〃	〃
竹腰さんの功績……波江　悌夫	〃	〃	〃
竹腰健造君を語る……西村　好時	〃	〃	〃
竹腰君と私……山下　寿郎	〃	〃	〃
竹腰先生の古い思い出……中沢誠一郎	〃	〃	〃
竹腰先生……東畑　謙三	〃	〃	〃
竹腰先生と京都大学……棚橋　諒	〃	〃	〃
竹腰先生に望みたいこと……河津喜之助	〃	〃	〃
旅の思い出……池田　宮彦	〃	〃	〃
竹腰さんの一断面……田路　舜哉	〃	〃	〃
時間・空間・建築家……浦辺鎮太郎	〃	〃	〃

c 長谷部鋭吉特集

長谷部鋭吉氏をしのぶ……竹腰　健造	42	3	昭36
作品・戦前の部……	〃	〃	〃
作品・戦後の部……	〃	〃	〃
インナーデザイン・スケッチ……	〃	〃	〃
南画・油絵……	〃	〃	〃
追悼歌……住友吉左衛門	〃	〃	〃
昇天・その姿……山本　五郎	〃	〃	〃
長谷部君を追想して……薬師寺主計	〃	〃	〃
「忘れられない人」長谷部鋭吉さん……波江　悌夫	〃	〃	〃
長谷部さんの思い出……鮎川　義介	〃	〃	〃
長谷部鋭吉君をおもう……置塩　章	〃	〃	〃
暁雪君の思い出……鳥山　嶺雪	〃	〃	〃
長谷部サンの思い出……大島　重義	〃	〃	〃
思い出づるままに……水野鵬之助	〃	〃	〃
建築芸術家としての長谷部さんとカトリック……森井　健介	〃	〃	〃
長谷部先生の思い出……佐藤　秀三	〃	〃	〃
建築装飾においての示針とその指導性……奥田　勝	〃	〃	〃
メガネの伯父さん……大沢　昌助	〃	〃	〃
晩年の長谷部先生のプロフィル……尾崎　久助	〃	〃	〃
長谷部先生と私……伊藤　鉱一	〃	〃	〃
長谷部を追想して……塚本　猛次	〃	〃	〃

集　号　年

d 尾崎久助特集

巻頭言……東畑　謙三…46　1　昭40
尾崎久助略歴……〃　〃　〃
建築作品……〃　〃　〃
絵・短歌……〃　〃　〃
回顧録……尾崎　久助…〃　〃　〃
余　技……尾崎　志ん…〃　〃　〃
尾崎久助氏を語る
尾崎久助氏を語る……内藤　多仲…〃　〃　〃
尾崎君を語る……竹腰　健造…〃　〃　〃
尾崎さんと絵……鈴木　剛…〃　〃　〃
尾崎君を語る……岡野　清豪…〃　〃　〃
尾崎久助君を語る……新居善太郎…〃　〃　〃
尾崎さんのイメージ……山田　久就…〃　〃　〃
尾崎君を語る……黒崎　幹男…〃　〃　〃
尾崎久助さん……伊藤　鉱一…〃　〃　〃
尾崎久助先生と私……横山　不学…〃　〃　〃
尾崎さんの短歌……佐佐木由幾…〃　〃　〃
元気な頃の尾崎さん……福田　佳雄…〃　〃　〃
尾崎先生……岡橋作太郎…〃　〃　〃
父……尾崎　嘉文…〃　〃　〃
尾崎久助君を囲む座談会―大学の同期生が語る学生時代・卒業後・友達のこと―
尾崎　久助・黒崎　幹男・森田　慶一
中沢誠一郎・滝沢　真弓・政岡　基次
片山　光生・生方　文次……〃　〃　〃
尾崎久助著作目録……〃　〃　〃
尾崎久助雑誌掲載論文の内容梗概……〃　〃　〃

e 青年建築家

中村　綱　青年建築家特集号に寄せて……35　6　昭29
浦辺鎮太郎　青年建築家への挨拶……〃　〃　〃
富家　宏泰　祇園富美代・旅館大文字家……〃　〃　〃
坂田　美郎　岐阜県立岐阜高等学校，（論説）機能主義という護符……〃　〃　〃
今西　茂雄　尼崎文化会館計画案・千草グリル・他……〃　〃　〃
（感想）建築開眼
三田　一男　古賀の井旅館・他……〃　〃　〃
渡辺禎巳，外2名　相生住宅（説明）相生住宅について…〃　〃　〃
森下　裕良　帝国人絹株式会社名古屋工場講堂……〃　〃　〃
（論説）建築に於ける構想力について
平生　舜一　丸善石油肥後橋給油所・他……〃　〃　〃
（説説）無窓人工環境の事務所建築の可能性
長谷川元耶・吉田隆一　N社甲子園寮・他……〃　〃　〃
（感想）感ありとせば
松村　慶三　倉敷レイヨン西条病院……〃　〃　〃
（感想）四つの断想……〃　〃　〃
稲葉　歳明　羽衣展示住宅・芦屋Y氏邸……〃　〃　〃
（説明）住宅二題
片山　光生　関西労災病院(説明)関西労災病院に関係して〃　〃　〃
宮武　保義　ロピテル（熱海病院ホテル計画案）……〃　〃　〃
（説明）ロピテルについて
小林　章　（論説）新しい世代の為に……〃　〃　〃
近藤　正志（感想）懐疑……〃　〃　〃
太田伝一郎……〃　〃　〃
鈴木　英夫　甲南高校校舎・甲友会館……36　6　昭30
梅田　孝治　伊丹基地士官クラブ・他……〃　〃　〃
浜田　和夫　神戸石屋川独身寮・他……〃　〃　〃
富田三樹夫　与多呂本店・他6点……〃　〃　〃
薬袋　公明　府中市庁舎・F邸・他……〃　〃　〃
佐久間　宏　O氏邸……〃　〃　〃
高橋　則夫　石原産業四日市工場・塩沢共同住宅……〃　〃　〃
栄木　一成　姫路発電所……〃　〃　〃
加藤　啓治　大沢商会名古屋支店……〃　〃　〃
住田栄次郎　M会館……37　6　昭31
石中　達夫　伊藤忠商事KK第二浦和荘……〃　〃　〃
井上　滉　大阪港湾病院……〃　〃　〃
島村　隆次　東天閣……〃　〃　〃
小西　敏哲　愛媛労災病院・他……〃　〃　〃
八木　彰　岡山労災病院・他……〃　〃　〃
吉岡　吉雄　帝人松山工場クラブハウス……〃　〃　〃
内藤　薫男　ウエスト電気KK大阪工場……37　6　昭31
倉石　秀夫　宝塚映画撮影所……〃　〃　〃
力武　利夫　東燃工業KK和歌山工場ハイドロフオミング装置・他……〃　〃　〃
市川　宏　富士写真フィルム研究所……38　6　昭32
三川　栄吉　灘高等学校記念館……〃　〃　〃
山本　智雄　三菱石油給油所3点……〃　〃　〃
陶村　功　興服産業株式会社大阪支店……〃　〃　〃
北田　正利　神戸大映……〃　〃　〃
山本　俊介　播磨造船所相生工場綜合事務所……〃　〃　〃
宮川　達郎　広島県庁議事堂・坂出市庁舎・他……〃　〃　〃
松浦　直一・鍛治　延男　びわ湖観光センター（仮称）…〃　〃　〃
TDグループ　共同施設を中心にして棟の群構成を追求した団地計画案……〃　〃　〃
後藤　攝二　小時計店試案……〃　〃　〃
北村　隆夫　コマ劇場機構設計のアレンジをして……〃　〃　〃
竹原　義昭　設備工事を担当して……〃　〃　〃
坂本勝比古　不安感論争が導くもの―構造とデザインと―……〃　〃　〃
外山　毅　瀬戸市庁舎……39　7　昭33
小西吉太郎　庄原市庁舎……〃　〃　〃
若槻　健一　広島地方合同庁舎……〃　〃　〃
内藤　一真　大阪府警察本部庁舎……〃　〃　〃
根津耕一郎　トロント市庁舎競技設計案・他……〃　〃　〃
山本　竜輔・下山　柾和　神戸税関中埠頭出張所……〃　〃　〃
田中　孝男　住友電気工業㈱仁川独身寮……〃　〃　〃
横井　良一　T社単身寮・他……〃　〃　〃
木内　新弥　郵政局33年度2号・1号宿舎・他……〃　〃　〃
和田　保　私のすまい……〃　〃　〃
田村　敏夫　公団旭ケ丘団地570-5N-2DK……〃　〃　〃
森本　光雄　日立造船㈱外人監視員宿舎……〃　〃　〃
大辻真喜夫　新朝日ビルホテル・他……〃　〃　〃
奥山　勝　淡路シネマ・他……〃　〃　〃
木村　康彦　大阪東映会館計画・他……〃　〃　〃
宮本千賀志　千日前日活劇場・他……〃　〃　〃
山田　篤　富士電機ショールーム・他……〃　〃　〃
柏原　博　HOSHO BUILDING計画……〃　〃　〃
井関　幹雄　ヤマトシャツ株式会社……〃　〃　〃
松井　香路　新光印刷株式会社・他……〃　〃　〃
多田　英之　新居浜火力発電所計画・他……〃　〃　〃
日高　輝雄　松下電器産業三国工場……〃　〃　〃
池田彰一郎　広畑製鉄所広巾厚板工場……〃　〃　〃
池田　武彦　中米サルバドルの紡線工場……〃　〃　〃
猪沢　徳忠　播磨工業用水送水場・他……〃　〃　〃
江川　好巳　名古屋学院クライン・メモリアル・チャペル〃　〃　〃
舟橋　厳　ダイハツ工業㈱池田工場展示場……〃　〃　〃
山本　純孝　山陽電鉄須磨浦展望閣・他……〃　〃　〃
武藤　倫男　倉敷市立西小学校本館……〃　〃　〃
上村一・蓮仏享・吉野正治　東部労働会館他・新しい建築創造の場として……〃　〃　〃
金沢　弘真　技術の新しい型……〃　〃　〃
山田　勝成　県立医大付属病院内科病棟……40　7　昭34
井上　凱敬　某県立中央病院……〃　〃　〃
片倉　健雄・斉藤　三郎　枚方市庁舎・他……〃　〃　〃
小坂　隆次　生野区役所・他……〃　〃　〃
上田　稔　大阪市立大学総合計画……〃　〃　〃
大海　一雄　神戸市外国語大学図書館……〃　〃　〃
岡　浩三　大阪府立八尾高校図書館……〃　〃　〃
坂内　幾男　大阪商業高等学校……〃　〃　〃
橋本　喬行　大阪国際貿易センター……〃　〃　〃
中野　孝治　大阪瓦斯KK芦屋出張所……〃　〃　〃
中村銀之助　日本発送KK大阪支店・他……〃　〃　〃
朝野　博文　王竜寺ゴルフ場クラブハウス……〃　〃　〃
辻本　豊　築地遊技センター・他……〃　〃　〃
田村　又夫　唐橋寮……〃　〃　〃
常石　勝世　大和証券KK豊中寮……〃　〃　〃
喜多村幸夫　大阪郵政局吹田垂水宿舎……〃　〃　〃
工藤　隆昭　白藤証券室見独身寮・他……〃　〃　〃
清水　一造　公団住宅旭ケ丘団地……〃　〃　〃
三村　浩史　日和山観光センター計画……〃　〃　〃
竹本　昭三　中央館盛岡松竹……〃　〃　〃
大津　昭義　K社T研究所・K社S工場……〃　〃　〃

		集	号	年
中路　邦久	KK金門製作所大阪支店	40	7	昭34
木田　幸夫	日本生命保険相互会社南館（構造）	〃	〃	〃
林　高明	中国電力KK坂火力発電所	〃	〃	〃
森谷　晋作	西脇公共職業安定所	41	7	昭35
宮崎　君治	ダイハツ工業池田工場研究所	〃	〃	〃
和田　晋作	大阪厚生会館	〃	〃	〃
尾本　茂	姫路球場スタンド	〃	〃	〃
南上　晃	Y製鉄所第二分館	〃	〃	〃
山田新治郎	御所市庁舎	〃	〃	〃
川辺　真	豊川市民病院	〃	〃	〃
松原　孝史	日立造船株式会社因島病院	〃	〃	〃
山田貞次郎	大阪大学文・法・経済学部本館	〃	〃	〃
今井　孝達	神山小学校	〃	〃	〃
後藤　直信	大阪変圧器KK事務所	〃	〃	〃
青木　茂	日立製作所石橋独身寮	〃	〃	〃
平田　宣広	野村証券KK名古屋独身寮	〃	〃	〃
寺谷　敏行	芦屋ユースホステル	〃	〃	〃
吉岡　凡夫	攝泉荘	〃	〃	〃
大国　豊悦	公団住宅春日丘団地	〃	〃	〃
大塚　仁志	王子製紙春日井工場・他	〃	〃	〃
山口　治男	富士製鉄広畑製鉄所ＤＬ焼結工場	〃	〃	〃
大倉　秀明	公団住宅東舞子団地・総持寺団地	42	7	昭36
岡部　幸蔵	名古屋空港ビル・ＣＢＣ会館	〃	〃	〃
尾路　義一	帝人松山工場体育館	〃	〃	〃
柴田　勝之	大阪府立阪南高校・上野市公民館	〃	〃	〃
白井　剛	京都市鳥羽下水処理場	〃	〃	〃
高田　威	大和銀行吹田片山寮	〃	〃	〃
鶴田　昭一	吹田市公民館・他	〃	〃	〃
東内　敏	関西ペイント東京工場事務所・他	〃	〃	〃
中島　克巳	野村証券吉祥寺支店・横浜中村ビル	〃	〃	〃
西田　芳弘	花王石鹸KK和歌山工場	〃	〃	〃
長谷部朔郎	住友商事御影住宅地	〃	〃	〃
福井　弘明	松下電器産業KK仙台営業所・他	〃	〃	〃
堀　照男	淡路ユースホテル	〃	〃	〃
松村　健次	能勢カントリークラブクラブハウス	〃	〃	〃
宮崎　八郎	西田辺独身者住区７号館・他	〃	〃	〃
米井　顕一	富士鉄広畑健康保険組合体育館	〃	〃	〃
満野　久	須磨女子学園	43	7	昭37
高田　十治	東海銀行本店・ＣＢＣ会館・他	〃	〃	〃
山田　英夫	熊本東宝会館	〃	〃	〃
倉田　茂二	梅若能楽学院	〃	〃	〃
高原　稔也	福助足袋KK大阪支店・農民憩の家	〃	〃	〃
伊丹　孝	三菱アセテート富山工場事務所・他	〃	〃	〃
神出津嶺雄	大阪府議会会館	〃	〃	〃
山本　正和	大阪府科学教育センター	〃	〃	〃
山形　勝久	大阪大学講堂及本部	〃	〃	〃
松下濤一郎	神戸大学工学部	〃	〃	〃
小島　将志	BELGIAN CONGO CULTURAL CENTER 計画	〃	〃	〃
檜山　吉平	野々上小・中学校設計計画	〃	〃	〃
若野　暢三	宝酒造KK京都工場ビヤホール・他	〃	〃	〃
高武　主計	KK高島屋工作所福岡工場・他	〃	〃	〃
徳岡　昌克	大和銀行茨木寮・他	〃	〃	〃
泉沢　哲史	大日本化成玖波団地クラブハウス・他	〃	〃	〃
紙野　桂人	大島邸・米田邸・種谷邸	〃	〃	〃
木原　仁男	阪南市街地施設付住宅　Ⅱ	〃	〃	〃
西田　隆雄	仁川団地・東豊中団地	〃	〃	〃
若林　時郎	高蔵寺ニュータウン計画	〃	〃	〃
浅野　雅彦	塩野義製薬研究所・仁木邸	44	7	昭38
伊東　哲郎	松下電器産業新中央研究所他・	〃	〃	〃
尾崎　勝弘	広島グランドホテル	〃	〃	〃
金本　賢治	浜甲子園団地センター施設・他	〃	〃	〃
喜多　英介	大阪府軽費老人ホーム・他	〃	〃	〃
北野　正志	京都府立総合資料館	〃	〃	〃
小嶋　宏	大阪高等技術研修所・他	〃	〃	〃
芝淵　荘夫	浜甲子園団地マスタープラン	〃	〃	〃
鋤納　忠治	東海テレビ放送本社屋	〃	〃	〃
野村　輝雄	辰巳ビルディング	〃	〃	〃
畑　利一	大阪労災病院	〃	〃	〃
原納　藤一	大阪薬業健保センター	〃	〃	〃
溝田　幸男	日本カーボンKK富山工場	〃	〃	〃
宮川　吉夫・信川　好弘	県立尼崎病院	44	7	昭38
宮本　孝一	相愛学園本館	〃	〃	〃
村岡　実	上福田農協会館	〃	〃	〃
横山　誠一	野村証券神戸明生寮・他	〃	〃	〃
東　孝光	大阪府阪南高校・枚岡市庁舎	45	7	昭39
上田　宏二	大阪府立大学体育館・他	〃	〃	〃
牛山　勉	くらし展モデルハウス・Y氏邸	〃	〃	〃
瓜本　信之	幹線京都駅	〃	〃	〃
小川　博三	千里丘陵北地区中学校	〃	〃	〃
紙　克行	神戸銀行蒲田支店・他	〃	〃	〃
亀田喜世子	牲川邸・住友信託売布泉ケ丘モデル住宅	〃	〃	〃
久保田哲雄	大和銀行虎の門ビル	〃	〃	〃
小林　昭夫	旭洋ビル・ナショナルプレハブ住宅	〃	〃	〃
高松　恭一	四日市市民ホール・他	〃	〃	〃
竹村　吉高	大阪証券会館	〃	〃	〃
西村　正邦	建設省共済組合京都宿泊所「平安房」	〃	〃	〃
畑　靖夫	新船場ビル・平和ビル	〃	〃	〃
前田　紹郎	千里津雲台団地設計	〃	〃	〃
山田　耕蔵	府立箕面高等学校	〃	〃	〃
西村源之助	播磨カントリークラブハウス・他	46	7	昭40
広瀬　二郎	神戸ポートタワー・神戸市相楽園会館	〃	〃	〃
出江　寛	大阪市教職員互助会館・他	〃	〃	〃
増田　和彦	塩野義製薬吹田オフイス・他	〃	〃	〃
鈴木　幹司	高知商工福祉会館	〃	〃	〃
樋口　元一	大林組本店西館	〃	〃	〃
園　章	立命館大学衣笠学舎・他	〃	〃	〃
針崎　権蔵	福井村田製作所・他	〃	〃	〃
池田　博	阪南団地・逆瀬川団地	〃	〃	〃
能勢　次郎	大分生態水族館・他	〃	〃	〃
松下　徳義	協和銀行研修会・他	〃	〃	〃
土井　崇司	N市立工業高校計画案・他	〃	〃	〃
恒成　恒	大阪府水上警察署庁舎	〃	〃	〃
山川　忠良	四国地方建設局庁舎	〃	〃	〃
大谷　竜起	奈良女子大学文学部付属小学校	〃	〃	〃
今倉　邦彦	上飯田公団アパート	47	7	昭41
小野　栄士	大阪府立豊中勤労青少年ホーム	〃	〃	〃
大西　孝夫	H邸	〃	〃	〃
岡崎　甚幸	有馬温泉再開発計画セントルイス再開発計画	〃	〃	〃
奥田　実	総社の家	〃	〃	〃
亀田　正也	日本板硝子千葉工場荷造工場製品倉庫・他	〃	〃	〃
今野　利直	大阪ロイヤルホテル・大阪薬業会館	〃	〃	〃
坂本　勉	大阪府陸運事務所・三国税務署	〃	〃	〃
白井　義惟	千里Ｅ住区高層住宅	〃	〃	〃
田中　雅俊	滋賀日日新聞本社・大森病院	〃	〃	〃
恒川　弘	小牧市庁舎	〃	〃	〃
中島　忠義	イケマンビル大和銀行神戸ビル	〃	〃	〃
畑中　成雄	蜂の巣寮（佐々木工業独身寮・他）	〃	〃	〃
吉田　千秋	広島民衆駅・天王寺民衆・他	〃	〃	〃

No.17　職人・新らしい技能工シリーズ

a　職人シリーズ

職人シリーズの企画にあたって	大久保昌一	44	1	昭38
第１回・蒿職（桜井　一雄氏）	〃	〃	〃	〃
第２回・左官（打木　鶴市氏）	篠田　駿二	〃	2	〃
第３回・庭師（石田幸太郎氏）	大久保昌一	〃	3	〃
第４回・数寄屋師（笛吹嘉一郎氏）	中村　昌生	〃	4	〃
第５回・石工（鳴坂　忠雄氏）	泉沢　哲史	〃	5	〃
第６回・ステンドグラス師（羽淵　紅洲氏）	森　正信	〃	6	〃
第７回・窯業技師（奥田　実氏）―信楽ルポ―	大久保昌一	〃	7	〃
第８回・ビル大工（稲森　稔氏）	篠田　駿二	〃	8	〃
第９回・配管工（有本　達雄氏）	宮脇　毅	〃	9	〃
第10回・アスファルト工（山本　重平氏・大下　治氏）	鬼頭　寿郎	〃	10	〃
第11回・塗装工（秋山　沢市氏）	篠田　駿二	〃	11	〃
第12回・壁貼工（森元　義氏）	大久保昌一	〃	12	〃
第13回・熔接工（木下　晋氏）	鬼頭　寿郎	45	1	昭39
第14回・塗師（松本　幸憲氏）	木村　義雄	〃	2	〃

		集	号	年
第15回・ガラス工（小林千之亟氏）	籔内　幸雄	…45	3	昭39
第16回・瓦葺職（籔西　利輔氏）	堀　照男	…〃	4	〃
第17回・板金工（渡辺　錠吉氏）	松井　昭光	…〃	5	〃
第18回・床タイル工（小谷金之助氏）	籔内　幸雄	…〃	6	〃
第19回・サッシ工（外園　慶吉氏・橋田　芳男氏）	長谷川哲之助	…〃	7	〃
第20回・鉄筋工（三島　光次氏）	〃	…〃	8	〃
第21回・ハツリ屋（春木竹次郎氏）	籔内　幸雄	…〃	9	〃
第22回・ダクト工（小島　健嗣氏）	宮脇　毅	…〃	10	〃
第22回・差物師（竹内　碧外氏）	伊東　哲郎	…〃	11	〃
第24回・建具職（酒井　康雄氏）	松井　昭光	…〃	12	〃
第25回・町方大工（千原喜代蔵氏）	〃	…46	1	昭40
第29回・畳職（岩脇松次郎氏）	長谷川哲之助	…〃	2	〃
第27回（終）・家曳（福田　久吉氏）	籔内　幸雄	…〃	3	〃
職人シリーズ終結にあたって		…〃	〃	〃

b　新らしい技能工シリーズ

第1回・オペレーター（青木猷之輔氏）	長谷川哲之助	…〃	4	〃
第2回・床タイル工（田中　忠雄氏）	松本　大平	…〃	5	〃
第3回・吹付工（出張　久夫氏）	籔内　幸雄	…〃	6	〃
第4回・組立住宅工（樹山　愃一・佐藤　義彦）	長谷川哲之助	…〃	7	〃
第5回・シポレックス工（徳元　俊和氏）	籔内　幸雄	…〃	8	〃
第6回・ビル清掃工（篠原　重雄氏）	松本　大平	…〃	9	〃
第7回・圧接工（元山　順次氏）	長谷川哲之助	…〃	10	〃
第8回・コーキング工（朝田　清氏）	長谷川哲之助	…〃	11	〃
第9回・ボード貼工（吉川　敏雄氏）	松本　大平	…〃	12	〃
第10回・火災報知機工（友田正太郎氏）	宮脇　毅	…47	1	昭41
第11回・樹脂防水工（松田　政雄氏）	籔内　幸雄	…〃	2	〃
第12回（終）・長尺鉄板工（天野日出男氏）	松本　大平	…〃	3	〃

No.18　クラスメート・人と建築

a　クラスメート

1. 京大昭和6年卒	森　忠一・田中良太郎・政岡　基次ほか	…46	6	昭40
2. 早大昭和8年卒：岡橋作太郎ほか		…〃	7	〃
3. 神戸高等工業学校昭和9年卒	伊藤　一郎・豊田　弥吉ほか	…〃	8	〃
4. 都島工業昭和7年卒	岩本　博行・今西　茂雄・田中　功ほか	…〃	9	〃
5. 東大昭和9，10年卒	塚本　猛次・一円　俊郎ほか	…〃	10	〃
6. 東京高工昭和3，4，6年卒	益尾　辰雄・中野順次郎・小林　清ほか	…〃	11	〃
7. 大阪府立今宮職工学校昭和9年卒：喜治　繁次ほか		…〃	12	〃
8. 日大昭和10・11年卒	西村　栄一・野々村五四男・森口　清ほか	…47	1	昭41
9. 西野田工業学校昭和8・9年卒	小林三甫朗・向井　又男ほか	…〃	2	〃
10. 名古屋高等工業学校昭和8・9・10年卒	渡辺　勇・大塚　隆・西鳩徳太郎 伊藤　進ほか	…〃	3	〃
11. 京大昭和14年卒	横尾　義貫・増田　友也・中原　茂ほか	…〃	4	〃
12. 関西高等工学校昭和9年卒	岡　三郎・寺岡　真ほか	…〃	5	〃
13. 京大建築科昭和9年卒	伴　潔・浦辺鎮太郎・錦田　直一ほか	…〃	6	〃
14. 神戸高工建築科昭和5・6年卒	飯田精次郎・中川　初子ほか	…〃	7	〃
15. 兵庫県立工業学校昭和9年卒：大木　基弘ほか		…〃	8	〃
16. 早稲田大学昭和12年卒	鴻池　藤一・小川　正・徳永　正三 懸山　良雄ほか	…〃	9	〃
17. 東大昭和14年・15年卒	谷口　尚武・後藤　典夫・西沢　文隆ほか	…〃	10	〃
18. 奈良県立吉野工業・昭和4年，7年，8年卒	岡本　一郎・小林　得志・片山　一郎ほか	…47	11	昭41
19. 京大昭和5年卒	鷲尾　健三・池田総一郎・高橋　誠義ほか	…〃	12	〃

b　人と建築

藤田　邦昭氏		…45	9	昭39
山・海へゆく		…〃	10	〃
薬袋　公明氏		…〃	11	〃
第5回・佐野　正一氏		…46	4	昭40
第6回・高橋　慶夫氏		…〃	〃	〃
第7回・田辺　員人氏		…〃	〃	〃
第9回・都市の庭空間を創るために（久保　貞）		…47	7	昭41
第10回・「アンコール・ワットの内間空間と外部空間」（西沢　文隆）		…〃	8	〃
第11回・「現場監理50年」（山田　英男）		…〃	9	〃

No.19　建　築　運　動

建築運動の変遷と新しい建築運動	絹谷　祐規	…34	8	昭28
国際建築学生会議特集—日本建築学生会議からの報告—				
紹介と所感	滝沢　真弓	…35	7	昭29
リポート「国民的伝統」によせて	西山　卯三	…〃	〃	〃
"会議の意義を自覚して地道な努力を"	北野　幾造	…〃	〃	〃
国際建築学生会議報告（Rome 1954年）	片桐　泉	…〃	〃	〃
国際建築学生会議への参加にあたって経過報告		…〃	〃	〃
卒業後の就職		…〃	〃	〃
建築運動とは	西山　卯三	…42	12	昭36
近代デザイン運動・雑考	向井　正也	…〃	〃	〃
分離派・建築会—その正誤と自註—	滝沢　真弓	…〃	〃	〃
日本インターナショナル建築会	上野伊三郎	…〃	〃	〃
創宇社建築会のこと	山口　文象	…〃	〃	〃
「日本工作文化連盟」の思い出	蔵田　周忠	…〃	〃	〃
新日本建築家集団（ＮＡＵ）	図師　嘉彦	…〃	〃	〃
建築研究団体連絡会とその前後	鈴木　成文	…〃	〃	〃
新建築家集団（ＮＡＣ）	松井　昭光	…〃	〃	〃
民主々義を守る建築会議	田巻　博造・田中　正雄	…〃	〃	〃
日本建築学生会議	田中　康夫	…〃	〃	〃

No.20　建　築　教　育

これからの技術教育はどうあるべきか（1）		…34	2	昭28
〃（2）		…〃	4	〃
〃（3）		…〃	7	〃
〃（4）		…36	5	昭30
〃（5）		…〃	8	〃
現職教育に関する調査結果について	岩下　久哉	…35	2	昭29
現場実習に対する調査	教育委員会	…37	7	昭31
		38	〃	昭32
現場実習指導要項	教育委員会	…38	8	〃
		39	7	昭33
〃		…42	〃	昭36
〃		…45	〃	昭39
〃		…46	〃	昭40
〃		…47	〃	昭41
工高教育の問題点	犬束　徳郎	…44	1	昭38
工高の教科内容	乾　亮三	…〃	〃	〃
大学教育の問題点	鷲尾　健三	…〃	〃	〃
大学における建築教育の問題点	増田　友也	…〃	〃	〃
学校教育のゆくえ	佐野　正一	…〃	〃	〃
大学の教科内容—近畿の六大学建築学科—	編　集　部	…〃	〃	〃
アンケート：学校教育に何を望むか	岩本　博行・星　広文・光安　義光 若林　季雄・とくめい・石黒　次郎 谷口　尚武・北垣　智造	…〃	〃	〃

集　号　年

座談会：建築技能者教育―大工・左官・塗装工・タイル工等の教育訓練をめぐって……44　1　昭38
出席者：福岡　正・遠山　春二・上田与三郎　熊谷　広吉・川岸　繁夫・関　雄二　寺岡　真
建築関係技能検定について……板谷　一夫…〃　〃　〃
建築士の問題点―主としてその試験制度について……白石　博三…〃　〃　〃
学校教育と建築技術者の需給問題……益尾　辰雄…〃　〃　〃
技能労務者不足の根底に横たわるもの……山田　四郎…〃　〃　〃
設備技術者の教育について（教育委員会側）……相川　三郎…〃　〃　〃
設備技能者の教育について（受入側・企業側）……石田　憲二…〃　〃　〃
設備技術者の教育について（大学側）……前田　敏男…〃　〃　〃

No.21　建築経済・建設産業

a　労働問題・建築経済・建築生産

米国の景気と建築の役割……大島　堅造…35　3　昭29
ＩＬＯ会議に出席して
　使用者側代表として……松村　雄吉…〃　4　〃
　労働者側代表として……早川　方行…〃　〃　〃
建設省全建労の実態と活動について……清水　　等…〃　〃　〃
日本における建設産業職員労働組合の現状……〃　〃　〃
左官協同組合の実状……播磨谷松次郎…〃　〃　〃
建設職員座談会―土建界の労働問題を語る―……〃　〃　〃
土建労働者の実態とその活動……菅野　勇利…〃　〃　〃
土建労働者はめざめている……M．M．記…〃　〃　〃
建築労務者の状態……相沢喜久太郎…〃　〃　〃
日本建設産業職員労働組合協議会
　第２回東西合同幹事会議事録……〃　〃　〃
建築労働問題メモ……X．Y．Z．〃　〃　〃
建築工事と生産性向上運動……渡辺　圭吾…36　10　昭30
最近の鉄鋼需給事情……手島　雄二…37　11　昭31
明治以前における建築生産の諸形態について……川上　　貢…38　1　昭32
建築儀礼について―民俗学の立場から―……林　　宏…〃　12　〃
建築工事の祭式奠について……浅野　繁雄…〃　〃　〃
日本建築の工法や加工の変遷……浅野　　清…〃　〃　〃
工匠の田いた用具……相沢喜久太郎…〃　〃　〃
建築生産に関し職人の実態の変遷……中出　定夫…〃　〃　〃
職人の養成について……早川　嘉行…〃　〃　〃
大学卒業生の職場分布……巽　　和夫…〃　〃　〃
大阪での生コンクリートの状況……柳田発巳夫…〃　〃　〃
コンクリートブロックの近畿における生産と需要……〃　〃　〃
建設業体の適正規模について……吉田　元七…39　9　昭33

b　建　築　工　費

建築工費の分析と積算……益田　重華…43　6　昭37
仮設（施工設備費）と現場経費について……橋本　良介…〃　〃　〃
建築業と見積り……政岡　基次…〃　〃　〃
官庁建物予算単価の実態……藤沢　達夫…〃　〃　〃
大阪府の建築単価（予算）ならびに一般官庁予算の現状と問題について……高津　啓二…〃　〃　〃
官公庁建築予算―施工者側から―……山本　末男…〃　〃　〃
住宅公団団地の屋外附帯工事費について……今井潤之助…〃　〃　〃
積算・見積裏話（座談会）（大手業者積算見積関係者）…〃　〃　〃

c　建　設　産　業

今後の建設産業のあり方……銭高　輝之…42　10　昭36
日本の建設産業構造の諸問題……松井　昭光…〃　〃　〃
中小建設業のあり方……竹中　靖一…〃　〃　〃
資金面よりみた建設中小企業の経営について……松井清之助…〃　〃　〃
労務者不足問題……岸田　成計…〃　〃　〃
―建設労務者の現状分析―
技能者養成について……山田　四郎…42　10　昭36
建設労働者の当面する諸要求について―とくに協定賃金運動―……鈴木　正明…〃　〃　〃
建設および建設関連市場における最近の企業進出について―建設業界の動態調査―……森脇　久嘉…44　9　昭38

d　施　　主

クライアントから見た建築
巻頭言……竹腰　健造…35　12　昭29
建築界に対する私の希望……井口竹次郎…〃　〃　〃
デフレ経済下の建設界……大島　堅造…〃　〃　〃
オフィスビルのなかより……中橋　武一…〃　〃　〃
デパートと私の建築観……北沢敬二郎…〃　〃　〃
ホテルのあり方……郡司　　茂…〃　〃　〃
門外漢建築を語る……大原総一郎…〃　〃　〃

No.22　座　談　会（前掲分を含む）

第１回・これからの建築技術の学校教育はどうあるべきか……教育委員会…34　2　昭28
第２回・〃　〃　…〃　4　〃
第３回・〃　〃　…〃　7　〃
第４回・〃　〃　…36　5　昭30
第５回・〃　〃　…〃　8　〃
スタール博士夫人を囲んでの座談会―欧米の住宅について―……〃　7　〃
「学校教育座談会」摘要……鷲尾　健三…〃　〃　〃
35周年記念座談会
　第１回・懐旧談……〃　12　昭29
　第２回・回顧と将来を語る……〃　〃　〃
　第３回・協会の過去と将来……〃　〃　〃
設備座談会……35　1　昭29
欧米建築の変遷……〃　7　〃
（村野　藤吾・岡橋作太郎・小川　　正）
ソヴエト建築を語る―村野藤吾氏を囲んで―……36　4　昭30
商都かたぎ・主都かたぎ……〃　8　〃
構造とデザイン座談会……37　4　昭31
座談会―小住宅……日本建築協会編集委員会…〃　8　〃
店舗と建築……〃　…〃　〃　〃
設備と建築―設備界の当面の課題と建築界への希望―……〃　9　〃
鼎談：施主・設計者・施工者をめぐる諸問題……〃　10　〃
地下掘鑿工法について……災害委員会…〃　〃　〃
青年建築家座談会……38　6　昭32
住宅政策の当面の諸問題……〃　3　〃
当面の住宅政策のポイントをつく（併存住宅・都市再開発・公団住宅と家賃等）……〃　10　〃
婦人と住宅　大阪の婦人団体と語る（住宅環境・規模・造築・住宅政策）……〃　〃　〃
婦人と住宅について（日本間と洋間・子供の部屋・家相）…〃　〃　〃
地下工法に関する座談会……〃　9　〃
戦後の建築構造の進歩について……39　2　昭33
森田慶一・滝沢真弓両教授対談記
　分離派建築会前後・恩師・先輩・そして友達……〃　3　〃
ソ連の建築と建築家―ソ連建築家を囲む懇談会……〃　7　〃
「籔中一良氏の想い出」を語る座談会……〃　8　〃
大阪城を中心にして石垣としゃちほこの話をきく―波江悌夫氏を囲んで―……〃　9　〃
室内デザインに関する座談会―建築家・室内意匠家・美術家の三者の考え方をめぐって……〃　10　〃
大阪の建築をめぐって―浜口隆一氏を囲んでの座談会……〃　〃　〃
建築家がアパートに住んでみて―新進建築家が住いを通じて公団・公営・会社アパートの設計上の諸問題を批判する……40　3　昭34
日本の現代建築の形成過程をめぐって……〃　4　〃
西長堀アパートの壁画を中心として……〃　〃　〃
生産性における工業建築技術のあり方……〃　8　〃
大正時代の大阪の建築を語る……〃　1　〃
建築におけるローカリティについて……〃　12　〃
伊勢湾台風について……41　5　昭35

	集	号	年
商社と建築協会会員との座談会 伊藤忠商事および三井物産株式会社関係者に海外建設の話を聞く	41	5	昭35
法規座談会—建築基準法・同施行令等に関して	〃	6	〃
建物管理者からみた設備上の諸問題	〃	9	〃
公共住宅の当面する諸問題	〃	11	〃
小さなダンチ族—香里団地の子供に聞く会—	〃	〃	〃
建売（月賦・分譲）住宅をめぐる諸問題—座談会—	〃	4	〃
阪神都市圏の住宅をめぐる諸問題—座談会—	〃	〃	〃
長谷部鋭吉氏とその周辺を回顧する	42	3	昭36
建築基礎構造設計規準をめぐる諸問題	〃	4	〃
建築家とインテリアデザイナーとの座談会	〃	5	〃
在日留学生と若い建築家の交歓会をおえて	〃	7	〃
本会第1回欧米建築事情視察団懇談会	〃	〃	〃
名古屋の街造りの現状と将来	43	3	昭37
鉄骨鉄筋コンクリート構造計算規準をめぐる諸問題	〃	4	〃
積算・見積裏話	〃	6	〃
建築技能者教育—大工・左官・塗装工・タイル工等の教育訓練をめぐって	44	1	昭38
造園と建築をめぐって	〃	3	〃
衛生陶器回顧談	〃	6	〃
錠前対談会	〃	〃	〃
ビル管理者からみた空気調和設備	〃	9	〃
新しい空間創造への参加	〃	11	〃
明日のプレハブをさぐる	45	2	昭39
外部空間の構成	〃	3	〃
みんなの外部空間	〃	〃	〃
設計者と施工者との間に横たわる諸問題	〃	6	〃
尾崎久助君を囲む座談会	46	1	昭40
建物のもつ外部空間の管理	〃	9	〃
若い建築家は語る（工高生デザインコンクール10周年記念・座談会）	47	1	昭41
20年後の空調設備を語る	〃	9	〃
最近の地下工法について	〃	10	〃

No.23 外国の建築事情

a 海外の建築事情

欧米建築こぼればなし—尾崎 久助	35	2	昭29
しのびよるロマンティシズム—村野 藤吾	41	7	昭35
8年目のホノルル・サンフランシスコ・ロスアンゼルス—尾崎 久助	〃	10	〃
ヨーロッパ見歩くの記—小松 益喜	〃	5	〃
アメリカにおける日本ブーム—好川 博	〃	〃	〃
最近の中国建築界について—日中建築交流センター	44	6	昭38
ヨーロッパ古建築の旅—山本 利雄	〃	7	〃
世界の現代建築の一展望（FORUM誌'63年6月号より）—窓の会グループ	〃	10	〃
モスクワのテレビ塔……エス・ニキーチン 青柳 司訳	40	5	昭34
ソ連の建築教育—黒川 紀章	〃	2	〃
中国の最近の建築—西村 正邦	41	5	昭35
欧米飛び走る記—玉置豊次郎	42	7	昭36
欧米建築の覚書—雑賀 孝夫	〃	〃	〃
米国都市の新しい顔（FOROM誌'63年8月号より）—窓の会グループ	35	1	昭39

b 北京科学シンポジウム参加のため訪中して

1. 北京科学シンポジウムの成果と意義……松井 昭光	45	12	昭39
2. 中国建築界の人々と交流して	46	1	昭40
3. 大学の教育・研究について	〃	2	〃
4. 半工半学と技術革新運動	〃	3	〃
5. 中国の伝統的空間処理	〃	4	〃
6. 上海の不良住宅改建活動	〃	5	〃
7. ある衛星都市と居住区	〃	6	〃
8. 北京科学大会堂学術報告庁	〃	7	〃
9. 南京と杭州のある人民公社	〃	8	〃
10.（終）1968年北京科学シンポジウムをめざして	〃	9	〃

c 海外写真

霊隠寺付近の石仏（中国杭州）……松井 昭光	46	1	昭40
ロンドンタワーと衛兵……恒成 一訓	〃	10	〃
アッシジ（イタリー）の町かどにて…… 〃	〃	11	〃
石の町・アッシジ（イタリー）…… 〃	〃	12	〃
モンマルトルの丘にて（パリ）…… 〃	47	1	昭41
パリーの煙突（ノートルダム寺院より）…… 〃	〃	2	〃
額を運ぶ人々（パリ）…… 〃	〃	3	〃
コロシアムの壁（ローマ）…… 〃	〃	4	〃
ある歩道にて（ミラノ）…… 〃	〃	5	〃
セント・フランチェスカ寺院（アッシジ）… 〃	〃	6	〃
ブロンド（ロンドンにて）…… 〃	〃	7	〃
中国のある民家……松井 昭光	〃	〃	〃
チボリの噴水（ローマ郊外）……恒成 一訓	〃	8	〃
ピースパーデンの街角（西ドイツ）…… 〃	〃	9	〃
「美しき神」ノートルダム寺院（パリ）…… 〃	〃	10	〃
デュオモ（ミラノ）…… 〃	〃	11	〃
コンスタンティヌス帝の凱旋門（ローマ）… 〃	〃	12	〃

No.24 法規

法規

大阪府建築基準法施行条例一部改正	34	7	昭28
建築基準法一部改正・他……法規委員会	35	10	昭29
貸事務所と駐車場施設について 日本建築協会・大阪府建築士会合同法規委員会	38	8	昭32
建築基準法改正の趣旨……稗田 治	41	6	昭35
大阪市における特殊建築物の定期報告および建築設備の定期検査……越田 正勝	〃	〃	〃
確立された報告・定期検査……景山 正明	〃	〃	〃
駐車場に関する問題……河村 重俊	〃	〃	〃
消防法改正の要旨について……恩田 一則	〃	〃	〃
行政上から見た建築構造設計……斧出 正隆	〃	〃	〃
火災保険断率規定について……中村 綱	〃	〃	〃
法規アンケート			
法規の運用と問題点……大倉 三郎	〃	〃	〃
医療法との関係……川辺 真	〃	〃	〃
難解無双—これでは違反建築が増すばかりだ—……玉置豊次郎	〃	〃	〃
法規と良識……越智 隆晴	〃	〃	〃
理論的と人為的……森 俶朗	〃	〃	〃
建築基準法の立法精神は習慣法であるべきかどうか……三田 一男	〃	〃	〃
他の法例との関係……橋本 良介	〃	〃	〃
法規と経済……浦辺鎮太郎	〃	〃	〃
建築のための建築基準法か……佐々木 保	〃	〃	〃
都市計画を促進するものに……諫早 信夫	〃	〃	〃
設備原論との関係……松浦 邦男	〃	〃	〃
現状にあわないもの……I.M.N.生	〃	〃	〃
建蔽率を通して一考……光安 義光	〃	〃	〃
建築物の敷地に対する割合……香取 礼三	〃	〃	〃
法規と実際……中村 登一	〃	〃	〃
建築構造に関する法と規準の間……日置興一郎	〃	〃	〃
構造関係者より……山肩 邦男	〃	〃	〃
構造設計者より……長田 正雄	〃	〃	〃
耐火構造・内装制限・他……N. Y. 生	〃	〃	〃
床下換気口の大きさについて……宮野 秋彦	〃	〃	〃
建築違反の防止について……K. M. 生	〃	〃	〃
建築士法の一部改正を望む……大津 敏晴	〃	〃	〃
防火区画について……恩田 一則	〃	〃	〃
建築基準法とその行政……竹内 博文	〃	〃	〃
"建築基準法"所感……三品 哲夫	〃	〃	〃
アンケートに答えて……恒岡 俊行	〃	〃	〃
都市行政の現況……竹腰 健造	47	5	昭41
建築基準法の現状と改正意見……越田 正勝	〃	〃	〃
建築士法改正の争点とその経過……佐野 正一	〃	〃	〃
建築基準法のチェックポイント……竹口 信夫	〃	〃	〃
構造設計のチェックポイント……西川幸之輔	〃	〃	〃
建築設備チェックポイント—設備基準—……種田 高巳	〃	〃	〃

		集	号	年
建築関係法令一覧表	上田　隆夫…47	5		昭41
人工土地と法規—坂出市の人工土地—	番正　辰雄…〃	〃		〃
大阪都市計画西梅田特定街区（大阪市第1号）	上田　隆夫…〃	〃		〃
万国博覧会と法規	山本　康雄…〃	〃		〃
工場等制限法	木村英太郎…〃	〃		〃
電波法と高層ビル	原田　純蔵…〃	〃		〃
豊中方式—違反建築防止にみる—	大阪府建築部指導課…〃	〃		〃
違反建築防止アンケート	〃	〃		〃
回答者：立川熊之助・小島　誠・玉置豊次郎 西山　卯三・鷲尾　健三・白石　博三 田中良太郎・高橋　慶夫・橘　春重 寺西　芳一・柴田真一郎・児玉　茂男				
違反建築の実状（大阪府の例）	〃	〃		〃
建築法規とデザインとの間—学校施設行政雑記—	越智　隆晴…37	〃		〃

No.25 コンクール入選作

第1回工高生デザインコンクール入選作（設計課題：住宅）	36	11-12	昭30
ドミニカ国トルヒヨ大統領モニュメント国際応募作品	佐藤　重夫…37	6	昭31
第2回工高生デザインコンクール入選作	（課題：観光案内所）…37	12	昭31
「住みよい街と住宅」のために	日本建築学生会議…〃	7	〃
第1回建築写真コンクール入選	38	5	昭32
近畿・大学・工高卒業設計コンクール入選作1957年	〃	6	〃
第2回建築写真コンクール入選・佳作作品	〃	11	〃
第3回工高生建築デザインコンクール入選作	〃	12	〃
近畿各大学・工高卒業設計コンクール入選作1958	39	7	昭33
第3回建築写真コンクール入選作5点	〃	9	〃
第4回工高生デザインコンクール入選作10点 —公園に建つ公衆休憩所—	〃	12	〃
近畿各大学・工高卒業設計コンクール入選作	40	7	昭34
第5回工高生デザインコンクール入選作（課題：ポリスボックス）	〃	12	〃
第4回建築写真コンクール入選作	41	1	昭35
近畿各大学・工高卒業設計コンクール入選作1960	〃	7	〃
第6回工高生デザインコンクール入選作（課題：ガソリンスタンド）	〃	12	〃
第7回工高生デザインコンクール入選作（課題：都市の公園に立つ野外音楽堂）	43	1	昭37
第8回工高生デザインコンクール入選作（課題：湖畔に建つ学生のためのボートハウス）	44	1	昭38
南海電鉄沿線に建つ新住宅設計コンクール	〃	5	〃
昭和37年度近畿各大学・工高卒業設計コンクール入選作	〃	7	〃
第6回建築写真コンクール入選作（主題：まち）	45	1	昭39
第9回工高生デザインコンクール入選作（課題：有料道路のゲート）	〃	〃	〃
第10回工高生デザインコンクール入選作（設計課題：市民のためのスポーツハウス）	46	1	昭40
第11回工高生デザインコンクール入選作（課題：明日の住宅）	47	1	昭41

No.26 シリーズもの・他

a 巻頭言

城雑感	尾崎　久助…39	9		昭33
室内装飾	東畑　謙三…〃	10		〃
雑　感	向井　保晴…〃	11		〃
建築基準法の改正	伊東　五郎…〃	12		〃
巻頭の言（竹腰健造氏を語る）	尾崎　久助…40	1		昭34
P.C.構造特集に当って	奥島　正一…〃	2		〃
共同住宅雑感	桐本　楠雅…40	3		昭34
日本の建築近代性	大倉　三郎…〃	4		〃
学校建築の思い出	河東　義方…〃	5		〃
今日の都市計画問題	吉田　信武…〃	6		〃
若い建築家に科学を	田中良太郎…〃	7		〃
工場建築のゆくて	大林　芳郎…〃	8		〃
設備特集号に寄せて	知見　義夫…〃	9		〃
病院にもの申す	諫早　信夫…〃	10		〃
建築資材の分野その他の所感	青木　友一…〃	11		〃
偶　感	佐々木米太郎…〃	12		〃
7年目のロサンゼルスとホノルルで	尾崎　久助…41	1		昭35
原子力利用施設特集によせて	佐藤　太…〃	2		〃
建設工事費の安定化について	小栗　賛吾…〃	3		〃
住宅団地の曲り角	深尾　実郎…〃	4		〃
海外建設への歩み	銭高　輝之…〃	5		〃
建築家と法規	越田　正勝…〃	6		〃
青年建築家特集号によせて	中村　綱…〃	7		〃
建築施工法の進歩	岩崎甚太郎…〃	8		〃
Markelius の天井	岡橋作太郎…〃	9		〃
公共住宅論	中沢誠一郎…〃	11		〃
年頭のことば	尾崎　久助…42	1		昭36
〃	東畑　謙三…43	1		昭37
〃	尾崎　久助…45	1		昭38
巻頭言	東畑　謙三…46	1		昭40
年頭のことば（大波小波のくる年）	〃　…47	1		昭41

b 建築の眼

	集	号	年
小川　正・西山　卯三・船越　義房・堀口　甚吉・横尾　義貫	35	12	昭29
〃	36	1, 3, 5, 6, 8, 9, 10, 11, 12	〃
〃	37	2, 3, 7	昭31
足立　孝・岡橋作太郎・佐野　正一・深尾　実郎・陶浪　貞彦	〃	8〜12	〃
〃	38	1〜5	昭32
浦辺鎮太郎・佐野　正一・政岡　基次・増田　友也・鷲尾　健三	〃	7〜12	〃
〃	39	1〜6	昭33
白石　博三・寺田　徳重・伴　潔・前田　敏男・横田喜一郎	〃	7〜12	〃
堯天　義久・田中良太郎・谷口　尚武・島田　家弘・柳田癸巳夫	40	1〜6	昭34
伊藤　幸一・石堂正三郎・橋本　良介・馬場　善雄・向井　正也	〃	7〜12	〃
飯田精次郎・伊藤　克三・大倉　三郎・日置興一郎・矢野　豊作	41	1〜6	昭35
北村　修・百々　稔・前川　純一・前田　勇	〃	7〜8	〃
木村　康彦・近藤　正志・隅谷　一郎・光安　義光	〃	9〜10	〃
大野　邦彦・森下　祐良・長田　正雄・吉田　勇	〃	11〜12	〃
木田　幸夫・田代　正尚・山田　勝成・和田　晋弥	42	1〜2	昭36
伊丹　孝・小林　義定・堀　照男・松岡　広之	〃	3〜4	〃
坂本　松男・前川　陽一・松下壽一郎・右田　広	〃	5〜6	〃
鍛治　延男・上村　幸之・寺谷　敏行・前田　治	〃	7〜8	〃
中村　堯・能勢　善樹・早川　和男・山下　信夫	〃	9〜10	〃
北村　隆夫・羽淵　幹夫・藤田　邦昭・松本　大平	〃	11〜12	〃
岩本　尚三・神出津嶺雄・田賀　勉・田村　真二	43	1〜2	昭37
赤崎　尚信・南　一美・宮川　吉夫・山中　孔	〃	3〜4	〃
東　孝光・鳴村　隆次・信川　好弘・福山　明	〃	5〜6	〃
足立　英雄・中道　正照・山下　暢雄・吉岡　厳	〃	7〜8	〃
猪沢　徳忠・田村　克好・針崎　権蔵・薮内　幸雄	〃	9〜10	〃
大海　一雄・小河一真佐・高木　登・宮坂　一也	〃	11〜12	〃

	集	号	年
金本　賢治・富永　六郎・星野　三雄・森脇　久嘉			
……44		1〜2	昭38
上田　宏二・島田　勝次・滝本　安規・田中　孝司			
…… 〃		3〜4	〃
松村　慶三・水谷　穎介・三輪泰司・和田　周蔵			
…… 〃		5〜6	〃
泉沢　哲史・上村　一・河島　新吾・山本　茂			
…… 〃		7〜8	〃
湯川　利和・大河内隆之・小川地喜貞・小島　勝巳			
…… 〃		9〜10	〃
天津　勇・宇野　勇・角橋　徹也・吉田　繁			
…… 〃		11〜12	〃
鎌田　恭男・日下部　弘・佐江木了治・速水　祥二			
……45		1〜2	昭39
足立　孝一・服部　卓爾・牧原　敬典・溝淵　俊文			
…… 〃		3〜4	〃
柿本　浩・佐藤　泰・住田　昌一・長谷川莞二			
…… 〃		5〜6	〃
原　桂一郎・広原　盛明・清水太三郎・吉成　純一			
…… 〃		7〜8	〃
福原　裕治・下村　治男・白砂　剛二・高口　恭行			
…… 〃		9〜10	〃
岩井　義之・延藤　安弘・平塚　哲朗・永喜多宗雄			
…… 〃		11〜12	〃
池　保・本郷　聡・片寄　俊秀・水島　恒子			
……46		1〜2	昭40
井原　篤・梶浦　恒男・久保　和知・小柴　徹他			
…… 〃		3〜4	〃
香川　順司・西村　一朗・三上　富三・村上　司			
…… 〃		5〜6	〃
清水　俊彦・島津　良樹・辻本　豊・矢橋　道夫			
…… 〃		7〜8	〃
玉腰　芳夫・根津耕一郎・弥屋　毅一・前野　良規			
…… 〃		9〜10	〃
中川　初子・岡崎　甚幸・田畑　弘・山本　晃			
…… 〃		11〜12	〃
白石　博三・高橋　慶夫・山田　義行・中村　文夫			
……47		1,2,3,4,5,6	昭41
鳥田　家弘・宮秋　利厚・谷口　尚武・福田　好雄			
…… 〃		7,8,9,10,11,12	〃

c　随想・紫煙室・会員の声

	集	号	年
新春随想……竹腰　健造…34	1	昭28	
1953年の建材界を思う……伊藤憲太郎… 〃	〃	〃	
53年度の建築教育に望む……中野順次郎… 〃	〃	〃	
工学はどこに問題を求めるか			
—構造学者の会合に出席した門外漢の弁—西山　卯三… 〃	2	〃	
わが半生を回顧して—建材界の変遷—……井上　民治… 〃	8	〃	
作品と作者……松浦勇太郎… 〃	9	〃	
神　戸……伴　潔… 〃	〃	〃	
新建築を見て感あり……中川　初子… 〃	〃	〃	
随　想……桑田　正一… 〃	〃	〃	
講義にことよせて……吉田　信武… 〃	〃	〃	
寺仏と仮托……野地　修左… 〃	〃	〃	
大正七年頃の想い出など……宮飼　克二… 〃	〃	〃	
建築界の過去と将来……浅沼猪之吉… 〃	1	〃	
社会人として建築界に要求するもの……鈴木　淳子… 〃	〃	〃	
社会人として建築家に望むこと……中井　あい… 〃	〃	〃	
現在の公営住宅の意味するもの……山地　英雄… 〃	2	〃	
仕事の速さ……若木望太郎… 〃	3	〃	
5つの建築的夢……三浦　三吉… 〃	7	〃	
新春随想……吉田寅之助…35	1	昭29	
虫を無思できたら—キルコールとB.H.C.に寄せて—			
……竹内　孝… 〃	2	〃	
二つのこと……堀口　甚吉… 〃	4	〃	
つれづれの記……横田喜一郎… 〃	5	〃	
法隆寺鴟尾問題と建築の自覚……小山　連一… 〃	6	〃	
村野「さん」……竹内　孝… 〃	7	〃	
永遠の青年村野……X・Y・Z… 〃	〃	〃	
作家と作品……浦辺鎮太郎… 〃	〃	〃	
材料の使い方について……安井　武雄… 〃	8	〃	
材料の感触……岩本　博行…35	8	昭29	
わが街の私記……元良　勲… 〃	9	〃	
鉄筋住宅余話……元吉勇太郎… 〃	12	〃	
見学記　倉紡本社・尼崎キリンビール…… 〃	10	〃	
建築・音楽……竹内　成夫…36	1	昭30	
「武」の神と「文」の神……波江　悌夫… 〃	2	〃	
続相川音頭……佐藤　重夫… 〃	〃	〃	
シネマスコープのぐち……高橋　慶夫… 〃	〃	〃	
数のおもしろさ……中村　綱… 〃	〃	〃	
住宅談義いろいろ……小林　三造… 〃	3	〃	
医者と建築家……伴　潔… 〃	4	〃	
住宅難と建築家の立場……山本　茂… 〃	〃	〃	
学会書記長・佐藤君を憶う……大和　栄衛… 〃	〃	〃	
住宅と結核病……田中　文雄… 〃	5	〃	
老人よ，しばらく御遠慮を！……浦辺鎮太郎… 〃	6	〃	
構造と法則……棚橋　諒… 〃	〃	〃	
家と生活と女性……佐久虹之助… 〃	8	〃	
住と水……横田喜一郎… 〃	9	〃	
J氏にお答えする……薬師寺　厚…37	2	昭31	
私の書架より……浦辺鎮太郎… 〃	〃	〃	
ヨセフ・ホフマン教授を憶う……上野伊三郎… 〃	7	〃	
小野薫さんを悼む……坪井　善勝…38	2	昭32	
羽藤文男君を憶う……西沢　文隆… 〃	〃	〃	
二上山をあるく……室井　修… 〃	10	〃	
市民は建築家に何を望むか…… 〃	〃	〃	
流行住宅を攻撃する……浜田　和夫… 〃	7	〃	
実務に役立つ便覧を！……川村　統之… 〃	〃	〃	
本誌に対する注文……泉佐野市役所建築関係グループ… 〃	〃	〃	
「誌相」というもの……向井　正也… 〃	8	〃	
堅実という名の退歩……山田あつし… 〃	〃	〃	
ある覚書……X・Y・Z… 〃	9	〃	
設計の Standardization…… ……森　正信… 〃	〃	〃	
公営住宅団地と住宅の随想……光安　義光… 〃	10	〃	
裏返しの百聞，一見に如かず……鷲尾　健三… 〃	〃	〃	
住宅問題のある先輩にあてて……金沢　弘真… 〃	〃	〃	
住宅施策評論に一言……山地　英雄… 〃	12	〃	
本誌の表紙デザインに寄せて……向井　正也… 〃	〃	〃	
正月随想：関西の建築歴史を語る……39	1	昭33	
1. 初期の建築設計事務所について……松井貴太郎… 〃	〃	〃	
2. 通天閣建設の頃……白杉嘉明三… 〃	〃	〃	
3. 建築協会創立の頃……今林彦太郎… 〃	〃	〃	
4. 創立の頃の話			
—第1回編集の思い出—……佐藤　四郎… 〃	〃	〃	
5. 大正時代の中の島・北浜界隈……竹腰　健造… 〃	〃	〃	
6. 堂ビル建設の頃……鷲尾　九郎… 〃	〃	〃	
7. 慶沢園と大阪市美術館……波江　悌夫… 〃	〃	〃	
8. 伊藤邸			
—現・近畿建築会館の思い出話—…大倉　三郎… 〃	〃	〃	
9. 橋梁意匠十五年……元良　勲… 〃	〃	〃	
10. 大阪府庁舎の懸賞設計と堺市庁舎建設の思い出			
……加藤　善吉… 〃	〃	〃	
11. インターナショナル建築運動……中西　六郎… 〃	〃	〃	
12. 大阪城と黒田屏風……波江　悌夫… 〃	〃	〃	
13. 大阪中央卸売市場建設の思い出……藤阪捨治郎… 〃	〃	〃	
14. ブルノー・タウト来日の思い出……上野伊三郎… 〃	〃	〃	
城……藤原　義一… 〃	9	〃	
山陰山陽の城……佐藤　重夫… 〃	〃	〃	
お城談義（石と堀）……河東　義方… 〃	〃	〃	
アーケードと横のデパート…… 〃 …… 〃	12	〃	
都市のスカイライン……小田島兵吉… 〃	〃	〃	
都市の共同便所……伊賀　秀雄… 〃	〃	〃	
"デザインと構造"論へ片言……金沢　弘真… 〃	2	〃	
めがね……山田あつし… 〃	〃	〃	
随想—ちかごろの「建築と社会」……堀口　甚吉… 〃	〃	〃	
デザインと構造計画……西田　隆雄… 〃	3	〃	
「建築と社会」批判……三品　哲夫… 〃	4	〃	
かいいんの声に対するお答え……編集委員… 〃	5	〃	
生活の近代化と設計のタイミングのズレ……越智　隆晴… 〃	6	〃	
建築界におけるエチケットの問題……三田　一男… 〃	7	〃	
若い会員の集い			
—青年建築家の具体的交流について—…… 〃	〃	〃	

		集	号	年
Housing の基礎的概念の確立	西田　隆雄…40	3	昭34
まだ住宅団地は恐い	島田　勝次…〃	〃	〃
本誌4月号の座談会「日本の現代建築の形成過程をめぐって」を読んで	青山　正義…〃	5	〃
建築技術者の地位をあげよ	中岡　善吉…〃	9	〃
住宅はまだまだたりない	青山　正義…〃	10	〃
建材雑感	置塩　章…〃	4	〃
建設請負会社においては設計部門は分離すべきである	中岡　善吉…〃	1	〃
"Outward-looking（外向きの）"留学するN君へ	金沢　弘真…〃	2	〃
陶郷信楽見学説	X　生…〃	6	〃
建築教育のこと	葛西　重男…42	1	昭36
デザインのこと—新年のジャーナルをみて—	金沢　弘真…〃	2	〃

d　会員の頁・読者の頁

会員の頁投稿者：久保　和知・中谷　昌紀・森脇　久嘉 樫根　邦夫・菅井　昌与・金　谷…44		1	昭38
原　桂一郎・高田　秀三・浅川　忠夫 鈴木忠五郎	〃	2	〃
天羽　鴻・辻　峻・松田　順吉 伊藤　四夫	〃	3	〃
松村志津男	〃	4	〃
天羽　鴻・福原　裕治・久保　和知 鈴木忠五郎・鈴木　正明・徳永　正三…	〃	5	〃
伊藤　幸一・天羽　鴻・佐々木一夫 村上富美男	〃	6	〃
稲本　征史・大石　昌一・岡田美登利 岩崎甚太郎	〃	7	〃
天羽　鴻・柳本　正治・山本　茂…	〃	8	〃
金　谷・天羽　鴻・岩崎　弘 河井貞一郎・辻　峻・鈴木忠五郎			
柳本　正治・大野　喜作	〃	9	〃
金　谷・柳本　正治・奥田　勝巳 久保　和知	〃	10	〃
関　鎮・久保　和知・田村　征司 柳本　正治・鈴木忠五郎・宮代　隆司 浅川　忠夫・金谷　英一・S　T…	〃	11	〃
奥田　勝巳・薄　与荘・柳本　正治 堀内四知丸・原　桂一郎・日野　武…	〃	12	〃
藤田　剋・柳本　正治・鈴木　正明…45		1	昭39
堀内四知丸・久保　和知・益尾　辰雄 藤井　英克・丸尾　次郎・吉田　修三 森谷　弘蔵	〃	2	〃
小沢　信嘉・鈴木忠五郎・田畑　耕造 S　・　T・山崎　純郎・天羽　鴻 田村　征司・久保　和知・中筋　修…	〃	3	〃
相沢喜久太郎・吉井孝次・森田　茂夫 久保　和知・とくめい	〃	4	〃
鈴木忠五郎・山崎　純郎・宮畑　開己 益山　茂信・南　良徳・相沢喜久太郎 井上　達也・小林　盛太	〃	5	〃
久保　和知・長棟　弘・相沢喜久太郎 直川　時雄・丸橋常太郎	〃	6	〃
柳本　正治・田村　征司・三田村信雄 中野　博之・畑山　栄治・富崎　正 鈴木忠五郎・早川　和男・やまもとしげる 山本耕一郎	〃	7	〃
相沢喜久太郎・矢野善次郎・森田㊟茂夫 三村　浩史	〃	8	〃
直川　時雄・久保　和知・渡辺　昇…	〃	9	〃
相沢喜久太郎・森本　茂次・田村　征司 小林　昌宏・天羽　鴻・山崎　純郎…	〃	10	〃
相沢喜久太郎・久保　和知	〃	11	〃
天羽　鴻・竹内　肇・山本耕一郎…	〃	12	〃
読者の頁投稿者：相沢喜久太郎・木村　武雄・山本　茂…46		1	昭40
Y　・　S・久保　和知・伊藤　鉱一…	〃	2	〃
久保　和知・山本耕一郎	〃	3	〃
柳本　正治・相沢喜久太郎・田中正博…	〃	4	〃
森田　茂夫・天羽　鴻	〃	5	〃
やまもとしげる・北浜　生	〃	6	〃
森田　茂夫・細井　徳夫	〃	8	〃
久保　和知・柳本　正治・M・	〃	9	〃
吉田　修三・宮内　嘉久・M・	〃	10	〃
田中　隆夫・岩本　尚三・K・　H・…	〃	11	〃
	〃	12	〃
新刊紹介（M）	47	1	昭41
火事（山本茂），防災に心しよう（田中隆夫） 万国博の基礎推定数字	〃	2	〃
ビルのなかに風をおこせないものか（M）， ＯＰ基準点	〃	3	〃
寺田寅彦の鎖骨を読みて（脇本啓一），建築産業の構造改革論議の広場を設けよ（鈴木忠五郎），「建築材料カード」頒布（日本建築家協会）	〃	4	〃
長屋住まい（山崎純郎）	〃	5	〃
是か非か（天羽鴻），初心に帰る（武内茂） 装飾用石材への再認識（鈴木忠五郎）	〃	6	〃
近代建築調査委員会編明治建築史の出版について（堀口甚吉）	〃	7	〃
明治中期の機織工場（須藤欣二），祇園の宵山（ＫＨ），「建築もののはじめ考」発刊，大阪府建築家協同組合マーク募集要項	〃	8	〃
破壊への挑戦（武内茂），上尾市上瓦葺にある病院跡（須藤欣二），他	〃	9	〃
ある「死の家の記録」（須藤欣二），新刊紹介 田辺信氏逝去	〃	10	〃
続・明治中期の機織工場（須藤欣二），元良勲教授逝去，故元良勲先生をしのぶよすがに（福島正人）モスクワ建設15年計画（M）	〃	11	〃
プロフィルのご提供お願い（建築協会），造園特集を購読したい（進士五十八），明治建築土木史略年表関西篇その1（須藤欣二）	〃	12	〃

e　書評・新刊紹介

「住居の歴史」後藤　守一著	西川　幸治…38	3	昭32
「住居の科学」吉田　守著	巽　和夫…	〃	〃
「みんなの住い」谷口　吉郎編	前川　道郎…	〃	〃
「アパートの暮し」重松　敬一編	絹谷　祐規…	〃	〃
空気調和法・空気調和ハンドブック・空気調整の基本計画	田中良太郎…	〃	7	〃
Lighting Design	松浦　邦男…	〃	〃	〃
尿尿浄化槽	上林　博雄…	〃	〃	〃
米国の建設工業生産性視察報告書を読んでの所感		〃	9	〃
町大工—東京の職人おぼえがき—	藤田　邦昭…	〃	10	〃
商店街と高層建築	渡辺　禎巳…	〃	〃	〃
住宅総覧	絹谷　祐規…	〃	〃	〃
住宅年報	〃 …	〃	〃	〃
建設業物語	政岡　基次…	〃	12	〃
「ビルの維持管理」小林清周著	光安　義光…39		3	昭33
「スウェーデンの建築家」吉田　鉄郎著	長沢　徹夫…	〃	〃	〃
「伽藍が白かったとき」コルビジェ著	西沢　文隆…	〃	〃	〃
「対立と調和」ブロイヤー建築論	岡橋作太郎…	〃	4	〃
「日本の民家」二川幸夫・伊藤ていじ	徳永　正三…	〃	〃	〃
"現代建築を動かすもの"評	陶村　功…	〃	5	〃
「音響入門」について（久我新一著）	北村　隆夫…	〃	6	〃
現代建築（年鑑'58）	住田　昌二…	〃	〃	〃
構造関係の書籍	堀口　甚吉…	〃	7	〃
アスファルト防水工事	政岡　基次…	〃	8	〃
Y．ギョン「プレストレストコンクリート」	六車　熙…40		2	昭34
「空気調和と電気設備」建築会編	佐藤　鑑…	〃	3	〃
「現代建築を創るもの」川添　登著	相川　浩…	〃	4	〃
「現代建築と芸術」神代雄一郎著	相川　浩…	〃	〃	〃
「ヨーロッパの生活と建築」他	鈴木　洋也…41		10	昭35
日本の住宅問題—解説を阻むもの—	寺内　信…	〃	11	〃
新刊紹介—日本近代建築史の三種—	堀口　甚吉…	〃	6	〃
「アパートビルの手引」「商店街の新しい構成」		〃	1	〃
「建築展1960」日本建築家協会関西支部		42	5	昭36
三千家の茶室　岡田　孝男著		〃	〃	〃
青田豊吉「農村すまいの手帖」	島田　勝次…	〃	4	〃
「消費革命とレジア産業」	住田　昌二…	〃	9	〃
「発明の世紀にどう対処するか」—技術革新と経営—	早川　文夫…	〃	10	〃

	集	号	年
「ふるさとのすまい」リュックに入れて地方を歩こう ……神代雄一郎…43	1		昭37
私的企業と社会的費用（カツプ著）……湯川　利和…〃	10		〃
大阪の建築ガイドブック・関西のすまい第二集……44	1		昭38
味わう構造書—鉄骨鉄筋コンクリート構造設計実例集 ……鷲尾　健三…〃	2		〃
建築基準法および関係法規早見一覧表……〃	〃		〃
「全国旅行実態調査報告」「スポーツに関する世論調査報告」 ……〃	4		〃
「現代建築の巨匠」—20世紀の空間を創造した人びと ……島田　勝次…〃	11		〃
植田一豊「家を建てよう」……上林　博雄…45	12		昭39
新刊紹介……堀口　甚吉…46	2		昭40
西山卯三さんの〝住み方の記〟……今　和次郎…〃	8		〃
「環境音楽」苧阪良二編……47	7		昭41
現代建築辞典，建築家の実務，カーテンウオールとその材料，商店街再開発，フランスの都市計画，日本近代建築史ノート，北京シンポジウムと京都の科学者たち……〃	1		〃
建築もののはじめ考（読者の頁欄）……〃	8		〃
棚橋諒編「建築見積ハンドブック」（読者の頁欄）……〃	10		〃

f　アンケート

建築のデザインにのぞむアンケート……37	10		昭31
竹山・浜口論争についてのアンケート……〃	4		〃
戦前・戦中・戦後と世代を異にする建築家は学窓を出たとき何を考えていたか……38	1		昭32
ライフのある建築について……〃	4		〃
あなたの作家としての転機について・これからの方向・好きな作家……40	4		昭34
計画研究者へのアンケート……41	3		昭35
設計者へのアンケート……〃	〃		〃
法規アンケート……〃	6		〃
適正工期アンケート……〃	8		〃
自動車問題に対する都市への新らしい提案……42	6		昭36
建築と規格アンケート……〃	8		〃
材料アンケート……〃	11		〃
ビル管理アンケート……43	2		昭37
〃 ……46	9		昭40
学校教育になにをのぞむか……44	1		昭38
「建築と社会」アンケート結果報告……〃	4		〃
プレハブ住宅についてのアンケート……45	2		昭39
地価安定についてのアンケート……〃	8		〃
違反建築防止アンケート……47	5		昭41
国立京都国際会館にこう思う……〃	6		〃
土留壁工法一覧表（アンケート）……〃	10		〃
建築工事に伴なう公害クレーム処理事例アンケート……〃	12		〃

g　建築と社会ニュース

大阪地盤図発行せまる・小林清君受彰を祝う会・ＪＡＪＡ総会・大阪デザインハウス賞'66発表会と記念シンポジウム・日本建築協会創立記念パーティ……47	6		昭41
Schlivek 著「メトロポリスの人間」・手すき和紙による模型づくりの山根誠さん・公害防止月間運動と講演会・京都学術代表団訪中報告書・和田山整形外科病院・「住み方の記」にエッセイストクラブ賞・甲南大学体育館見学会・ドウジマ地下街完成・神戸市総合基本計画を策定発表・天六周辺再開発計画……〃	7		〃
大阪駅前の噴水・個展〝土と火のインテリア〟・大阪商工会議所新ビル起工式・二条陣屋南禅寺円通寺をみる会・盛会のよろず相談住宅展・ゴライアス(巨人)あらわる…〃	8		〃
「万国博覧会」出版記念会・竹中工務店のニュース・神戸市役所の異色博士・住宅団地に建つ鋼構造高層アパート設計競技募集・日本建築学会創立80周年記念大会公開行事……〃	9		〃
「農村住宅」設計競技・亜鉛鉄板を使った農村住宅設計の懸賞募集・第11回住宅写真コンクール・14階建森の宮市街区高層住宅建設中・緑に浮かぶ住吉市街地高層住宅・平城ニュータウン基新計画策定……〃	10		〃
建設中の中宮寺宝蔵庫・大阪市立大学工学部校舎完成・関西都市住宅会議主催の万博会場計画報告会・大阪府建築家協同組合のマークきまる……〃	11		〃
鋼板の表示方法変更・奈良県立体育館竣工・(社)大阪建築設計協会設立・公害対策：都市計画法も改正か・騒音遮断防壁の鉄工団地……〃	12		〃

h　文　　献

近世城郭関係文献目録……西川　幸治…39	9		昭33
索引（建築と社会創刊号〜昭和27年）……34	12		昭28
建築と社会1953年第34集〜1957年第38集総目録……38	12		昭32
建築と社会1958年第39集総目録……39	12		昭33
建築と社会1959年第40集総目録……40	12		昭34
建築と社会1960年第41集総目録……41	12		昭35
建築と社会1961年第42集総目録……42	12		昭36
建築と社会1962年第43集総目録……45	12		昭37
建築と社会1963年第44集総目録……44	12		昭38
建築と社会1964年第45集総目録……45	12		昭39
建築と社会1965年第46集総目録……46	12		昭40
建築と社会1966年第47集総目録……47	12		昭41
プレストレストコンクリートに関する国内文献 ……六車　熙・鈴木　計夫…40	2		昭34
病院建築に関する文献の紹介……伊藤　誠…〃	10		〃
設備関係外国雑誌……大阪市大衛生学研究室…〃	9		〃
近代建築史年表—海外・日本・関西（附・竹腰健造）……島田勝次編…〃	1		〃
国立京都国際会館特集関係文献目録……47	6		昭41
国立京都国際会館建設経過年表……〃	〃		〃

i　レタリング

アルファベットの字版解説・A，B……47	9		昭41
C，D……〃	10		〃
E，F……〃	11		〃
G，H……〃	12		〃

j　記　　事

飛驒白川紀行……記念事業見学部委員…34	4		昭28
業者から体育会館をみる……赤松　修…〃	5		〃
Kさんへ（体育会館の管理者からの感想）…田中　巧…〃	〃		〃
城口君・谷さん・中之島……薮中　一良…〃	8		〃
8年たった広島の復興……吉田　三郎…〃	9		〃
統計数字に現われた愛知県下の建築状況の一断面 ……原　清…〃	〃		〃
京都市内における建築物の建設状況……K　M　生…〃	〃		〃
愛知県下の建設事情……X　Y　生…〃	〃		〃
神戸市の今昔（明治・大正・昭和）……置塩　章…〃	〃		〃
建築事務所35年回顧……池田谷久吉…〃	8		〃
建築協会の変遷（創立35年記念史号）……〃	12		〃
創立35年記念事業概記……〃	〃		〃
前会長片岡博士追悼会と五月午餐会……36	6		昭30
梅田ビル批判会記……会勢委員会編…〃	8		〃
委員会活動の連絡と協力について……鷲尾　健三…〃	〃		〃
長崎の建築会昔……丹羽　漢吉…37	12		昭31
郷土色の建築漫談……薄　抱月…〃	〃		〃
京都の最近の建築について……井手　正雄…〃	〃		〃
兵庫県における戦後の建築活動……森田　康次…〃	〃		〃
中国地方における戦後の建築情勢……葛西　重男…〃	〃		〃
広島の建築点描……曽根田　彰…〃	〃		〃
大阪府教育会館合評会記……〃	2		〃
宮古群島の民家について……久恒　治郎・脇本　啓一…44	6		昭39
建築家の育成（ポール・ワルタンスプール） ……訳：京大増田研究室…〃	7		〃
広島の建築……佐藤　重夫…47	3		昭41
中国支部の巻：思い出（中国支部の生れた頃） ……古林　義敦…〃	〃		〃
新春前進座観劇記……岩本　尚三…〃	4		〃
左官亀裂の本質とその物理学的再検討……鈴木忠五郎…〃	3		〃
火災予防対策と建築設計……田中良太郎…〃	〃		〃
旅行日記から……山根正次郎…40	7		昭34
建築と舞踊の「間」と「あいだ」……柳井比呂志…〃	12		〃
新建築の道聴途説……薄　与荘…〃	〃		〃
坂静雄先生のプロフィル……奥島　正一…41	3		昭35
建築物の台風災害防止に対する意見書……〃	1		〃
名古屋城の再建成って……加藤　清六…〃	3		〃
家のできるまで（スライド）……住宅委員会…〃	4		〃

集　号　年

＜世界計画者としての建築家＞
……R・バックミンスター・フラー…43　2　昭37
建築物用地下水のくみ上げ規制について……宮本　光敏…〃　6　〃
昭和37年度第1回・第2回工場見学記……〃　7　〃
ニュース：国立（京都）国際会館競技設計をめぐって……〃　9　〃
公開質問：千里丘陵住宅地区開発計画における住宅棟の配置について……〃　7　〃
実務に直結した新企画の説明会説明要旨……44　9,10,11　昭38
新しい建築材料紹介欄（PR）……〃　11　〃
会長就任のあいさつ……東畑　謙三…45　5　昭39
建材のしおり……46　1　昭40
建築協会忘年懇親会……〃　2　〃
第1回日本建築祭の概況……〃　〃　〃

k　追　悼　記

伊東忠太先生の御逝去を悼む……35　5　昭29
田辺平学氏の死を悼む……〃　3　〃
故青木友一氏を偲んで……室谷　山水…42　5　昭36
故長谷部鋭吉氏の哀悼の辞……竹腰　健造…41　11　昭35
故伊東五郎氏を偲ぶ……桐本　楠雅…〃　8　〃
故中西六郎君を憶う……黒田　茂…45　5　昭39
故絹谷祐規氏のこと……高口　恭行・泉　資一郎・鈴木　成文…〃　12　〃
故波江君の追悼記……置塩　章…46　3　昭40
故佐藤正次郎君を偲ぶ……松本　儀八…〃　6　〃
故小笠原祥光先生を偲ぶ……作間日出生…47　5　昭41
尾崎君のこと―「鬼ボルト」から「鬼」へ…滝沢　真弓…〃　6　〃
故山内嘉兵衛氏を偲ぶ……宮飼　克二…〃　〃　〃
田辺信氏逝去（読者の頁欄）……〃　10　〃
元良勲教授逝去（　〃　）……〃　11　〃

l　日本建築協会委員会

委員会・幹事会他（35周年記念号）……34　12　昭28
昭和34年度委員会活動報告……41　4　昭35
事業委員会の概要……増井　敏克…46　2　昭40
会員の声座談会……星野　二郎・岩本　尚三…〃　〃　〃
5カ年間の事業委員会関係事業一覧表……〃　〃　〃
これからの「出版委員会」……田中良太郎…〃　〃　〃
住宅委員会活動のあれこれ……海上　静一…〃　〃　〃
住宅よろず相談所開設の成果……山本　茂…〃　〃　〃
教育委員会の事業概況報告……橋本　忠保…〃　〃　〃
法規委員会……佐野　正一…〃　〃　〃
建築基準法改正に関する要望……〃　〃　〃
編集委員会のこと……片山　光生…〃　〃　〃
建材委員会について……岡本　弘…〃　〃　〃
近代建築調査委員会解散の弁を兼ねて……滝沢　真弓…〃　〃　〃
近代建築調査委員会発表建造物・件名目録……〃　〃　〃
日本建築協会常設委員会本年の抱負……47　1　昭41

m　会　告・会　報

会員の褒賞受賞……39　1　昭33
監事並びに評議員当選のお知らせ……〃　4　〃
昭和33年度役員選任……〃　〃　〃
会員の受賞……〃　6　〃
会員の表彰……〃　8　〃
昭和33年度収支予算……〃　5　〃
昭和33年度各委員氏名……〃　〃　〃
会長就任・退任の挨拶
就任の御挨拶……尾崎　久助…〃　5　〃
退任の辞……竹腰　健造…〃　〃　〃
建材優良証明　ヒッターライト……〃　〃　〃
〃　焼成ヒルコン……〃　11　〃
会員の受賞……40　1,6,8,12　昭34
建築基準法改正に関する要望書提出……〃　1　〃
監事ならびに評議員当選……〃　〃　〃
昭和34年度役員選任……〃　4　〃
建材委員会規程の制定実施……〃　11　〃
建材優良証明
ゴーレックスE.C.……〃　1　〃
アサヒラス……〃　3　〃
ハッポーラス……〃　〃　〃
スプレッドサテン……40　3　昭34
ポロンACP……〃　7　〃
日本建築協会細則一部変更の件……〃　5　〃
昭和34年度理事会務分掌……〃　〃　〃
昭和33年度決算報告……〃　9　〃
第4回・建築写真コンクール入選者……〃　11　〃
第5回・工高生デザインコンクール入選者……〃　12　〃
近代建築調査委員会の調査に協力を……〃　11　〃
会員の受賞……41　5,8,11　昭35
東海支部設立・役員選任……〃　11　〃
第6回・工高生デザインコンクール入選者……〃　〃　〃
本会欧米建築事情視察団出発……〃　10　〃
要望書提出……〃　〃　〃
監事当選通知……〃　9　〃
建材優良認定
ダイケン・インシュレーション・吸音板……〃　〃　〃
ダイケン・インシュレーションプランク……〃　〃　〃
ダイアルテックス……〃　5　〃
ミラコート……〃　3　〃
会員倍加運動にご協力をお願い……〃　9　〃
臨時総会開催通知……〃　8　〃
通常総会決議報告……〃　7　〃
理事の補欠選任……〃　〃　〃
昭和35年度支部選出評議員当選……〃　〃　〃
京都支部長更迭……〃　〃　〃
本会企画のテレビ放送「建築の広場」……〃　〃　〃
通常総会開催通知……〃　6　〃
欧米建築事情視察団募集……〃　〃　〃
昭和34年度決算報告……〃　〃　〃
昭和34年度事業報告……〃　〃　〃
会館基金へ寄附金受領……〃　5　〃
昭和35年度理事会務分掌……〃　〃　〃
東海連絡所事務所移転……〃　〃　〃
昭和35年度収支予算……〃　〃　〃
昭和35年度役員選任……〃　4　〃
近畿建築会館設立資金借入金の一部抽籤償還……〃　〃　〃
監事ならびに評議員当選……〃　3　〃
建設省建築研究所支部設置に関する要望書……〃　12　〃
用途地域の改正および防（準防）火地域の拡大指定に関する要望の件……〃　〃　〃
昭和36年度役員選任……42　4　昭36
監事ならびに評議員当選お知らせ……〃　〃　〃
昭和36年度理事会務分掌……〃　5　〃
近畿建築会館設立資金借入金の一部抽せん償還……〃　〃　〃
昭和36年度収支予算……〃　〃　〃
会員の受賞……〃　6,8,11,12　〃
昭和36年度中国支部選出評議員当選通知……〃　6　〃
会館基金への寄付金受領……〃　6,8　〃
通常総会決議報告……〃　7　〃
昭和35年度事業報告書……〃　〃　〃
昭和35年度決算報告……〃　〃　〃
昭和36年度中国支部役員新任通知……〃　〃　〃
第2回欧米建築事情視察団募集……〃　〃　〃
要望書提出……〃　8,9　〃
理事の辞任と逝去……〃　9　〃
創立45周年記念事業の実施について……〃　11　〃
理事の補選……〃　7,12　〃
創立45年記念事業資金受領報告……43　3,4,5,6,7,8　昭37
通常総会開催通知……〃　2　〃
昭和37年度留任・退任・監事・評議員氏名……〃　〃　〃
昭和37年度監事ならびに本部所属評議員当選通知……〃　4　〃
創立45年記念式典ならびに行事挙行……〃　〃　〃
昭和37年度役員選任……〃　4　〃
昭和37年度収支予算……〃　〃　〃
細則一部改定の件……〃　〃　〃
理事会務分掌……〃　5　〃
要望書提出……〃　〃　〃
住宅工学科新設に関する要望書
平城宮跡保存に関する要望書
会館建設資金借入金の償還当選通知……〃　〃　〃
昭和37年度常設委員会委員氏名……〃　〃　〃
会員の受賞……〃　6,8,12　〃

	集	号	年
昭和37年度支部選出評議員当選通知	43	6	昭37
通常総会開催通知	〃	〃	〃
通常総会決議報告	〃	7	〃
昭和37年度事業報告書	〃	〃	〃
昭和36年度決算報告	〃	〃	〃
理事の補欠選任	〃	〃	〃
運営審議会の設置と会勢審議会の廃止	〃	8	〃
第6回現物実務講習会要項	〃	〃	〃
第5回建築写真コンクール募集規定	〃	〃	〃
第7回現場実務講習会開催	〃	9	〃
日本学術会議第6期会員候補者の推せん	〃	10	〃
「ふるさとのすまい」毎日出版文化賞受賞	〃	12	〃
第8回工高生デザインコンクール入選者発表	44	1	昭38
通常総会開催通知	〃	2,6	〃
昭和38年度留任・退任・監事・評議員氏名	〃	2	〃
第2回日本建築協会欧州建築事情視察団募集	〃	〃	〃
昭和38年度監事1名および補選監事1名ならびに本部所属評議員54名および補選同1名当選通知	〃	3	〃
南海電鉄沿線に建つ新住宅設計コンクール入選者発表	〃	4	〃
昭和38年度役員選任	〃	5	〃
理事会務分掌	〃	〃	〃
会館建設資金借入金の償還当選通知	〃	〃	〃
青年建築家のみなさまへ	〃	〃	〃
昭和38年度常設・特別委員会委員	〃	〃	〃
昭和38年度支部選出評議員当選通知	〃	6	〃
会員の受賞	〃	6,8,12	〃
昭和38年度収支予算	〃	6	〃
通常総会決議報告	〃	7	〃
昭和37年度事業報告書	〃	〃	〃
昭和37年度決算報告	〃	〃	〃
第6回建築写真コンクール募集	〃	7,8	〃
第1回会員作品展開催について	〃	7	〃
要望書提出—京大建築学第二学科新設—	〃	10	〃
陳情書提出—日本建築総合試験所設立について	〃	〃	〃
第6回建築写真コンクール入選者発表	〃	12	〃
第9回工高生デザインコンクール入選者発表	〃	〃	〃
通常総会開催	45	2,6	昭39
昭和39年度留任・退任・監事・評議員氏名	〃	2	〃
昭和39年度監事1名ならびに本部所属評議員48名当選通知	〃	4	〃
昭和39年度役員選任	〃	5	〃
理事会務分掌	〃	〃	〃
会員の受賞	〃	5,8,11	〃
会館建設資金借入金の償還当選通知	〃	5	〃
財団法人日本建築総合試験所の設立許可	〃	〃	〃
昭和39年度常設委員会委員	〃	〃	〃
昭和39年度収支予算	〃	6	〃
通常総会決議報告	〃	7	〃
会館基金への寄付金受領	〃	6,7,10	〃
昭和39年度和歌山支部選出評議員当選通知	〃	7	〃
昭和38年度事業報告書	〃	〃	〃
昭和38年度決算報告	〃	〃	〃
要望書提出	〃	8	〃
第1回日本建築祭次第	〃	8,10	〃
第10回工高生デザインコンクール入選者発表	〃	12	〃
第1回日本建築祭決議報告	〃	〃	〃
通常総会開催通知	46	2,6	昭40
昭和40年度留任退任監理・評議員氏名	〃	2	〃
第3回日本建築協会海外建築事情視察団募集	46	2	昭40
昭和40年度監事評議員当選	〃	3	〃
日本建築協会昭和40年度役員選任	〃	4	〃
昭和40年度収支予算	〃	〃	〃
青年建築家のみなさまへ	〃	〃	〃
会員の受賞	〃	5,8,11	〃
昭和40年度理事会務分掌	〃	5	〃
昭和40年度支部選出評議員当選通知	〃	〃	〃
常務理事の新任	〃	5	〃
近畿建築会館建設資金借入金の償還当選通知	〃	〃	〃
昭和40年度日本建築協会常設委員会委員	〃	〃	〃
よろづ相談住宅展開催	〃	6	〃
通常総会決議報告	〃	7	〃
第3回欧州建築事情視察団出発	〃	〃	〃
昭和39年度事業報告書	〃	〃	〃
昭和39年度決算報告	〃	〃	〃
第1回実務に直結した建築工事別説明会「基礎と工法その1」	〃	〃	〃
第2回実務に直結した建築工事別説明会「基礎と工法その2」	〃	8	〃
日本学術会議第7期会員候補者の推薦通知	〃	10	〃
第3回実務に直結した建築工事別説明会「最近のコンクリート」	〃	〃	〃
第4回実務に直結した建築工事別説明会「鉄骨構造」	〃	11	〃
第11回工高生デザインコンクール入選者発表	〃	12	〃
会員の受賞	47	1,5,8,11	昭41
通常総会開催通知	〃	1,6	〃
監事・評議員の当選お知らせ			
日本建築協会細則一部改訂の件（会費値上）	〃	3	〃
第4回海外建築事情視察団募集	〃	〃	〃
昭和41年度役員選任	47	4	昭41
昭和41年度支部選出評議員当選	〃	〃	〃
昭和41年度収支予算	〃	〃	〃
青年建築家のみなさまへ	〃	〃	〃
昭和41年度理事会会務分掌	〃	5	〃
近畿建築会館建設資金借入金の一部償還当選	〃	〃	〃
昭和41年度常設委員会委員	〃	〃	〃
通常総会決議報告	〃	6	〃
昭和40年度事業報告書	〃	7	〃
昭和40年度決算報告	〃	〃	〃
創立50周年記念事業の実施について	〃	11	〃
創立50周年記念事業委員委嘱	〃	〃	〃
モントリオール万国博視察団募集	〃	〃	〃
会報昭和35年11月分〜36年10月分	42	1〜12	昭36
会報昭和36年11月分〜37年10月分	43	1〜12	昭37
会報昭和37年11月分〜38年10月分	44	1〜12	昭38
会報昭和38年11月分〜39年10月分	45	1〜12	昭39
会報昭和39年11月分〜40年10月分	46	1〜12	昭40
会報昭和40年11月分〜41年10月分	47	1〜12	昭41

n 創立記念報告号

創立35年記念号	34	12	昭28
創立45年記念事業報告	43	12	昭37
創立45年記念講演会講演記録	〃	〃	〃
建築随想……竹腰　健造	〃	〃	〃
経営雑感……松下幸之助	〃	〃	〃
創立45年記念事業住宅講演会記録	〃	〃	〃

日本建築協会 月間の動き

□ 昭和42年1月分 □

理　事　会

12日　1時～1時半　於大阪建設会館
出席者　東畑，竹中，鷲尾正副会長ほか10理事　海上監事，　和東海支部長
議事（1）通常総会開催の件
（2）入退会者承認の件
（3）報告事項

編　集　委　員　会

委　員　会
13日　4時～9時　於会館集会室
出席者　長谷川委員長ほか8名
議事　1. 2月号＝建設機械特集経過報告
2. 3月号＝50周年記念号経過報告
3. 投稿原稿（宮村次郎：建設業界史話）の件
4. 4月号＝社会と建築特集企画
5. 5月号＝流通機構と建築特集幹事会
6. 6月号＝住宅と設備特集幹事会の件
7. その他

表紙小委員会
25日　正午～2時　於役員室
出席者　好川委員ほか3名
3月号の表紙について協議

流通機構と建築特集幹事会（第1回）
26日　3時～6時　於会館集会室
出席者　田中幹事ほか5名
5月号の特集として，その企画について協議

表紙打合会（3月号）
30日　5時～6時半　於会館集会室
出席者　滝沢50周年記念号編集委員長，岸　菅谷両氏（デザイン小委員会）
50周年記念号の表紙について調整打合せ

事　業　委　員　会

委　員　会
17日　5時半～7時　於会館集会室
出席者　増井委員長，岡本，窪田副委員長ほか19委員
議事（1）忘年懇親会の報告について
（2）モントリオール万博視察団募集報告について
（3）2月～4月の事業企画について
（4）その他

住　宅　委　員　会

委　員　会
25日　5時半～8時　於会館集会室
出席者　岡橋，黒谷，野々村正副委員長ほか10委員
議事（1）第3回「よろず相談住宅展」の収支について
（2）スライド「家のでき上るまで」映写

法　規　委　員　会

委　員　会
25日　3時～5時　於会館集会室
出席者　佐野委員長ほか13名
議事　1. 建築基準法，士法改正の動き経過報告
2. 建築基準法改正の意見・討議

50周年記念総務委員会

展覧会小委員会
9日　5時半～8時　於会館集会室
出席者　佐野主査ほか8委員
記念展覧会の企画について

運動会小委員会
13日　6時半～9時半　於野田ボーリングセンター
出席者　窪田小委員長ほか4委員
議事（1）ボーリング大会の企画検討
（2）ソフトボール大会の企画検討
（3）その他

表彰式小委員会
14日　正午～3時　於会館集会室
出席者　岡本小委員長，中原幹事ほか3委員
表彰者名簿を作成した

特別見学会小委員会
16日　5時半～9時　於阪南荘
出席者　中出小委員長，金子幹事ほか3委員
議事（1）特別見学会企画決定について
（2）担当委員の作業について
（3）その他

ゴルフ大会幹事会
18日　正午～2時　於会館集会室
出席者　佐野実行委員長ほか3委員
議事（1）懇親ゴルフ大会賛助金募集について
（2）賞品，カップ選定について

モントリオール万博視察団企画打合会
20日　正午～2時半　於会館集会室
出席者　大沢徳吾郎，森口徹弥，中川秀夫（視察団員）三輪泰司ほか5名
（事業委員）矢野豊作，鈴木洋也　坂内幾男
（交通公社）青木良夫ほか1名
（カナダ航空）窪谷真夫
議事（1）団長，副団長の人選について
（2）モントリオール万博視察とグループと企画内容について
（3）アメリカ国内の視察行程とグループ別について
（4）資料（モントリオール万博）の蒐集方法について
（5）セミナー企画（国内，現地）について
（6）全体の企画の詳細事項作成について
（7）その他

展覧会小委員会
20日　5時半～7時半　於会館集会室
出席者　谷口幹事ほか3委員
展示内容について

祝賀会小委員会
25日　正午～2時　於会館集会室
出席者　山本小委員長ほか3委員
祝賀会の企画内容について協議

記念式典小委員会
27日　正午～2時　於会館集会室
出席者　矢野小委員長，谷川幹事ほか3委員
記念式典の内容その他について協議

ゴルフ大会幹事会
28日　正午～1時30分　於会館集会室
出席者　佐野実行委員長，地頭幹事
議事（1）賛助金募集方法
（2）業界新聞社の対策

モントリオール万博視察団幹事会
30日　正午～3時　於会館集会室
出席者　中原幹事ほか13幹事　矢野事業委副委員長，交通公社，青木，福本，カナダ太平洋航空，窪谷
議事　1. 資料の蒐集と編集
2. セミナーの企画
3. 旅程の企画内容
4. 質問事項の取扱
5. 幹事長の選出（中原茂氏選任）
6. 委員会の構成（資料）（セミナー）（旅程）（アンケート）を編成した幹事会終了後委員会を専門別に開催した

講演会小委員会
30日　5時半～7時　於会館集会室
出席者　岩下主査ほか2委員
記念講演会の企画について協議

50周年記念号編集委員会

21日　3時～5時半　於会館集会室
出席者　滝沢委員長ほか12名
原稿資料の最終報告とその協議

50周年記念物建造委員会

23日　5時半～8時　於会館集会室
出席者　岡橋委員長ほか4名
大阪市の意向説明その他

50周年記念出版委員会

25日　4時～6時半　於役員室
出席者　田中委員長，長沢，吉川委員
記念出版物として「近代建築調査委員会報告・総集図書」（但し経費の問題を検討する）「鉄骨のデザイン」を候補図書とした

建築6団体合同新年交礼会

4日　1時～2時　於国際ホテル
日本建築家協会関西支部の当番で恒例のとおり開催
参加者　484名

新　年　午　さ　ん　会

12日　11時半～1時　於大阪建設会館
恒例により昭和41年に叙勲ならびに国家褒章を受けられた会員をお招きして開催
招待者　3名　一般会員48名

信用ある技術と伝統の

アスファルト工事 専業大店

株式会社 久保商店

大阪市北区真砂町5番地　電話　大阪364代表 0206～9

室谷

内装資材専門店

室谷商事株式会社

本社　神戸市生田区北長狭通4－1　（英和ビル）
直通電話　神戸（33）0881～3
支店　大阪市北区絹笠町50（堂ビル5階 502号室）
直通電話　大阪（364）2031～4
倉庫　神戸市葺合区八幡通1－5（電話㉒2923）

ビル設備の補修は補修専門の

株式会社 岸工作所へ

- ボイラーや冷凍機の故障のとき　シーズンオフの手入れや検査等のとき
- ポンプやファンの故障のとき　シャフトやベヤリングの取替のとき
- エンヂンの故障のとき　ヂーゼルエンヂン・ガソリンエンヂン等の故障のとき
- 給水や排水管の詰ったとき　漏水したとき
- 衛生器具の故障破損のとき　陶器や金具の取替のとき
- 窓枠やシヤッター・出入口の故障のとき　サッシュ・ドアーチェック・ブラインドの故障のとき
- タンクやピット・浄化槽の掃除のとき　鉄板タンクの錆落しやペンキ塗りのとき

本社　大阪市旭区今市町1－262
TEL 951－7192・951－0870（仮設中）
出張所　大阪市北区堂島浜通1－25　新大ビルC階
TEL 361-3225・341-5819・（夜間）951-0244

Taniyama

送風機

株式会社 谷山鐵工所



営業品目
- LAF形　リミットロード送風機
- TAF形　可変式軸流送風機
- SL形　ストリームライン送風機
- CL形　セントリーライン送風機
- プレートフイン・ヒーター・クーラー

本社工場/大阪市城東区野江東之町二丁目一番地
電話　大阪（931）代7803～9
東京出張所/東京都文京区湯島四丁目六番十七号
電話　東京（811）3435・3440

空気調和・冷暖房設備
給排水・衛生設備　設計・施工

株式会社 **朝日工業社**

大阪市東淀川区加島町３５７　電話 (302) 2271～9 (代)
大阪支社　同　上
東京支社　東京都港区芝浜松町２－７　電話 (434) 6171 (大代)
支　店　北海道・仙台・名古屋・広島・福岡
営業所　盛岡・釧路

水道・衛生・暖冷房・其他管工事
設計並施工
(旧斎藤久孝事務所)

斎久工業株式会社大阪支店

大阪市北区常安町１１番地
電話　大阪 (443) ５０４１～５番
東京本社　東京都千代田区大手町２の８番地 (日本ビル)
電話　東京 (270) ７４１１番 (代表)
札幌営業所　札幌市南大通西4丁目1札幌道銀ビル　電話 札幌㉒5756
金沢営業所　金沢市高岡町２番１６号　電話 金沢㉑2074
福井出張所　福井市御幸２の１　電話 福井㉔2436
高松出張所　高松市２番丁９　電話 高松㉑5195
岡山出張所　岡山市大供３８０の１　電話 岡山㉔5486

General Electric (G. E) 社製
冷暖房機「**ゾンナル**」「**ウェザートロン**」その他各種冷暖房機
温水ボイラー「**ハイテンプ**」(西独WEBSTO社技術提携)

西日本総販売元

岩佐物産株式会社

本　社　大阪市北区老松町３－56(西天満ビル)　電話 (364)2238(代表)
東　京　東京都中央区霊岸島１－１０　電話 (551)1079・1617
名古屋　名古屋市南区大磯通２－７　電話 (821) ３５５８
四　国　八幡浜市大黒町３　電話 八幡浜 514・1４

創業　大正二年
暖冷房・換気・空気調和
病院諸機械・給排水・衛生

株式会社 **斎藤省三商店**

東京店　東京駅前丸ビル６階６７６区
電話 東京 (201) ３６１～４
大阪店　大阪市西区土佐堀通　大同ビル616号
電話 大阪 (443) ３３６１～６
札幌店　札幌市北十条西１８丁目３６番地
電話 札幌 (61) ４３７１～３
名古屋店　名古屋市中区栄３－５－２９　千代田ビル514号
電話 中局 (261) ０６４１～３

空気調和・衛生設備
設計施工

株式会社 **栄興商会**

取締役社長　中山敏正

本　社　大阪市福島区上福島北２－１
電話 (451) ３３９１ (代表)
支　店　東京・仙台
出張所　神戸・広島・高知・千葉・八戸

冷暖房
給排水、衛生水道
電気
厨房

６Ｓサッシ
環境衛生施設
荷役運搬機械
化学鉱山機械

三機工業株式会社大阪支店

取締役社長　大前玉男
取締役支店長　樋口勝栄
大阪市東区北浜２丁目２２番地　電話 大阪 (202) 代表3071
本　店　東京・日比谷・三信ビル
支店・出張所　名古屋、福岡、札幌、広島、仙台、富山、金沢、静岡、高松

給排水・衛生
暖冷房・換気　設計施工

株式会社 **大阪城口研究所**

取締役社長　城口庸平

大阪市北区高垣町一・電話大阪371局7151 (代表)
京都市東山区大和大路正面上ル　電話京都56局4945 (代表)
神戸市生田区下山手通六ノ一・電話神戸34局　５８９２

空気調和・衛生設備
設計施工

株式会社 三晃商会

本社　大阪市北区富田町１６　電話 (364) 代表7031
支店　東京都千代田区神田小川町2丁目1　電話 (292) 代表7751
広島市紙屋町1丁目２番２２号　電話 (47) 代表4535
福岡市大名１丁目８番１２号　電話 (76) 代表3795
出張所　名古屋市中村区広小路西通3丁目9　電話 (561) ２９４８
富山市堀川小泉町２８６　電話 (31) ２２７４
金沢市下新町８　電話 (34) ４０８９
福井市西宝永町２丁目１１３　電話 (22) １５９６
松江市東本町４丁目１４７　電話 (21) ５０９８

電気・暖冷房・水道・衛生設備
設計施工

大阪電気暖房株式会社

取締役社長　菅谷三郎

本店　大阪市西区江戸堀１－６０　電話 (441) 8231 大代
支店　東京・名古屋・福岡
出張所　京都・神戸・岡山・高松・広島・熊本・横浜
札幌・仙台・新潟・富山・金沢・福井

須賀工業株式会社

空気調和　衛生設備

大阪市西区土佐堀通１丁目１４　電話 441－5171
支店－東京・大阪・名古屋・京都・神戸・福岡
営業所－広島

空気調和装置・塗装設備
設計施工

株式会社 **建材社**
大阪支店

大阪市北区中ノ島二丁目 (新朝日ビル５階)
電話　大阪 (203) ３７２１ (代)
本社及東京支店　東京都中央区銀座西６丁目３ (朝日ビル８階)
営業所　名古屋市中区錦２丁目２ノ１３
出張所　札幌・広島・北陸・仙台

冷房・暖房・温湿度調整装置
換気・給排水・衛生設備
設計施工

第一企業株式会社大阪支店

大阪市北区北同心町１丁目５７
電話 (351) (代表) ２８０８
本社　東京都文京区本郷１丁目１２－５
電話 (811) (代表) ６２９４
支店出張所　名古屋・福岡・札幌・仙台・高松・広島

温湿度調整装置、暖　房
冷房、水道、搬送機設備
設計並ニ施工

第一工業株式会社大阪支店

大阪市北区富田町30　電話 (361) 5177(代)
(364) 0977(代)
本　社　東京都千代田区丸ノ内3－2(新東京ビル)
電話 (211) 8511・8561 (代)
仙台支店　仙台市新伝馬町60
電話 (21) 4491
名古屋支店　名古屋市東区東門前町3－6
電話 (971) 3621

給水　衛生　空気調和設備
設　計　施　工

平山工業株式会社

取締役社長　平山京平

大阪市西区江戸堀2丁目2番地
電話　大阪 (441) 代1994　(443) 代0331

暖・冷房・空気温湿度調整装置
設　計　施　工

髙砂熱学

本　社　東京都千代田区神田駿河台4丁目2番地
大阪支店　大阪市北区梅田8番地(新阪急ビル8階)
電話 大阪 (312) 4521 (代表)

冷暖房・温湿度調整・水　道
衛　生・環境衛生施設
設　計　施　工

山田工業株式会社

本　社　大阪市西区京町堀1丁目62　電話 (443) 代表8161～9
出張所　東京都北区上十条1丁目9番22号　電話 (911) 3941
名古屋市中村区牧野町1の6　電話 (541) 0966
神戸市生田区北長狭通7丁目1の1　電話 (34) 1778・4386
広島市袋町6番4号　電話 (47) 7575・7588

Carrier
空気調和装置、各種冷凍機
設計・製作・施工

東洋キヤリア工業株式会社
大阪支店

大阪市北区堂島浜通1－25(新大ビル)
電話 大阪 (344) 1512 (大代)
本社　東京都中央区日本橋本石町4－2(三井第二別館)
支店　東京・名古屋　出張所　九州
工場　埼玉県北足立郡・東京都足立区

温湿度調整装置・冷暖房・換気装置
ファン・ヒーター・クーラー
スチール・アルミ・サッシ・ドア・シャッター
設計・製作・施工

理研鋼機株式会社

大阪支店　大阪市東区高麗橋5－45(興銀ビル別館)
電　大阪　代 (202) 7745番
本社・工場　東京都北区神谷3の10の3
電　東京　代 (901) 3191番
本社・分室　東京都港区麻布笄町155(第5興和ビル)
電　東京　代 (409) 0151番
支　店　名古屋・仙台　連絡所　福岡

温湿度調整・暖冷房・換気給排水・衛生設備
設計並施工

日本管工業株式会社

代表取締役　市川繁雄

本　社　京都市南区西九条豊田町20番地の1
電話 (68) 5101～5・夜間専用 (69) 1045
大阪営業所　大阪市北区天満橋筋1－37(天満橋北詰)
電話 (352) 3501～3
四日市営業所　四日市市浜田西末広町　電話(53)7431～3
津営業所　津市栄町2－111　電話(8)3610

▼電気設備

暖冷房・空気調和・環境衛生工事一切
設計施工

日本熱学工業株式会社

社長　牛田正郎

本　社　大阪市北区万才町50
大阪事業本附　電話　大代表 (312) 8671
東京事業本部　東京都新宿区三栄町18
電話　大代表 (353) 9151
名古屋事業本部　名古屋市中村区下広井町3－15(中京電気ビル)
電話 (581) 9376～8
各事業部　京　滋、下　関、新　潟、金　沢

各種電気工事設計施工

浅海電気株式会社

取締役社長　浅海正雄

本　社　大阪市北区老松町1丁目22
電話　大阪 (362) 8701
東京支社　東京都港区赤坂1丁目5番7号
電話 (481) 8621 代表
支　店　名古屋・札幌・福岡
営業所　旭川・横浜・浜松・姫路・高松

給・排水・衛生・消火・暖冷房設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市大淀区中津南通4丁目11　電話大阪(458)3531番

電気工事設計施工

工藤電気株式会社

取締役社長　西村庄市

大阪市北区野崎町六九　電話・大阪 (313) 代表3456
東京支店　東京都中央区西八丁堀二丁目十二
電話 (551) 8330・8303
営業所　名古屋・神戸・岡山・広島・北九州

電気工事・計装工事
設計施工

栗原工業株式会社

取締役社長 栗原信英

大阪市北区高垣町16番地(東阪急ビル7階)
電話 大阪 (313) 1101 (大代)
支社 東京・名古屋
出張所 舞鶴・広島・八幡・福岡・富山

電気工事 設計・施工

中本電気株式会社

取締役社長 中本正明

本社 大阪市城東区野江東之町三丁目一五
電話 大阪 (931) 代表7341～5
0388・2193
資材倉庫 大阪市城東区野江東之町三丁目一一 電話大阪(931)7004
奈良営業所 奈良県御所市御国通り360 電話御所 (2) 2607・4259

電気工事設計施工

株式会社 三興社

代表取締役 林 敏夫

本社 大阪市北区絹笠町50(堂ビル7階)
電話 (361) 3671 (代)
支店 東京都中央区日本橋箱崎町3丁目2番地
電話 (661) 1478 (代)
出張所 川崎・相模原・堺・福山

電気工事設計施工

富士電業株式会社

取締役社長 田中実

本社 大阪市西区北堀江上通1丁目65
電話 大阪 (541) 0564～7・7148～9
営業所 東京・名古屋・広島・福岡

電気・暖冷房・空調工事設計施工

三宝電機株式会社

取締役社長 嘉納伝三

本社 大阪市北区絹笠町五〇(堂ビル三階)
電話 (364) 1471 (代)
支店 東京都中央区明石町6－23(辻孝ビル)
電話 (542) 5641
営業所 名古屋市北区城見通二丁目二〇番地
電話 (991) 5131～3
出張所 神戸市・堺市・高槻市・姫路市

選択制御監視装置
MU型動力制御盤
グラフイック盤
高低圧受配電盤

空調衛生設備監視盤
各種動力自動制御盤
分電盤・各種警報盤
設計・製作

森井電業株式会社

取締役社長 森井定勝
専務取締役 佐野春吉

本社 東京都港区芝三田網町一番地
電話 東京 (451) 代表9611
東京支店 東京都品川区南品川町4丁目1番3号
電話 東京 (474) 3221 (大代表)
大阪支店 大阪市北区常安町16番地
電話 大阪 (443) 代表8381 夜間(441) 0502
出張所 名古屋・広島・福岡・仙台
工場 東京・大阪・福岡・名古屋

電気工事・計装工事・設計施工

中央電気工業株式会社

取締役社長 今村騰

本社 大阪市北区梅ケ枝町56番地
電話 大阪代表 (341) 8131～7
支店 東京・名古屋・四日市・神戸・和歌山
営業所 松山・京都・草津・静岡・水島

各種電気工事設計施工

株式会社 ヤマト電気商会

取締役社長 山本永造

本社 大阪市北区西堀川町15番地
電話 大阪 (364) 代3056
東京営業所 東京都港区新橋5－34－6 相馬ビル5階
電話 東京 (434) 3848・(431) 8435
出張所 大阪南・北海道・名古屋・四日市・福山・福岡

電気設備 設計施工

朝陽電気株式会社

代表取締役 山本博三

本社 大阪市北区中之島3の3 朝日ビルディング
TEL 代表 (448) 1361
営業所 大阪市西区土佐堀通り4の8
TEL 代表 (448) 1361
営業所 京都市中京区西ノ京中合町20の11
TEL 代表 (81) 9296

電気設備工事設計施工

東光電気工事株式会社
大阪支社

支社長 姉川正男

大阪市東区高麗橋五丁目二八番地 電話大阪 (202) 0325～9番
本社 東京都千代田区西神田1丁目8番地
支社 札幌・仙台・丸ノ内・名古屋・福岡
出張所 旭川・白河・横浜・静岡・富山

エレベータ・リフト・カーリフト
設　計　・　製　作

日本エレベータ工業株式会社

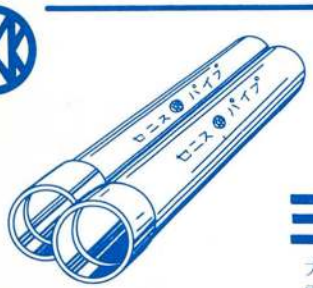
代表取締役　長尾正大

本社　大阪市大淀区天神橋筋六（天六阪急ビル）（351）4927代
大阪営業所　（351）4927代　サービス事業所　（328）0336代
東京営業所　（822）0995代　工　場　（328）0336代

営業品目
- カネボウゴーレックス防水
- 化粧壁材ソリジットスタイン吹付
- 樹脂砂壁エバーサンド吹付
- 樹脂蛭石エバテックス吹付

合同特許建材工業株式会社

本社営業所・大阪市東住吉区駒川町3－54　電話(702)代7814～6
特約代理店・東京・名古屋・金沢・広島・今治・福岡



陶管・練瓦・ヒューム管
ベンチレーター・マンホール

株式会社
三幸商會

大阪市北区与力町一ノ一〇
電話　大阪（358）4031

耐酸ツボ各種
天窓瓦福林産地直売



建築陶器の百貨店

株式会社
吉田芳雄商店

大阪市北区旅篭町18
電話（361）3450・（364）2345

奉仕感謝の店

タイル　衛生陶器

株式会社
川岸窯業商店

大阪市西区靱本町2丁目98　靱本町電停前
電話　大阪（532）0461～4番

FUTABAYA DECORATORS, LTD.
建築物、船舶等造作工事
家具、建具、寄木、室内装飾工事　設計施工
内外装飾織物・窓掛、敷物、壁紙類一式

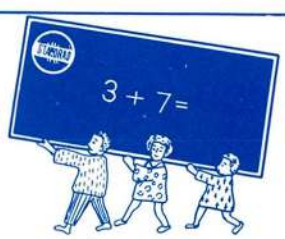
二葉屋装備工業株式会社

取締役社長　若林繁吉
大阪市大淀区本庄川崎町2の6
（創業大正7年）　電話・大阪（371）3321～3・3630

株式会社
矢橋大理石商店

大阪出張所

大阪市東区高麗橋二丁目九　野村ビル五階
電話　大阪（231）4257－8番



Standard　Board&Slate

フタバ黒板

大阪市東住吉区桑津町三丁目101番地　電話大阪(717)4561～2

社寺数寄屋用瓦……大仏瓦
内外装用窯変美術タイル……大仏タイル

（株）大仏

本社	京都市東山区今熊野大仏池田町9の9	（56）3555 3725
大阪営業所	大阪市北区空心町1丁目28	（351）0703
名古屋営業所	名古屋市瑞穂区堀田通1丁目30	（881）2703
東京営業所	東京都渋谷区上原1丁目29の4	（467）1641
工場	京都清水・山城・瀬戸	

特許　白蟻

松平式白蟻殺滅予防所

所長　防除士　松平藤佐根

奈良市南城戸南方町28　電話（22）4098
奈良市登大路二番町（博物館前）　電話（22）4098
本部　高知県宿毛市宿毛町2639

雨水浸入剝落防止
耐震耐風
安定軽量



ナニワ緩勾配瓦

3寸緩勾最適軽量水止付（空葺）瓦

ナニワ瓦株式会社
大阪市浪速区元町一丁目壱二番電話(641)五五五

網入光り波型ガラス (スレート小波 / スレート大波) 長サ965m/m 1,818m/m

ダイニチ・アーモライト 波板・平板

(硝子繊維強化ポリエステル板)各種波、寸法(長尺物有)

製造販売 **大日本硝子工業株式会社**

大阪支店 大阪市北区玉江町2ノ4 (三菱倉庫ビル) 電話 (441)1389・3389・3281
本社 神奈川県相模原市小山字久保224 電話 (72)3101~4

●法定不燃材の屋根長尺現地成型

ガスにも／熱にも
酸・薬品にも
大丈夫です

●責任施工・型録送呈

特許●耐酸・耐アルカリひふく鉄板

オリエンタルメタル

●永久建材の超ひふく鉄板

スーパーオリエンタルメタル (SPM)

カラースーパーオリエンタルメタル (CSPM)

●新時代にマッチした各種のカラー製品があります

オリエンタルメタル製造株式会社

本社工場 尼崎市大物北口 電話 大阪(481)8085~9
大阪支店 尼崎市北新町4-41(古川ビル) 電話 大阪(481)8085~9
東京支店並工場 埼玉県蕨市東町2-20-4 電話 蕨(32)3115~7
支店・出張所 郡山・八幡・名古屋・川崎・岩国・宇部・延岡・敦賀・三原・徳島・徳山

腐らない そして 燃えない
法定不燃材 298号

ケミカラーオーシマメタル

新しい型の
ひふくてっぱん

屋根材、壁材・谷樋棟包水切に
スタンダードメタルの大島応用化学

東大阪市新庄(782)4171代

特許 内外式 意匠登録

電動ベンチレーター

屋上強制換気装置製作のパイオニア

50年の豊富な経験と技術、研究により
1. 最高の換気率
2. スマートな外観
3. 雨仕舞の完全
4. 価格の低廉
5. 直傭工による施工の完璧
6. 行届いたアフターサービス

近畿コカコーラボトリング美原工場
NK型口径 900m/m (モートル3HP) 40基

内外建材株式会社

移転仮営業所 大阪市西区江戸堀北通2の3(新坂ビル) TEL(441)3983~4・4396
工場 大阪市城東区天王田町1の141 TEL(962)1149

内外式コンチニアスベンチレーター
筒型ベンチレーター
内外式ガラス屋根
内外式連続採光換気装置
設計施工

カーテンウォール
サッシ・ドア
アッセンブルフロアー
グリルウォール
ワイヤーモール
天井パネル
軽量間仕切
防潮扉
エヤームーバー
その他

●超高層時代をになって、カーテンウォールの果す役割はますます大きくなりました。　東京カーテンオール工業の、この分野における特異な技術は広く業界に認められていますが、アルミ、ステンレス、ブロンズ等を使用した美しい金属外装で都市に一層の美観をそえることも、またビルディングドレスメーカーとしての東カテの使命です。

TKK 東京カーテンオール工業
本社及工場　東京都荒川区西尾久4丁目12－12　電話(893)0111大代
大阪支店　大阪市北区富田町18番地(島根ビル)　電話(364)9154代
名古屋支店　名古屋市東区武平町4－16－5(住商ビル)　電話(941)2577代
営業所　東京都中央区八重洲5－7(八重洲三井ビル)　電話(272)0401代
出張所　福岡・札幌・新潟・仙台

近代建築の要求する

＊特許 小俣式 ステンレス・アルミニウム 防火シャッター

設計
製作
施工

小俣シャッター工業株式会社大阪支店
大阪支店　大阪市北区若松町30　電話大阪(364)9004・9016・4825
本社工場　東京都北区田端町1138　電話東京(893)5211～5

シヤッターの総合メーカー

豊かな経験と
最新の技術…

東洋シヤッター

東洋シヤッター株式会社
本社工場　大阪市西淀川区佃町4－33　TEL(471)8331代表
支店　東京(771)1171・名古屋(331)6171・大阪(352)4571
営業所　横浜・滋賀・京都・神戸・福岡・他全国主要都市

スチール
アルミ
ステンレス
サッシ・ドアー
カーテンウオール
シヤッター
三高式オペレーター・ドアーハンガー

TRADE MARK M.T.K.S

株式会社 三高製作所
本社・工場　尼崎市神崎五反田280番地
電話 大阪(401)6158・6159・7939・9463　(491)3200

内装
カーテン
ブラインド
アコーディオンドア
クロス
ジュウタン
木工練付



床貼
Pタイル
カラローン
リグノイド
ロンリューム
ビノリューム
リノリューム

特許 気光式通風器 製造

田辺工業株式会社

大阪市西区江戸堀2－79　TEL〈441〉7437～9

内外

責任施工
アスファルト防水工事
セメント防水工事
アスファルトモルタル床舗装工事
耐酸アスファルト（樹脂）
モルタル工事

N.G.C.式

米国パブコ・アスファルトコンパウンド
米国バイヤーライト・アスファルトコンパウンド　販売
各種シート防工事　責任施工
新防水材リベットルーフ　責任施工

内外工業株式会社

本社　大阪市阿陪野区旭町一ノ五一　電話(641)3434～6
(631)0810(夜間)
工場　大阪市東住吉区桑津町三ノ一六

完全防水　冷工法
プルーフテックス防水工事

耐酸工事　防水工事専門店
耐酸化学工業株式会社

大阪市北区高垣町80　TEL代361/0178



＊左官工事のスピード化＊
仕上が自在・日本壁にも、洋室にも、
（一週間で立派な和洋壁仕上が出来ます）

＊5大特長
① 塗り易い
② 割れない
③ アクが出ない
④ 早い仕上り
⑤ 好みの仕上

YNプラスター

TIGER BRAND

吉野石膏株式会社

本　社　東京都千代田区丸ノ内3丁目2番地(新東京ビル6階) 東京(216)0951(大代表)
大阪支店　大阪市北区堂島浜通1の25(新大ビル) 大阪(341)2556(代)

陸屋根防水には 奥山式 特許 絶縁工法 を

カッパー防水帯

コーパータイト

パーフェクトな 冷工法 デラタイト

奥山化工業株式會社

東京都中央区銀座西８－３　電話(571)2703～4・2370・4064・0264
大阪出張所　大阪市都島区都島中通り５－４　電話（921）2497
名古屋出張所　名古屋市南区若草町３３　電話（811）3660

陶磁タイル・オリエンタルモザイコ・意匠・販売・施工

関西タイル商会

大阪市北区老松町３－21　電話（361)5578

石綿セメントの最高水準を行く!!

アスベストバリヤ

Asbesto Barriev（硬質石綿板）

建物内外壁、間仕切、天井扉、電気室、発電所、配電室、製鋼、ガラス工場の壁、製糖、製油製薬工場の床、スカート壁などに最適。

（呈カタログ）

泉石綿工業株式会社

大阪市北区同心町１の11　電話(351)3442・4078

冷蔵庫・屋内 防熱工事 設計施工

F.R.P 防熱扉製造施工



EVERFOAM

エバーフォーム

完全理想的断熱材総発売元！

株式会社 井上浄夫商店

本社　大阪市西区江戸堀１の１０１　TEL（441）8531～5
東京営業所　東京都中央区西八丁堀４－８－４共同ビル８階　TEL（551）6765
出張所　千葉・新潟・川崎

全国的に大好評の…
新興の繊維壁材！

◉お部屋のムードは壁材の美しい調和で……

建設省建築研究所試験合格品

（一種繊維壁材）	・チェリーコート	・ママウオール	・ほたるかべ	・麝香
・いすゞかべ	・パビロン	・ふくよかべ	・清流	・金蘭
・カセロンウオール	・パーマエース	・ありあけ	・錦上壁K	（三種繊維壁材）
・スーパーウォール	・瑞雲	・ニコニコ	・蛍光壁	・龍鳳
・センカウオール	（二種繊維壁材）	・明光壁	・日本壁	・金龍
・あけぼの	・錦上壁	・昭和壁	・すずらん	（特殊壁）
・新興壁	・大阪壁	・新日本壁	・桃山	・大和壁

（防火繊維壁材としてご使用の節は上記商品にシンケン防火剤を混入のこと）

●シンケン防火剤　●防錆剤エバコン　●耐湿剤オートン　●化学糊スーパーシンケン糊　（全国有名建材店に有）

株式会社　新興建材工業所

大阪市西区四ツ橋　TEL(538)2951代,(541)5757代
営業所　東京・大阪・明石・広島・福岡

石膏壁は

SSSプラスター
（ボード用プラスター）

SSSプラスターC　（セメントモルタル下地用）
SSSプラスターP　（ペイント下地用・金鏝仕上）
SSSプラスターSP　（発泡軽量コンクリート下地用）
SSS混合プラスター　（上塗用・白色）

●建築用・美術工芸用・各種焼石膏●

サンエス石膏株式会社

本社工場・姫路市神屋町4－77
TEL　姫路（22）3837（代表）
東京営業所・東京都新宿区東大久保1丁目331番地
TEL(351)0396・(351)6962
中部営業所・瀬戸工場・瀬戸市苗場町113
TEL　瀬戸（82）9185～6
大阪営業所・大阪市西区江戸堀1－24（三興ビル2階）
TEL　（441）0094・5375
福岡営業所・福岡市七隅282－3
TEL　（82）941 9

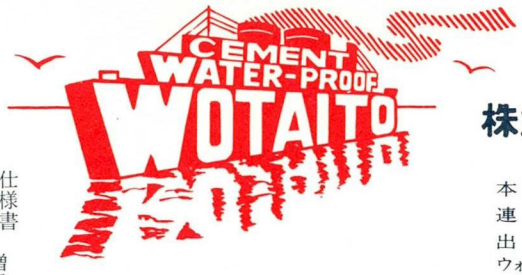
建築と社会
第48集
業種別
広告目次

昭和42年3月号

基礎 kk武智工務所 ……表3
鉄骨鉄筋 住友金属工業kk ……表2
コンクリブロック シポレックス販売kk ……24
防水 kk井上浄夫商店 ……158
奥山化工業kk ……158
kk久保商店 ……150
合同特許建材工業kk ……154
シェル石油kk …… 2
日新工業kk ……10
日本アスファルト防水工業協同組合……11
kk日本セメント防水剤製造所 ……表3
三星産業kk ……19
kk油脂化工社 ……表3
石 kk矢橋大理石商店 ……154
タイル衛陶 kk川岸窯業商店 ……154
関西タイル商会 ……158
kk吉田芳雄商店 ……154
屋根葺壁張 朝日石綿工業kk ……表4
オリエンタルメタル製造kk …155
大島応用化学工業kk ……155
kk大仏 ……154
ナニワ瓦kk ……154
金属 kk三幸商会 ……154
内外建材kk ……155
左官 サンエス石膏kk ……159
kk新興建材工業所 ……159
山本窯業化工kk …… 8
建具 岩住サッシkk ……表4
小俣シャッター工業kk ……156
ダイケンサッシkk …… 7
東京カーテンオール工業kk …156
東洋シャッターkk ……156
kk日本シャッター製作所 ……12
kk三高製作所 ……156
建具金物 永和工業kk ……22
kkゴール ……28
日恵機械kk …… 6
日本ドアーチェック製造kk … 9
硝子 大日本硝子工業kk ……155
塗装 関西ペイントkk ……30
内装壁・天井 泉石綿工業kk ……158
kk奥村重兵衛商店 ……20
田辺工業kk ……156
室谷商事kk ……150
内装床 東洋リノリュームkk …… 1
家具装飾 二葉屋装備工業kk ……154
保全 kk岸工作所 ……150
ミヅシマ工業kk …… 4
設備機器 岩佐物産kk ……151
ダイキン工業kk …… 3
kk谷山鉄工所 ……150
松下電器産業kk ……26
エレベーター 日本エレベータ工業kk ……154
空調・衛生設備 kk朝日工業社 ……151
kk栄興商会 ……151
kk大阪城口研究所 ……151
大阪電気暖房kk ……151
kk建材社 ……151
斎久工業kk ……151
kk斎藤省三商店 ……151
三機工業kk ……151
kk三晃商会 ……151
須賀工業kk ……151
第一企業kk ……151
第一工業kk ……152
高砂熱学工業kk ……152
東洋キャリア工業kk ……152
日本管工業kk ……152
日本熱学工業kk ……152
kk西原衛生工業所 ……152
平山工業kk ……152
山田工業kk ……152
理研鋼機kk ……152
電気設備 浅海電気kk ……152
工藤電気kk ……152
栗原工業kk ……153
kk三興社 ……153
三宝電機kk ……153
中央電気工業kk ……153
朝陽電気kk ……153
東光電気工事kk ……153
中本電気kk ……153
富士電業kk ……153
森井電業kk ……158
kkヤマト電気商会 ……158
雑 フタバ黒板 ……154
松平式白蟻殺滅予防所 ……154

日本建築協会優良證明

セメント増強防水剤



ウォータイトB号

株式会社 日本セメント防水剤製造所

仕様書型録贈呈

本　　社　大阪市東区船越町２－３１（船越ビル）　電話（941）2626・2628
連　絡　所　宝塚市高台上の池　電話　宝塚（36）2153
出　張　所　電話　東京(431)8648・名古屋(321)1331・仙台㉓0721・札幌㊼1111
ウォータイト式防水工事代行店　電話　大三工業 高松(2)0016　安藤工事 福岡（28）５２０７　豊永建材 広島（61）６３７１

新発売

エアーモルタル・コンクリート用起泡剤

エスコート

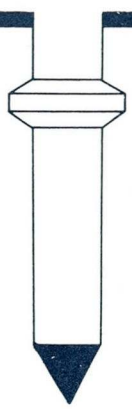


◆トンネル・シールドの裏込めに……
◆ビル鉄骨被覆・間仕切・軽量床に…

エスコートは、強力なる分散性と多量の気泡（空気量40±10%）を均一に連行するため、超貧配合のグラウトでも材料分離せず、流動性に優れ、安定した状態で圧送できます。

株式会社 油脂化工社

本　　社　東京都品川区大井１－１５　電話(774)4111(代表)
大阪営業所　大阪市東成区西今里町2－48　電話(971)0063.4765～6



●基礎施工の悪條件を克服する

武智式 日信三角杭

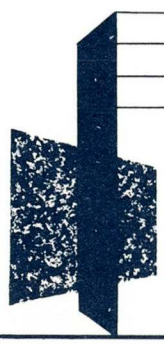
特　　許●第２３３７４４号
特　　許●第２５０１０８号
実用新案●第２５－１０９４２号
実用新案●第３７－３６１０６号

株式会社 武智工務所

本　　社　大阪市東区高麗橋２－２０（高麗新ビル）
TEL 大阪（202）3233(代)・7501(代)
名古屋営業所　名古屋市中村区船入町１－12(服部ビル)
TEL 名古屋（582）３０３６(代)
大阪工場　大阪市住吉区北加賀屋町５－２７
TEL 大阪（672）３２２３・３２２４
名古屋工場　愛知県海部郡弥富町佐古木
TEL 弥富（7）１１９１・１１９２

日本建鉄の

PS型レディメードサッシ



アルミサッシドア

日本建鉄株式会社

本　　社　東京都千代田区大手町２～８　TEL東京(270)6511(大代)
大阪支店　大阪市北区梅田町４７(新阪神ビル)　TEL大阪（361)6758（代）

建築と社会

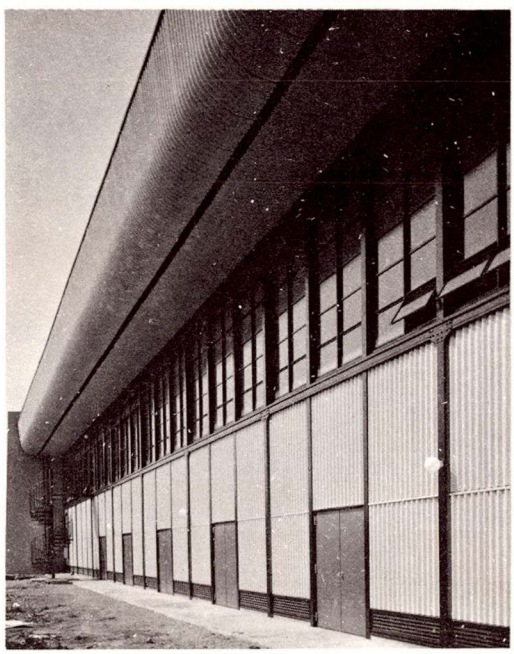
Vol.48

第3号

昭和二十四年三月十九日　第三種郵便物認可
昭和四十二年三月二十日印刷
昭和四十二年三月廿五日発行　（毎月廿五日発行）

屋根●外壁●内壁●天井に

建設省認定 **朝日の不燃建材を**



工場・倉庫・住宅に

法定不燃材
朝日波形スレート
朝日フレキシブルボード
朝日大平板
朝日ステンドスレート
朝日ネットインスレート

ビル・工場に

朝日耐火パネル
朝日防火パネル
朝日グラスインパネル
朝日フェザーパネル
朝日コルゲートインパネル
吹付石綿
朝日プロベスト

ASK
朝日石綿工業株式会社

大阪支店／大阪市北区神山町43　電話(312)8521(代表)
本　社／東京都中央区銀座7−3　電話(571)9361(代表)
営業所／東京・横浜・静岡・名古屋・富山・大津・姫路・岡山・広島・門司・福岡・長崎・延岡・高松・新居浜・札幌
工　場／東京・横浜・山梨・大阪・水島・玉島・門司・宮城



岩住の
アルミ
ステンレス
スチール

サッシ・ドア
カーテンウォール
スパンドレル

岩住サッシ株式会社　スチール工場●尼崎市守部字下河原15　電話代表（401）6751

岩住アルミサッシ株式会社　アルミ工場●大阪市西淀川区千舟東2丁目31　電話代表（471）5123

ご入会のお申込●は……「建築と社会」発行所
社団法人　日本建築協会　大阪市東区北浜三ノ壱
電話大阪（二三一）九六四八・九六四九・九六四〇　振替口座大阪三九七五番

定価●一部　三〇〇円
（送料共）